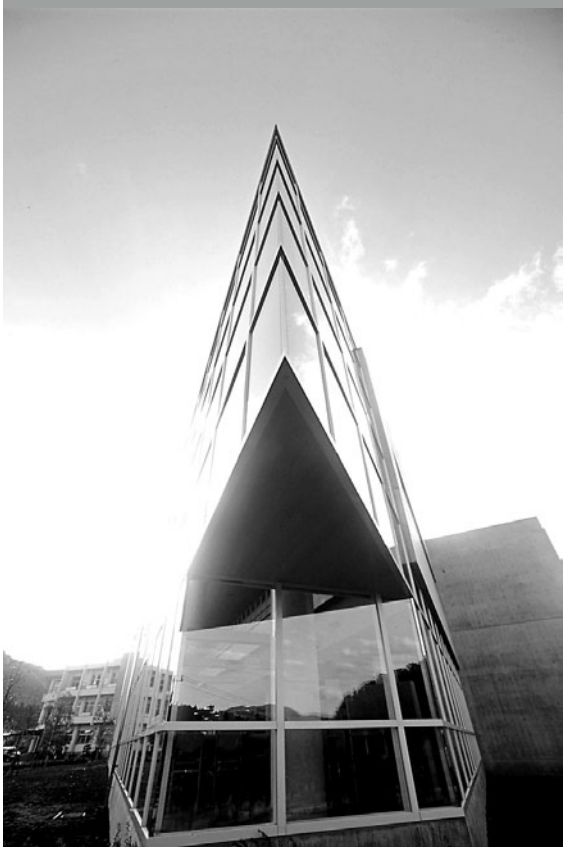
JIN-AI UNIVERSITY
2015 SYLLABUS

平成27年度

人間生活学部
シラバス



仁愛大学
JIN-AI UNIVERSITY

目　　次

Ⅰ．１年生

＜学部共通科目＞

仏教の人間観……都路　惠子……1
人間と宗教……都路　惠子……3
生命の倫理……橋本　武志……5
日本国憲法……山下　秋子……7
基礎演習（健康栄養学科）……鳴瀬碧・浦本裕美・坂本達昭・尼子克己……9
基礎演習（子ども教育学科）……伊東　知之・鈴木　智子……11
キャリア・デザインⅠ……植月　百枝……13
スポーツと健康……野田　政弘……15
スポーツA[ダンス](健康栄養学科)……乾　　典子……17
スポーツA[テニス](子ども教育学科)……野田　政弘……19
スポーツA[バスケットボール](子ども教育学科)……山村　恵子……21
生活と環境A……八木　秀夫……23
英語Ⅰa……フッド晴美･MEハウカ･サルバトレマイケル･内藤徹･山口和代……25
英語Ⅰb……加藤優子･フッド晴美･ME ハウカ･サルバトレマイケル･山口和代……27
フランス語入門a……大竹口麻里……29
フランス語入門b……大竹口麻里……31
ドイツ語入門a……橋本　武志……33
ドイツ語入門b……橋本　武志……35
中国語入門a……永井　崇弘……37
中国語入門b……永井　崇弘……39
情報基礎Ⅰ……篭谷　隆弘・宮川　祐一……41
情報基礎Ⅱ……篭谷　隆弘・宮川　祐一……43

＜健康栄養学科専門科目＞

基礎化学……尼子　克己……45
基礎生物学……尼子　克己……47
分析化学……尼子　克己……49
有機化学……池田　涼子……51
健康管理概論……加藤　卓次……53
解剖生理学……加藤　卓次……55
解剖生理学実験……鳴瀬　　碧……57
微生物学……野村　卓正……59
微生物学実験……野村　卓正……62

食品学総論……浦本　裕美……65
食品機能学……浦本　裕美……67
食品加工学……小林　恭一……69
食品分析実験……浦本　裕美……71
調理学……佐藤　真実……73
調理学実習……佐藤　真実……75
応用調理学実習……佐藤　真実……77
基礎栄養学……鈴木　和春……79
基礎栄養学実験……池田　涼子……81
応用栄養学Ⅰ（成長・発達・加齢、食事摂取基準）……鈴木　和春……83
フィールドワーク演習……樽井雅彦･佐藤真実･池田涼子･浦本裕美･坂本達昭……85

＜健康栄養学科教職科目＞

教育原理……高野　秀晴……86

＜子ども教育学科専門科目＞

教職論……鈴木　智子・木曽　利雄……88
教育原理……高野　秀晴……90
教育課程論Ⅰ……鈴木　智子……92
児童家庭福祉……青井　夕貴……94
保育原理Ⅰ……石川　昭義……96
発達心理学Ⅰ……大野木裕明……98
保育基礎演習……伊東　知之・篠田　　洋・大久保郁子……100
保育者論……石川　昭義……102
国語……柿本　真代……104
音楽Ⅰ……中野　研也……106
音楽Ⅱ……津田　幸子……108
図画工作Ⅰ……伊東　知之……110
図画工作Ⅱ……伊東　知之……112
基礎ピアノⅠ……中野研也･桂屋京子･飯田由美･太田佳代･野村加奈子……114
基礎ピアノⅡ……中野研也･桂屋京子･飯田由美･太田佳代･野村加奈子……116
子どもの保健Ⅰa……森川　浩子……118
保育内容研究（健康）……森　美佐紀……120
保育内容研究（表現Ａ）……坂本　流美……122
保育内容研究（表現Ｃ）……乾　　典子……124
保育内容研究（子どもの文化）……柿本　真代……126
事前・事後指導（幼稚園）……伊東　知之・鈴木　智子……128
教育実習Ⅰ（幼稚園）……伊東　知之・鈴木　智子……130

Ⅱ．２年生

＜学部共通科目＞

仏教の思想……山田　恵文……132
哲学の世界観……橋本　武志……134
文学の世界……柿本　真代……136
美術の世界……伊東　知之……138
スポーツＢ……野田　政弘・乾　　典子……140
生活と環境Ｂ……篭谷　隆弘……142
生活と環境Ｄ……藤原　英一……144
ふくい総合学……金田　明彦……146
英語Ⅱａ……加藤　優子・サルバトレ マイケル・内藤　　徹……148
英語Ⅱｂ……加藤　優子・サルバトレ マイケル・フッド晴美……150

＜健康栄養学科専門科目＞

生命科学……鳴瀬　　碧・野村　卓正……152
公衆衛生学……鳴瀬　　碧……154
公衆衛生学実習……鳴瀬　　碧……156
基礎生化学……尼子　克己……158
栄養生化学……池田　涼子・鈴木　和春……160
基礎生化学実験……尼子　克己……162
病理学……加藤　卓次……164
臨床医学概論……加藤　卓次……166
運動生理学……鳴瀬　　碧……168
食品加工実習……浦本　裕美……170
食品衛生学……野村　卓正……172
食品衛生学実験……野村　卓正……174
調理科学実験……佐藤　真実……177
応用栄養学Ⅱ（栄養・体力アセスメント）……石黒真理子……179
応用栄養学Ⅲ（ライフステージ栄養学）……鈴木　和春・石黒真理子……180
応用栄養学Ⅳ（ライフスタイル・スポーツ栄養学）……石黒真理子・桑守　豊美……182
応用栄養学実習……三浦　　努……184
栄養教育論Ⅰ（栄養教育論）……坂本　達昭……186
公衆栄養学Ⅰ（地域栄養活動）……三浦　　努……188
給食経営管理論Ⅰ（給食計画）……樽井　雅彦……190
給食経営管理論Ⅱ（マネジメント）……樽井　雅彦……192
給食経営管理論実習……樽井　雅彦……194
栄養総合演習Ⅰ……佐藤裕保・三浦努・樽井雅彦・山本浩範……196

給食運営実習 …… 樽井　雅彦 …… 198
フィールドワーク演習 …… 樽井雅彦･佐藤真実･池田涼子･浦本裕美･坂本達昭 …… 200
分子栄養学 …… 尼子　克己 …… 201
国際食糧・栄養情報論 …… 由田　克士 …… 203
食品品質評価演習 …… 浦本　裕美・佐藤　真実 …… 205

＜健康栄養学科教職科目＞

教職論 …… 高野　秀晴 …… 207
教育心理学 …… 大野木裕明 …… 209
教育課程・特別活動論 …… 高野　秀晴 …… 211
教育の方法と技術 …… 篭谷　隆弘 …… 213

＜子ども教育学科専門科目＞

教育心理学 …… 大野木裕明 …… 215
教育の方法と技術 …… 篭谷　隆弘 …… 217
教育課程論Ⅱ（特別活動を含む） …… 木曽　利雄 …… 219
社会福祉 …… 青井　夕貴 …… 221
社会的養護 …… 永松　　真 …… 223
社会 …… 奥谷　　崇 …… 225
算数 …… 木曽　利雄 …… 227
理科 …… 西出　和彦 …… 229
生活 …… 筧　みち子 …… 231
体育Ⅰ …… 野田　政弘 …… 233
体育Ⅱ …… 野田　政弘・乾　　典子 …… 235
音楽表現Ⅰ …… 桂屋京子･飯田由美･太田佳代･福田安希子･野村加奈子 …… 237
音楽表現Ⅱ …… 桂屋京子･飯田由美･太田佳代･福田安希子･野村加奈子 …… 239
発達心理学Ⅱ …… 大野木裕明 …… 241
子どもの保健Ⅰb …… 森川　浩子 …… 243
子どもの保健Ⅱ …… 日下　純子 …… 245
保育内容研究（人間関係） …… 松川　恵子 …… 247
保育内容研究（環境） …… 西出　和彦 …… 249
保育内容研究（言葉） …… 鈴木　智子 …… 251
保育内容研究（表現Ｂ） …… 伊東　知之 …… 253
乳児保育 …… 石川　昭義・山口　恵子 …… 255
障がい児保育 …… 安井　弘二 …… 257
社会的養護内容 …… 木越　直昭 …… 259
算数科教育法２年 …… 木曽　利雄 …… 261

理科教育法２年 …… 西出　和彦 …… 263
保育実習指導Ⅰ …… 石川　昭義・柿本　真代・青井　夕貴 …… 265
保育実習Ⅰａ …… 石川　昭義・柿本　真代・青井　夕貴 …… 267
保育実習Ⅰｂ …… 石川　昭義・柿本　真代・青井　夕貴 …… 269
フィールドワーク演習 …… 伊東　知之・中野　研也・柿本　真代 …… 271
子どもの映像文化 …… 篭谷　隆弘 …… 273

Ⅲ．３年生

＜学部共通科目＞

音楽の世界 …… 中野　研也 …… 275
生活と環境Ｃ …… 尼子　克己 …… 277
英語Ⅲａ …… ME ハウカ …… 279
英語Ⅲｂ …… ME ハウカ …… 281

＜健康栄養学科専門科目＞

社会福祉論 …… 木村多佳子 …… 283
栄養生化学実験 …… 池田　涼子 …… 285
栄養教育論Ⅱ（子ども・高齢期栄養教育論） …… 坂本　達昭 …… 287
栄養教育論Ⅲ（行動療法・カウンセリング） …… 森　　俊之 …… 289
栄養教育論Ⅳ（健康栄養情報処理演習） …… 三浦　　努 …… 290
栄養教育論実習 …… 坂本　達昭 …… 292
臨床栄養病理学 …… 加藤　卓次 …… 294
臨床栄養学Ⅰ（栄養療法） …… 佐藤　裕保 …… 295
臨床栄養学Ⅱ（栄養アセスメント） …… 山本　浩範 …… 297
臨床栄養学Ⅲ（チーム医療） …… 佐藤　裕保 …… 299
臨床栄養学Ⅳ（臨床栄養管理） …… 山本　浩範 …… 301
臨床栄養学実習Ⅰ（食事療法） …… 佐藤　裕保 …… 303
臨床栄養学実習Ⅱ（栄養アセスメント） …… 山本　浩範 …… 305
臨床栄養学実習Ⅲ（臨床栄養管理） …… 山本　浩範・石黒真理子 …… 307
公衆栄養学Ⅱ（栄養疫学） …… 三浦　　努 …… 309
公衆栄養学実習 …… 三浦　　努 …… 311
給食経営管理論Ⅲ（食料商品学） …… 樽井　雅彦 …… 313
栄養総合演習Ⅰ …… 佐藤裕保・三浦努・樽井雅彦・山本浩範 …… 315
給食経営管理臨地実習 …… 樽井　雅彦 …… 317
臨床栄養臨地実習 …… 佐藤　裕保・山本　浩範 …… 319
公衆栄養臨地実習 …… 三浦　　努 …… 321

給食経営管理論Ⅱ（マネジメント）(編入生)……樽井　雅彦……323
健康・栄養特別演習Ⅰ……加藤卓次 他……325
フィールドワーク演習……樽井雅彦･佐藤真実･池田涼子･浦本裕美･坂本達昭……327
生涯発達心理学……大野木裕明……328
食文化論……谷　　洋子……330
学校栄養教育の理論と方法……坂本　達昭・塚田　明美……332
食育指導の理論と方法……坂本　達昭・塚田　明美……334
心と健康……大森　晶夫……336

＜健康栄養学科教職科目＞

教育経営論……奥谷　　崇……338
道徳教育の理論と方法……高野　秀晴……340
生徒指導論……黒田　祐二……342

＜子ども教育学科専門科目＞

教育経営論……奥谷　　崇……344
道徳教育の理論と方法……高野　秀晴……346
生徒・進路指導論……黒田　祐二……348
教育相談……佐々木雅代……350
家庭……松田　淑子……352
国語科教育法……三好修一郎……354
社会科教育法……奥谷　　崇……356
算数科教育法……木曽　利雄……358
理科教育法……西出　和彦……360
生活科教育法……筧　みち子……362
音楽科教育法……奥田　健雄……364
図画工作科教育法……伊東　知之……366
家庭科教育法……松田　淑子……368
体育科教育法……宗倉　　啓……370
音楽演習……篠田　　洋……372
相談援助……青井　夕貴……374
児童福祉援助技術……西村　重稀……376
保育原理Ⅱ……石川　昭義……378
子どもの食と栄養……桑守　豊美……380
精神保健……瀧川　薫・藤本　智美……382
家庭支援論……青井　夕貴……384
保育内容総論……石川　昭義……386

保育相談支援……青井　夕貴……388
保育実習Ⅱ……石川　昭義・柿本　真代……390
保育実習Ⅲ……石川　昭義・柿本　真代……392
事前・事後指導（幼稚園）……伊東　知之・鈴木　智子……394
教育実習Ⅱ（幼稚園）……伊東　知之・鈴木　智子……396
事前・事後指導（小学校）……木曽　利雄……398
保育実習指導Ⅱ……石川　昭義・柿本　真代……400
保育実習指導Ⅲ……石川　昭義・柿本　真代……402
保育実践演習……鈴木　智子・西出　和彦……404
子ども教育特別演習Ⅰ……石川　昭義……406
子ども教育特別演習Ⅰ……伊東　知之……408
子ども教育特別演習Ⅰ……大野木裕明……410
子ども教育特別演習Ⅰ……篭谷　隆弘……412
子ども教育特別演習Ⅰ……野田　政弘……414
子ども教育特別演習Ⅰ……木曽　利雄……416
子ども教育特別演習Ⅰ……鈴木　智子……418
子ども教育特別演習Ⅰ……高野　秀晴……420
子ども教育特別演習Ⅰ……中野　研也……422
子ども教育特別演習Ⅰ……西出　和彦……424
子ども教育特別演習Ⅰ……柿本　真代……426
子ども教育特別演習Ⅰ……青井　夕貴……428
特別支援教育論……水田　敏郎……430
子どもの発達臨床……水田　敏郎……432
子どもと英語教育……内藤　　徹……434
絵本・児童文学論……柿本　真代……436
自然体験……依田　秀任・金坂　尚人……438

Ⅳ．４年生

＜健康栄養学科専門科目＞

栄養総合演習Ⅰ……佐藤　裕保・三浦　努・樽井　雅彦・山本　浩範……440
栄養総合演習Ⅱ……佐藤裕保･三浦努･樽井雅彦･山本浩範･石黒真理子……442
臨床栄養臨地実習……佐藤　裕保・山本　浩範……444
健康・栄養特別演習Ⅱ……佐藤　裕保 他……446
健康・栄養特別演習Ⅲ……佐藤　裕保 他……448
卒業研究……佐藤　裕保 他……450

＜健康栄養学科教職科目＞

教育相談（健康栄養学科）……佐々木雅代 ……452
教職実践演習（栄養教諭）……坂本　達昭・奥谷　　崇・塚田　明美 ……454
事前・事後指導（栄養教諭）……坂本　達昭・塚田　明美 ……456
教育実習（栄養教諭）……坂本　達昭・塚田　明美 ……458

＜子ども教育学科専門科目＞

教職実践演習（幼・小）……高野　秀晴・鈴木　智子・木曽　利雄 ……459
事前・事後指導（小学校）……木曽　利雄 ……461
教育実習（小学校）……木曽　利雄 ……463
児童館実習……石川　昭義・依田　秀任 ……465
子ども教育特別演習Ⅱ……石川　昭義 ……467
子ども教育特別演習Ⅱ……伊東　知之 ……469
子ども教育特別演習Ⅱ……大野木裕明 ……471
子ども教育特別演習Ⅱ……篭谷　隆弘 ……473
子ども教育特別演習Ⅱ……野田　政弘 ……475
子ども教育特別演習Ⅱ……木曽　利雄 ……477
子ども教育特別演習Ⅱ……鈴木　智子 ……479
子ども教育特別演習Ⅱ……高野　秀晴 ……481
子ども教育特別演習Ⅱ……中野　研也 ……483
子ども教育特別演習Ⅱ……西出　和彦 ……485
子ども教育特別演習Ⅱ……柿本　真代 ……487
子ども教育特別演習Ⅱ……青井　夕貴 ……489
子ども教育特別演習Ⅲ……石川　昭義 ……491
子ども教育特別演習Ⅲ……伊東　知之 ……493
子ども教育特別演習Ⅲ……大野木裕明 ……495
子ども教育特別演習Ⅲ……篭谷　隆弘 ……497
子ども教育特別演習Ⅲ……野田　政弘 ……499
子ども教育特別演習Ⅲ……木曽　利雄 ……501
子ども教育特別演習Ⅲ……鈴木　智子 ……502
子ども教育特別演習Ⅲ……高野　秀晴 ……504
子ども教育特別演習Ⅲ……中野　研也 ……506
子ども教育特別演習Ⅲ……西出　和彦 ……508
子ども教育特別演習Ⅲ……柿本　真代 ……510
子ども教育特別演習Ⅲ……青井　夕貴 ……512
卒業研究……石川　昭義 ……514
卒業研究……伊東　知之 ……515

卒業研究……大野木裕明……516
卒業研究……篭谷　隆弘……517
卒業研究……野田　政弘……518
卒業研究……木曽　利雄……519
卒業研究……鈴木　智子……520
卒業研究……高野　秀晴……521
卒業研究……中野　研也……522
卒業研究……西出　和彦……523
卒業研究……柿本　真代……524
卒業研究……青井　夕貴……525
子育て支援論……青井　夕貴……526
子育て支援演習……青井　夕貴……528
地域福祉論……永井　裕子……530
地域福祉演習……永井　裕子……532
子どもと食育……谷　　洋子……534
児童館論……依田　秀任・小林加奈子……536

仏教の人間観(健康栄養学科) (Views on the Humanity of Buddhism)			担当教員	都路　恵子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1111	2単位	1年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　全学共通科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

建学の精神である仏教精神に基づく人間性の涵養と幅広い視野から物事をとらえ、高い論理性と的確な判断を下すことができる力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

この授業では、2500年前インドに生まれたブッダ(釈尊)の悟りの内容を、日々の生活の中で活用・実践できる形で紹介します。通常外に向いている私たちの目を、逆に私たちの内側に向け、自分自身の心と対話するスタイルで、授業は進みます。自分をより明確に知る。それが、本授業の大きなテーマです。
又、毎回授業の最後に書いて頂く「感想文」から次回の授業テーマを決める、(学生と教員との)キャッチボール形式で授業を進めます。

授業の到達目標

・仏教の智慧を自分の生活の中で、活用実践できるようになる。
・自分自身の「心の声」に気づき、その内容を具体的に言語化する。又、身(行動)・口(言葉)・意(思い・考え)の三業を一致させて現実化する仕組みを理解する。

授業の計画

第1回：イントロ(1)　自己紹介スピーチ、新興宗教と伝統仏教の違い
第2回：イントロ(2)　悩みの構造、「人の目」の正体
第3回：ブッダ(1)　身(行動)・口(言葉)・意(思い・考え)の三業が現実を作る：いのちのつながり、生の誕生
第4回：ブッダ(2)　身(行動)・口(言葉)・意(思い・考え)の三業が現実を作る：生と死
第5回：ブッダ(3)　身(行動)・口(言葉)・意(思い・考え)の三業が現実を作る：豊かさとは？幸せとは？
第6回：ブッダ(4)　身(行動)・口(言葉)・意(思い・考え)の三業が現実を作る：夢のコラージュで知る自分の「色」
第7回：ブッダ(5)　初転法輪：悟りの内容は、人から人へ
第8回：聖徳太子(1)　十七条の憲法①
第9回：聖徳太子(2)　十七条の憲法②
第10回：聖徳太子(3)　十七条の憲法③
第11回：親鸞　自らの心の声を灯とした生き方：親鸞と恵信尼の結婚・在家仏教の誕生
第12回：生き方としての仏教(1)　自らの自灯明に気づこう
第13回：生き方としての仏教(2)　仁愛大学の仏教モニュメント紹介
第14回：まとめ、スピーチ大会のリハーサル
第15回：最終スピーチ大会「自らの心の声を灯とした生き方について」
　　−いのちのつながりの中で、世界に一つだけの花を咲かせあう−
第16回：学期末テスト

授業外の学習方法

・図書館2階にある指定図書コーナー(授業中に紹介する)にある書籍など、興味のある本をどんどん読んでみること。
・魅力的だと感じる人の生き方・働き方についての本やDVDなどを見ることで、自分の人生を具体的にイメージすること。こうしたいと思ったことは、身・口・意の三業を一致させ続けて、現実化する感覚をつかむこと。

成　績　評　価　方　法
レポート(10%)、毎回の感想文の内容(20%)、最終スピーチ大会内容(20%)、平常点(20%)、学期末テスト(30%)　平常点は、講義の聞き方、グループワークなどへの参加態度等で総合的に判断します。
成　績　評　価　基　準
・仏教に対して、正しい理解ができているか。 ・仏教の智慧を自分の人生に活用実践できるよう、自分の中で深く解釈しているか。 ・自分自身と誠実に向き合い、どのように生きていきたいかという問いに対する答えを自分の中から導き出し、それを具体的に言語化できているか。
テキスト、参考図書
福井仁愛学園『和』、『礼讃抄』、プリントを使用。
その他(受講上の注意)
担当者による15回の授業以外に福井仁愛学園の理念及び本学の開設の趣旨を理解し、仁愛大学生としての自覚を深めることを目的として禿了滉学園長講演(２回)を実施する。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

人間と宗教 (Human Beings and Religion)			担当教員	都路　恵子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1112	2単位	1年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　全学共通科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

建学の精神である仏教精神に基づく人間性の涵養と幅広い視野から物事をとらえ、高い論理性と的確な判断を下すことができる力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

「仏教の人間観」で学んだ基本を、実際の自分の人生を形成する力にまで高める実践篇の授業です。
徹底的に自分自身と向き合い(内観)、自分の人生を、死後の周りの人々への影響をも含めて考えます。
又、自らの「心の声」を身(行動)・口(言葉)・意(思い・考え)の三業を一致させて現実化することを体感する為、毎週様々な実践ワークの宿題を出します。
この「人間と宗教」の授業が、「本当に生きる」ことを目指す「仁愛兼済の生き方を育てる」授業の集大成となります。

授業の到達目標

・仏教の智慧を自分の生活の様々な場面において、応用実践できるようになる。
・徹底的に自分と向き合い、自らの「心の声」を自分にも他人にも、明確に言葉で伝えることができるようになる。
・執着を手放し、身(行動)・口(言葉)・意(思い・考え)の三業を一致させて現実化する仕組みを体得する。
・自分にとって最高の人生を生きるという覚悟を決める。

授業の計画

第1回：イントロ(1)　初回スピーチ：この授業を通して、何を学び、どのような成長がしたいのか？
第2回：イントロ(2)　2年生以上の学生による「仏教の人間観」復習授業
第3回：ブッダ(1)　悟りの内容を理解する①:「心の声」に気付くノートワーク
第4回：ブッダ(2)　悟りの内容を理解する②：ありがとう日記をつけるワーク
第5回：ブッダ(3)　悟りの内容を理解する③：4週間後の自分に手紙を書く：身・口・意の三業リスト作り
第6回：ブッダ(4)　悟りの内容を理解する④：言葉を変えると現実が変わるワーク
第7回：ブッダ(5)　縁起・縁滅、業の在り方を知る1
第8回：ブッダ(6)　縁起・縁滅、業の在り方を知る2
第9回：ブッダ(7)　4週間後の自分への手紙・振り返りワーク
第10回：生き方としての仏教(1)　3週間後の自分に手紙を書くワーク
第11回：生き方としての仏教(2)
第12回：親鸞　『教行信証』の世界-アジャセ物語を通しての生き方の転換
第13回：まとめ(1)　レポート提出　3週間後の自分への手紙・振り返りワーク
第14回：まとめ(2)　弔辞を書くワーク
第15回：まとめ(3)　最終スピーチ大会

授業外の学習方法

・図書館2階の指定図書コーナーにある書籍など、興味のある本、授業中に紹介する仏教書などをどんどん読んでみること。
・魅力的だと感じる人の生き方・働き方についての本やDVDなどを見るだけでなく、講演会や実際に会いに行き、話を聞くなど具体的に行動すること。
・授業中に紹介する実践ワークに関しては、身・口・意の三業を一致させ続けて、現実化する感覚を体得するまで続けてみること。

成　績　評　価　方　法
レポート(40%)、いかに自分と向き合い、日々実践したか(30%)、平常点(30%) 平常点は、講義の聞き方、ワークなどへの参加態度、スピーチ内容、毎回の感想文等で総合的に判断します。
成　績　評　価　基　準
・仏教に対して、正しい理解ができているか。他者にも教えられるほど理解を深めているか。 ・仏教の智慧を自分の人生に応用実践できるよう、自分の中で深く解釈しているか。 ・自分自身と誠実に向き合い、どのように生きていきたいかという問いに対する答えを自分の中から導き出し、それを具体的に現実化できているか。
テキスト、参考図書
川村妙慶「あなたは、あなたのままでいい」(PHP) 鈴木章子「癌告知のあとで」(探究社) および、「和」、「礼讃抄」、プリントを使用。
その他(受講上の注意)
・15回無遅刻・無欠席の学生には、皆勤賞を差し上げます。(原則として全出席を求め、遅刻は認めません。毎回の授業が実践ワークを通して連続発展していく内容である為。) ・初回のガイダンスには、必ず出席のこと。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

生命の倫理 (Bioethics)			担当教員	橋本　武志
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1122	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　人間学関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

建学の精神である仏教精神に基づく人間性の涵養と幅広い視野から物事をとらえ、高い論理性と的確な判断を下すことができる力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

技術の進歩によって、従来不可能であった治療ができるようになっている。だが、それにともなって、われわれの従来の死生観・人間観を揺さぶるようなさまざまな倫理問題が発生している。本講義では、先端医療の現状を知ったうえで、こうした倫理問題に対する、日本を含む諸外国の考え方の違い、ガイドラインや政策の相違について知り、こうした問題についての現在までのさまざまな議論を紹介する。

授業の到達目標

・生命をめぐるさまざまな倫理問題について認識する。
・QOLやインフォームド・コンセント、滑りやすい坂、など、生命倫理学の基礎的な用語を習得する。
・生命倫理問題について、国内外のさまざまな議論を知る。

授業の計画

第1回：オリエンテーション～生命倫理学という学問について
第2回：生命倫理学(バイオエシックス)の成立
第3回：患者の自己決定権とインフォームド・コンセント
第4回：映像資料で具体的生命倫理の問題を知る(子供の自己決定権)
第5回：生命の始まりにかんする倫理問題1(受精卵研究と人工妊娠中絶)
第6回：生命の始まりにかんする倫理問題2(パーソン論)
第7回：臓器移植の問題1～映像資料で現状を知る
第8回：臓器移植の問題2～脳死と移植
第9回：臓器移植の問題3～改定臓器移植法について
第10回：生命の終わりに関する倫理問題1(治療停止)～映像資料で日本の現状を知る
第11回：生命の終わりに関する倫理問題2(治療停止)～法律家・患者団体・医師それぞれの立場
第12回：生命の終わりに関する倫理問題3(尊厳死)
第13回：生命の終わりに関する倫理問題4(消極的安楽死)～映像資料で外国の事情を知る
第14回：生命の終わりに関する倫理問題5(積極的安楽死)～アメリカとオランダ
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

毎回の講義を受けた後でその部分の配布資料とノートを見直して復習をし、次の授業に臨んでください。そのうえで、2回目の授業で配布する参考文献一覧から該当部分を読むなどして、より理解を深めてください。

成績評価方法

定期試験(80%)、平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況、受講態度、毎回の授業内小レポートの提出状況を総合して判断する)

成　績　評　価　基　準
・生命をめぐるさまざまな倫理問題、およびその歴史的経緯について認識しているか。 ・QOLやインフォームド・コンセント、滑りやすい坂、など、生命倫理学の基礎的な用語を習得しているか。 ・生命倫理問題について、国内外のさまざまな議論を習得しているか。
テキスト、参考図書
テキストはとくに使用せず、適宜プリントを配布する。 参考図書・参考映像については２回目の授業で一覧プリントを配布するが、授業内でも適宜紹介する。
その他（受講上の注意）
毎回授業内で小レポートを書いてもらう。私語は他の受講者の迷惑となるので厳禁。私語の目立つものはその場で注意するが、注意によっても改まらない場合、当日欠席扱いとするので注意されたい。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

日本国憲法 (The Japanese Constitution)			担当教員	山下　秋子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1121	2単位	1年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　人間学関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目(日本国憲法)

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

建学の精神である仏教精神に基づく人間性の涵養と幅広い視野から物事をとらえ、高い論理性と的確な判断を下すことができる力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状(必修)、小学校教諭一種免許状(必修)、幼稚園教諭一種免許状(必修)

授業の内容

憲法の歴史を踏まえながら、憲法について判例を通して整理する。
平和主義については湾岸戦争以来の国際協調を軸として整理する。

授業の到達目標

法治国家における人間の生活は常に法律によって支配されているが、法律は憲法に違反して制定されてはならない。憲法は、個人の尊厳を達成するため国民が国家を規制する法である。これらの憲法に関する基礎知識を修得する。

授業の計画

第1回：憲法典の定義
第2回：日本国憲法成立の由来
第3回：ポツダム宣言の示した新秩序実現
第4回：戦争放棄 ― 集団自衛権と自衛隊海外派遣
第5回：象徴天皇と国事行為
第6回：基本的人権総論　新しい人権(プライバシー権)
第7回：基本的人権各論　表現の自由と公共の福祉・自主規制
第8回：事例研究　靖国神社公式参拝の問題点
第9回：国会中心立法・二院制(両院制)・衆議院の優越性
第10回：行政権内閣帰属の原則とその注意点
第11回：司法権の独立と独立制限
第12回：違憲審査制　違憲判決の具体的整理
第13回：事例研究　在日外国人に対する参政権の付与は必要か
第14回：地方自治の本旨
第15回：憲法改正
第16回：定期試験

授業外の学習方法

各回の講義を受けた後で、テキストとノートの内容を見直して整理しておくこと。新聞などで時事問題や裁判ニュースなどをチェックしておくと、講義への関心度が高まり、理解しやすくなります。

成績評価方法

定期試験60%　小レポート30%　平常点10%(平常点は授業への参加状況・受講態度を総合的に判断します)

成績評価基準

日常生活において起こる様々な事柄やニュースを法的に理解し、自分の言葉で他者に適切に説明することができるか。

テキスト、参考図書
吉田仁美編 『スタート憲法』 成文堂　2013年
その他（受講上の注意）
積極的に参加する意識をもって受講して下さい。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

基礎演習(健康栄養学科) (Basic Seminar)			担当教員	鳴瀬碧、浦本裕美、坂本達昭、尼子克己
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1161	2単位	1年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　修学基礎・キャリア形成科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

建学の精神である仏教精神に基づく人間性の涵養と幅広い視野から物事をとらえ、高い論理性と的確な判断を下すことができる力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

大学生としての最初の1年は、4年間にわたる学修をスムーズに開始できるための重要な期間として位置づけられる。このため、まず学科の教育目標および教育課程を理解するとともに、主体的な学びを軸とする大学での修学や将来のための基盤づくりに重点を置き、授業を展開する。

授業の到達目標

・本授業の内容や達成すべき目標について理解する。
・学科の教育課程や教育制度、授業形態について説明を受け理解する。
・履修に関する担当教員の助言・指導を受け、自己の学習計画・履修計画を作成できるようにする。
・大学での学び方を知るための講座、専門分野の基礎的な事柄についての演習を通して、自主学習を中心とした学習スタイルを確立し、学習に対する積極的な態度を身につける。
・附属図書館において図書館利用に関するセミナーを受講し、文献の検索方法等を理解し、学習や研究に必要な図書館利用法を身につける。
・管理栄養士の教育目標や専門分野の基礎的な事柄について学び、学習に対する積極的な態度を身につける。さらに職業観・倫理観・人間力を培う。
・本演習を通して学生と教員、学生相互間のコミュニケーションを活性化する。

授業の計画

第1回：履修に関する担当教員の助言・指導を受け、自己の学習計画・履修計画を作成
第2回：大学周辺の散策、地域学習
第3回：学習や研究に必要な文献検索方法について(附属図書館利用法)
第4回：専門分野の基礎学習①
第5回：意見交換会
第6回：越前市についての地域学習
第7回：テーマ討論会①(発表準備)
第8回：テーマ討論会②(発表)
第9回：学科交流会
第10回：専門分野の基礎学習②
第11回：専門分野の基礎学習③
第12回：意思伝達、表現法に関する学習
第13回：既卒者による専門分野の講演会
第14回：地域で働く専門分野の人による講演会
第15回：自己の学習計画の振返り、今後の学生生活についての計画作成

授業外の学習方法

予習・復習として、授業時に配布された資料、提案された課題内容について、関連する書籍、資料を検索し、まとめておく。また、授業で取り上げられた事項について詳細に調べ、理解した上で次週の授業に臨むこと。

成　績　評　価　方　法
レポート(70%)　平常点(30%) 平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。
成　績　評　価　基　準
基本的なアカデミックスキル(学習に対する積極的な態度・技術、レジュメの作成・報告、討論方法)が修得できているか。
テキスト、参考図書
必要に応じて資料を配布する。
その他(受講上の注意)
学科を4クラスに分け、クラス毎に担当教員を置く。この担当教員は、1年間の指導教員として、本授業終了後も引き続き指導や助言を行う。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

基礎演習(子ども教育学科) (Basic Seminar)			担当教員	伊東　知之、鈴木　智子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1161	2単位	1年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　人間学関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

建学の精神である仏教精神に基づく人間性の涵養と幅広い視野から物事をとらえ、高い論理性と的確な判断を下すことができる力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

大学4年間の学生生活、さらにはその後の人生をどう生きるかについて、学生一人ひとりが責任をもって方向を確立していくための助言・指導を行う。担当教員による専門分野の基礎的なことがらについて演習形式で授業を行い、大学生活の方向付けを模索する。また、本演習を通して学生と教員、学生相互間のコミュニケーションを活性化することをねらいとする。

授業の到達目標

・レポート作成方法や授業ノートの取り方を知ることができる。
・図書館の利用方法や文献検索方法を知り、学習や研究に必要な図書利用方法を身につける。
・大学、学科の教育過課程、教育制度、授業形態について理解している。

授業の計画

(各授業の詳細については、全体ガイダンスにおいて説明する。)
第1回：全体ガイダンス(オリエンテーション)を通して、本授業の内容や達成すべき目標について理解する。
　　：学科の教育課程、教育制度、授業形態について説明を受け理解する。
　　：履修に関する担当教員の助言・指導を受け、自己の学習計画・履修計画を作成できるようにする。
第2回：文章表現の技術－受講の心構え、レポート表現研究－
第3回：個人面談①　　：図書館ガイダンス①
第4回：個人面談②　　：図書館ガイダンス②
第5回：大学での学び方を知るための講座、専門分野の基礎的な事柄についての演習を通して、自主学習を中心とした学習スタイルを確立し、学習に対する積極的な態度を身につける。①
第6回：大学での学び方を知るための講座、専門分野の基礎的な事柄についての演習を通して、自主学習を中心とした学習スタイルを確立し、学習に対する積極的な態度を身につける。②
第7回：大学での学び方を知るための講座、専門分野の基礎的な事柄についての演習を通して、自主学習を中心とした学習スタイルを確立し、学習に対する積極的な態度を身につける。③
第8回：大学での学び方を知るための講座、専門分野の基礎的な事柄についての演習を通して、自主学習を中心とした学習スタイルを確立し、学習に対する積極的な態度を身につける。④
第9回：大学での学び方を知るための講座、専門分野の基礎的な事柄についての演習を通して、自主学習を中心とした学習スタイルを確立し、学習に対する積極的な態度を身につける。⑤
第10回：4年後の進路を見据えた学ぶことの意味(キャリア支援センター)
第11回：大学での学び方を知るための講座、専門分野の基礎的な事柄についての演習を通して、自主学習を中心とした学習スタイルを確立し、学習に対する積極的な態度を身につける。⑥
第12回：大学での学び方を知るための講座、専門分野の基礎的な事柄についての演習を通して、自主学習を中心とした学習スタイルを確立し、学習に対する積極的な態度を身につける。⑦
第13回：大学での学び方を知るための講座、専門分野の基礎的な事柄についての演習を通して、自主学習を中心とした学習スタイルを確立し、学習に対する積極的な態度を身につける。⑧
第14回：地域との連携・学外探訪
第15回：まとめ

授業外の学習方法
課題等を行い、事前準備をしてくる。
成績評価方法
レポート、課題等(80%)、平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。)
成績評価基準
基礎的なアカデミック・スキル(学習に対する積極的な態度・技術、レジュメの作成・報告、討論方法)が修得できているか。
テキスト、参考図書
授業時において適宜指示する。
その他(受講上の注意)
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

キャリア・デザインⅠ			担当教員	植月　百枝
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1162	2単位	1年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　修学基礎・キャリア形成科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

建学の精神である仏教精神に基づく人間性の涵養と幅広い視野から物事をとらえ、高い論理性と的確な判断を下すことができる力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

厳しい雇用環境のもと、企業が求めているのは高いビジネススキル(熟練した技術)をもった人材です。しかし、どれだけ優れた技術をもっていたとしても、それを支える心がなければ形だけのものになってしまいます。
この授業では、ビジネスで必要とされるマナーとルールをはじめ、仕事の基本、心のかよったコミュニケーションの方法などを学ぶとともに、ビジネス場面における電話応対、挨拶、ビジネス文書作成などの実践を取り入れ、ビジネス能力検定3級に合格できる能力レベルを目標としています。

授業の到達目標

・社会人のマナーやルールを理解する。
・仕事における基本的な話し方、聞き方、伝え方を理解する。

授業の計画

第1回：キャリアと仕事へのアプローチ
第2回：仕事の基本となる8つの意識
第3回：コミュニケーションとビジネスマナーの基本
第4回：話し方ときき方のポイント
第5回：指示の受け方と、報告・連絡・相談
第6回：訪問と来客応対の基本マナー
第7回：ビジネス文書の基本と書き方
第8回：電話応対の基本と重要性
第9回：情報収集と効果的な活用法
第10回：会社を取り巻く環境と経済の基本
第11回：データの読み方、まとめ方
第12回：試験対策(模擬試験解答・解説)
第13回：ビジネスマナー実践　＊挨拶(お辞儀)、電話応対、面接対応、敬語、報告・連絡①
第14回：ビジネスマナー実践　＊挨拶(お辞儀)、電話応対、面接対応、敬語、報告・連絡②
第15回：ビジネスマナー実践　＊挨拶(お辞儀)、電話応対、面接対応、敬語、報告・連絡③

授業外の学習方法

予習として、テキストを熟読し、日頃から自分の成長を思い描き、キャリア形成について考えること。
復習として、授業で学んだ挨拶、お辞儀の仕方、敬語などの言葉づかいなどを実生活で実践すること。

成績評価方法

授業中に実施する小テスト(50%)、平常点(50%)
＊平常点は授業への出席状況、受講態度、実践への取り組みなどを総合して判断する。

成　績　評　価　基　準
・ビジネスマナーの基礎知識を備えているか。 ・他者に敬意をはらい円滑なコミュニケーションをとることができるか。 ・ビジネスにふさわしい言葉づかいを理解し積極的に実践できるか。
テキスト、参考図書
『2015年版ビジネス能力検定ジョブパス３級公式テキスト』日本能率協会マネジメントセンター
その他（受講上の注意）
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

スポーツと健康 (Sports and Health)			担当教員	野田　政弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1132	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　環境・健康生活科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目(体育)

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

建学の精神である仏教精神に基づく人間性の涵養と幅広い視野から物事をとらえ、高い論理性と的確な判断を下すことができる力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状(必修)、小学校教諭一種免許状(必修)、幼稚園教諭一種免許状(必修)、保育士資格(必修)

授業の内容

現代社会においてスポーツや運動など日常生活におけるさまざまな身体活動は、人々が健康な生活を送るうえで重要な役割を果たしている。スポーツや運動にみられる身体現象を運動生理学やスポーツ心理学、スポーツ社会学などの観点から科学的に探求し理解を深める。

授業の到達目標

健康、生活習慣病、体力、運動のしくみなどに関する理論について理解できる。スポーツや運動などの身体活動が人の心身に及ぼす影響について理解できる。

授業の計画

第1回：健康の捉え方と獲得するためのポイント
第2回：生活習慣病と関連する要因
第3回：体力とは何か①
第4回：体力とは何か②
第5回：運動のしくみ①
第6回：運動のしくみ②
第7回：トレーニング理論とトレーニング方法
第8回：健康を維持・増進するための運動、ダイエット計画
第9回：運動と水分補給、熱中症
第10回：ウォーミングアップとクーリングダウン
第11回：応急手当
第12回：スポーツと心理のかかわり
第13回：今日の学校保健の問題
第14回：欲求、ストレスと疲労への対処法
第15回：地域とスポーツのかかわり、社会におけるスポーツの役割
第16回：定期試験

授業外の学習方法

各回の講義の前にテキストを読んで概要を把握し、疑問点を整理しておく。講義を受けた後は、講義ノートや配布資料を見直して復習し、自身の日常生活におけるスポーツ・運動や健康について理解や関心を深める。

成績評価方法

定期試験(80%)、平常点(20%)。平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成績評価基準

健康、生活習慣病、体力、運動のしくみなどに関する理論について理解できている。スポーツや運動などの身体活動が人の心身に及ぼす影響について理解できている。

テキスト、参考図書
出村慎一編著、「健康・スポーツ科学講義 第2版」、杏林書院 2012
その他（受講上の注意）
講義で学んだ知識を日常の生活や身体運動に活用できるように。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

スポーツA[ダンス](健康栄養学科) (Sports A)			担当教員	乾　　典子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1133	1単位	1年前期	実技	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　環境・健康生活科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

建学の精神である仏教精神に基づく人間性の涵養と幅広い視野から物事をとらえ、高い論理性と的確な判断を下すことができる力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

体力の向上、仲間づくりをとおした生涯スポーツへの展開。ダンス実技を主体とし、リズム感の育成や正しいストレッチ方法を体験しながら、柔軟な頭と体を作る。

授業の到達目標

青年期におけるスポーツ体験は、彼らの体力つくりや健康の維持増進に関する知識と実践方法の理解を促進に、生涯にわたってスポーツやレクリエーションを楽しむことのできる基礎を培う。スポーツAでは個人スポーツ及び集団スポーツの実践を通して初歩的な技術から高度な技術を段階的に習得するとともに、ダンスに関する知識を深め踊る楽しみを感じられる体験を学習する。

授業の計画

第1回：①頭と体ほぐしのための準備運動(アップ)体験
第2回：②ダンスのためのストレッチ方の体験・習得
第3回：①と②を実施した後に・ステップレッスン
(基本のステップとリズム感の習得練習)　簡単なダンスを体験〔1〕
第4回：①②　ステップレッスン　簡単なダンスを体験〔2〕
第5回：①②　ダンスの振り覚え1練習
第6回：①②　ダンスの振り覚え2練習
第7回：①②　ダンスの振り覚え3練習
第8回：①②　ダンスの振り覚え4練習
第9回：①②　ダンスの振り覚え5練習
第10回：①②　ダンスの振り覚え6練習
第11回：①②　ダンスの振り覚え7練習完成
第12回：①②　ダンス個人発表グループ発表のための構成方法の説明
第13回：構成グループ別練習
第14回：構成グループ別練習
第15回：発表　鑑賞

授業外の学習方法

授業で習ったダンスを忘れないように、授業後何度か踊ってみること。

成績評価方法

実技試験(70%)　授業への取り組み・態度(30%)

成績評価基準

・授業へまじめに取り組んでいるか。
・課題のダンスを覚えて踊れているか。
・グループ活動に積極的に参加・協力しているか。

テキスト、参考図書
特に使用しない。
その他（受講上の注意）
必ず体操服で受講すること。シューズも準備すること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

スポーツA[テニス](子ども教育学科) (Sports A)			担当教員	野田　政弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1133	1単位	1年前期	実技	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　環境・健康生活科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

建学の精神である仏教精神に基づく人間性の涵養と幅広い視野から物事をとらえ、高い論理性と的確な判断を下すことができる力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

青年期におけるスポーツ体験は、体力づくりや健康の維持増進に関する知識と実践方法の理解を促進し、生涯にわたってスポーツやレクリエーションを楽しむことのできる基礎を培う。健康の維持、体力の向上を図るとともに仲間づくりをとおした生涯スポーツへの展開を、テニスをとおして行なう。

授業の到達目標

テニスの技術、ルールを理解する。ラケットの扱いに慣れボールコントロール、ストローク(フォアハンド、バックハンド)、サーブ、レシーブができるようになる。ダブルスのゲーム、審判ができるようになる。進んでボール拾いやコート整備を行い適切に用具管理ができる。

授業の計画

第1回：ガイダンス(授業内容の説明と種目の選択)
第2回：基本技能の習得(フォア、バックのストローク)、ショートコートラリー①
第3回：基本技能の習得(フォア、バックのストローク)、ショートコートラリー②
第4回：簡易ゲームの導入、ショートコートゲーム
第5回：基本技能の習得(ボレー)、簡易ゲーム
第6回：基本技能の習得(スマッシュ)、簡易ゲーム
第7回：基本技能の習得(オーバーハンドサーブ)、簡易ゲーム
第8回：基本技能のテスト(フォア、バックのストローク)、ショートコートラリー
第9回：応用技能の習得(ダブルスのコンビネーションプレイ)、簡易ゲーム①
第10回：応用技能の習得(ダブルスのコンビネーションプレイ)、簡易ゲーム②
第11回：ダブルスのゲーム(ゲームの進め方と審判法)
第12回：ダブルスのゲーム①
第13回：ダブルスのゲーム②
第14回：ダブルスのゲーム、実技テスト(ラリー)①
第15回：ダブルスのゲーム、実技テスト(ラリー)②

授業外の学習方法

授業で習った技術をイメージして体の動きを確認する。新聞やテレビ等のメディアでテニスが取り上げられることも多いので、常に関心をもって積極的に情報を得るようにする。

成績評価方法

技術の習得(70%)、平常点(30%)。平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成績評価基準

基本的な技術を習得できている。ルールを正しく理解できている。授業に欠席・遅刻・早退することがなく、積極的な態度で取り組んでいる。他者とコミュニケーションがとれている。用具、コートの管理が適切にできている。

テキスト、参考図書
必要に応じて資料を配布、参考図書を紹介する。
その他（受講上の注意）
原則として全出席を求め、早退・遅刻は認めない。スポーツウエア、屋外用の運動シューズを着用すること。 熱中症予防のため水分補給に注意すること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

スポーツA[バスケットボール](子ども教育学科)(Sports A)			担当教員	山村　恵子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1133	1単位	1年前期	実技	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　環境・健康生活科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

建学の精神である仏教精神に基づく人間性の涵養と幅広い視野から物事をとらえ、高い論理性と的確な判断を下すことができる力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

青年期におけるスポーツ体験は、体力づくりや健康の維持増進に関する知識と実践方法の理解を促進し、生涯にわたってスポーツやレクリエーションを楽しむことのできる基礎を培う。健康の維持、体力の向上を図るとともに仲間づくりをとおした生涯スポーツへの展開を、バスケットボールをとおして行なう。

授業の到達目標

バスケットボールの技術、ルールを理解する。ボールの扱い、ボディコントロール、シュート、ドリブル、パスなどの個人技能を習得し、フォーメーションプレイがスムーズにできる。チームメイトとコミュニケーションがとれる。コート整備を行い適切に用具管理ができる。

授　業　の　計　画

第１回：ガイダンス(授業内容の説明と種目の選択)
第２回：準備体操(ストレッチ)　ボディーコントロール　フットワーク／ボールコントロール　パス・ドリブル・シュート／個人技の習得　１対１　２対２／①
第３回：準備体操(ストレッチ)　ボディーコントロール　フットワーク／ボールコントロール　パス・ドリブル・シュート／個人技の習得　１対１　２対２／②
第４回：準備体操(ストレッチ)　ボディーコントロール　フットワーク／ボールコントロール　パス・ドリブル・シュート／個人技の習得　１対１　２対２／③
第５回：基 本 技／オフェンス　コンビネーションプレー(パス＆ゴー・スクリーンプレー)／ ３対３　基本的フォーメーション(タイミング・スペーシング)／ 個人技能評価・ゴール下ジャンプショット・ジグザグドリブル／体力・技能等メンバー構成に特質性を考慮する(５分間ゲーム)　①
第６回：基 本 技／オフェンス　コンビネーションプレー(パス＆ゴー・スクリーンプレー)／ ３対３　基本的フォーメーション(タイミング・スペーシング)／ 個人技能評価・ゴール下ジャンプショット・ジグザグドリブル／体力・技能等メンバー構成に特質性を考慮する(５分間ゲーム)　②
第７回：基 本 技／オフェンス　コンビネーションプレー(パス＆ゴー・スクリーンプレー)／ ３対３　基本的フォーメーション(タイミング・スペーシング)／ 個人技能評価・ゴール下ジャンプショット・ジグザグドリブル／体力・技能等メンバー構成に特質性を考慮する(５分間ゲーム)　③
第８回：基 本 技／オフェンス　コンビネーションプレー(パス＆ゴー・スクリーンプレー)／ ３対３　基本的フォーメーション(タイミング・スペーシング)／ 個人技能評価・ゴール下ジャンプショット・ジグザグドリブル／体力・技能等メンバー構成に特質性を考慮する(５分間ゲーム)　④
第９回：基 本 技／オフェンス　コンビネーションプレー(パス＆ゴー・スクリーンプレー)／ ３対３　基本的フォーメーション(タイミング・スペーシング)／ 個人技能評価・ゴール下ジャンプショット・ジグザグドリブル／体力・技能等メンバー構成に特質性を考慮する(５分間ゲーム)　⑤
第10回：基本的スキルテスト／基本技／５対５　防衛インフォメーション／全面での攻防(５分間ゲーム)／作戦・戦略・審判法について学習する　①
第11回：基本的スキルテスト／基本技／５対５　防衛インフォメーション／全面での攻防(５分間ゲーム)／作戦・戦略・審判法について学習する　②
第12回：基本的スキルテスト／基本技／５対５　防衛インフォメーション／全面での攻防(５分間ゲーム)／作戦・戦略・審判法について学習する　③
第13回：基本的スキルテスト／基本技／５対５　防衛インフォメーション／全面での攻防(５分間ゲーム)／作戦・戦略・審判法について学習する　④
第14回：基本的スキルテスト／基本技／５対５　防衛インフォメーション／全面での攻防(５分間ゲーム)／作戦・戦略・審判法について学習する　⑤
第15回：ゲームまとめ

授業外の学習方法

授業で習った技術をイメージして体の動きを確認する。新聞やテレビ等のメディアでバスケットボールが取り上げられることも多いので、常に関心をもって積極的に情報を得るようにする。

成　績　評　価　方　法

技術の習得(70%)、平常点(30%)。平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

基本的な技術を習得できている。ルールを正しく理解できている。授業に欠席・遅刻・早退することがなく、積極的な態度で取り組んでいる。他者とコミュニケーションがとれている。用具、コートの管理が適切にできている。

テキスト、参考図書

必要に応じて資料を配布、参考図書を紹介する。

その他(受講上の注意)

原則として全出席を求め、早退・遅刻は認めない。スポーツウエア、屋内用の運動シューズを着用すること。熱中症予防のため水分補給に注意すること。原則として見学の場合もスポーツウエアを着用のこと。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

生活と環境A (Life Science and the Environment A)			担当教員	八木　秀夫
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1131	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　環境・健康生活科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

建学の精神である仏教精神に基づく人間性の涵養と幅広い視野から物事をとらえ、高い論理性と的確な判断を下すことができる力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

人間の最も身近な社会的環境は家族である。人間は家族の中に生まれ、他の家族成員との相互作用の中で自分自身と家族を変化させていく。社会的環境としての家族の所与性とその変革の可能性を考えていく。

授業の到達目標

社会的環境として全体社会システムのなかで果たす家族の意義・役割、集団特性、基本的機能を理解するとともに、よりよい家族環境を築くための知識を獲得する

授業の計画

第1回：社会的環境としての家族
第2回：家族の時代(1)
第3回：家族の時代(2)
第4回：家族の時代(3)
第5回：家族の集団的特徴(1)
第6回：家族の集団的特徴(2)
第7回：家族の集団的特徴(3)
第8回：家族の基本的機能(1)
第9回：家族の基本的機能(2)
第10回：家族の基本的機能(3)
第11回：機能的家族と機能不全家族(1)
第12回：機能的家族と機能不全家族(2)
第13回：機能不全家族で育った子供たちの問題
第14回：家族の回復力
第15回：おわりに
第16回：定期試験

授業外の学習方法

e-learningで毎回の授業内容を確認し、そこにアップロードされた資料を読んでおくこと。
資料の内容の理解度を知るために小テストを行う。

成績評価方法

定期試験(50%)、小テスト(30%)、平常点(20%)
平常点は、授業への参加状況、受講態度、クイズの解答状況を総合して判断する。

成績評価基準

社会的環境として家族が全体社会システムのなかで果たす意義・役割、集団特性、基本的機能を理解しているか。
よりよい家族環境を築くための知識を獲得できているか。

テキスト、参考図書

テキスト；使用しない
参考資料、図書資料
クリントン、ブッシュ、オバマ大統領のNational Family Week 等の宣言文
Communitarian Networkのいくつかの論文
J. Miller Living Systems　McGraw-Hill　1978
J.ヘイリー『戦略的心理療法』黎明書房　1963
L.ホフマン『システムと進化　家族療法の基礎理論』朝日出版 1981
S.ミニューチン『家族と家族療法』誠信書房 1974
J. Lewis, R. Beavers, T. Gessett, A. Phillips No Single Thread : Psychological Health in Family Systems Brunner/Mazel, Publishers
Walsh, F(ed.) Normal Family Process, The Guilford Press, 1992
その他　授業で紹介する

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語Ⅰa (English Ⅰa)			担当教員	フッド 晴美、ME ハウカ、サルバトレ マイケル、内藤徹、山口和代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1141	1単位	1年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　外国語科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目(外国語コミュニケーション)

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

建学の精神である仏教精神に基づく人間性の涵養と幅広い視野から物事をとらえ、高い論理性と的確な判断を下すことができる力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状(必修)、小学校教諭一種免許状(必修)、幼稚園教諭一種免許状(必修)、保育士資格(必修)

授業の内容

Following a 'Warm up' activity to introduce the theme of the unit, students will be introduced to the relevant grammar and vocabulary through a series of listening and speaking exercises. Reading and writing exercises will follow to reinforce their knowledge of the material.

授業の到達目標

Upon finishing the course students will be able to express themselves freely in general conversation through exchanging personal information and talking about their daily lives, as well as be able to listen for key words and specific information in a variety of situations. The ability to scan for general information and read for specific information will be enhanced as well as the ability to write short letters, descriptions, and articles on a variety of subjects.

授業の計画

第1回：Class Introduction
第2回：Unit 1 Introductions①
第3回：Unit 1 Introductions②
第4回：Unit 2 What a life!①
第5回：Unit 3 Free Time①
第7回：Unit 3 Free Time②
第8回：Review
第9回：Unit 4 Places①
第10回：Unit 4 Places②
第11回：Unit 5 Getting Around①
第12回：Unit 5 Getting Around②
第13回：Unit 6 Shopping①
第14回：Unit 6 Shopping②
第15回：Review
第16回：Examination

授業外の学習方法

Before each unit students are to familiarize themselves with the class material by reviewing the 'Grammar reference' pages for each unit and completing the exercises on those pages. Students must also complete homework assignments as instructed by their teachers; such as the writing assignments suggested in the textbook, and accessing the online 'Digibook'(listening activities & video worksheets) to reinforce their in-class studies, as well as other assignments. Furthermore, students will be tasked with self-study activities in preparation for the TOEIC through the use of NetAcademy 2 software.

成績評価方法

Outside-class Activities('Grammar reference' pages, homework assignments, 'Digibook' activities, NetAcademy 2 usage) - 30%
Proactive In-class Participation - 30%
Examination - 40%

成 績 評 価 基 準

Students' ability to understand and participate in general conversation on everyday topics will be evaluated as well the ability to read and comprehend short, written passages.

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

Breakthrough Plus 1 - Miles Craven - 2013 - Macmillan Education - ISBN 978- 0 -230-43813

そ の 他 (受 講 上 の 注 意)

During the semester a number of classes will be held in the Computer Assisted Language Learning laboratory(E-303) for the purpose of familiarizing students with the 'Digibook' activities and to familiarize students with the use of NetAcademy 2 software.

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語Ⅰb (English Ⅰb)			担当教員	加藤　優子、フッド 晴美、ME ハウカ、サルバトレ マイケル、山口　和代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1142	1単位	1年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　外国語科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目(外国語コミュニケーション)

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

建学の精神である仏教精神に基づく人間性の涵養と幅広い視野から物事をとらえ、高い論理性と的確な判断を下すことができる力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状(必修)、小学校教諭一種免許状(必修)、幼稚園教諭一種免許状(必修)、保育士資格(必修)

授業の内容

Following a 'Warm up' activity to introduce the theme of the unit, students will be introduced to the relevant grammar and vocabulary through a series of listening and speaking exercises. Reading and writing exercises will follow to reinforce their knowledge of the material.

授業の到達目標

Upon finishing the course students will be able to express themselves freely in general conversation through exchanging personal information and talking about their daily lives, as well as be able to listen for key words and specific information in a variety of situations. The ability to scan for general information and read for specific information will be enhanced as well as the ability to write short letters, descriptions, and articles on a variety of subjects.

授業の計画

第1回：Class Introduction
第2回：Unit 7 What's happening?①
第3回：Unit 7 What's happening?②
第4回：Unit 8 People①
第5回：Unit 8 People②
第6回：Unit 9 Having fun①
第7回：Unit 9 Having fun②
第8回：Review
第9回：Unit 10 Vacation①
第10回：Unit 10 Vacation②
第11回：Unit 11 Life stories①
第12回：Unit 11 Life stories②
第13回：Unit 12 Hopes and intentions①
第14回：Unit 12 Hopes and intentions②
第15回：Review
第16回：Examination

授業外の学習方法

Before each unit students are to familiarize themselves with the class material by reviewing the 'Grammar reference' pages for each unit and completing the exercises on those pages. Students must also complete homework assignments as instructed by their teachers; such as the writing assignments suggested in the textbook, and accessing the online 'Digibook'(listening activities & video worksheets) to reinforce their in-class studies, as well as other assignments. Furthermore, students will be tasked with self-study activities in preparation for the TOEIC through the use of NetAcademy 2 software.

成　績　評　価　方　法
Outside-class Activities('Grammar reference' pages, homework assignments, 'Digibook' activities, NetAcademy 2 usage) - 30% Proactive In-class Participation - 30% Examination - 40%
成　績　評　価　基　準
Students' ability to understand and participate in general conversation on everyday topics will be evaluated as well the ability to read and comprehend short, written passages.
テキスト、参考図書
Breakthrough Plus 1 - Miles Craven - 2013 - Macmillan Education - ISBN 978- 0 -230-43813
その他(受講上の注意)
During the semester a number of classes will be held in the Computer Assisted Language Learning laboratory(E-303) for the purpose of familiarizing students with the 'Digibook' activities and to familiarize students with the use of NetAcademy 2 software.
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フランス語入門a (Introduction to French a)			担当教員	大竹口　麻里
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1143	1単位	1年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　外国語科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

建学の精神である仏教精神に基づく人間性の涵養と幅広い視野から物事をとらえ、高い論理性と的確な判断を下すことができる力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

フランス語の初級文法・日常表現・生活と文化について、多様なメディアを使って総合的に学習します。

授業の到達目標

1)できるだけ早い段階で、まず「臆することなくフランス語」を発音できるようになること。2)初級文法を学び簡単な会話文が読めるようになること。1年間の学習で「フランス語技能検定試験(仏検)」の5級に合格できるようになること。

授業の計画

第1回：フランス語について、ABCの発音、あいさつ
第2回：1課　自己紹介、単母音字の発音
第3回：1課　元気かどうかを聞く　複母音字の発音
第4回：2課　職業　鼻音字の発音
第5回：3課　住んでいるところについて言う　子音の発音
第6回：3課　国籍・言語・否定形
第7回：3課　カフェで注文する
第8回：4課　身の回りのもの、〜をもっていますか？
第9回：4課　兄弟はいますか、何歳ですか？
第10回：フランス映画鑑賞Ⅰ
第11回：5課　この人は誰ですか
第12回：5課　彼はどんな人ですか、人物について描写する
第13回：6課　これは何ですか
第14回：6課　〜はどこですか
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

各講義を受けたあとで早い段階で板書したノートとテキストを見直し復習をし、次の講義に臨んで下さい。

成績評価方法

定期試験(50%)平常点(50%)(平常点は、授業への参加状況・受講態度・宿題があった場合の提出状況等総合して判断します。

成績評価基準

前期の段階では、1)テキストを見て簡単なフランス文が音読できること。2)フランス語の動詞の活用と初歩の文法を理解しフランス語に慣れること。

テキスト、参考図書
『カフェフランセ』 朝日出版社　ニコラ・ガイヤール、加藤豊子　他
その他（受講上の注意）
仏和辞書を買い予習すること。テキストと辞書は毎回持ってくること。（１回目の授業で辞書について話します。）
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フランス語入門b (Introduction to French b)			担当教員	大竹口　麻里
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1144	1単位	1年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　外国語科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

建学の精神である仏教精神に基づく人間性の涵養と幅広い視野から物事をとらえ、高い論理性と的確な判断を下すことができる力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

前期に引き続きフランス語の初級文法・日常表現・生活と文化について多様なメディアを使って総合的に学習します。

授業の到達目標

前期に引き続き発音と文法の基礎を学習しつつ、簡単な文を読み、書き、聞き、話す総合的運用能力を身につけること。「入門ｂ」終了時点で「フランス語技能検定試験(仏検)の５級に合格できるようになること。

授業の計画

第１回：７課 私は～が好きです、私は～が嫌いです
第２回：７課 ～があります
第３回：８課 何を着ていますか、よい天気です
第４回：８課 AはBより～です
第５回：９課　私はサッカーをします
第６回：９課　朝食に～を取ります
第７回：10課 ～へ行きましょう
第８回：10課 どのくらいの時間がかかりますか
第９回：フランス映画鑑賞Ⅱ
第10回：私は～時に起きます
第11回：～時から～時まで授業があります
第12回：彼女を知っていますか
第13回：アルバイトをしていますか
第14回：まとめ
第15回：まとめと質問
第16回：定期試験

授業外の学習方法

各講義を受けたあとで早い段階で、板書したノートとテキストを見直し復習をして次の講義に臨んで下さい。

成績評価方法

定期試験(50%)　平常点(50%)(平常点は、授業への出席状況・受講態度・宿題があった場合の提出状況など総合して判断します。

成績評価基準

1)テキストをみて滑らかに音読できること。2)簡単なフランス文が書け、聞くことができること。

テキスト、参考図書

『カフェフランセ』 朝日出版社　ニコラ・ガイヤール、加藤豊子　他

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ドイツ語入門a (Introduction to German a)			担当教員	橋本　武志
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1145	1単位	1年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　外国語科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

建学の精神である仏教精神に基づく人間性の涵養と幅広い視野から物事をとらえ、高い論理性と的確な判断を下すことができる力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

ドイツ語の発音と単語、文の構造を学ぶ。

授業の到達目標

ドイツ語のアルファベートの発音、単語の読み方、規則的な動詞変化(現在形)、定冠詞・不定冠詞の格変化を習得し、簡単なドイツ語のあいさつや、ドイツ語の単文をある程度読み、書き、発音することができるようになることを目的とする。

授業の計画

第1回：ドイツ語という言語の説明・アルファベート
第2回：いろいろな単語を発音してみよう。
第3回：単語と簡単なあいさつをしてみよう。
第4回：小テスト1　およびこれまでの復習
第5回：Lektion 1　エリ、アナと知り合う1(動詞の人称変化・定動詞第2位の法則)
第6回：Lektion 1　エリ、アナと知り合う2(動詞の不規則な人称変化)
第7回：Lektion 2　エリ、レストランへ行く1(名詞の格変化)
第8回：Lektion 2　エリ、レストランへ行く2(定冠詞と不定冠詞)
第9回：Lektion 2　エリ、レストランへ行く3(不定冠詞)
第10回：小テスト2　およびこれまでの復習
第11回：映像によってドイツ文化を知る1
第12回：Lektion 3　エリ、パーティに招待される(命令文)
第13回：名詞の複数形と定冠詞・不定冠詞変化
第14回：映像資料によってドイツ文化を知る2
第15回：これまでのまとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

毎回プリントによる練習問題を宿題として出すので、必ずやってきてから授業に臨むこと。毎回の授業は宿題の答え合わせから始める。間違った問題は、必ず復習しておくこと。

成績評価方法

定期試験(70%)、平常点(30%)
(平常点は、授業への参加状況、受講態度、小テストへの取り組みを総合して判断します)

成績評価基準

・ドイツ語の発音の規則を理解し、知らない単語にも応用することができるか。
・動詞変化の基本的規則を理解し、自分で動詞を変化させることができるか。
・英語にはない動詞の「性および格」について理解し、冠詞変化規則を自分で応用することができるか。

テキスト、参考図書
（1）春日正男　松澤淳 『レッカー！レッカー！レッカー！―おいしく学ぶドイツ語―』 郁文堂　2007年 （2）在間進 『新キャンパス独和辞典』 郁文堂 2011年 初学者には電子辞書は不向きなので、書籍版を購入すること。すでに書籍版の辞書を持っている人は、自分の持っている辞書でもよい。辞書の種類や使い方については初回の授業で説明する。
その他（受講上の注意）
語学の授業は、出席しないことには身につかない。できるかぎり出席すること。また、私語が多い場合には、その回は欠席扱いにすることがある。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ドイツ語入門b (Introduction to German b)			担当教員	橋本　武志
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1146	1単位	1年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　外国語科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

建学の精神である仏教精神に基づく人間性の涵養と幅広い視野から物事をとらえ、高い論理性と的確な判断を下すことができる力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

ドイツ語入門aにつづいて、ドイツ語のやや高次な初級文法について学ぶ。

授業の到達目標

ドイツ語の定冠詞・不定冠詞類の格変化、前置詞、助動詞を習得し、英語とは異なるドイツ語独自の「ワク構造」について理解する。

授業の計画

第1回：ドイツ語入門aの復習
第2回：Lektion 5　エリ、アナと料理をつくる〜パートI(冠詞のそっくりさんたち)
第3回：Lektion 5　エリ、アナと料理をつくる〜パートⅡの1(人称代名詞)
第4回：Lektion 5　エリ、アナと料理をつくる〜パートⅡの2(前置詞1)
第5回：Lektion 5　エリ、アナと料理をつくる〜パートⅡの3(前置詞2)
第6回：小テスト1 およびこれまでの復習
第7回：Lektion 6　エリ、道をたずねる1　(助動詞とワク構造)
第8回：Lektion 6　エリ、道をたずねる2　(未来をあらわす文)
第9回：小テスト2　およびこれまでの復習
第10回：Lektion 8　エリ、風邪をひく1　(動詞の3基本形)
第11回：Lektion 8　エリ、風邪をひく2　(過去をあらわす文)
第12回：Lektion 8　エリ、風邪をひく3　(過去をあらわす文〜不規則動詞の場合)
第13回：映像資料でドイツ文化に慣れ親しむ
第14回：Lektion 9　エリ、映画を見に行く　(完了形の意味)
第15回：これまでのまとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

毎回プリントによる練習問題を宿題として出すので、必ずやってきてから授業に臨むこと。毎回の授業は宿題の答え合わせから始める。間違った問題は、必ず復習しておくこと。

成績評価方法

定期試験(70%)、平常点(30%)
(平常点は、授業への参加状況、受講態度、小テストへの取り組みを総合して判断します)

成績評価基準

・冠詞類、動詞の不規則変化、前置詞、話法の助動詞、過去形について理解し、ある程度応用できるか。

テキスト、参考図書
(1)春日正男　松澤淳　『レッカー！レッカー！レッカー！―おいしく学ぶドイツ語―』 郁文堂 2007年 (2)在間　進　『エクセル独和辞典』 郁文堂 2011年 初学者には電子辞書は不向きなので、書籍版を購入すること。すでに書籍版の辞書を持っている人は、自分の持っている辞書でもよい。辞書の種類や使い方については初回の授業で説明します。
その他(受講上の注意)
語学の授業は、出席しないことには身につかない。できるかぎり出席すること。また、私語が多い場合には、その回は欠席扱いにすることがある。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

中国語入門a (Introduction to Chinese a)			担当教員	永井　崇弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1147	1単位	1年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　外国語科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

建学の精神である仏教精神に基づく人間性の涵養と幅広い視野から物事をとらえ、高い論理性と的確な判断を下すことができる力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

中国語圏における国際的理解を深めるために、その基礎となる入門レベルの中国語を習得します。

授業の到達目標

中国語の発音表記であるピンインの習得を中心とします。ピンインを正確に発音したり、中国語を聴いてピンインで表記できるようにします。また同時に中国語コミュニケーションで必要となる初歩的な基礎単語、基礎文法もあわせて学びます。

授業の計画

第1回：授業概要の説明、中国とは・中国語とは
第2回：音節構造、声調と短母音
第3回：第2回の復習、子音(無気音と有気音、唇音、舌尖音、舌根音、舌面音、そり舌音、舌歯音)
第4回：第2回、第3回の復習、二重母音、三重母音、鼻母音
第5回：第2～4回の復習、軽声、アール化、声調変化
第6回：ポイント1：名前の尋ね方・言い方、諾否疑問文
第7回：ポイント1を用いた本文とドリル
第8回：ポイント2：疑問詞疑問文、数詞と量詞
第9回：ポイント2を用いた本文とドリル
第10回：ポイント3：年齢の尋ね方・答え方、年月日・曜日の言い方
第11回：ポイント3を用いた本文とドリル
第12回：ポイント4：助動詞(願望)、時刻の言い方、連動文、省略疑問文
第13回：ポイント4を用いた本文とドリル
第14回：ポイント5：「在」と「有」、方位詞、前置詞
第15回：ポイント5を用いた本文とドリル
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習として教科書の各回に関連する頁を読み、あらかじめ疑問点等を整理しておいてください。また、復習としては授業時の内容を書きとめたノートを見直して、確実に身に付けるようにしてください。

成績評価方法

定期試験(60%)　平常点(40%)　(平常点は授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します。)

成績評価基準

ピンイン、基礎単語、基礎文法が正確に習得されているか。中国語の文を正確に構成し、表記・発話することができるか。

テキスト、参考図書
テキスト：『新基礎からの中国語－ＨＳＫ２級・合格テキスト』　呉悦・張国王路・加固明子　朝日出版社　2014年
その他（受講上の注意）
外国語の授業ですので、受講者は毎回、大きな声で発音するように心がけてください。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

中国語入門b (Introduction to Chinese b)			担当教員	永井　崇弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1148	1単位	1年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　外国語科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

建学の精神である仏教精神に基づく人間性の涵養と幅広い視野から物事をとらえ、高い論理性と的確な判断を下すことができる力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

「中国語入門a」に引き続き、国際理解のための中国語の基礎を習得します。

授業の到達目標

発音(ピンイン)に留意しつつ、中国語コミュニケーションにおいて必要な基礎単語、基礎文法を習得するとともに、会話における表現を身に付けて、中国語の基礎力をたくわえます。

授業の計画

第1回：ポイント1：助動詞(可能)、過去の強調、完了の「了」、時間量の言い方
第2回：ポイント1を用いた本文ととドリル
第3回：ポイント2：金銭の表現、助動詞(許可)、数を尋ねる疑問詞、反復疑問文
第4回：ポイント2を用いた本文、ドリル
第5回：ポイント3：文末の「了」、「少し」の表現、過去の経験、動量詞
第6回：ポイント3を用いた本文とドリル
第7回：ポイント4：方向補語、助動詞(可能性)、禁止表現、使役文
第8回：ポイント4を用いた本文、ドリル
第9回：ポイント5：二重目的語の文、様態補語、進行形、動詞の重ね型
第10回：ポイント5を用いた本文、ドリル
第11回：ポイント6：構造助詞「的」、主従複文、結果補語
第12回：ポイント6を用いた本文、ドリル
第13回：ポイント7：持続、存現文、比較文
第14回：ポイント7を用いた本文、ドリル
第15回：総復習
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習として教科書の各回に関連する頁を読み、あらかじめ疑問点等を整理しておいてください。また、復習としては授業時の内容を書きとめたノートを見直して、確実に身に付けるようにしてください。

成績評価方法

定期試験(60%)　平常点(40%)　(平常点は授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します。)

成績評価基準

ピンイン、基礎単語、基礎文法が正確に習得されているか。中国語の文を正確に構成し、表記・発話することができるか。

テキスト、参考図書
テキスト：『新基礎からの中国語－ＨＳＫ２級・合格テキスト』　呉悦・張国王路・加固明子　朝日出版社　2014年
その他（受講上の注意）
外国語の授業ですので、受講者は毎回、大きな声で発音するように心がけてください。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

情報基礎Ⅰ (Basic Information Systems Ⅰ)			担当教員	篭谷　隆弘、宮川　祐一
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1151	2単位	1年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　情報科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目(情報機器の操作)

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

建学の精神である仏教精神に基づく人間性の涵養と幅広い視野から物事をとらえ、高い論理性と的確な判断を下すことができる力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状(必修)、小学校教諭一種免許状(必修)、幼稚園教諭一種免許状(必修)、保育士資格(必修)

授業の内容

パーソナルコンピュータの基本操作

授業の到達目標

現代社会においては情報活用能力が必要不可欠となっている。コンピュータを文書作成・情報検索等のツールとして利用するための基礎的学習を目標とする。主な内容としてオペレーティングシステムの基礎、ワープロソフト・プレゼンテーションソフトの基本操作ができる。学内ネットワーク利用方法、インターネット・WWW・電子メール利用の基礎、入出力用周辺機器の利用方法について理解できる。

授業の計画

第1回：授業の目的・使用設備・学内ネットワーク等の説明、パソコンの基本操作
第2回：WWWの利用、e-Learningシステム、情報倫理
第3回：電子メールの設定・利用、タッチタイピングについて
第4回：ワープロ(1)文字の入力
第5回：ワープロ(2)文書の作成、印刷
第6回：ワープロ(3)文字フォント・段落の設定
第7回：ワープロ(4)表の活用
第8回：ワープロ(5)図や画像の挿入
第9回：デジタルカメラ・イメージスキャナの利用、写真の管理
第10回：プレゼンテーションソフト(1)スライド作成・編集
第11回：プレゼンテーションソフト(2)切り替え効果・アニメーション
第12回：プレゼンテーションソフト(3)スライドショー、配布資料の作成
第13回：応用練習(1)ビジネス文書作成
第14回：応用練習(2)ビジネス文書作成
第15回：応用練習(3)その他の機能
第16回：定期試験

授業外の学習方法

参考図書：市販のWord、PowerPoint、Windowsに関連する書籍。
必要に応じてプリントを配布する。
予習復習としてなるべく多くの演習課題に取り組むことが望ましい。

成績評価方法

全ての課題を提出すること、Type Quickにて指定する条件の成績・練習時間を達成することを必要条件とする。
定期試験成績50%、提出課題50%で評価する。

成　績　評　価　基　準
ワープロ・プレゼンテーション資料の演習課題を提出しているか。 Type Quickにて指定する条件の成績・練習時間を達成できているか。 定期試験にて、指定された様式に従って文書作成が行えるか。
テキスト、参考図書
『30時間でマスター Windows 8 対応　Office 2013』　実教出版　2013年 教材として、タイピング練習ソフトType Quick(日本データパシフィック)を使用する。
その他(受講上の注意)
この授業ではパソコンの操作が中心となるため、極力授業を欠席しないこと。もし欠席した場合には、授業の進度を確認し次週に備えること。また、課題提出を重視するので、課された課題は必ず提出すること。 また、学習内容に関連する検定・資格の取得をめざすことで、より一層の知識・技術を習得することが望ましい。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

情報基礎Ⅱ (Basic Information SystemsⅡ)			担当教員	篭谷　隆弘、宮川　祐一
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1152	2単位	1年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　情報科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

建学の精神である仏教精神に基づく人間性の涵養と幅広い視野から物事をとらえ、高い論理性と的確な判断を下すことができる力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

表計算ソフトの活用とデータの分析

授業の到達目標

表計算ソフトによるデータの集計・分析について学ぶ。ソフトウェアの操作方法のみならず、栄養や子どもの分野で扱われる様々なデータの客観的判断をするための基礎的な統計処理の考え方を修得する。主な内容は、表の作成・計算式の入力・関数の入力・グラフの作成、データの代表値の取り扱い、散布度の求め方、クロス集計の方法、度数分布とヒストグラムについて、2変数間の相関分析などについて学ぶ。パーソナルコンピュータの操作を併用する演習形式で行う。

授業の計画

第1回：授業の目的・概要説明、Excelの起動と終了、データ入力
第2回：計算式の入力、書式の変更
第3回：関数の利用、罫線、表の編集
第4回：グラフ作成、その他の関数
第5回：セル参照、条件付き書式
第6回：並べ替え、フィルタ
第7回：統計について、代表値
第8回：散布度
第9回：度数分布
第10回：基準値、偏差値
第11回：相関係数、散布図
第12回：回帰分析
第13回：クロス集計・誤差グラフ
第14回：復習課題
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

参考図書：市販のExcelや統計学に関連する書籍。
必要に応じてプリントを配布する。
予習復習としてなるべく多くの演習課題に取り組むことが望ましい。

成績評価方法

全ての課題を提出することを必要条件とする。
定期試験成績50%、提出課題50%で評価する。

成　績　評　価　基　準
表計算ソフトウェア・統計解析の演習課題を提出しているか。 定期試験にて、指定された計算方法に従って統計解析を行い、指定された様式に従って表の作成が行えるか。
テキスト、参考図書
(1)『30時間でマスター Windows 8 対応　Office 2013』　実教出版　2013年 (2)『Excelで学ぶ統計解析入門』　管民郎　オーム社　2013年
その他(受講上の注意)
この授業ではパソコンの操作が中心となるため、極力授業を欠席しないこと。もし欠席した場合には、授業の進度を確認し次週に備えること。また、課題提出を重視するので、課された課題は必ず提出すること。 また、学習内容に関連する検定・資格の取得をめざすことで、より一層の知識・技術を習得することが望ましい。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

基礎化学 (Basic Chemistry)			担当教員	尼子　克己
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2102	2単位	1年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格(選択)

授業の内容

管理栄養士養成課程で学ぶ内容には、ヒトのからだの中で起こっている現象や、調理における食品の変化など、化学的思考を理解の前提としたものが少なくない。本講義では高校で化学(化学基礎・化学)を学ばなかった、あるいは十分に理解できなかった者を対象に、その中でも特に根本となる理論化学の内容について重点的に取り扱う。また、化学が人間生活でどのように役立ち、化学の考え方がどこで使われているかについて適宜触れ、以降の学修とのつながりをイメージさせる。

授業の到達目標

① 原子・分子の構造を理解し、それに基づいて元素の持つ大凡の性質を説明できる。
② モルの概念を理解し、モル濃度を基礎とした濃度計算ができる。
③ 化学反応式をベースとした化学反応の量的関係について、自身で取り扱うことができる。
④ 酸・塩基反応、酸化還元反応、熱化学方程式の成り立ちを理解し、これらの化学反応と化学平衡について定性的・定量的に説明ができる。

授業の計画

第1回：科学における化学
第2回：原子：この世界をかたちづくっている材料
第3回：元素と周期表
第4回：原子と原子のつながり
第5回：モルと化学反応式
第6回：濃度の表し方
第7回：酸化と還元
第8回：物質の性質と状態
第9回：気体の性質
第10回：化学反応と熱エネルギー
第11回：化学反応と化学平衡
第12回：水と溶液
第13回：透析と浸透圧
第14回：酸および塩基とpH
第15回：放射性同位元素と放射線・放射能
第16回：定期試験

授業外の学習方法

① 授業に先立ち、テキストの関連ページ・配布資料を読んでおくこと。当該範囲のビデオ教材などの視聴を求めることがあります。
② 大学の講義では問題演習の時間をあまり取らないが、それを疎かにすると理解が深まらないので各自で補う必要がある。テキスト内の例題および章末問題、配布プリントの問題について演習を怠らないこと(出版社ウェブサイトで解答が入手できる)。毎回、授業の復習時に、テキストの関連した例題および練習問題を解き、理解度を確認して下さい。

成　績　評　価　方　法

定期試験50%、授業時に行う小テスト30%、予・復習を含めた授業への取り組み態度20%を総合的に評価する。

成　績　評　価　基　準

①　原子・分子の構造を理解し、それに基づいて元素の持つ大凡の性質を説明できるか。
②　モルの概念を理解し、モル濃度を基礎とした濃度計算ができるか。
③　化学反応式をベースとした化学反応の量的関係について、自身で取り扱うことができるか。
④　酸・塩基反応、酸化還元反応、熱化学方程式の成り立ちを理解し、これらの化学反応と化学平衡について定性的・定量的に説明ができるか。

テキスト、参考図書

テキスト：『はじめて学ぶ化学』　野島高彦著、化学同人　2012年　および　講義用配布資料
参考書：高校教科傍用の図説。例えば『ダイナミックワイド図説化学』東京書籍　等。
中川徹夫著　『化学の基礎～元素記号からおさらいする化学の基本』　化学同人　2010年
辻・中村編著　栄養科学シリーズNEXT『基礎化学』　講談社サイエンティフィック　2010年
田島編著　『基礎からのやさしい化学～ヒトの健康と栄養を学ぶために』　建帛社　2011年

その他（受講上の注意）

・中学理科の範囲まで遡って学習する必要のある者については、これに加える形で別途教材を指示する。並行して学習を進めること。
・本科目だけで高校化学をすべて網羅しているわけではない。引き続き「分析化学」・「有機化学」などの科目を受講することで高校～大学の内容をカバーすることに留意すること。
・遅刻・欠席は、理解の妨げになるので慎むこと。
・質問や相談はオフィスアワーに限らず随時受け付ける。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

基礎生物学 (Basic Biology)			担当教員	尼子　克己
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2101	2単位	1年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

食品衛生管理者、食品衛生監視員任用資格(選択)

授業の内容

管理栄養士課程で必要となる生物学の知識を、全般にわたり概説する。小・中・高と進む生物学の学びは、その領域の広さはそのままに、徐々に内容を深化・細分化させて進行し、大学での学びも基本的にはその延長線上にある。本講義は以降に学ぶ科目の導入となるよう、概ね高校生物プラスアルファの深度を意識しつつ、履修者の習熟状況に応じて講義内容を調整しながら進めていく。

授業の到達目標

生物学における基本的な用語の意味を説明できる。人体の構造、および機能の概要を述べることができる。また単なる知識の羅列ではなく、背景にある実験・観察結果をベースに生物学の事項を説明できる。

授業の計画

第1回：生物の特徴とその種類
第2回：細胞の構造と機能
第3回：物質と代謝①：生体内の有機化合物
第4回：物質と代謝②：化学反応と酵素
第5回：遺伝とDNA①
第6回：遺伝とDNA②
第7回：遺伝子の発現
第8回：生物の増殖と成長：生殖・発生・分化
第9回：動物の組織と器官①
第10回：動物の組織と器官②
第11回：神経とホルモンによる身体機能の調節①
第12回：神経とホルモンによる身体機能の調節②
第13回：病原体と生体防御①
第14回：病原体と生体防御②
第15回：生物学の応用：バイオテクノロジー
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習：NHK高校講座など、講義時に指定する高校生物向けの教材に目を通しておくこと。
復習：授業内容をその日のうちにおさらいする。使用するテキストはそのまま用語のドリルとなるよう作られているので、適宜実施する小テスト時にこれらに確実に答えられるようにしておくこと。

成績評価方法

定期試験50%、講義中に実施する小テスト30%、および授業に対する姿勢(20%)で評価する。

成績評価基準

生物学に関する語句を適切に説明できるか。グラフや表などで表された実験結果を元に、生物学上の知見を説明できるか。

テキスト、参考図書

テキスト：『大学１年生のなっとく！生物学』　田村隆明著、講談社、2014年　および高校生物の教科傍用図説(例えば『視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録改訂版』、数研出版)。
参考図書：『わかる生物学　知っておきたいヒトのからだの基礎知識』小野廣紀・内藤通孝　化学同人 2007年。

その他(受講上の注意)

・必要に応じて追加のプリントを配布する。
・高校生物(生物基礎・生物)を学ばなかった、あるいは十分に理解できなかった者は、できるかぎり受講することが望ましい。また事前に実施するプレイスメントテストの成績に応じて、本講義の導入となる自学自習教材を指定することがある。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

分析化学 (Analytical Chemistry)			担当教員	尼子　克己
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2103	2単位	1年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

食品衛生管理者、食品衛生監視員任用資格(選択)

授業の内容

高校化学(未修者、理解が十分でない者を含む)と大学との橋渡しを意識しながら、科学的に「ものをはかる」方法について講義します。

授業の到達目標

基礎研究や食品開発における機器分析を、適切に行い解釈できるようになるための素養を身につける。

授業の計画

第1回：分析化学と歴史、国際単位系(SI)と濃度
第2回：測定値の処理と信頼性
第3回：水溶液と化学平衡
第4回：酸塩基平衡
第5回：酸塩基滴定
第6回：錯体平衡とキレート滴定
第7回：溶解平衡と沈殿滴定
第8回：酸化還元平衡と酸化還元滴定
第9回：分離と濃縮
第10回：電気泳動法・クロマトグラフィー
第11回：機器分析のあらまし
第12回：光を使う分析法①
第13回：光を使う分析法②
第14回：質量分析法
第15回：DNA配列解析
第16回：定期試験

授業外の学習方法

テキストに収録された章末問題、および配布プリントでの演習問題に取り組み、定着を心がける(復習中心)。

成績評価方法

定期試験50%、授業時に行う小テスト30%、および授業に対する姿勢20%で評価する。

成績評価基準

①化学反応における定量関係を理解しているか。②各種滴定の原理を理解し、その利用に必要な計算ができるか。③光の性質と、その分析化学における利用について理解しているか。④栄養科学・バイオサイエンス分野で頻用される分析化学の手法について、その概要と意義について説明できるか。

テキスト、参考図書
テキスト：『分析化学』(化学はじめの一歩シリーズ５)　角田・渡辺著、化学同人、2014年 参考図書：『絶対わかる分析化学』(絶対わかる化学シリーズ)　斎藤・坂本著、講談社サイエンティフィック、2007年 『はじめて学ぶ化学』　野島高彦著、化学同人　2012年(『基礎化学』教科書) 『コンパクト分析化学』　脇田久伸・横山拓史　三共出版　2013年 『すべて分析科学者がお見通しです！』　津村ゆかり他　技術評論社　2011年。
その他(受講上の注意)
授業計画表のうち、テキストに記載がない項目については別途プリントを配布します。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

有機化学 (Organic Chemistry)			担当教員	池田　涼子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2104	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格(選択)

授業の内容

「食品・栄養学分野を理解する・生命科学のための有機化合物」をサブテーマとして、有機化合物の構造や性質、生体内での変化(代謝)の基本について講義形式の授業を実施する。また、知識の定着を図るためテーマごとに授業内で小テストを実施する。

有機化合物は生活のさまざまなところで利用される身近で種類の豊富な物質であるが、特に栄養・食品分野で重要な栄養素・生体成分について重点を置き、生化学・基礎栄養学分野で学習する内容と関連づけた講義を展開する。

授業の到達目標

有機化学とは「炭素を基本骨格とした化合物に関する化学」であり、ミネラルを除いた栄養素は全て有機化合物である。このミネラルの多くも食品中や生体内で有機化合物と結合して存在し、その機能を発揮している。すなわち有機化合物は食べ物とからだ、生命に関与する物質であり、栄養学の基本となる生化学とごく密接に関連している。有機化学を学ぶことは栄養学全体を理解するための基礎として極めて重要であり、本科目では有機化合物の成り立ちや名称、構造について知識を養うこと、食品・栄養学分野で登場する栄養素や生体成分の構造や化学的性質とそれぞれの代謝や機能との関連性について理解を深めることを目的とする。

授業の計画

第1回：有機化合物の分類と結合(確認テスト)
第2回：有機化合物の表わし方
第3回：有機化合物の命名法 ※小テスト-1
第4回：有機化合物の立体化学-1(構造異性体)
第5回：有機化合物の立体化学-2(立体異性体)
第6回：官能基と化学的性質
第7回：有機化合物の反応　※小テスト-2
第8回：炭化水素の構造と化学的性質-1(アルカン・アルケン)
第9回：炭化水素の構造と化学的性質-2(アルキン)　※小テスト-3
第10回：炭水化物の構造と分類
第11回：炭化水素の化学的性質　※小テスト-4
第12回：脂質の構造と分類
第13回：脂質の化学的性質　※小テスト-5
第14回：タンパク質・アミノ酸の構造と分類
第15回：タンパク質・アミノ酸の化学的性質　※小テスト-6
第16回：定期試験

授業外の学習方法

本科目は学習内容が幅広く、予習・復習が非常に重要である。予習は次回の講義予定に応じて教科書の該当部分に目を通し、キーワードを抽出する。復習は参考図書を利用して授業ノートの確認・補足を中心に行う。

また、復習の手助けとして授業内容に応じて出題される課題に取り組み理解を深める。なお、次回の講義予定、参考図書、課題については授業内に指示する。

成　績　評　価　方　法
小テスト40%、定期試験50%、平常点10%とし、合計で評価する。 （平常点は、授業への参加状況・受講態度等から総合的に判断する。）
成　績　評　価　基　準
有機化合物の化学式が書けるか、また、有機化合物の化学式からその名称が正確に答えられるか。 官能基が有機化合物の物理・化学的性質の与える特徴を説明できるか。 有機化合物の異性体について、物理・化学・栄養学的視点からその特徴を説明できるか。 栄養素または生体成分としての有機化合物について、構造や性質を説明できるか。 以上を鑑み、総合点60点以上を合格として単位を認定する。（詳細は履修規定第７条を参照すること）
テキスト、参考図書
健康と栄養のための有機化学　（山本勇 編著 / 健帛社） その他、必要に応じてプリントを配布する。
その他（受講上の注意）
本科目は学習内容が幅広く、予習・復習が非常に重要であるゆえ、毎回欠かさずに取り組むこと。講義内容は連続性があり、欠席や遅刻により内容理解に支障きたすことがあるため体調管理に留意すること。授業中に過去に学習した内容を確認することがあるため、授業ノートはルーズリーフではなく、通常のノートを推奨する。 学生の理解度に応じて授業計画が変更されることがある。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

健康管理概論 (Preventive Medicine and Health Promotion)			担当教員	加藤　卓次
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2108	2単位	1年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格(選択)

授業の内容

健康の概念とその歴史的概念を理解する。個人、集団(市町村、学校、職場など)の健康状態を把握するための健康指標を理解し、健康教育と健康管理など実践の技術、背景となる法律などについて学習する。具体的には、健康を阻害する諸リスク、リスク要因からの回避方法、さらに積極的な健康増進、健康づくりを進めるための諸方策(第一次予防)、健康異常の早期発見、早期治療(第二次予防)、健康を害した人々が残された機能を最大限に発揮できるようになり再訓練や教育などのリハビリテーション(第三次予防)のための知識と技術について、性、年齢、集団、地域特性などと関連つけて講義する。

授業の到達目標

健康の概念とその歴史的概念および個人、集団(市町村、学校、職場など)の健康状態を把握するための健康指標、健康教育と健康管理など実践の技術、背景となる法律などについて説明できる。

授業の計画

第1回：健康概念とその歴史
第2回：疾病の歴史と時代、文化の変遷との関係(疾病構造の変化等)
第3回：疫学(疫学指標、症例対照研究、コホート研究、介入研究)
第4回：統計学(記述統計、分析統計、統計解析方法、年齢調整法)
第5回：人口統計(国勢調査、人口指標、人口特性)
第6回：保健統計指標(人口動態統計、平均寿命、傷病統計、国民健康・栄養調査)
第7回：健康づくり(健康づくり施策、食生活関連施策、運動関連施策、健康増進法)
第8回：健康管理の方法(健康教育、スクリーニング)
第9回：生活習慣と健康(食生活と栄養、身体活動・運動)
第10回：生活習慣病の疫学、予防、健康管理
第11回：地域の保健予防システム(保健所の役割、市町村保健センターの役割、感染症の予防)
第12回：高齢者・成人の健康管理(特定健康診査・特定保健指導、介護保険)
第13回：母子の健康管理(母子保健事業、健康診査)
第14回：学校の健康管理(健康診断と保健指導)
第15回：職場の健康管理(特殊健康診断、職業病の予防)
第16回：定期試験

授業外の学習方法

教科書、授業時の板書やプリントに基づいて、各自のノートに授業の内容を整理しまとめて必ず繰り返し復習すること。理解が不十分な箇所については、質問すること。

成績評価方法

定期試験(80%)、平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します)

成　績　評　価　基　準
健康の概念とその歴史的概念および個人、集団(市町村、学校、職場など)の健康状態を把握するための健康指標、健康教育と健康管理など実践の技術、背景となる法律などについて説明できる。
テキスト、参考図書
『基礎から学ぶ健康管理概論』(第３版)　柳川洋　南江堂　2012年 講義時にプリントを配布する。
その他(受講上の注意)
講義中の私語は厳重に禁止する。疑問点や不明点があればすぐに質問すること。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

解剖生理学 (Anatomical Physiology)			担当教員	加藤　卓次
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2110	2単位	1年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格(選択)

授業の内容

正常な人体のしくみを、その構成単位である細胞レベルから組織、器官、器官系レベルまで、構造と機能との密接な関連のもとに、体系的に理解できるよう教授する。個体として人体が行う食事、運動、休養などの基本的生活活動の機構、並びに環境変化に対する対応機構も講義する。

授業の到達目標

ヒトが食物を摂り、それを体内に取り込み、身体の形成、生命の維持に利用してゆく過程を中心にして、関連する人体の構造と機能を理解し、説明することができる。

授業の計画

第1回：細胞
第2回：組織と器官
第3回：内部環境の恒常性
第4回：消化器系の構造と機能
第5回：循環器系の構造と機能
第6回：腎・尿路系の構造と機能
第7回：内分泌器官と分泌ホルモン
第8回：神経系の構造と機能
第9回：感覚器系(聴覚、味覚、嗅覚、触覚)
第10回：皮膚、体温調節
第11回：呼吸器系の構造と機能
第12回：運動器系の構造と機能
第13回：生殖器系の構造と機能
第14回：血液・造血器・リンパ系の構造と機能
第15回：免疫と生体防御
第16回：定期試験

授業外の学習方法

教科書、授業時の板書やプリントに基づいて、各自のノートに授業の内容を整理しまとめて必ず繰り返し復習すること。理解が不十分な箇所については、質問すること。

成績評価方法

定期試験(80%)、平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します)

成績評価基準

ヒトが食物を摂り、それを体内に取り込み、身体の形成、生命の維持に利用してゆく過程を中心にして、関連する人体の構造と機能を理解し、説明することができる。

テキスト、参考図書
－サクセス管理栄養士講座－『人体の構造と機能及び疾病の成り立ちⅡ』 加藤昌彦　第一出版　2013年 講義時にプリントを配布する
その他（受講上の注意）
講義中の私語は厳重に禁止する。疑問点や不明点があればすぐに質問すること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

解剖生理学実験 (Experiments in Anatomical Physiology)			担当教員	鳴瀬　碧
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2111	1単位	1年後期	実験	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格(選択)

授業の内容

生体組織の形態と生体機能についての学習と理解。
人体の構造と機能について組織観察、血液、呼吸および循環に関する実験、消化実験、感覚器に関する実験を通して理解する。
動物の生命維持および代謝産物の生産活動に対する制御機構や栄養素の生体における生理作用について理解する。

授業の到達目標

・人体の構造について細胞単位から系統的に説明ができる。
・各器官系の構造と機能について説明ができる。
・消化吸収のしくみについて説明ができる。
・成長と栄養素の関わりについて説明ができる。

授業の計画

第1回：ガイダンスおよび人体構造の系統的理解･人体構造に関するDVD鑑賞
第2回：ラットの成長試験①(ガイダンス・飼料作成)
第3回：呼吸と循環に関する実験(体力測定と運動負荷試験)
第4回：ラットの成長試験②(解剖・臓器の観察)
第5回：ラットの成長試験③(血中尿素窒素の測定・まとめ)
第6回：組織の観察①(横紋筋・血球)
第7回：血液に関する実験①(血球数・ヘモグロビン濃度・ヘマトクリット値)
第8回：血液に関する実験②(血液凝固と線溶現象)
第9回：組織の観察②(胃・十二指腸)
第10回：組織の観察③(顎下腺･膵臓)
第11回：消化に関する実験(唾液腺の種類によるアミラーゼ活性の差)
第12回：組織の観察④(肝臓･腎臓)
第13回：組織の観察⑤(生殖器)
第14回：感覚器に関する実験(皮膚感覚・味覚)
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習として、教科書の各回に関連する頁を読み、あらかじめ実験手順を確認し、疑問点を考えておくこと。
復習については、授業中に指示する。

成績評価方法

・定期試験および授業中の復習テスト(40%)、レポート(60%)
・授業への参加状況、授業中の態度、動物飼育時の当番活動も含めて総合評価する。

成 績 評 価 基 準

・人体の構造と機能について細胞単位から系統的に理解できているか。
・筋・骨格系、神経系、消化器系、血液・血管系、循環器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系について、各々の器官系を形成する器官の構造と機能について理解できているか。
・運動時の身体機能の変化、恒常性の維持について理解できているか。
・栄養素の消化吸収のしくみについて理解できているか。
・成長と栄養素の関わりについて理解できているか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

青峰正裕他編　『イラスト解剖生理学実験』　　東京数学社　2009年
志村二三夫他編　『栄養科学イラストレイテッド演習版：解剖生理学ノート－人体の構造と機能－(改訂第２版』　羊土社　2014年(ワークブック)
その他、必要に応じて資料等をプリントして配布する。

その他(受講上の注意)

・実験室内では白衣および上履き着用など注意事項を必ず守ること。
・実験は２～３名のグループで行なう。
・組織の観察では、指定のスケッチブック(500円程度)を使用すること。(事前に購入の指示有り)
・色鉛筆、関数電卓を用意すること。
・毎回、１年生前期開講の「解剖生理学」のテキストを持参すること。
・４月または５月に体力測定を実施し、第３回の運動生理に関する実験の基礎データとする。実施日は新入生ガイダンス時または基礎演習の時間に連絡する。
・その他、各回の実験で準備が必要な事項に関しては、第１回のガイダンスで指示する。
・課題レポートなどは、提出期限を守ること。提出遅延は減点の対象となる。また、提出期限後は受領しない場合があるので注意すること。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

微生物学 (Microbiology and Immunology)			担当教員	野村　卓正
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2119	2単位	1年･後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科 / 専門科目 / 専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、食品衛生監視員･食品衛生管理者(任用資格)(選択)

授業の内容

環境中に無数に存在する微生物(細菌･ウイルス･真菌･原虫など)という生命の形態や性状を理解する。
微生物がヒトの健康や生活に及ぼす有害性と有益性について理解する。
微生物感染宿主における生体防御(免疫)応答について理解する。
食品の変質における微生物の作用を理解する。

授業の到達目標

生物の進化と多様性を理解し、比較生物学的な見地から生物の体のつくりとはたらきを概説できる。
原核細胞と真核細胞の特徴を説明できる。
主な感染症の要因となる病原体およびその感染経路を分類できる。
各種微生物(真菌･細菌･ウイルス･寄生虫)の基本的性状や病原性とそれによって生じる病態を概説できる。
細菌の外毒素と内毒素について説明できる。
真菌(カビ類･酵母類･キノコ類)の微生物学的特徴を概説できる。
ウイルスを構造と性状により分類できる。
原虫類･蠕虫類の分類および生活史(ライフサイクル)、感染経路と感染疫学的意義を概説できる。
生体防御機構における免疫系の特徴(特異性、多様性、寛容、記憶)を概説できる。
免疫反応に関わる組織と細胞および分子群を説明できる。
自然免疫と獲得免疫の違いを説明できる。
微生物感染症における免疫応答の特徴を概説できる。
免疫寛容の維持機構とその破綻によるアレルギー発症の機序を概説できる。
アナフィラキシーの症候と診断･治療法を概説できる。
炎症の分類、組織形態学的変化と経時的変化を概説できる。
エンドトキシンショックと全身性炎症性反応症候群(SIRS)について概説できる。
下痢症、食中毒を起こす病原体を列挙し、診断と治療の基本を説明できる。
院内感染の病因となる病原体、薬剤耐性菌を列挙し、対策を説明できる。
日和見感染症を概説できる。
新興感染症･再興感染症および輸入感染症を列挙できる。
主な食品群について主要な一次汚染微生物を列挙し、取扱い上留意すべき点を説明できる。
食品の品質変化における微生物の作用を説明できる。
主な発酵食品について、原料と発酵微生物の組合せを説明できる。

授　業　の　計　画

第１回：微生物学序論：食品･感染症と微生物学の歴史
第２回：微生物学①：微生物の分類と系統
第３回：微生物学②：細菌
第４回：微生物学③：真菌(カビと酵母)
第５回：微生物学④：ウイルス
第６回：微生物学⑤：寄生虫(原虫と蠕虫)
第７回：微生物学⑥：食品微生物と発酵食品
第８回：微生物学⑦：食品微生物と衛生管理(消毒･滅菌法)
第９回：免疫学①：免疫の概念と免疫系(DVD映像資料)
第10回：免疫学②：自然免疫系と炎症応答
第11回：免疫学③：獲得免疫系と免疫記憶
第12回：免疫学④：免疫学的寛容と自己免疫疾患(アレルギー)
第13回：感染症論①：微生物の病原因子と感染の機序(DVD映像資料)
第14回：感染症論②：感染症の診断･治療と予防(抗微生物薬･ワクチン)
第15回：感染症論③：感染症と法令
第16回：定期試験
※授業計画は、進捗状況等により変更する可能性があります。

授業外の学習方法

①　定期試験は、「自筆ノート」の持込みを認めますので、毎週、授業およびテキストの内容をまとめるよう努めてください。
②　レポート課題①：「生命とはなにか？」
　微生物を含む様々な生物の「多様性」とその様々な生物に共通する「普遍性」から、「生命の本質」について、先学者の思想を参考にしながら(開講期間中に、関連書籍を少なくとも１冊は読む)考察し、独自の結論に至ること。
③　レポート課題②：「流行している感染症」
　新聞･ニュース等で報じられる流行している感染症について日頃から関心を持ち、それらの感染症が、どのような原因で発生･流行し、どのような脅威を公衆衛生に及ぼしているのか考察し、レポートとしてまとめること。
　細菌性感染症、ウイルス性感染症、真菌/寄生虫性感染症から各１種類ずつ(計３種類)選択してまとめること。

成　績　評　価　方　法

①平常点　：15%(平常点は、授業への参加状況･受講態度等を総合して採点します。)
②レポート：35%(レポート課題①(20%) / レポート課題②(15%))
③定期試験：50%

成　績　評　価　基　準

生物の進化と多様性を理解し、比較生物学的な見地から生物の体のつくりとはたらきを概説できるか。
原核細胞と真核細胞の特徴を説明できるか。
主な感染症の要因となる病原体およびその感染経路を分類できるか。
各種微生物(真菌･細菌･ウイルス･寄生虫)の基本的性状や病原性とそれによって生じる病態を概説できるか。
細菌の外毒素と内毒素について説明できるか。
真菌(カビ類･酵母類･キノコ類)の微生物学的特徴を概説できるか。
ウイルスを構造と性状により分類できるか。
原虫類･蠕虫類の分類および生活史(ライフサイクル)、感染経路と感染疫学的意義を概説できるか。
生体防御機構における免疫系の特徴(特異性、多様性、寛容、記憶)を概説できるか。
免疫反応に関わる組織と細胞および分子群を説明できるか。
自然免疫と獲得免疫の違いを説明できるか。
微生物感染症における免疫応答の特徴を概説できるか。
免疫寛容の維持機構とその破綻によるアレルギー発症の機序を概説できるか。
アナフィラキシーの症候と診断･治療法を概説できるか。
炎症の分類、組織形態学的変化と経時的変化を概説できるか。
エンドトキシンショックと全身性炎症性反応症候群(SIRS)について概説できるか。
下痢症、食中毒を起こす病原体を列挙し、診断と治療の基本を説明できるか。
院内感染の病因となる病原体、薬剤耐性菌を列挙し、対策を説明できるか。
日和見感染症を概説できるか。
新興感染症･再興感染症および輸入感染症を列挙できるか。
主な食品群について主要な一次汚染微生物を列挙し、取扱い上留意すべき点を説明できるか。
食品の品質変化における微生物の作用を説明できるか。
主な発酵食品について、原料と発酵微生物の組合せを説明できるか。

テキスト、参考図書

テキスト：
①『基礎･応用･臨床　微生物学と実験』　光生館　2014年　定価￥1,995-(税込)
②『病気が見える⑥：免疫･膠原病･感染症』　メディックメディア社　2009年　定価￥3,150-(税込)
参考図書：
① 東京大学編　『生命科学(改訂第３版)』　羊土社　2009年
② 本田武司編　『イラスト感染症･微生物学』　羊土社　2011年
③『ブラック微生物学(第６版)』　丸善

その他(受講上の注意)

授業開始時に出欠状況を確認する。
遅刻は、授業の１/３(30分)以内に申し出れば認め、欠席１/３回としてカウントする。
それ以上の大幅な遅刻は欠席として扱う。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

微生物学実験 (Experiments in Microbiology)			担当教員	野村　卓正
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2120	1単位	1年･後期	実験	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科 / 専門科目 / 専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、食品衛生監視員･食品衛生管理者(任用資格)(選択)

授業の内容

微生物の生態や微生物によって引き起こされる種々の現象を観察するための基本的な技法の原理を理解する。
食品衛生検査および食品微生物操作に必要な微生物学的技術を習得する。

授業の到達目標

様々な環境(土壌･水中等)あるいは生物(食物)の体表面に微生物群が常在していることを理解する。
主な食物群について生産･流通･調理行程を把握し、各行程における微生物汚染のリスクを把握する。
主な食品群について主要な一次汚染微生物を列挙し、取扱い上留意すべき点を説明できる。
本邦における「飲用的の水」の法律上の定義と各検査項目の意味を理解する。
食品･添加物に設定されている規格･基準(成分規格および製造･加工･保存基準等)を把握する。
「大量調理施設衛生管理マニュアル」の各プロトコルを把握し、その意義と効果を説明できる。
主な衛生指標微生物の公衆衛生上の意義とその検査法(公定法および迅速簡易法)を理解する。
食品に付着あるいは内在している微生物を分離･培養し、検出する方法の原理を理解する。
各種微生物(真菌･細菌･ウイルス･寄生虫等)の生育要件を把握し、培養できる。
各種微生物(真菌･細菌･寄生虫卵等)を適切な染色法を用いて顕微鏡下で観察できる。
食中毒の病因となる主な細菌について、それぞれの微生物学特徴を利用して分離･培養できる。
微生物による汚染防止法の原理と効果を理解し、検体の無菌的操作法を修得する。
微生物を殺滅する各種の滅菌法および消毒法の原理と効果を理解する。
微生物の増殖を抑制する各種の保存法および加工･調理法の原理と効果を理解する。
食品の変質による品質および安全性の低下とその評価法の方法論を理解する。
食用油脂類の品質と安全性の指標とその検査法の原理を理解する。
食品の安全性を確保するための原理と方法論(加工･調理等)を理解する。
「食中毒予防の三原則」について、その意義と効果を説明できる。
各種抗原(特定原材料等)を検出する免疫学的検査法の原理を理解する。

授　業　の　計　画

第１回：微生物実験の基本操作と培地の作成
第２回：環境･体表面からの菌の分離①
第３回：環境･体表面からの菌の分離②(分離した細菌の顕微鏡観察)
第４回：環境･体表面からの菌の分離③(レポート作成)
第５回：調理環境･調理器具の微生物検査①
第６回：調理環境･調理器具の微生物検査②(レポート作成)
第７回：飲料水の微生物検査①
第８回：飲料水の微生物検査②
第９回：飲料水の微生物検査③(レポート作成)
第10回：食材/加工食品の微生物検査①
第11回：食材/加工食品の微生物検査②
第12回：食材/加工食品の微生物検査③(レポート作成)
第13回：抗菌薬/保存剤と薬剤感受性試験①
第14回：抗菌薬/保存剤と薬剤感受性試験②(レポート作成)
第15回：食品衛生管理(まとめ)
※授業計画は、気候や進捗状況等により変更する可能性があります。

授業外の学習方法

実験報告書(レポート)の作成にあたっては、第一に「精確な観察」、第二に「論理的な考察」に留意して記述してください。
① なぜそのような観察結果が得られたのか？
② 観察された事実･現象から何が示唆されるか？
③ どのような仮説を構築すれば、それらの観察結果を矛盾なく説明できるのか？
④ そして、どのような検証実験を行えば、その仮説の真偽を検証できるのか？
について固定観念を排してすなおに「考察」しながら「結論」を導いてください。
参考図書は、授業の際にも紹介します。

成　績　評　価　方　法

① 平常点　：30%(平常点は、授業への参加状況･受講態度等を総合して採点する。)
② レポート：50%(レポート(各10%) x５)
③ 確認試験：20%(確認試験(20%) x１)

成　績　評　価　基　準

様々な環境(土壌･水中等)あるいは生物(食物)の体表面に微生物群が常在していることを理解しているか。
主な食物群について生産･流通･調理行程を把握し、各行程における微生物汚染のリスクを把握しているか。
主な食品群について主要な一次汚染微生物を列挙し、取扱い上留意すべき点を説明できるか。
本邦における「飲用的の水」の法律上の定義と各検査項目の意味を理解しているか。
食品･添加物に設定されている規格･基準(成分規格および製造･加工･保存基準等)を把握しているか。
「大量調理施設衛生管理マニュアル」の各プロトコルを把握し、その意義と効果を説明できるか。
主な衛生指標微生物の公衆衛生上の意義とその検査法(公定法および迅速簡易法)を理解しているか。
食品に付着あるいは内在している微生物を分離･培養し、検出する方法の原理を理解しているか。
各種微生物(真菌･細菌･ウイルス･寄生虫等)の生育要件を把握し、培養できるか。
各種微生物(真菌･細菌等)を適切な染色法を用いて顕微鏡下で観察できるか。
食中毒の病因となる主な細菌について、それぞれの微生物学特徴を利用して分離･培養できるか。
微生物による汚染防止法の原理と効果を理解し、検体の無菌的操作法を修得しているか。
微生物を殺滅する各種の滅菌法および消毒法の原理と効果を理解しているか。
微生物の増殖を抑制する各種の保存法および加工･調理法の原理と効果を理解しているか。
食品の変質による品質および安全性の低下とその評価法の方法論を理解しているか。
食用油脂類の品質と安全性の指標とその検査法の原理を理解しているか。
食品の安全性を確保するための原理と方法論(加工･調理等)を理解しているか。
「食中毒予防の三原則」について、その意義と効果を説明できるか。
各種抗原(特定原材料等)を検出する免疫学的検査法の原理を理解しているか。

テキスト、参考図書

テキスト：
①『基礎･応用･臨床　微生物学と実験』 光生館　2014年 【購入済】
② 配布資料(実験ノート形式)
参考図書：
①『病気が見える⑥：免疫･膠原病･感染症』 メディックメディア社　2009年 【購入済】
② 熊谷進・山本茂貴編『食の安全とリスクアセスメント』 中央法規　2004年
③『大量調理施設　衛生管理のポイント(４訂)』 中央法規　2011年

その他（受講上の注意）
毎回の実験への出席（実験作業への参加）を重視し、授業開始時に出欠状況を確認します。 遅刻は、授業の１／３（45分）以内に申し出れば認め、欠席１／３回としてカウントします。 それ以上の大幅な遅刻は欠席として扱います。 実験用白衣および靴を持参しなかった場合、平常点から減点します。 授業中の私語･携帯電話（スマートフォン）の使用等で説明を聞かず実験に失敗した場合、平常点から減点します。 安全を期するために白衣を着用し、正確な実験操作を妨げるおそれのある華美な服装は慎むこと。実験は、ガス･火･薬品を使用し危険が伴うため、安全確保の決まりごとをよく理解するよう努め、これを遵守してください。 故意に安全衛生上の危険行為をとる者には、実験停止･室外退去の措置を取り、さらに単位を認定しないこともあります。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

食品学総論 (Food Science and Food Chemistry)			担当教員	浦本　裕美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2121	2単位	1年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)、食品衛生管理者・食品衛生監視員　任用資格(選択)

授業の内容

食品の基本的知識や特性を食品の一次機能成分である栄養成分を中心に網羅的に解説する。食品中の主要栄養成分の化学構造と成分の化学的特性とそれに基づく化学変化がさまざまな食品の特徴になっていることを理解してもらうこと、また、今後履修する専門科目にその知識がつなげられるようにすることがねらいである。

授業の到達目標

管理栄養士国家試験の「食べものと健康」領域の主要科目の一つであるとともに栄養管理を行える能力を身につける上でもっとも基本となる科目の一つである。食品の分類、各食品群の栄養的特徴など食品の基本的知識を理解する。また、食品中の主要な栄養成分(食品の一次機能成分)の化学構造と化学的特性を体系的に理解し、食品の加工・貯蔵・調理過程などで生じるそれら成分の化学変化を理解する。

授業の計画

第1回：食品とは、食品の分類
第2回：食品材料(1)
第3回：食品材料(2)
第4回：食品成分表
第5回：食品成分表　水
第6回：タンパク質とアミノ酸(1)
第7回：タンパク質とアミノ酸(2)
第8回：炭水化物(1)
第9回：炭水化物(2)
第10回：炭水化物(3)
第11回：脂質(1)
第12回：脂質(2)
第13回：脂質(3)
第14回：ビタミン・無機質(1)
第15回：ビタミン・無機質(2)
第16回：定期試験

授業外の学習方法

授業で配布するプリントに基づき、毎回、授業内容を整理・復習して次回の授業に臨むこと。また、基礎となる専門用語が非常に多いので、その都度しっかり身につけるよう努力すること。試験に向けて課題を提示するので、その解答を提出する。

成績評価方法

定期試験40%、小テスト60%(20%×3回)

成 績 評 価 基 準

・食品を分類できる。
・食品中の主な栄養成分の化学構造を理解し、化学的特性を説明できる。
・食品中の主な栄養成分の化学的特性を加工・貯蔵・調理過程で生じる化学変化と関連づけて説明できる。
・成分名などの基礎専門用語が身についている。

テキスト、参考図書

テキスト
小関正道編　食べものと健康　マスター食品学Ⅰ　建帛社　2014年３月刊行予定
香川芳子監修　食品成分表2014　女子栄養大学出版部　（食品成分表説明の際に使用、他の授業でも使用する。）
参考図書
荒井綜一・倉田忠男・田島眞編　新　櫻井　総合食品事典　同文書院　2012年
久保田紀久枝・森光康二郎編　スタンダード栄養・食物シリーズ５　食品学－食品成分と機能性－　第２版補訂　東京化学同人　2011年

その他（受講上の注意）

講義内容は連続性があるため、欠席や遅刻をすると内容理解の進展に支障をきたすので、欠席・遅刻をしないように心掛けること。欠席した場合は補講あるいは課題に対するレポート提出を課す。授業計画の予定は、変更されることがある。また、授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業１回目に説明する。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

食品機能学 (Functional Food Science)			担当教員	浦本　裕美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2122	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

食品衛生管理者・食品衛生監視員　任用資格(選択)

授業の内容

食品の一次機能(栄養)、二次機能(嗜好)、三次機能(生体調節)の内、二次機能と三次機能について解説する。食品成分の生体調節機能については保健機能食品を中心に説明する。本科目内容は、管理栄養士国家試験の「食べものと健康」領域の出題内容を含んでいる。

授業の到達目標

嗜好成分の種類と特徴および食品中機能成分の健康に与える影響、それらの疾病予防に対する役割等、生体調節機能について理解する。また、特定保健用食品などの「新しい食品」の法制上の位置づけおよびその表示を理解する。

授業の計画

第1回：食品成分の3つの機能について
第2回：嗜好成分(1)　色素成分
第3回：嗜好成分(2)　味成分
第4回：嗜好成分(3)　香り成分
第5回：嗜好成分(4)　食品成分間反応生成物質
第6回：機能性食品とは
第7回：特定保健用食品(1)　整腸1
第8回：特定保健用食品(2)　整腸2
第9回：特定保健用食品(3)　血圧調整
第10回：特定保健用食品(4)　脂質の吸収・代謝の調整1
第11回：特定保健用食品(5)　脂質の吸収・代謝の調整2
第12回：特定保健用食品(6)　骨・歯の健康維持調整
第13回：特定保健用食品(7)　血糖値の調整
第14回：栄養機能食品
第15回：特別用途食品
第16回：定期試験

授業外の学習方法

毎回ノートを整理し復習すること。試験に向けて課題を提示するので、その解答を提出する。

成績評価方法

定期試験50%、小テスト(25%×2回)

成績評価基準

・嗜好成分の種類と特徴および食品中機能成分の生体調節機能について説明できる。
・特定保健用食品などの法制上の位置づけと表示について説明できる。

テキスト、参考図書
前期の食品学総論で使用するテキストと配布プリント
その他（受講上の注意）
試験毎の課題は必ず提出すること。なお講義内容は連続性があるため、欠席や遅刻をすると内容理解の進展に支障をきたすので、欠席・遅刻をしないように心掛けること。授業の計画の予定は、変更されることがある。また、授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業１回目のガイダンスにて説明する。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

食品加工学 (Food Processing)			担当教員	小林　恭一
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2123	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)、食品衛生管理者・食品衛生管理者任用資格(選択)

授業の内容

現代の食生活において、加工食品は欠かせないものとなっている。食品加工の目的は、原料農林水産物の保存・品質保持、栄養性・嗜好性の向上、利便性・輸送性・経済性の向上などだが、これら食品加工の意義･目的に触れながら、食品保存及び食品加工の原理を解説する。また、個々の加工食品ごとの加工操作の特徴･方法及び技術についても紹介し、さらに新しい食品加工技術、食品の規格や表示についても解説する。

授業の到達目標

食品加工の原理･方法･技術について理解することを目標とする。

授業の計画

第1回：はじめに、食品加工の意義および目的
第2回：食品の加工時における変化
第3回：食品保存の原理(1)、食品の劣化要因(生物的要因、化学的要因、物理的要因)
第4回：食品保存の原理(2)、殺菌･食品添加物による保存
第5回：食品の保存原理(3)、温度操作･水分制御･pHの調節による保存
第6回：穀類の加工
第7回：豆類・いも類の加工
第8回：野菜類・果実類の加工
第9回：畜肉類･乳類・卵の加工
第10回：水産物の加工、魚介類の成分特性、魚介類の加工
第11回：発酵食品
第12回：食用油脂、調味料
第13回：香辛料･嗜好飲料類
第14回：食品包装、役割･材料･方法、表示
第15回：新しい食品加工技術
第16回：定期試験

授業外の学習方法

毎回のノートは記録して、整理して復習に努めてください。また日頃から市販されている加工食品に目を向け、表示や包装形態について注意を払ってください。

成績評価方法

定期試験(60%)　小レポート(20%)　平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する)

成績評価基準

食品加工の原理・方法・技術について理解できたかを判断の基準とします。

テキスト、参考図書
テキストは使用しません。適時プリントを配布します。 参考図書 １） 菅原龍幸編著 「改訂　食品加工学」 建帛社(2012) ２） 吉田勉編著 「新食品加工学」 医師薬出版 (1999) ３） 西村公雄編 「食品加工学」 化学同人(2012) ４） 小倉長雄ほか 「食品加工学」 建帛社(1998)
その他(受講上の注意)
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

食品分析実験 (Experiments in Food Analysis)			担当教員	浦本　裕美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2125	1単位	1年前期	実験	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)、食品衛生管理者・食品衛生監視員　任用資格(選択)

授業の内容

食品成分分析に必要な分析技術の理論と原理を理解するため、基礎的な滴定法をはじめ、比色法、原子吸光法、クロマトグラフ法などを用いた分析を行う。また、これら分析技術をとおして、食品成分表に掲載されている成分についてや食品成分の化学的特性など座学で学んだ知識をより深く理解することをねらいとする。

授業の到達目標

・化学実験の基礎技術である中和滴定、沈殿滴定をとおして、基本的実験器具の取扱い、試薬溶液の濃度の概念(モル濃度と規定濃度)を理解する。
・食品成分の化学的特性を利用してさまざまな分析法で食品成分が分析できることをその原理・理論をとおして理解する。
・食品成分表に掲載されている一般成分について、その分析法と食品毎の各成分含有量の違いや特徴について理解を深める。

授業の計画

第1回：オリエンテーション、実験の進め方、実験にあたっての基礎知識
第2回：レポートの書き方、試薬溶液の調製法
第3回：中和滴定(1)
第4回：中和滴定(2)
第5回：沈殿滴定(1)
第6回：沈殿滴定(2)
第7回：比色分析(1)
第8回：比色分析(2)
第9回：一般成分の分析(1)
第10回：一般成分の分析(2)　水分の定量・灰分の定量
第11回：一般成分の分析(3)　脂質の定量
第12回：一般成分の分析(4)　脂質・たんぱく質の定量
第13回：一般成分の分析(5)　タンパク質の定量-1
第14回：一般成分の分析(6)　タンパク質の定量-2　およびまとめ
第15回：天然色素の分離

授業外の学習方法

実験ノートは毎回整理する。食品学総論で学んだ知識と関連づけて学び、専門用語をよく理解するように努力する。

成績評価方法

レポート(90%)、平常点(10%)、平常点は授業への参加状況・受講態度等を総合して採点する。

成　績　評　価　基　準
・食品分析技術が身につき、また、分析原理・理論を理解した操作ができる。 ・化学実験で用いる濃度の概念が理解でき、測定値から正確な計算結果(食品中の成分含有量)を導き出せる。 ・自ら行った実験から求めた結果である食品中のある成分含有量を食品学総論で学んだ知識を生かし客観的に評価・考察できる。
テキスト、参考図書
テキスト　『食品学総論実験-実験で学ぶ食品学-』　江角彰彦　株式会社 同文書院　2007年
その他(受講上の注意)
実験に臨む態度として、安全を期するために白衣、室内用靴、タオルを持参すること。実験は、ガス、火、薬品を使用するので、危険が伴うため、決まりごとについては守ってもらう。指示に従わない者、危険行為や態度をとる者に対しては、実験停止措置をとり、さらには単位を認定しないこともある。なお授業には連続性があるため、欠席や遅刻をすると内容理解の進展に支障をきたすことがある。欠席者は補講あるいは課題を課す。授業の計画の予定は変更されることがある。授業内容や注意事項の詳細については、授業１回目に説明する。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

調理学 (Cookery Science)			担当教員	佐藤　真実
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2128	2単位	1年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)　栄養士免許(必修)　食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格(必修)

授業の内容

調理中の変化を科学的に解明し、健康を維持・増進できる「おいしい食事」を作るための調理の理論を学ぶ。

授業の到達目標

歴史や文化によって培われた食文化、食生活、健康、食料、環境問題といった人間と食べ物の関わりについて理解する。
調理操作における食品の変化や諸現象を科学的に理解し、食事設計、食品の選択、調理操作、食卓構成、供食の計画について理解する。

授業の計画

第1回：人間と食品(食べ物)
第2回：食事設計の基礎、おいしさの評価方法
第3回：調理の意義、目的
第4回：調理操作(加熱調理操作、非加熱調理操作、調味操作)、設備・器具・エネルギー源
第5回：食品の特徴に応じた調理の特性(食品成分)
第6回：食品の特徴に応じた調理の特性(植物性食品1)
第7回：食品の特徴に応じた調理の特性(植物性食品2)
第8回：食品の特徴に応じた調理の特性(植物性食品3)
第9回：食品の特徴に応じた調理の特性(動物性食品1)
第10回：食品の特徴に応じた調理の特性(動物性食品2)
第11回：食品の特徴に応じた調理の特性(動物性食品3)
第12回：食品の特徴に応じた調理の特性(抽出食品素材)
第13回：食品の特徴に応じた調理の特性(調味料、香辛料、嗜好品)
第14回：調理操作による食品組織・物性と栄養成分の変化
第15回：献立作成
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習として、教科書の各回に関連する頁を読み、あらかじめ疑問点等を考えておくこと。復習として、講義の当該部分の配布資料などを見直して、ノート整理を行うこと。

成績評価方法

定期試験(50%)　小テスト(30%)　平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。)

成績評価基準

調理操作における食品の変化や諸現象を科学的に理解し、食事設計、食品の選択、調理操作、食卓構成、供食の計画について説明することができる。

テキスト、参考図書
テキスト：西堀すき江編著 「マスター調理学」(第２版) 建帛社 2014年 参考図書：藤沢和恵 他 「現代調理学」 医歯薬出版 2008年 渕上倫子編著 「調理学」 朝倉書店 2006年 山崎清子 他 「調理と理論」 同文書院 2003年
その他(受講上の注意)
出席状況、授業への取り組み態度(小テスト含む)を重視する。必ず予習・復習を含むノート整理を行う。授業の計画予定は変更されることがある。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

調理学実習 (Cookery Science Practicum)			担当教員	佐藤　真実
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2129	1単位	1年前期	実習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)　栄養士免許(必修)

授業の内容

健康を維持・増進できる「おいしい食事」を作る基礎技術を習得する。

授業の到達目標

調理学の理論に基づいて、食品の性質と調理操作との関係を理解する。
安全、栄養かつ嗜好を満たしたおいしい食事を作る基礎的な調理技術を身につける。
適切な食品の選択と組み合わせによる献立作成ができる。

授業の計画

第1回：調理の意義と目的　および　計量方法や器具の使い方
第2回：日本料理（炊飯、だし、間接焼き、和える、卵の調理）
第3回：日本料理（変り飯、煮る、寒天の調理）
第4回：日本料理（もち米、蒸す、でんぷんの調理）
第5回：日本料理（すし、小麦粉の調理）
第6回：日本料理（麺の扱い方、揚げ物）
第7回：中国料理（湯菜・拌菜・蒸菜）
第8回：中国料理（点心・揚菜）
第9回：中国料理（点心・炸菜）
第10回：中国料理（点心・炒菜）
第11回：中国料理（点心）
第12回：西洋料理（肉の調理、いもの調理、ゼラチンの調理）
第13回：西洋料理（ルー、揚げる、砂糖の調理）
第14回：西洋料理（魚の調理、オーブン加熱）
第15回：西洋料理（パンの調理、果物の調理、嗜好飲料）
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習として、各回に関連する教科書、プリントの頁をよく読み、あらかじめ疑問点等を考えておくこと。
復習として、資料などを見直して、各料理の栄養計算、作り方などを詳細にノートにまとめておくこと。

成績評価方法

定期試験(20%)　実技試験(20%)　平常点(30%)　実習ノート(30%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度、実習ノートの提出状況等を総合して判断します。)

成績評価基準

安全、栄養かつ嗜好を満たしたおいしい食事を作るための基礎的な調理技術を習得できている。
調理学の理論に基づいて、適切な食品の選択、組み合わせによる献立作成および調理、演出(盛り付け)ができる。

テキスト、参考図書

テキスト：西堀すき江編著　『食育に役立つ調理学実習』
　　香川芳子監修　『五訂増補食品成分表2015』　女子栄養大学出版部
　　その他、プリントを配布する。
参考図書：谷洋子他　『わかりやすい調理』　みらい　1998

その他（受講上の注意）

衛生・安全・嗜好性に配慮する。実習室では、必ず白衣と帽子を着用し、アクセサリーやマニキュアは厳禁とする
実習費は別途に集金する。
授業への出席状況、実習態度、ノートの提出を重視する。欠席した場合は必ず補講（実習）を受講する。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

応用調理学実習 (Applied Cookery Science Practicum)			担当教員	佐藤　真実
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2130	1単位	1年後期	実習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)　栄養士免許(必修)

授業の内容

健康を維持・増進できる「おいしい食事」を作る応用技術を習得する。

授業の到達目標

より高度かつ最新の調理器具や調理技術を身につける。
郷土料理、行事食、対象者別の供応食について自ら計画し、適応調理を実施できる。
フルコースのテーブルセッテイングからサービスの方法について学ぶ。

授業の計画

第1回：季節の献立(秋)
第2回：諸外国の料理(インド・ロシア・ベトナム他)
第3回：諸外国の料理(スペイン・イタリア・韓国他)
第4回：年中行事と食卓の演出(自主献立)
第5回：福井県の郷土料理
第6回：フルコース(前菜・スープ・魚・肉・サラダ・菓子)
第7回：フルコース(食卓作法)
第8回：季節の献立(冬)
第9回：真空調理
第10回：応用調理(西洋料理)
第11回：行事食(クリスマス料理)
第12回：行事食(正月料理)
第13回：応用調理(日本料理、松花堂弁当、自主献立)
第14回：対象者別の調理(自主献立)
第15回：まとめ、実技試験
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習として、各回に関連する教科書、プリントの頁をよく読み、あらかじめ疑問点等を考えておくこと。
復習として、資料などを見直して、各料理の栄養計算、作り方などを詳細にノートにまとめておくこと。
自主献立のときは、グループのメンバーとともに料理の由来や調理法などを調べ、献立を作成すること。

成績評価方法

定期試験(20%)　実技試験(20%)　平常点(30%)　実習ノート(30%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度、自主献立レポートの内容、提出状況等を総合して判断します。)

成績評価基準

高度かつ最新の調理器具や調理技術、テーブルセッテイングやマナーなどの知識が修得できている。
郷土料理を味わい、由来や調理法などについて説明することができる。
行事食、供応食などについて自ら献立を作成し、適応調理を実施することができる。

テキスト、参考図書

テキスト：西堀すき江編著 『食育に役立つ調理学実習』 建帛社 2012
香川芳子監修 『五訂増補食品成分表2015』 女子栄養大学出版部 2015
その他、プリントを配布する。
参考図書：谷洋子他 『わかりやすい調理』 みらい 1998

その他(受講上の注意)

衛生・安全・嗜好性に配慮する。実習室では、必ず白衣と帽子を着用し、アクセサリーやマニキュアは厳禁とする。
実習費は別途に集金する。
授業への出席状況、実習態度、ノートの提出を重視する。欠席した場合は必ず補講(実習)を受講する。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

基礎栄養学 (Nutrition)			担当教員	鈴木　和春
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2132	2単位	1年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>　栄養とその意義についての理解

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)
栄養士免許(必修)
食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格(選択)

授業の内容

本講義では人間が必要とする糖質、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラルや食物繊維など各栄養素について解説し、食物の消化・吸収・体内での利用・排泄を通して人体で営まれる「栄養」という生命現象の機序について学ぶ。

授業の到達目標

栄養の基本的概念及びその意義を理解するとともに、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を理解し、エネルギー及び栄養素の代謝とその生理的意義を理解する。
また、現代の食生活の変化に伴い食事形態が高脂質・高たんぱく質及び低食物繊維食の傾向となるなかで、そのメカニズムが摂食行動や食嗜好にどのような影響を及ぼしているか解説し理解する。

授業の計画

第1回：ガイダンス・栄養学の基本概念
第2回：摂食行動
第3回：栄養素の消化と吸収
第4回：栄養素の機能と代謝　タンパク質の栄養
第5回：栄養素の機能と代謝　タンパク質の代謝
第6回：栄養素の機能と代謝　脂質の栄養
第7回：栄養素の機能と代謝　脂質の代謝
第8回：栄養素の機能と代謝　糖質の栄養
第9回：栄養素の機能と代謝　糖質の代謝
第10回：栄養素の機能と代謝　食物繊維
第11回：栄養素の機能と代謝　ビタミンの栄養
第12回：栄養素の機能と代謝　ミネラルの栄養
第13回：水・電解質の栄養的意義
第14回：エネルギー代謝
第15回：遺伝子の発現と栄養
第16回：定期試験

授業外の学習方法

学習する単元ごとの重要なキーワードをノートにファイルすることをすすめる。
授業に関連して出題される課題については、その背景となる知識も含めて整理しまとめておくことが望ましい。

成績評価方法

定期試験 70%、提出課題 20%、授業への取り組み態度等 10%

成　績　評　価　基　準

・栄養の基本的概念およびその意義を理解できているか。
・健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割が理解できているか。
・栄養素の代謝及び生理的意義が理解できているか。
・栄養素の摂取に対する生体応答の個人差について説明できるか。

テキスト、参考図書

テキスト：最新「栄養学　第２版」 谷　政八編　（中央法規出版）
参考図書：「ヒューマン・ニュートリション - 基礎・食事・臨床」 細谷 憲政 監修　（医歯薬出版）
「基礎栄養学 - 栄養科学イラストレイテッド 」 田地陽一 著　（羊土社）

その他（受講上の注意）

・栄養学を修める上での基盤となる重要な科目であり、授業の際には、ノートはきちんと取り、必ず課題を提出すること。
・講義内容は連続性があるため、欠席や遅刻をすると内容理解の進展に支障をきたすので、欠席・遅刻をしないように心がけること。
・授業の計画の予定は、変更されることがある。
・授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業１回目のガイダンスにて説明する。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

基礎栄養学実験 (Experiments in Nutrition)			担当教員	池田　涼子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2133	1単位	1年前期	実験	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>　栄養素の代謝とその生理的意義についての理解

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格(選択)

授業の内容

食物を摂取することにより生体に必要な物質を取り入れ、生命維持や成長・発育、健康維持に利用する営みを「栄養」といい、栄養素を利用するためのしくみ(代謝)やそれぞれの栄養素のはたらき(生理作用)について学ぶのが基礎栄養学分野である。本科目は、基礎栄養学の講義で学習する知識をより深く、確かなものとするよう栄養生理学的な内容とも関連付けた授業を展開する。

授業では、グループに分かれて実験を行い、各員協力のもと班ごとの実験報告書(レポート)を作成し提出する。実験の目的・原理を理解し、適正な操作により得られた結果を考察することを通して、実験器具の操作、実験方法を習得する。班レポートは確認のうえ返却し、各学生はこれに毎回の実験テーマに沿った課題を加えた個人レポートを作成し、提出する。課題の内容は授業内で指示する。

授業の到達目標

栄養とは何か、その意義について栄養素の定性実験や定量実験を通して理解する。ならびに各学生が栄養素の化学的な性質、生理学的な役割について実体験に基づいた知識を養うとともに、科学的根拠に基づく栄養学を実践するための実験手法の基礎を習得することを到達目標とする。

授業の計画

第1回：ガイダンス ― 授業計画・実験器具・機器の操作説明 ―
第2回：糖質の定性(1)
第3回：糖質の定性(2)
第4回：糖質の定性(3)
第5回：脂質の定性
第6回：タンパク質の凝固沈澱
第7回：タンパク質・アミノ酸の定性(1)
第8回：タンパク質・アミノ酸の定性(2)
第9回：物質の同定　(中間実技試験)
第10回：糖質の消化試験(1)　でんぷんの抽出と確認
第11回：糖質の消化試験(2)　パンクレアチンによる消化
第12回：タンパク質の消化試験(1)　カゼインの抽出
第13回：タンパク質の消化試験(2)　カゼイン中タンパク質の定量 ― ビウレット法 ―
第14回：タンパク質の消化試験(3)　パンクレアチンによる消化
第15回：脂質の消化試験
第16回：定期試験

授業外の学習方法

授業内で出題する課題について調べ、まとめる。実験レポートについては原理・考察を記述する際に必ず参考文献を引用し、出典を明記すること。また、各実験のテーマとキーワードをよく理解するよう努めること。

成　績　評　価　方　法
レポート30%、実技試験20%、定期試験40%、平常点10%とし、合計で評価する。 （平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断する。）
成　績　評　価　基　準
定性試験の結果にもとづき、栄養素を分類・同定できるか。実験原理を理解し、栄養素を正確に定量できるか。また、定量方法や栄養素の性質について詳細に説明できるか。 以上を鑑み、総合点60点以上を合格として単位を認定する。（詳細については履修規定第７条を参照すること）
テキスト、参考図書
新しい生化学・栄養学実験(吉田勉 監修 / 三共出版) その他、必要に応じて参考図書の紹介、プリントの配布をおこなう。
その他（受講上の注意）
実験室に入室する際は必ず白衣・上履きを着用し、タオル・ハンカチを持参すること。長い髪はまとめ、実験操作に支障をきたす化粧などはしないこと。安全管理上、授業中の指示や実験室使用のルールについては必ず従うこと。指示に従わない者、危険な行為に及ぶ者については実験を中止し、退去を命じることがある。 レポートは提出期限を厳守すること。期限外の提出は原則として認めない。また、期限内に提出された場合でも内容不十分な場合は再提出となる。 欠席については補講として追実験を実施する。日程については担当教員に相談すること。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

応用栄養学Ⅰ(成長・発達・加齢、食事摂取基準) (Applied Nutrition I (Development, Dietary Reference Intakes))			担当教員	鈴木　和春
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2134	2単位	1年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)　栄養士免許(必修)

授業の内容

栄養環境への身体の適応、エネルギー及び栄養素に関する食事摂取基準(推定エネルギー必要量及び各策定項目)がどのような科学的根拠、すなわち、栄養学研究の成果に基づいて策定されているか及び、栄養マネジメントにおける食事摂取基準の活用について解説する。人体の成長・発達・加齢にともなう主要な生理現象と生化学的変化、ライフステージにおける食事摂取基準の策定と活用について解説する。

授業の到達目標

栄養環境への身体適応及び、エネルギー・栄養素に関する食事摂取基準の科学的根拠について、理解する。人体の成長・発達・加齢にともなう生理現象と生化学的変化、各ライフステージにおける食事摂取基準の特徴について知識を取得する。

授業の計画

第1回：オリエンテーション、栄養管理(栄養ケア・マネジメント)の考え方
第2回：栄養環境への適応(低栄養)
第3回：栄養環境への適応(過栄養)
第4回：栄養状態の評価・判定
第5回：栄養素必要量の科学的根拠
第6回：食事摂取基準の意義と策定の基礎理論
第7回：食事摂取基準活用の基礎理論
第8回：エネルギーの必要量
第9回：三大栄養素の食事摂取基準
第10回：微量栄養素の食事摂取基準
第11回：成長・発達・加齢(老化)の概要
第12回：成長・発達に伴う身体的・精神的変化と栄養
第13回：加齢に伴う身体的・精神的変化と栄養
第14回：ライフステージ別日本人の食事摂取基準(成長・発達)
第15回：ライフステージ別日本人の食事摂取基準(加齢)
第16回：定期試験

授業外の学習方法

各回の講義を受けた後で当該部分のノートや配布資料を見直して復習をし、不明な点は、参考となる資料の収集を行い次の授業に挑んで下さい。

成績評価方法

定期試験(50%)、小テスト(30%)、平常点(20%)(平常点は、授業への参加状況・授業態度等を総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準
エネルギー及び栄養素に関する食事摂取基準の科学的根拠について、説明できるか。人体の成長・発達・加齢にともなってみられる主要な生理現象と生化学的変化について説明できるか。
テキスト、参考図書
1)健康・栄養科学シリーズ 「応用栄養学」戸谷誠之、藤田美明、伊藤節子　編、南江堂、改訂第4版 2)学科共通参考書：日本人の食事摂取基準2010年版(第一出版) その他、参考プリントを、授業の進捗過程で必要に応じて配布する。
その他(受講上の注意)
授業内容の理解促進のため、質問やディスカッション等を研究室にて受け付ける。また、国内外の文献・記事なども紹介するので利用すること。授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業1回目に説明する。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習 (Fieldwork)			担当教員	樽井　雅彦、佐藤　真実、池田　涼子、 浦本　裕美、坂本　達昭
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2165	2単位	1～3年	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

本プログラムには、学内外でのボランティア活動体験、社会的イベント・コンティションなどへの参画体験が含まれる。教室や研究室で学習や研究をするのではなく、実際に社会での直接的体験を通して、優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。

授業の到達目標

1・2・3年次を対象に自己の進路を見据えた体験学習を課題にして設ける。例えば、福祉施設、病院などでの奉仕活動、事業所などでのインターンシップ参加、施設・事業所見学などの事前、事後計画の企画運営発表などを実施してたり、得られた成果について報告書を提出する。

授業の計画

受講希望者には、「実施計画書」の提出および面談を行い、計画を認めたうえで実施する。
受講希望者は、担当教員に問い合わせること。

授業外の学習方法

参画する奉仕活動やインターンシップについて事前に十分な下調べ(概要等)を行なうこと。

成績評価方法

プログラム取り組み(40%)、レポート(30%)、プレゼンテーション(30%)

成績評価基準

参加した福祉施設、病院などでの奉仕活動で自身が得た成果について報告書を参考に評価する。事業所などでのインターンシップ参加、施設・事業所見学などの事前、事後計画の企画運営発表などを実施する。

テキスト、参考図書

使用しない

その他(受講上の注意)

本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の受講登録手続きを要しない。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育原理 (Principles of Education)			担当教員	高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2181	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　教職に関する専門科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育の基礎理論に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状(必修)

授業の内容

私たちは、誰もが教育を受けた経験があるがゆえに、教育について考える際に、自らの経験のみに依拠してしまうことになりがちである。本授業では、西洋、日本それぞれの教育の歴史、とりわけ学校の歴史を概観することを通じて、教育の理念について考察を深める機会とする。今日の学校教育とはまったく異なる教育のあり方に目を向けることにより、自らの経験のみに依拠することなく教育について考察する力量の形成を目指す。そのうえで、学校教育の役割や意義を体系的に理解することが本授業の目標となる。

授業の到達目標

西洋および日本における学校の歴史を体系的に概説することができる。
教育に関する諸問題を経験のみに依拠することなく、理論的に考察できる。
学校教育の役割や意義を体系的に説明することができる。

授業の計画

第1回：オリエンテーション
第2回：ヨーロッパにおける学校の歴史
第3回：すべての者に教育を　コメニウスについて
第4回：子どもの発見　ルソーについて
第5回：自律という問題　ペスタロッチ、カント、ヘルバルトについて
第6回：一斉教授成立史　モニトリアル・システムについて
第7回：教育における自由とは何か　デューイについて
第8回：日本における塾と学校の歴史
第9回：日本における義務教育制度成立史
第10回：「教育を受ける権利」について
第11回：教育における平等とは何か
第12回：個性とは何か
第13回：人権と教育
第14回：教育行政のしくみ
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

教育について自ら考察してみようとしない限り、この授業の意味はほとんど感じ取れないのではないかと思う。教育に関することなら何でもいいので、自ら調べ、考えをまとめ、記述してみる作業が必要である。参考文献をこまめに提示するので、最低2冊は読破するつもりで臨んでもらいたい。

成績評価方法

定期試験(論述問題含む)(70%)
平常点(30%)
(平常点は、授業への参加状況、および授業時の課題の内容をもとに判断する。)

成　績　評　価　基　準
西洋および日本における学校の歴史を体系的に概説することができるか。 教育に関する諸問題を経験のみに依拠することなく、理論的に考察できているか。 学校教育の役割や意義を体系的に説明することができるか。
テキスト、参考図書
プリントを配布する。
その他（受講上の注意）
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教職論 (Theory of Teacher Education)			担当教員	鈴木　智子、木曽　利雄
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AA−2100	2単位	1年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教職の意義等に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・教職の意義及び教員の役割
・教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。)
・進路選択に資する各種の機会の提供等

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の基礎理論の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)、幼稚園教諭一種免許状(必修)

授業の内容

大学における学び方を含め、教師教育の観点から自己を位置づけ、専門職としての教師に向けての基礎を培うことを目的とする。教職の意義及び教員の役割や職務内容等について、制度的、実態的側面から解説する講義を中心とする。

授業の到達目標

(鈴木)
1.幼稚園における教職の意義、役割、職務内容などについて説明できる。
2.現場における様々な問題を考察し、求められている幼児教育像についての考えを明確化する。
3.自己の幼児教育観や教師像について考察するとともに、今後の学習目標や計画を明確化する。
(木曽)
1.小学校における教職の意義、役割、職務内容などについて理解する。
2.社会の変化の中で、教育公務員として求められる教師のあり方・生き方について考える。
3.小学校の教師として実践的な指導力を身に付けるため、自ら課題を持ち、継続して追求することができる。

授業の計画

第1回：ガイダンス　各自の幼児教育観と幼児教育者像を確認する(鈴木)
第2回：幼児教育者の専門性(鈴木)
第3回：幼稚園教員の役割と職務について(鈴木)
第4回：幼稚園教諭免許取得と専門性の向上(鈴木)
第5回：子育て支援について(鈴木)
第6回：幼保一元化の動向について(鈴木)
第7回：まとめ　幼児教育者としての自覚と成長について(鈴木)
第8回：教師とは何か(小学校の教師を中心に)　①教師の専門性、②教職という仕事の特質、③教師のリーダーシップ(木曽)
第9回：小学校における教師の役割　①授業をつくる、②授業から学ぶ、③子どもを育む(木曽)
第10回：教職の制度と教師の身分　①「全体の奉仕者」としての教師、②教師の職務と権限、③基本的な教育法規(木曽)
第11回：小学校教師としてのあり方・生き方　①教育実習から新任教師へ、②教師としてのアイデンティティ、③中年期の危機、④ベテラン教師として(木曽)
第12回：学び合うコミュニティとしての学校　①学校という職場、②学校での授業の探求、③学校における同僚性(木曽)
第13回：開かれた学校づくり　①学校評議員制度、②学校と地域社会との協働関係構築(木曽)
第14回：教師の未来　①新しい時代に求められる教師の資質・能力(木曽)
第15回：まとめ(木曽)

授業外の学習方法

テキストの各回に関連する部分を読み、あらかじめ疑問点等を考えておくことを予習とする。また授業後は、配布資料やノートの授業内容を振り返り、復習をして次の授業に臨むこと。

成績評価方法

レポート(70%)、平常点(30%)
平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成績評価基準

(鈴木)
1.幼稚園における教職の意義、役割、職務内容などについて説明できるか。
2.現場における様々な問題を考察し、求められている幼児教育像について考えを明確化できているか。
3.自己の幼児教育観や教師像について考察するとともに、今後の学習目標や計画を明確化できているか。
(木曽)
1.小学校における教職の意義、役割、職務内容などについて理解できているか。
2.社会の変化の中で、教育公務員として求められる教師のあり方・生き方について考えることができているか。
3.小学校の教師として実践的な指導力を身に付けるため、自ら課題を持ち、継続して追求することができているか。

テキスト、参考図書

テキスト
(1)『幼稚園教育要領解説』 文部科学省編　フレーベル館　2008年
(2)『教師が育つ条件』 今津孝次郎　岩波書店　2012年

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育原理 (Principles of Education)			担当教員	高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AA−2101	2単位	1年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育の基礎理論に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の基礎理論の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)、幼稚園教諭一種免許状(必修)、保育士資格(必修)

授業の内容

私たちは、誰もが教育を受けた経験があるがゆえに、教育について考える際に、自らの経験のみに依拠してしまうことになりがちである。本授業では、西洋、日本それぞれの教育の歴史、とりわけ学校の歴史を概観することを通じて、教育の理念について考察を深める機会とする。今日の学校教育とはまったく異なる教育のあり方に目を向けることにより、自らの経験のみに依拠することなく教育について考察する力量の形成を目指す。そのうえで、学校教育の役割や意義を体系的に理解することが本授業の目標となる。

授業の到達目標

西洋および日本における学校の歴史を体系的に概説することができる。
教育に関する諸問題を経験のみに依拠することなく、理論的に考察できる。
学校教育の役割や意義を体系的に説明することができる。

授業の計画

第1回：オリエンテーション
第2回：ヨーロッパにおける学校の歴史
第3回：すべての者に教育を　コメニウスについて
第4回：子どもの発見　ルソーについて
第5回：自律という問題　ペスタロッチ、カント、ヘルバルトについて
第6回：一斉教授成立史　モニトリアル・システムについて
第7回：教育における自由とは何か　デューイについて
第8回：日本における塾と学校の歴史
第9回：日本における義務教育制度成立史
第10回：「教育を受ける権利」について
第11回：教育における平等とは何か
第12回：個性とは何か
第13回：人権と教育
第14回：教育行政のしくみ
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

教育について自ら考察してみようとしない限り、この授業の意味はほとんど感じ取れないのではないかと思う。教育に関することなら何でもいいので、自ら調べ、考えをまとめ、記述してみる作業が必要である。参考文献をこまめに提示するので、最低2冊は読破するつもりで臨んでもらいたい。

成績評価方法

定期試験(論述問題含む)(70%)
平常点(30%)
(平常点は、授業への参加状況、および授業時の課題の内容をもとに判断する。)

成　績　評　価　基　準
西洋および日本における学校の歴史を体系的に概説することができるか。 教育に関する諸問題を経験のみに依拠することなく、理論的に考察できているか。 学校教育の役割や意義を体系的に説明することができるか。
テキスト、参考図書
プリントを配布する。
その他（受講上の注意）
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育課程論Ⅰ (Theory of Curriculum Ⅰ)			担当教員	鈴木　智子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AB−2151	2単位	1年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・教育課程の意義及び編成の方法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容及び方法の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状(必修)、保育士資格(必修)

授業の内容

本授業では、子どもの主体的な遊びを内容とする保育・幼児教育において、子どもの発達に必要な指導計画の意義・編成を理解し、実際に計画を立案する力を養うこと、また計画を実践に移した後も指導目標と照らし合わせた上で保育・教育に対する反省･評価を行い、再び指導の目標設定に移るまでの循環的な流れを身につけることを目的としている。
テキストや参考図書を基に講義を中心とするが、グループで討論し、指導計画を立てることで、他の受講生と意見交換をし、考えを深める機会を設ける。

授業の到達目標

教育・保育課程の意義について説明することができる。
子ども理解から指導計画の作成、評価までの流れを説明することができる。
短期の指導計画と長期の指導計画の関連について説明することができる。
短期、長期の指導計画案を立てることができる。
小学校、保護者、地域との連携を踏まえた指導計画案を立てることができる。

授業の計画

第1回：オリエンテーション
第2回：保育・教育の基本と計画
第3回：指導計画の種類と役割
第4回：環境構成と子どもの発達
第5回：教育課程の編成1(指導案作成の実際)
第6回：教育課程の編成2(乳児期の指導計画の考え方)
第7回：教育課程の編成3(乳児期の指導計画の実際)
第8回：教育課程の編成4(幼児期の指導計画の考え方)
第9回：教育課程の編成5(幼児期の指導計画の実際)
第10回：日案から週案の作成
第11回：指導計画と協同的学び
第12回：教育課程における保・幼・小の連携
第13回：障害児保育
第14回：保護者や地域との連携
第15回：まとめ

授業外の学習方法

予習として、テキストや参考図書の各回に該当する部分を読み、あらかじめ疑問点を考えておくこと。
復習として、プリントや配布資料を見直し、自分の言葉で説明できるように理解を深めること。

成績評価方法

レポート・課題(70%)、グループ討論の参加態度(20%)、平常点(10%)
(平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する)

成　績　評　価　基　準
教育・保育課程の意義について説明することができるか。 子ども理解から指導計画の作成、評価までの流れを説明することができるか。 短期の指導計画と長期の指導計画の関連について説明することができるか。 短期、長期の指導計画案を立てることができるか。 小学校、保護者、地域との連携を踏まえた指導計画案を立てることができるか。
テキスト、参考図書
テキスト 柴崎正行・増田まゆみ・戸田雅美編『保育課程・教育課程総論』　ミネルヴァ書房　2010年 参考図書 文部科学省編「幼稚園教育要領解説」フレーベル館　2008年 厚生労働省編「保育所保育指針解説書」フレーベル館　2008年
その他（受講上の注意）
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

児童家庭福祉 (Welfare for Child and Family)			担当教員	青井　夕貴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AA−2103	2単位	1年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の基礎理論の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

保育所などの児童福祉施設に従事する保育士には、子どものwell-beingの実現を目指した保育活動の実践だけではなく、子どもの家庭を含めた支援が求められる。そのため、専門職として児童家庭福祉に関する基礎的な知識が必要とされる。本授業では、児童福祉法を中心とした関連法をもとに、児童家庭福祉における保育士の役割な職務について学んでほしい。

授業の到達目標

児童家庭福祉の意義および歴史的展開過程を理解し、子どもの最善の利益について説明することができる。
児童家庭福祉の法律、制度、サービスについて説明することができる。
児童家庭福祉の現状と課題、展望について説明することができる。

授業の計画

第1回：オリエンテーション、現代社会と児童
第2回：児童の権利
第3回：児童家庭福祉の歴史
第4回：児童家庭福祉の法体系と制度
第5回：児童家庭福祉の専門機関・実施機関
第6回：児童家庭福祉の専門職・実施者
第7回：子育ての現状と子育て支援サービス
第8回：母子保健と児童の健全育成
第9回：多様な保育ニーズへの対応
第10回：社会的養護と児童家庭福祉
第11回：障害児と児童家庭福祉
第12回：非行と児童家庭福祉
第13回：児童虐待・DVと児童家庭福祉
第14回：関係機関・関係職種との連携とネットワーク
第15回：まとめ、児童家庭福祉の課題と展望
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習では、授業計画に沿ってテキストの該当頁を読み、疑問点などを整理しておく。授業後は、授業中に適宜紹介する図書やその他児童家庭福祉に関連する文献を自ら調べ、読むことで、さらに理解を深める。

成績評価方法

定期試験(70%)、提出課題(30%)

成　績　評　価　基　準
児童家庭福祉の意義、子どもの最善の利益について説明することができるか。 児童家庭福祉の法律、制度、サービスについて説明することができるか。 児童家庭福祉の現状と課題、展望について説明することができるか。
テキスト、参考図書
西尾祐悟、小崎恭弘 「子ども家庭福祉論」 晃洋書房　2011 ミネルヴァ書房編集部 「保育小六法2014」 ミネルヴァ書房　2014
その他（受講上の注意）
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育原理Ⅰ (Principles of Early Childhood Ⅰ)			担当教員	石川　昭義
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AA−2102	2単位	1年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の基礎理論の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

今日の子どもを取り巻く環境を概観しつつ、保育に係る制度(子ども・子育て支援新制度含む)、歴史、思想の概要と保育の意義を学ぶ。

授業の到達目標

特に幼稚園と保育に係る制度(法律を含む)を理解し説明することができる。
西洋及び日本の保育の歴史(思想を含む)について、その概要を理解し、説明することができる。
幼稚園教育要領及び保育所保育指針の内容について、その概要を理解し、説明することができる。

授業の計画

第1回：オリエンテーション(授業の概要説明、留意事項の説明)
第2回：現代社会と子どもの生活1(産業構造の変化)
第3回：現代社会と子どもの生活2(家庭生活や地域社会の変化)
第4回：わが国の保育制度1(幼稚園及び保育所の制度と機能)
第5回：わが国の保育制度2(子ども・子育て支援新制度)
第6回：保育所保育指針について1(改定の背景、保育所の役割)
第7回：保育所保育指針について2(保育の原理)
第8回：幼保連携型認定こども園教育・保育要領について
第9回：西欧の保育の思想と歴史1(ルソーを中心に)
第10回：西欧の保育の思想と歴史2(フレーベルを中心に)
第11回：わが国の保育の思想と歴史1(幼稚園の誕生と歩み)
第12回：わが国の保育の思想と歴史2(児童中心主義)
第13回：わが国の保育の思想と歴史3(保育所の誕生と歩み)
第14回：わが国の保育の思想と歴史4(戦後の制度改革)
第15回：まとめ(わが国の保育制度の課題)
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習として、教科書の各回に関連するページを読み、あらかじめ疑問点等を考えておいてください。また、復習としては、出された宿題や指定された図書等を通して授業内容をまとめてください。

成績評価方法

平常点(30%)　定期試験(70%)
(平常点は、授業への参加状況、受講態度、自主ノートの提出状況を総合して判断します。)

成績評価基準

幼稚園と保育に係る制度(平成27年度からの新制度を含む)を理解できているか。
西洋及び日本の保育の歴史(思想を含む)について、その概要を理解できているか。
幼稚園教育要領及び保育所保育指針の内容について、その概要を理解できているか。

テキスト、参考図書
大森隆子他編　『子どもを見る変化を見つめる保育〔第3版〕』　ミネルヴァ書房　2011年 厚生労働省編『保育所保育指針解説書』　フレーベル館　2008年
その他（受講上の注意）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領の購入については授業中に連絡します。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

発達心理学Ⅰ (Developmental Psychology Ⅰ)			担当教員	大野木　裕明
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−BD−2158	2単位	1年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の対象の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプラニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

・保育士資格関連科目「保育の心理学Ⅰ」の対応科目。
・内容は非常に多岐に及ぶので、詳細は「授業の計画」を参照のこと。

授業の到達目標

子どもの発達のようすと大まかな道筋について、主に発達心理学の立場から保育に関わる内容を知り、自分なりに生かせるような力を身につけること。

授業の計画

第1回：第1章　子どもの発達を理解することの意義
第2回：第2章　保育実践の評価と心理学
第3回：第3章　発達観、子ども観、保育観
第4回：第4章　乳幼児期の発達と環境
第5回：第5章　乳幼児期の情動の発達と自我
第6回：第6章　乳幼児期の身体的機能と運動機能の発達
第7回：ここまでのまとめ、および第7章　乳幼児の知覚と認知の発達
第8回：第8章　乳幼児期の言葉の発達と社会性
第9回：第9章　人との相互的かかわりと子どもの発達
第10回：第10章　生涯発達と保育の重要性
第11回：第11章　乳幼児期の発達的特徴
第12回：第12章　児童期の発達的特徴
第13回：第13章　青年期以降の発達的特徴
第14回：福祉施設における子どもの発達
第15回：ここまでのまとめ、および第15章　発達にまつわる諸理論

授業外の学習方法

第1回目の授業において第15回目までのワークシートを配布するので、事前によく読み、自分なりの準備をして臨むこと。授業の終了後は、不明な点やさらに学ぶことが必要だと自分なりに思う点について、自分で調べたりオフィスアワーを利用して確認し、しっかりと定着させること。

成績評価方法

小テスト2回(25パーセント分×2=50パーセント)
約1か月前に予告する提出レポート2本(25パーセント分×2=50パーセント)
以上の合計で100パーセント

成　績　評　価　基　準
・専門的な基礎知識の習得の状態。 ・発達と保育に関する「発達心理学」「保育の心理学」的な見方・考え方について、一定の総合的な見識を持つこと。 ・授業中に意見交換して自分や他者の意見・考えを交換できること。
テキスト、参考図書
『保育実践を支える保育の心理学Ⅰ』 福村出版 2011年
その他（受講上の注意）
第１回目の授業で第15回までのワークシートを配布するので、事前に目を通してテキストなどを見ながら自分なりの理解を深め、不明の点があればそれが何かを明らかにしておくこと。授業後は、明らかになった不明な点は定着をはかり、未解決の部分は自学自習やオフィスアワーで質問をして解消すること。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育基礎演習 (Basic Seminar for Early Childhood Care and Education)			担当教員	伊東　知之、篠田　　洋、大久保郁子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−DG−2110	2単位	1年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

実践活動を通した幅広い知識・技能

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(選択)、児童厚生一級指導員(必修)

授業の内容

授業は、3人の教員がそれぞれの専門分野に応じた実技を中心にオムニバス方式で進めていく。
(伊東　知之／5回)
主にクレヨンを用いた基本的な絵画活動や折り紙等の身近な素材を用いた工作、造形遊び等、実際の保育の現場で子どもたちと関わることができる活動を体験していく。また、実際の子どもたちとの関わりの中で、学んだ造形活動がどのように展開されていくのかや造形活動を通した子どもたちとの触れ合い方を学ぶ。
(篠田　　洋／5回)
実際の教育機関の現場で、子どもたちの音楽を通した活動を効果的に推進するために必要な「器楽」の基本的概念や奏法を学ぶ。楽器の歴史と併せ、子どもたちに身近な“リズム”や“ことば”が、器楽への興味へとつながっていくことを理解し、また、グループ等での小編成合奏や創作遊びを通して、楽器の基本的な扱い方、奏法を身につけさせる。
(大久保郁子／5回)
乳幼児との心の通う関わり方の一方法として、遊びを通したコミュニケーションづくりの基礎を身に付けさる。“楽しい”を伝えられる支援者としての第一歩となるように、乳幼児との関わりに有効な手遊び・言葉遊びの基礎を体験し、遊びの展開方法を身に付けさせる。さらに、遊びの展開方法に重要な“ことばと表情”による表現の仕方の基礎的な方法を修得させる。

授業の到達目標

造形、音楽、身体表現の基礎的な理論を理解し、実践できる。

授業の計画

第1回：遊びの体験／出会い(総合演習室)
第2回：手遊び、言葉遊びに素材の体験(総合演習室)
第3回：手遊び、言葉遊びの素材の展開法(総合演習室)
第4回：言葉とリズムの表現(言葉をリズムで表現させ、またそのリズムを叩いてみる)(音楽室)
第5回：手拍子での表現(ボディパーカッションの応用)(言葉のリズムを手拍子や、体の部分でとらせる)(音楽室)
第6回：楽器を用いたリズム表現(単純な楽器を使ったリズム表現や楽器製作)(音楽室)
第7回：ホスピタリティの示し方　表現・話し方トレーニング(総合演習室)
第8回：コミュニケーションづくりの基礎技術(総合演習室)
第9回：メロディに合わせたリズム表現(簡単なメロディに合わせ楽器や手拍子等でリズム表現)(音楽室)
第10回：まとめ、アンサンブル(全体で言葉のリズムを歌等を交え表現させる)(音楽室)
第11回：子どもと造形遊び(図工室)
第12回：幼稚園・保育園見学(学外)
第13回：幼稚園・保育園見学(学外)
第14回：造形遊びから造形表現(図工室)
第15回：造形表現の実践とまとめ(図工室)

授業外の学習方法
・授業に必要な材料や道具を事前に準備する。 ・授業で出された課題を完成または練習する。
成績評価方法
レポート(80%)、平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物の提出状況等を総合して判断します。)
成績評価基準
造形の基礎的な理論を理解し、実践できるか。 音楽の基礎的な理論を理解し、実践できるか。 身体表現の基礎的な理論を理解し、実践できるか。
テキスト、参考図書
必要に応じて資料を配布する。
その他(受講上の注意)
日程によって教室が異なるため注意すること。また、総合演習室での授業では、動きやすい服装、履物で受講し、図工室での授業では図工用具一式を持参すること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育者論 (Role of Nursery Teachers in Society)			担当教員	石川　昭義
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AA−2150	2単位	1年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の基礎理論の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

今日の社会状況をふまえ、保育者(幼稚園教諭を含む)の役割と倫理、保育士の制度的な位置づけと職務内容について学ぶ。

授業の到達目標

保育者(保育士及び幼稚園教諭)の役割について説明することができる。
保育者の制度的な位置づけと職務内容について説明することができる。
保育者の職務上の倫理について説明することができる。

授業の計画

第1回：オリエンテーション(授業の概要説明、留意事項の説明)
第2回：人生における仕事の意味
第3回：保育者の制度的な位置づけ1(児童福祉法、学校教育法、認定こども園法)
第4回：就学前の子どもを対象とする仕事の意義1(子どもの最善の利益)
第5回：就学前の子どもを対象とする仕事の意義2(潜在的カリキュラム)
第6回：保育者への道(保育士養成課程、教職課程の解説)
第7回：保育士の役割と職務内容1(子どもの保育を中心に)
第8回：保育士の役割と職務内容2(保護者の支援を中心に)
第9回：DVD保育所保育指針について(小レポート作成)
第10回：保育士の専門性1(知識、技術、判断)
第11回：保育士の専門性2(省察と自己評価)
第12回：保育者の協働(同僚性及び専門機関との連携)
第13回：保育者の成長(研修と自己研鑽とキャリア形成)
第14回：近年の保育をめぐる政策と課題
第15回：まとめ(自分の近未来の目標を立てる)
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習として、保育所保育指針を読み、あらかじめ疑問点等を考えておいてください。また、復習としては、配布されたプリントや指定された図書等を通して授業内容をまとめてください。

成績評価方法

定期試験(40%)　中間の課題レポート(40%)　平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況、受講態度、自主ノートの提出状況を総合して判断します。)

成績評価基準

保育者(保育士及び幼稚園教諭)の役割について現代社会の状況を踏まえて説明することができるか。
保育者の制度的な位置づけと職務内容について説明することができるか。

テキスト、参考図書
石川昭義他編『保育者のためのキャリア形成』　建帛社　2014年 厚生労働省編　『保育所保育指針解説書』　フレーベル館　2008年
その他（受講上の注意）
必要に応じてプリントを配布する。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

国語 (Japanese Language)			担当教員	柿本　真代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AB−2152	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　・国語(書写を含む。)

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容及び方法の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)、幼稚園教諭一種免許状(必修)

授業の内容

小学校学習指導要領「国語」の内容を踏まえ、児童が物語などを鑑賞し表現する手段を獲得したり、互いに伝えあう能力を高めたりしていく授業展開を、受講者の実践を通して理解する。

授業の到達目標

小学校国語科の目標及び内容を理解するとともに、自らの言語感覚を養い、国語に対する関心を深めることができようにする。

授業の計画

第1回：授業の進め方と学習指導要領における「国語」
第2回：現行の国語科学習指導要領について
第3回：「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」
第4回：第1・2学年の言語活動①
第5回：第1・2学年の言語活動②
第6回：第3・4学年の言語表現①
第7回：第3・4学年の言語表現②
第8回：第5・6学年の国語①
第9回：第5・6学年の国語②
第10回：書写①
第11回：書写②
第12回：実践①　お話の世界を広げる本屋さん体験
第13回：実践②
第14回：実践③
第15回：まとめ
第16回：筆記試験

授業外の学習方法

授業中に紹介する絵本や教材などを自分でも手に取って見てみてください。

成績評価方法

学期末試験40%、スピーチ等の個別発表・グループ発表40%、受講態度等20%で総合的に評価します。

成績評価基準

小学校国語科の目標及び内容が理解できているか。スピーチやリフレクションシートを通して自らの言語感覚を養い、国語に対する関心を深められたか。

テキスト、参考図書

授業中に紹介します。

その他（受講上の注意）
書写や実践の回では、別途持ち物を指示します。各自で持参してください。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

音楽Ⅰ (Music Ⅰ)			担当教員	中野　研也
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AC−2105	2単位	1年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状(必修) 小学校教諭一種免許状(選択) 保育士資格(必修) 児童厚生一級指導員(必修)

授業の内容

音楽理論の基礎と、楽譜を読んで理解する力を無理なく身に付ける。

授業の到達目標

教育・保育現場で使用する程度の楽譜を、演奏に差し支えない程度まで読めるようにする。
音楽理論の基礎知識を身に付ける。

授業の計画

第1回：音の高さと音の名前、ト音記号とヘ音記号
第2回：音の長さ、音符と休符
第3回：拍と拍子、テンポとリズム
第4回：全音と半音、音程①
第5回：音階と調性①　長調と短調
第6回：音階と調性②　24調
第7回：強弱記号、発想標語、その他の記号
第8回：音程②
第9回：和音と和声①、音程③
第10回：和音と和声②
第11回：和音と和音の関係
第12回：コードネーム①
第13回：コードネーム②
第14回：楽譜の中の和声、非和声音
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

各回の授業内容が理解できていないと、それ以降の授業内容の理解に、確実に支障を来します。そのため、第一に授業時間内での理解に努め、受講した後は、必ず内容の確認・復習をしてください。

成績評価方法

定期試験(70%)
平常点(30%)※平常点には、受講態度と、ノートや課題の提出状況が含まれる。

成績評価基準

音楽理論の基礎知識が身につき、教育・保育現場で使用する程度の楽譜を理解できるようになったか。

テキスト、参考図書

いちばん親切な楽典入門　ＣＤ付　　轟千尋(著)　新星出版社　2014年
ジュニアクラスの楽典問題集　　森本琢郎・池田恭子　(共著)　2013年　第11刷発行

その他（受講上の注意）
クラスの全体的な理解度に応じて、シラバスの日程と実際の授業内容の日程とは、ある程度前後します。 また、できうる限り授業時間内での理解に努めること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

音楽Ⅱ (Music Ⅱ)			担当教員	津田　幸子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AC−2155	2単位	1年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　・音楽

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(選択)、幼稚園教諭一種免許状(選択)、保育士資格(選択)

授業の内容

保育や教育の現場で必要となる楽譜の基本的な視唱力と、歌唱法(発声法を含む)の習得。
無伴奏の歌唱により、聴く力(高い意識の持続)を養う。

授業の到達目標

幼児教育や小学校の音楽教育において歌唱教材を展開する上で必要となる、視唱力・読譜力の獲得と発声の基本(聴く力を含む)を学ぶことを目的とする。
・正しい音程を発声することができる。
・拍子やリズムを理解し、歌唱することができる。
・段階を踏んで各種の調性や、ハーモニー感を養成する。
・歌詞を解釈し、発音と発声法の関連を演習することで、音楽的歌唱表現の適切なあり方を探求する。

授業の計画

[視唱練習] 全訳コールユーブンゲン(使用テキスト)
第1回：音階・二度音程・単純拍子等　(第二～十二章)
第2回：三度音程・付点やタイを用いたリズム　(第十三～十五章)
第3回：四度音程・増四度の音程練習、八分音符と休符のリズム練習(第十六～十八章)
第4回：四度音程・増四度の音程練習、八分音符と休符のリズム練習(第十六～十八章)
第5回：複合拍子と単純拍子の比較　(第十九章)
第6回：五度音程、リズム・拍子の復習　(第二～二十章)
第7回：シンコペーションのリズム練習、弱起の拍感　(第二十二章)
第8回：六度音程・複合拍子の復習　(第二十五章)
第9回：三連音のリズム練習　(第二十六章)
第10回：3連音・音符四個を一拍に数える練習、及び拍子感　(第二十八章)
第11回：最小付点音符を使ったリズム　(第二十九章)
第12回：七度音程、各種の付点音符と3連音の混用したリズム練習　(第三十章)
第13回：音程・リズムの復習　(第二～第三十章)
第14回：音程・リズムの復習　(第二～第三十章)
第15回：音程・リズムの復習　(第二～第三十章)
第16回：定期試験
[歌唱表現] 改訂　ポケットいっぱいのうた(使用テキスト)
上記の視唱訓練の課題に加えて、歌唱曲を適宜組み入れ、歌詞の解釈・基本発声・歌唱表現法等について演習する。

授業外の学習方法

基礎音楽力は日々の修練の成果として身に付くことから、予習として、授業計画を先取りした練習をし、未熟なところ(音程の模倣・リズム)を各自認識しておくこと。個人の練習時には録音することが望ましい。又、復習として、知識として学んだこと、演習で体得したことを繰り返し練習することで、身に付ける。

成　績　評　価　方　法
定期試験(50%)　受講態度・課題への取り組み姿勢(50%)
成　績　評　価　基　準
・課題に関して正しい音程・リズムを歌唱できるか。 ・歌詞や旋律から想像できる音楽的表現ができているか。 ・歌唱することで個々が表現者となれているか。
テキスト、参考図書
(1)『全訳コールユーブンゲン』 フランツ・ヴュルナー著・信時潔訳　大阪開成館版 (2)「改訂　ポケットいっぱいのうた」 実践　こどものうた　簡単に弾ける144選　教育芸術社
その他(受講上の注意)
テキストは教則本なので、毎回必ず持参して受講すること。(他人との貸し借りは、個人的書き込みに支障を来す為、禁止する。) 科目の性格上受講中の私語は厳禁。(音の高・低や音色が聴きとれなくなる為。)
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

図画工作Ⅰ (Arts and Crafts Ⅰ)			担当教員	伊東　知之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AC−2106	2単位	1年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　・図画工作

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状(必修)、小学校教諭一種免許状(選択)、保育士資格(必修)、児童厚生一級指導員(必修)

授業の内容

図画工作、美術の基本的な知識や技術を身につけることを目的とし、実際の制作を通して様々な基本的な造形技法や道具の技術等を主に絵画的な制作から修得する。また、幼児教育の造形に関わる知識や発達理論等についても学ぶ。

授業の到達目標

・学んだ造形技法について説明することができる。
・学んだ造形技法を用いて工夫して表現することができる。
・子どもの造形に関する発達について説明することができる。

授業の計画

第1回：子どもと造形活動について
第2回：絵画演習(1)デッサン(素描)①　鉛筆を使って
第3回：絵画演習(2)デッサン(素描)②　鉛筆を使って
第4回：絵画演習(3)ブルーノ・ムナーリの造形遊び
第5回：デザイン演習(1)構成①　鉛筆の単色
第6回：デザイン演習(2)構成②　絵の具を使って
第7回：版画演習(1)フロッタージュ
第8回：版画演習(2)スチレン版画
第9回：版画演習(3)スタンプで遊ぼう
第10回：工作演習(1)飛ばして遊ぼう①
第11回：工作演習(2)飛ばして遊ぼう②
第12回：工作演習(3)ポップアップカード(飛び出すカード)
第13回：工作演習(4)走るおもちゃ
第14回：工作演習(5)風車
第15回：まとめ

授業外の学習方法

授業で必要な材料や道具を準備し、授業での課題を次回までに完成する。

成績評価方法

課題作品(80%)、平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物の提出状況等を総合して判断します。)

成績評価基準

学んだ造形技法の特質を理解し、工夫して表現されているか。

テキスト、参考図書
必要に応じてプリントを配布する。
その他（受講上の注意）
指定された図工用具一式を購入し、毎時間持参すること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

図画工作Ⅱ (Arts and Crafts Ⅱ)			担当教員	伊東　知之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AC−2156	2単位	1年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　・図画工作

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状(選択)、小学校教諭一種免許状(選択)、保育士資格(選択)

授業の内容

「図画工作Ⅰ」で学んだ内容をさらに深めた様々な造形の表現方法や技法について学び、自らの造形力、表現力を養うことによって、実際の現場でも役に立つような教材開発や造形指導ができるような応用力を身につけることがねらいである。そのために紙、木材、粘土等幅の広い様々な素材を使った造形について主に工作的な制作を通して実際に学び、素材と技術、感性との関わりを探究していく。

授業の到達目標

・学んだ造形技法について説明することができる。
・学んだ造形技法の特質を活かした表現ができる。

授業の計画

第1回：人間と造形活動について
第2回：絵画演習(1)デッサン(素描)　鉛筆を使って
第3回：絵画演習(2)クレヨンを使って
第4回：工作演習　木材を使ったパズル製作①
第5回：工作演習　木材を使ったパズル製作②
第6回：工作演習　木材を使ったパズル製作③
第7回：工作演習　木材を使ったパズル製作④
第8回：工作演習　木材を使ってパズル製作⑤
第9回：工作演習　紙の仮面製作①
第10回：工作演習　紙の仮面製作②
第11回：工作演習　紙の仮面製作③
第12回：工作演習　紙の仮面製作④
第13回：工作演習　紙の仮面製作⑤
第14回：工作演習　紙の仮面製作⑥
第15回：まとめ

授業外の学習方法

授業で必要な材料や道具を事前に準備し、授業の課題を次回までに完成する。

成績評価方法

課題作品(80%)、平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物の提出状況等を総合して判断します。)

成績評価基準

・学んだ造形技法の特質を説明することができる。
・学んだ造形技法の特質を活かした表現ができる。
・子どもと造形の関わりについて説明できる。

テキスト、参考図書
必要に応じてプリントを配布する。
その他（受講上の注意）
図工用具を毎時間持参すること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

基礎ピアノⅠ (Basic Piano Ⅰ)			担当教員	中野　研也、桂屋　京子、飯田　由美、 太田　佳代、野村加奈子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AC−2107	1単位	1年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■j体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(選択)

授業の内容

教育・保育の現場で必要とされるピアノ演奏技術を身に付ける。
個人レッスンの形で行う。

授業の到達目標

ピアノ演奏技術を学び、2年次の弾き歌い科目「音楽表現　Ⅰ・II」を履修するための基礎力を身に付けることができる。

授業の計画

次の授業計画は、「グレード1」の教育内容についての進度目標である。「グレード2～5」に関しては、レッスンノートを参照のこと。
第1回：グレード判定テスト
第2回：譜表の読み方と鍵盤の位置の確認　(バイエルピアノ教則本 No.1～11)
第3回：二度・三度の練習　(バイエルピアノ教則本 No.12～18)
第4回：スタッカートの練習　(バイエルピアノ教則本 No.19～25)
第5回：タイの練習　(バイエルピアノ教則本 No.26～31)
第6回：公開演奏
第7回：右手加線の読み方　(バイエルピアノ教則本 No.32～37)
第8回：左手加線の読み方　(バイエルピアノ教則本 No.38～43)
第9回：八分音符の練習　(バイエルピアノ教則本 No.44～49)
第10回：公開演奏
第11回：グレード別実技到達度テスト(2)　(バイエルピアノ教則本 No.32～54)
第12回：強弱記号の読み方　(バイエルピアノ教則本 No.55～57)
第13回：八分の三拍子の練習　(バイエルピアノ教則本 No.58～60)
第14回：連弾の練習　(バイエルピアノ教則本 No.61～64)
第15回：公開演奏
教育実習曲も習得する。
毎回の実技到達度テストの結果はその都度担当教員より伝達され、次回への指針とする。

授業外の学習方法

練習室や自宅等で、必ず練習(準備・復習)を行うこと。

成績評価方法

公開演奏(実技試験)(70%)
※第6回、11回、15回目の授業で公開演奏(実技試験)を行い、これら3回分の点数を平均して評価する。
平常点(30%)
※平常点は、授業への参加状況と受講態度で判断する。

成　績　評　価　基　準
各グレードにおける課題曲を、正確かつ円滑に演奏することができるか。
テキスト、参考図書
(1)バイエルピアノ教則本　(2)ツェルニー100番練習曲　(3)ブルグミュラー25の練習曲 (4)ツェルニー30番練習曲　(5)ソナチネアルバムⅠ、Ⅱ (6)ツェルニー40番練習曲等 (7)教育実習曲譜 ※(1)～(6)については、出版社は特に指定しない
その他(受講上の注意)
通常の受講について：週に1度の個人レッスンの時間内だけで身につく内容ではないので、普段からの継続的な練習を必ず必要とする。また、レッスンで受講する曲目は、必ず予習(譜読みと練習)をしてから受講に臨むこと。 実技試験について：実技試験を兼ねた公開演奏を行う第6回、11回、15回目の授業を欠席した場合、その回の点数は0点として計算される。従って、試験にはくれぐれも体調等を整えて臨むこと。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

基礎ピアノⅡ (Basic PianoⅡ)			担当教員	中野　研也、桂屋　京子、飯田　由美、 太田　佳代、野村加奈子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AC−2157	1単位	1年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(選択)

授業の内容

教育・保育の現場で必要とされるピアノ演奏技術を身に付ける。
個人レッスンの形で行う。

授業の到達目標

基礎ピアノⅠに続いてピアノ演奏技術を学び、2年次の弾き歌い科目「音楽表現　Ⅰ・II」を履修するための基礎力を身に付けることができる。

授業の計画

次の授業計画は、「グレード1」の教育内容についての進度目標である。「グレード2～5」に関しては、レッスンノートを参照のこと。
第1回：ハ長調　(バイエルピアノ教則本 No.65～67)
第2回：ト長調　(バイエルピアノ教則本 No.68～73)
第3回：ニ長調　(バイエルピアノ教則本 No.74～76)
第4回：イ長調　(バイエルピアノ教則本 No.77～79)
第5回：公開演奏
第6回：和音の練習　(バイエルピアノ教則本 No.80～81)
第7回：ホ長調　(バイエルピアノ教則本 No.82～84)
第8回：連弾の練習　(バイエルピアノ教則本 No.85～87)
第9回：付点八分音符の練習　(バイエルピアノ教則本 No.88～90)
第10回：公開演奏
第11回：イ短調・ヘ長調　(バイエルピアノ教則本 No.91～96)
第12回：装飾音符　(バイエルピアノ教則本 No.97～100)
第13回：十六分音符　(バイエルピアノ教則本 No.101～103)
第14回：半音階　(バイエルピアノ教則本 No.104～106)
第15回：公開演奏
教育実習曲も習得する。
毎回の実技到達度テストの結果はその都度担当教員より伝達され、次回への指針とする。

授業外の学習方法

練習室や自宅等で、必ず練習(準備・復習)を行うこと。

成績評価方法

公開演奏(実技試験)(70%)
※第5回、11回、15回目の授業で公開演奏(実技試験)を行い、これら3回分の点数を平均して評価する。
平常点(30%)
※平常点は、授業への参加状況と受講態度で判断する。

成　績　評　価　基　準
各グレードにおける課題曲を、正確かつ円滑に演奏することができるか。
テキスト、参考図書
(1)バイエルピアノ教則本　(2)ツェルニー100番練習曲　(3)ブルグミュラー25の練習曲 (4)ツェルニー30番練習曲　(5)ソナチネアルバムⅠ、Ⅱ (6)ツェルニー40番練習曲等 (7)教育実習曲譜 ※(1)～(6)については、出版社は特に指定しない。
その他(受講上の注意)
通常の受講について：週に1度の個人レッスンの時間内だけで身につく内容ではないので、普段からの継続的な練習を必ず必要とする。また、レッスンで受講する曲目は、必ず予習(譜読みと練習)をしてから受講に臨むこと。 実技試験について：実技試験を兼ねた公開演奏を行う第5回、11回、15回目の授業を欠席した場合、その回の点数は0点として計算される。従って、試験にはくれぐれも体調等を整えて臨むこと。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子どもの保健Ⅰa (Children's Health Ⅰa)			担当教員	森川　浩子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−BD−2159	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の対象の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。
保育士資格(必修)

授業の内容

ノーマルチャイルドの成長過程を理解すると同時に、子どもの発育を促進する方法を学ぶ。

授業の到達目標

ノーマルチャイルドの成長過程を理解するとともに、子どもの発育を促進する方法を習得する。幼保一元化の中で、0歳～就学前(6歳未満)までの子どもの成長・発達を理解するとともに、発達心理学に基づいた援助方法を習得する。さらに、小児の発達段階に対応した栄養の与え方と安全性確保について習得する。

授業の計画

第1回：小児の特徴・小児期の区分・成長(Growth)・発達(Development)・子ども観
第2回：日本の小児保健水準・小児保健に関する法律と制度・少子化
第3回：小児の成長発達・運動機能・言語発達・社会性
第4回：ＤＤＳＴ　(デンバー発達スクリーニングテスト)
第5回：0才児の特徴　(愛着形成・人見知り)
第6回：1歳児の特徴　(1歳半健診・初語・二語文)
第7回：2歳児の特徴　(魔の2歳児・甘えと反抗)
第8回：3歳児の特徴　(3歳児健診・集団の中での自己の気づき)
第9回：4・5歳児の特徴　(就学前健診・集団生活)
第10回：精神機能の発達と保健　(情緒の分化・精神発達の評価)
第11回：子どもの食事　(発育と栄養・発達段階に応じた栄養摂取・母乳・調乳・離乳食・幼児食)
第12回：基本的生活習慣の獲得　(トイレットトレーニング・睡眠・衣類の着脱)
第13回：口腔保健　(歯磨き習慣)
第14回：発達段階に応じた遊びと安全性確保
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習として、教科書の各回に関連するページを読み、あらかじめ疑問点等を考えておくこと。復習としては、出された宿題や必要に応じて、小児に関係する雑誌や書籍(ベビーサイエンス)を通して授業内容をまとめること。

成績評価方法

定期試験(80%)　小レポート(10%)　平常点(10%)(平常点は、受講態度を総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準
・ノーマルチャイルドの成長過程を理解するとともに、子どもの発育を促進する方法を習得できたか。 ・幼保一元化の中で、０歳～就学前（６歳未満）までの子どもの成長・発達を理解するとともに、発達心理学に基づいた援助方法を習得できたか。 ・小児の発達段階に対応した栄養の与え方と安全性確保について習得できたか。
テキスト、参考図書
テキスト：『子どもの保健』（第５版）　巷野悟郎編　診断と治療社（2015）
その他（受講上の注意）
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育内容研究(健康) (Studies on Contents of Early Childhood Care and Education(Health))			担当教員	森　美佐紀
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AB−2153	2単位	1年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・保育内容の指導法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容及び方法の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状(選択)、保育士資格(必修)、児童厚生一級指導員(必修)

授業の内容

乳幼児のからだと運動の発達や生活習慣など子どもの健康に関する事柄について、事例を通してまた視聴覚教材を通して理解を深める。

授業の到達目標

下記の授業計画に記載した内容について、その知識を習得し、自分で説明できるようになる。

授業の計画

第1回：健康とはなにか
第2回：乳幼児のからだの発達
第3回：乳児の運動の発達
第4回：幼児の運動の発達
第5回：運動あそびの事例研究(3歳児)
第6回：運動遊びの事例研究(4、5歳児)
第7回：生活習慣について(食事)
第8回：生活習慣について(睡眠、着替え)
第9回：生活習慣の発達に関する事例研究(0～3歳児)
第10回：生活習慣の発達に関する事例研究(4、5歳児)
第11回：行事について
第12回：季節の遊び
第13回：安全管理(屋内)
第14回：安全管理(屋外)
第15回：保育者の健康問題について
第16回：定期試験

授業外の学習方法

授業で扱った事柄については復習し、さらに参考図書や雑誌等を利用して、理解を深める。

成績評価方法

定期試験(50%)　小レポート(20%)　平常点(30%)

成績評価基準

上記の授業計画欄に記載した内容に関する知識を習得し、それを説明することができるかを中心に行う。

テキスト、参考図書

テキスト：保育内容「健康」　ミネルヴァ書房　杉原隆、柴崎正行、河邊貴子　編

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育内容研究(表現A) (Studies on Contents of Early Childhood)			担当教員	坂本　流美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AB−2104	2単位	1年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　・教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・保育内容の指導法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容及び方法の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状(選択)、保育士資格(選択)

授業の内容

「表現」の領域における音楽的視点から、幼児教育者として様々な保育の在り方に資すための一手段として「わらべうたあそび」を数多く実践し、幼児の発達段階に応じながら自立性・自発性を育てる実践法を演習する。

授業の到達目標

幼児が自ずと持っている繊細で鋭敏な感受性に働きかけ、表現する意欲と豊かな創造力を引き出すための手法を知ることを目的とする。幼児期の発達段階を踏まえた様々な「わらべうたあそび」の基本的演習を通して、保育の現場で子ども達に感動体験の機会を多彩に展開できる技法を修得させる。

授業の計画

第1回：幼児期の音楽教育の役目・「わらべうたあそび」とは・わらべうたを使ったソルフェージュ
第2回：季節のわらべうたあそび　(秋・0歳児～5歳児対象)
第3回：季節のわらべうたあそび　(冬・0歳児～5歳児対象)
第4回：季節のわらべうたあそび　(春・0歳児～5歳児対象)
第5回：季節のわらべうたあそび　(梅雨・0歳児～5歳児対象)
第6回：季節のわらべうたあそび　(夏・0歳児～5歳児対象)
第7回：通常のわらべうたあそび　(0歳児～5歳児対象)
第8回：通常のわらべうたあそび　(0歳児～5歳児対象)
第9回：わらべうたでアンサンブルを楽しむ
第10回：わらべうたでアンサンブルを楽しむ
第11回：文学とわらべうた　(小道具作成～クレヨン・色鉛筆・はさみ・定規が必要)
第12回：文学とわらべうた　(発表)
第13回：設設定保育案の作成
第14回：設定保育案案の実践
第15回：わらべうたあそびのまとめ

授業外の学習方法

授業で取り上げた曲について復習し、次回の授業に臨むこと。
一つでも多くの「わらべうた」を繰り返して覚えることが望ましい。

成績評価方法

小レポート(60%)　平常点(40%)
平常点は、授業への参加状況・受講態度・小レポートの提出状況等を総合して判断する。

成績評価基準

受講態度、取り上げたわらべうたの修得度等を総合して評価する。

テキスト、参考図書

必要に応じてプリントを配布する。

その他（受講上の注意）
実技習熟学習が主体となるので、出席状況は勿論、授業での積極性、貢献度を重視する。動きやすい服装で受講する。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育内容研究(表現C) (Studies on Contents of Early Childhood)			担当教員	乾　　典子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AB−2154	2単位	1年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・保育内容の指導法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容及び方法の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状(選択)　保育士資格(必修)　児童厚生一級指導員(必修)

授業の内容

身体表現をするための教養を深め、保育の実践的展開を支える身体表現の基礎技術の習得を図る。それを基に、幼児の身体表現活動に必要な援助力を育成する。発達段階を追いながら、無理なく幼児の活動に溶け込み、教材・教具の特性につて理解し、扱い方を習得すると同時に、環境構成のあり方について体得していく。実技を中心に、理論的裏付けとして必要な専門的知識を学習し、保育者として幼児の前で即実践できるような表現力の体得を目指す。

授業の到達目標

・他者とのコミュニケーションがとれている。
・グループの中での役割を理解し、協力する。
・グループでの目標計画を立て、実行できる能力を養う。

授業の計画

第1回：表現のねらいと内容、簡単なダンスの体験
第2回：リズム遊び、ステップ遊び　フォークダンスの体験(1)
第3回：フォークダンスの体験(2)
第4回：マスゲーム　(パラバルーンを使用)　創作
第5回：マスゲーム　(パラバルーンを使用)　創作・発表
第6回：身体表現遊び　(ポンポンダンス)　体験
第7回：身体表現遊び　(ポンポンダンス)　実技試験
第8回：身体表現遊び　(ポンポンダンス)　グループ別創作
第9回：身体表現遊び　(ポンポンダンス)　グループ別創作・発表・鑑賞
第10回：身体表現遊び　(YOSAKOIダンス)　体験
第11回：身体表現遊び　(YOSAKOIダンス)　実技試験
第12回：身体表現遊び　(YOSAKOIダンス)　グループ別創作・発表・鑑賞
第13回：ダンス　グループ別創作
第14回：ダンス　グループ別創作
第15回：作品発表・鑑賞　　まとめ

授業外の学習方法

前回の授業で習った踊りを忘れないように、練習しておくことが望ましい。また、グループ創作作品は、出来たところまで携帯などで映像を撮影するなどしておく。

成績評価方法

実技試験(60%)　レポート(20%)　平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況・授業態度・創作への協力等を考慮して判断します。)

成　績　評　価　基　準
・習ったダンスを覚えて踊れているか。 ・他者と協力して、グループ創作ができているか。 ・指導者としての態度・行動力を発揮しているか。
テキスト、参考図書
特に使用しない。必要に応じて、資料を配布する。
その他（受講上の注意）
必ず体操服で受講すること。シューズも準備すること。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育内容研究(子どもの文化) (Studies on Contents of Early Childhood Care and Education (Culture of Children))			担当教員	柿本　真代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AC−2108	2単位	1年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・保育内容の指導法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状(選択)、保育士資格(必修)、児童厚生一級指導員(必修)

授業の内容

子どもの文化財の歴史と保育現場での活用を学び、制作発表を行うことで実践力を身につける。

授業の到達目標

子どもを取り巻く文化に関心を持ち、それぞれの文化財の役割を理解した上で主体的に発表に取り組む。

授業の計画

第1回：オリエンテーション(授業の概要と課題発表について)
第2回：「子ども」とはなにか
第3回：児童文化と子ども文化
第4回：遊びと「子ども」
第5回：「子ども」にとって文化とは
第6回：「おはなし」の世界
第7回：「絵本」を読む・伝える
第8回：「パネルシアター」「エプロンシアター」「スケッチブックシアター」の役割
第9回：「人形劇」の活用
第10回：子どもの文化財制作と発表①
第11回：子どもの文化財制作と発表②
第12回：子どもの文化財制作と発表③
第13回：子どもの文化財制作と発表④
第14回：子どもの文化財制作と発表⑤
第15回：まとめ

授業外の学習方法

授業開始時、毎回記入用紙を配布します。授業中に記入内容を説明しますので説明に沿って記入して下さい。記入用紙は返却しますので、学修の振り返りのために保存・活用してください。

成績評価方法

学期末レポート50%、個別・グループ別発表40%、受講態度や授業への参加状況10%を総合して評価します。

成績評価基準

子どもを取り巻く文化に関心を持っているか。それぞれの文化財の役割を理解した上で主体的に発表に取り組めているか。

テキスト、参考図書

授業中に紹介します。

その他(受講上の注意)

制作を行う回は、事前に画材などを準備してください。授業中詳しく説明します。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

事前・事後指導(幼稚園) (Guidance for Field Practice (Preschool))			担当教員	伊東　知之、鈴木　智子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CE−2109	1単位	1年・3年	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育実習)

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

学外実習による実践的能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状(必修)

授業の内容

この授業は「教育実習Ⅰ(幼稚園)」(1年次)及び「教育実習Ⅱ(幼稚園)」(3年次)の事前事後指導として実施されるものである。幼稚園教育実習の目的・内容・方法及び留意事項などを理解するとともに、実習日誌の記録や指導計画の作成をはじめとして、実践に必要な基礎的な技能・技法についても学習する。また、教育実習を評価・反省することを通して、実習後の学習課題を明確にしていくための場でもある。

授業の到達目標

・実習の目的や意義を理解する。
・実習に必要な知識や技能を修得する。
・実習に必要な態度や心構えを身につける。

授業の計画

1年次
第1回：教育実習オリエンテーション・教育実習の意義と目的を理解する。
第2回：4段階実習(見学・観察実習、参加実習、部分実習、指導実習)の意義・役割とその方法について理解する。
第3回：実習ノート(日誌)等の記録の取り方、記入の仕方を学習する。
第4回：指導案(週案・日案・設定保育案)の作成法、模擬保育実践を仮定して、立案を試みる。
第5回：模擬保育①
第6回：模擬保育②
第7回：模擬保育③
第8回：研究テーマ、実習心構えの作成及び実習に臨む際、子どもの健康面、安全面などへの配慮、留意すべき点の確認をする。
第9回：実習報告会(2年生の実習体験報告を聞き、疑問点等の質問をする)。
第10回：スキルアップ講座①　(学外指導者による実習に対する講演)
第11回：スキルアップ講座②　(学外指導者による実践的指導)
第12回：スキルアップ講座③　(学外指導者による実践的指導)
3年次
第1回：教育実習オリエンテーション・実習の目標、課題の持ち方、観察の仕方の再学習をする。
第2回：実習ノート(日誌)、指導案について教育実習Ⅱの様式で再学習をする。
第3回：実習直前の実習園への事前訪問内容や心構えを確認する(外部講師)。
第4回：実習ノート(日誌)の書き方について教育実習Ⅱの様式で学習をする(外部講師)。
第5回：指導案の作成について教育実習Ⅱの様式で学習をする(外部講師)。
第6回：模擬保育を想定して指導案を実際に作成する。
第7回：模擬保育①
第8回：模擬保育②
第9回：模擬保育③
第10回：模擬保育④
第11回：教育実習Ⅱ　オリエンテーションについて
第12回：まとめ・お礼状の書き方について

授業外の学習方法

・模擬保育の指導案を作成し、実施に必要なものを準備する。
・模擬保育の練習を行う。
・実習の心構えや研究テーマを作成する。

成績評価方法

課題提出物(40%)、模擬保育(40%)、平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物の提出状況等を総合して判断します。)

成績評価基準

・実習の意義や目的を理解している。
・指導案がしっかり作成されている。
・実習に必要な提出物が提出されている。

テキスト、参考図書

林幸範、石橋裕子編　『最新　保育園幼稚園の実習　完全マニュアル』
文部科学省　『幼稚園教育要領』
仁愛大学実習指導委員会編　『教育実習(幼稚園)実習の手引き』

その他(受講上の注意)

1年次の本授業受講者は、3年次も受講すること。評価は3年次末ににあわせて行う。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育実習Ⅰ(幼稚園) (Teaching Practice Ⅰ (Preschool))			担当教員	伊東　知之、鈴木　智子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CE−2160	1単位	1年後期	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育実習)

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

学外実習による実践的能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状(必修)

授業の内容

1年次2月に3グループに分かれて仁愛女子短期大学付属幼稚園で1週間(5日間)の教育実習を行う。

授業の到達目標

・見学・観察実習中の態度・姿勢がよい。
・幼児と積極的に関わる。
・幼児の個性や発達の違いを理解する。
・実習記録のつけ方が適切である。。

授業の計画

教育実習は次に掲げる目的をもって「見学・観察」に即した実習を行う。
(1)幼稚園の1日の流れを知る。
(2)満3歳児から6歳児までの発達段階に対応した幼児の活動を見通す。
(3)部分実習(ex. 絵本の読み聞かせ・手遊びなど)の体験を通して、指導実習にかかる幼児の観察・理解の一助とする。
(4)教諭の仕事や役割を理解する。

授業外の学習方法

・実習ノート(日誌)を毎日作成し、実習園に提出する。
・実習の心構えや研究テーマ等を実習開始までに作成する。
・指導案を作成し、指導者の助言を受けて修正をする。
・部分実習の準備を行う。

成績評価方法

実習園での評価(評価表)と大学の評価を総合して評価する。

成績評価基準

・見学・観察実習中の態度・姿勢がよかったか。
・幼児と積極的に関われたか。
・幼児の個性や発達の違いを理解しようとしたか。
・実習記録のつけ方は適切だったか。

テキスト、参考図書

(1)文部科学省　『幼稚園教育要領』
(2)子ども教育学科実習指導委員会編　『教育実習(幼稚園)の手引き』
(3)子ども教育学科実習指導委員会編　『教育実習Ⅰ(幼稚園)実習ノート』

その他（受講上の注意）
教育実習は、卒業後、教員として就職することを強く希望する学生のために、実習園の教育的配慮・好意によって受け入れていただくものである。また、「教育実習Ⅱ（幼稚園）」（３年次前期）の受講資格の要件に含まれる科目なので、幼稚園教諭を目指す学生は必ず受講すること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

仏教の思想 (Views of Buddhism)			担当教員	山田　恵文
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1211	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　全学共通科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

建学の精神である仏教精神に基づく人間性の涵養と幅広い視野から物事をとらえ、高い論理性と的確な判断を下すことができる力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

今から約2500年前のインドに実在したブッダと、日本の鎌倉時代を生きた親鸞。この二人の思想のポイントを学ぶことを通して、私たち人間の課題を学び、「いかに生きるべきか」を問い尋ねていく。仏教の視点から自己理解と他者理解を深めることによって、豊かな人間関係を築くための人間力を涵養する。

授業の到達目標

ブッダと親鸞の生涯と、二人の基本的な思想を理解し説明することができる。
仏教の視点から学ぶ人間の課題を、自分自身の課題として考察し表現することができる。
豊かな人間関係のあり方を考察し、その創造に向けて努める姿勢を身につける。

授業の計画

第1回：イントロダクション
第2回：ブッダに学ぶ①　人間の課題
第3回：ブッダに学ぶ②　四苦を考察する1
第4回：ブッダに学ぶ③　四苦を考察する2
第5回：ブッダに学ぶ④　悟りとは何か1
第6回：ブッダに学ぶ⑤　悟りとは何か2
第7回：ブッダに学ぶ⑥　苦を超える道1
第8回：ブッダに学ぶ⑦　苦を超える道2
第9回：親鸞に学ぶ①　概説
第10回：親鸞に学ぶ②　人生の意義
第11回：親鸞に学ぶ③　理想と現実1
第12回：親鸞に学ぶ④　理想と現実2
第13回：親鸞に学ぶ⑤　苦悩の根源
第14回：親鸞に学ぶ⑥　救いとは何か
第15回：親鸞に学ぶ⑦　共に生きる道
第16回：定期試験

授業外の学習方法

講義で学んだこと考えたことを、日常で経験する様々な出来事の中で確かめ、自己理解・他者理解に努めるようにすること。

成績評価方法

定期試験(40%)平常点(40%)小レポート(20%)による総合評価。
(平常点は授業への参加状況、受講態度等で総合的に判断します。)

成績評価基準

仏教思想に対する理解度と、講義で学んだ人間の課題を、自らの課題として考察できているかどうかを基準とする。

テキスト、参考図書
『ブッダと親鸞』(東本願寺出版部)、『歎異抄』(東本願寺出版部) また、適宜プリントを用意する。
その他(受講上の注意)
授業時に小レポートの他、個人ワーク、グループワークを実施する予定であるので、積極的に取り組むこと。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

哲学の世界観 (Philosophical Thinking)			担当教員	橋本　武志
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1221	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　人間学関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

建学の精神である仏教精神に基づく人間性の涵養と幅広い視野から物事をとらえ、高い論理性と的確な判断を下すことができる力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

古代からの西洋の哲学・思想が生み出してきたさまざまなものの見方を紹介する。また、そうしたものの見方が現代に及ぼしている影響について講義する。

授業の到達目標

哲学独自の思考方法や批判的思考に慣れ親しむことを通じて、社会人なら知っておくべき程度の、哲学・倫理学の基本的な概念を理解し、その術語を習得する。

授業の計画

第1回：オリエンテーションと「世界観」概念の説明
第2回：神話的世界観ではなぜ不十分なのか？(ミュートスからロゴスへ)
第3回：哲学的思考の発祥(プレソクラテス1)
第4回：哲学的思考の展開(プレソクラテス2)
第5回：ロゴス思想の展開と原子論へ(プレソクラテス3)
第6回：対話という方法の発明(ソクラテスのディアレクティケー1)
第7回：「知る」とはどういう営みか？(ソクラテスのディアレクティケー2)
第8回：何を知れば、物事を本当に知ったと言えるのか？(プラトンのイデア論1)
第9回：何を知れば、物事を本当に知ったと言えるのか？(プラトンのイデア論2)
第10回：「机がわりの箱」は、机なのか、それとも箱なのか？(アリストテレスの目的論と全体論)
第11回：「机がわりの箱」は、机なのか、それとも箱なのか？(アリストテレスの存在論)
第12回：宇宙観の変化が人間観・世界観に与えた影響1
第13回：宇宙観の変化が人間観・世界観に与えた影響2
第13回：身体は一種の機械なのか？(デカルトの心身二元論)
第14回：知識の源泉としての自我(デカルトの自我論・知識論)
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

毎回の講義を受けた後でその部分の配布資料とノートを見直して復習をし、次の授業に臨んでください。そのうえで、2回目の授業で配布する参考文献一覧から該当部分を読むなどして、より理解を深めてください。

成績評価方法

定期試験(80%)、平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況、受講態度、毎回の授業内小レポートの提出状況を総合して判断する)

成績評価基準

・哲学の基本的な用語や人名について、これを理解し、説明することができるか。
・授業で扱う西洋思想の流れを理解しているか。

テキスト、参考図書

テキストはとくに使用せず、適宜プリントを配布する。
参考図書については２回目の授業で一覧を配布するが、安価かつ容易に入手できるものを以下に記載しておく。
・岩田靖夫『ヨーロッパ思想入門』（岩波ジュニア新書） 岩波書店　2003
・伊藤邦武『物語　哲学の歴史』（岩波新書） 岩波書店　2012
・熊野純彦『西洋哲学史　古代から中世へ』（岩波新書） 岩波書店　2006
・熊野純彦『西洋哲学史　近世から現代へ』（岩波新書） 岩波書店　2006

その他（受講上の注意）

毎回授業内で小レポートを書いてもらう。私語は他の受講者の迷惑となるので厳禁。私語の目立つものはその場で注意するが、注意によっても改まらない場合、当日欠席扱いとするので注意されたい。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

文学の世界 (The World of Literature)			担当教員	柿本　真代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1222	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　人間学関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

建学の精神である仏教精神に基づく人間性の涵養と幅広い視野から物事をとらえ、高い論理性と的確な判断を下すことができる力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

よく知られている『白雪姫』や『シンデレラ』などの物語を題材に、現代のアニメーションや絵本と、明治大正期のものとを読み比べていく。比較を通して、時代やメディアごとに異なる思想を読み取る。

授業の到達目標

物語には、時代性や文化的背景が大きく反映されていることを理解し、物語の変容の要因を論じることができる。

授業の計画

第1回：オリエンテーション(授業の進め方、成績評価の仕方など)
第2回：『白雪姫』①ディズニーアニメーション
第3回：『白雪姫』②明治期の翻訳
第4回：『白雪姫』③白雪姫の絵本
第5回：近代日本とグリム童話
第6回：『シンデレラ』①
第7回：『シンデレラ』②
第8回：『シンデレラ』③
第9回：『シンデレラ』④
第10回：『雪の女王』①
第11回：『雪の女王』②
第12回：『雪の女王』③
第13回：アンデルセンの翻訳史①
第14回：アンデルセンの翻訳史②
第15回：まとめ

授業外の学習方法

授業開始時、毎回記入用紙を配布します。授業中に記入内容を説明しますので説明に沿って記入してください。記入用紙は返却しますので、学修の振り返りのために保存・活用してください。

成績評価方法

学期末レポート40%、記入用紙30%、スピーチ30%で総合的に評価します。

成績評価基準

物語には、時代性や文化的背景が大きく反映されていることを理解し、物語の変容の要因を論じることができるか。

テキスト、参考図書

テキストは使用しません。参考文献は授業中に紹介します。

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

美術の世界 (The World of Art)			担当教員	伊東　知之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1223	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　人間学関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

建学の精神である仏教精神に基づく人間性の涵養と幅広い視野から物事をとらえ、高い論理性と的確な判断を下すことができる力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

先史時代から現代までの美術の歴史を概観することによって美術史の特徴や普遍性について考察する。また、美術の中の絵画、彫刻、デザインといった各分野についてさらに詳しい具体的な内容を検証し、私たちの身の周りに存在する美術についても考察していく。そして、美術と人間の関わり、美術と社会との関わりを探究することによって美術の起源、存在理由等、美術の本質に迫りながら人間の営みとしての美術を総合的に見ていく。

授業の到達目標

・美術の歴史や分野について説明できる。
・ある程度、美術作品として自分なりに工夫して表現できる。

授業の計画

第1回：美術の起源・なぜ人は絵を描くのか
第2回：美術の歴史①(古代)
第3回：美術の歴史②(ルネッサンス)
第4回：美術の歴史③(ルネッサンス)
第5回：美術の分野①(絵画)
第6回：美術の分野②(彫刻)
第7回：美術の分野③(工芸)
第8回：美術の分野④(デザイン)
第9回：美術展見学
第10回：美術作品について①
第11回：美術作品について②
第12回：美術作品について③
第13回：作品発表
第14回：美術の歴史④(近代、現代)
第15回：まとめ

授業外の学習方法

・授業内容について事前に自分なりに調べたり、作品を見たりする。
・授業内容について復習をする。
・テーマに基づいて作品を制作する。

成績評価方法

レポート(60%)、作品(20%)、平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物の提出状況等を総合して判断する。)

成　績　評　価　基　準
・美術の歴史や意味について説明できるか。 ・テーマに基づいて自分なりに工夫して作品ができたか。
テキスト、参考図書
必要に応じて資料を配布する。
その他（受講上の注意）
美術展の見学を土曜日に行う。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

スポーツB (Sports B)			担当教員	野田　政弘、乾　典子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1234	1単位	2年後期	実技	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　環境・健康生活科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

建学の精神である仏教精神に基づく人間性の涵養と幅広い視野から物事をとらえ、高い論理性と的確な判断を下すことができる力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

青年期におけるスポーツ体験は、体力づくりや健康の維持増進に関する知識と実践方法の理解を促進し、生涯にわたってスポーツやレクリエーションを楽しむことのできる基礎を培う。健康の維持、体力の向上を図るとともに仲間づくりをとおした生涯スポーツへの展開を、宿泊体験を伴うスキーをとおして行なう。

授業の到達目標

野外の自然に囲まれた環境に身をおくことによって、自然に親しみ多様で変化に富んだ魅力を知る。スキーの基礎理論および実技をとおして自然を理解し、安全かつ効果的に知識や技術を習得する。宿泊体験を伴う集団行動をとおして、他者理解や他者との人間関係を形成する。

授業の計画

2年生の後期(2月下旬)に集中形式(3泊4日)で行なう。
実習地は長野県栂池高原スキー場を予定
第1日：大学にて事前指導ガイダンス(実習の概要、用具・服装、スキー場の説明等)
第2日：午前、大学からスキー場へ移動、到着後開講式、用具の確認
　　午後「班別講習①」(班分け、課題設定)、夜(ミーティング)
第3日：午前「班別講習②」、午後「班別講習③」、夜(ミーティング)
第4日：午前「班別講習④」、午後「班別講習⑤」、夜(ミーティング)
第5日：午前「総合滑走」、 午後スキー場から大学へ移動

授業外の学習方法

事前にDVD、図書などの視聴覚資料でスキーやスキー場の情報を学習しておく。授業で習った技術をイメージして体の動きを確認する。

成績評価方法

技術の習得(60%)、レポート(20%)平常点(20%)。平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成績評価基準

基本的な技術を習得できている。スキー場での安全確認ができている。用具を適切に管理できている。授業に積極的な態度で取り組んでいる。

テキスト、参考図書

必要に応じて資料を配付する。

その他(受講上の注意)

天候により授業日程、内容を変更することがある。受講者が少数の場合は非開講(中止)とすることがある。諸経費(交通費・宿泊費・リフト券など)が別途必要となる。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

生活と環境B (Life Science and the Environment B)			担当教員	篭谷　隆弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1231	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　環境・健康生活科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

建学の精神である仏教精神に基づく人間性の涵養と幅広い視野から物事をとらえ、高い論理性と的確な判断を下すことができる力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

-

授業の内容

情報機器の構成・動作原理、ソフトウェアやネットワークの理解

授業の到達目標

近年、我々人間の生活に多大な影響を及ぼす社会基盤のひとつとなった、コンピュータや情報通信技術を中心とする情報環境について理解することができる。主な内容として、デジタル情報の基礎的理解、ハードウェアの構成、オペレーティングシステム、アプリケーションソフトウェアの種類、ネットワークの活用と技術、情報関連の法律と倫理、情報リスクとセキュリティについて用語やその関連性、関連数値の計算について説明ができる。

授業の計画

第1回：授業の目的・概要説明、資料配付、コンピュータの種類と基本的な仕組み
第2回：2進数、基数変換
第3回：16進数、基数変換
第4回：入力装置
第5回：中間試験
第6回：出力装置・デジタル情報のデータ表現
第7回：記憶装置
第8回：補助記憶装置
第9回：CPU・インターフェイス
第10回：オペレーティングシステム
第11回：中間試験
第12回：アプリケーションソフト、文字フォント
第13回：文字コード、ファイル形式
第14回：ネットワーク・LAN
第15回：インターネット
第16回：定期試験

授業外の学習方法

この授業では、非常に多くの関連する用語について、その意味などを理解する必要があるので、情報関連の用語事典なども参考にすること。
また、eラーニング教材による復習課題を課すので、全てを行うこと。

成績評価方法

中間試験・定期試験による結果を60%、復習課題の結果を40%とする。

成　績　評　価　基　準
情報機器の構成・動作原理、ソフトウェアやネットワークについて、用語やその関連性について説明できるか。 関連する数値の計算を行えるか。
テキスト、参考図書
配布するプリントをテキストとする。
その他(受講上の注意)
欠席した場合には、授業の進度を確認し次週に備えること。また、課された課題は必ず提出すること。 また、学習内容に関連する検定・資格(ITパスポート試験、.IC３等)の取得をめざすことで、より一層の知識を習得することが望ましい。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

生活と環境D (Life Science and the Environment D)			担当教員	藤原　英一
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1232	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　環境・健康生活科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

建学の精神である仏教精神に基づく人間性の涵養と幅広い視野から物事をとらえ、高い論理性と的確な判断を下すことができる力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

これからの時代にふさわしい生活環境のあり方、人や環境にやさしい生活者、まちづくりの担い手となるための知識やノウハウを学ぶ。

授業の到達目標

持続可能な地域社会を実現するうえで必要となる人と自然にやさしい生活環境づくりに向けて、以下のとおり、我々が行動すべきこと、地域社会に働きかけるべきことを体得することを目標とする。
○人と環境にやさしいまちづくりに関する知識・考え方を体得する
○人と環境にやさしいライフスタイル・暮らし方に関する知識・考え方を体得する
○ワークショップ手法を通じて、他者との意見交換や共同による新たな創造に繋げる能力を高める

授業の計画

授業は講義形式を中心とし、節目節目において課題のプレゼンテーションを交える。
第1回：美しいまち、魅力的なまち、人と自然にやさしいまちと住まい
第2回：美しいまち(1)　景観とは何か、美しい景観のつくられ方、夜間景観を楽しむ
第3回：美しいまち(2)　花と緑のまちづくり
第4回：美しいまち(3)　歴史的環境を活かしたまちづくり
第5回：美しいまち(4)　アートを活かしたまちづくり
第6回：美しいまち(5)　人と自然にやさしいまちづくり
第7回：美しいまち(6)　私のおすすめまちづくり(課題1：プレゼン)
第8回：環境にやさしいライフスタイル(1)　生活行動と環境への負荷の関係
第9回：環境にやさしいライフスタイル(2)　地域社会と共生した暮らし方
第10回：環境にやさしいライフスタイル(3)　これからの社会における家のあり方
第11回：環境にやさしいライフスタイル(4)　環境負荷の少ない暮らし方の提案(課題2：プレゼン)
第12回：ワークショップの実践(1)　手法と活用事例の学習
第13回：ワークショップの実践(2)　プレゼンに向けたグループディスカッション
第14回：ワークショップの実践(3)　プレゼンに向けたグループディスカッション
第15回：ワークショップの実践(4)　私たちが考えるこれからのまちづくりの提案(課題3：プレゼン)

授業外の学習方法

常に授業の到達目標や授業の計画にあるキーワードについて、新聞、テレビ、下記の参考文献等から情報を収集して望むこと。3つの課題に関してはプレゼンも含めて評価の対象とするため、準備を怠らないこと。
○『地域を変えるデザイン』　筧裕介著(英治出版)　2011年
○『コミュニティデザインの時代』　山崎亮著(中公新書)　2012年
○『ソーシャルデザイン実践ガイド』　筧裕介著(英治出版)　2013年　他

成績評価方法

3回の課題プレゼン80%、ふりかえりシートの内容と受講姿勢20%で評価する。

成　績　評　価　基　準
成績評価の基準は、授業の到達目標に対する学修成果の達成度を以下の基準に基づいて評価する。 ○人と環境にやさしいまちづくり・ライフスタイルに関して必要となる視点やその理由に関する理解度 ○ワークショップ手法の理解度、他者との意見交換や共同による新たな創造に繋げる技術等の体得状況
テキスト、参考図書
使用しない。必要に応じて参考資料を配布する。
その他(受講上の注意)
授業の妨げとなる行為(私語、携帯、受講姿勢不良等)が著しい者には退席を命ずることがある。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ふくい総合学 (General Studies of Fukui)			担当教員	金田　明彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1233	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　環境・健康生活科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

建学の精神である仏教精神に基づく人間性の涵養と幅広い視野から物事をとらえ、高い論理性と的確な判断を下すことができる力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

様々な分野・専門領域における「ふくい」についての現況の課題や行政施策等の理解促進を目的とする授業です。本授業では特に「ふくい」の中の「越前市」に焦点をあて、市職員を招聘し、学生へ市計画等の事業の現状、将来構想、施策の特徴を講義し、「市を取り巻く状況」に始まり、「戦略的取組」「行政課題」や「今後の展望」などを取り上げます。
後半は、本学各学科各領域からの視点で越前市や地域との関連性について取り上げ、大学の立地自治体の特徴、文化の理解を深めてもらえるような内容となっています。

授業の到達目標

本学が立地する自治体である「越前市」の特徴や行政全般、さらには独自の文化等に対しての理解が深まる。

授業の計画

第1回：「ふくい」総合学」趣旨説明＜ 総論＞越前市を取り巻く状況
第2回：戦略的取り組み＜まちづくり編＞コウノトリと里山の人たちとの共生、かこさとしさんと読書のまち宣言
第3回：戦略的取り組み＜福祉編＞検診を受けよう　新しい健康づくり、子どもの笑顔が輝く環境づくり
第4回：戦略的取り組み＜文化編＞国府が置かれた歴史あるまちづくり、たけふ菊人形63年のあゆみ
第5回：戦略的取り組み＜産業編＞越前市の産業活性化(産業活性化プラン・工芸の里構想)
第6回：戦略的取り組み＜環境編＞下水道事業で人と環境のネットワークづくり、もったいない！捨てないで資源回収しよう
第7回：行政課題(1)地域が支える災害に強いまちづくり、まちづくりと交通体系
第8回：行政課題(2)越前市の財政、越前市で暮らそう！～新生活を始めるなら中心市街地がおすすめ～
第9回：行政課題(今後)オープンデータを利用したまち情報の発信、きくりんがちょっといいこと教えちゃうリン！～越前市の嬉しい情報をお届けします～
第10回：行政課題(展望)市民協働プロセスの確立、市民交流・ネットワークづくり
第11回：心理学の視点から
第12回：コミュニケーション学の視点から
第13回：健康栄養学の視点から
第14回：子ども教育学の視点から
第15回：まとめ

授業外の学習方法

履修登録時に配付する各回の授業内容を事前に読み予習しておくこと。また、復習としては授業時の板書やプリントに基づいて各自のノートに授業内容をまとめておくこと。

成績評価方法

レポート(60%)　平常点(40%)
(平常点は、授業時のリアクションペーパー、受講態度等を総合して判断する。)

成　績　評　価　基　準
「越前市の人とまち、その文化」というテーマで、「越前市の取組み」についての現況の課題や今後の施策内容等を理解できたか。
テキスト、参考図書
毎回プリントを配布。
その他（受講上の注意）
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語Ⅱa (English Ⅱa)			担当教員	加藤　優子、サルバトレ マイケル、内藤　　徹
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1241	1単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　外国語科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

建学の精神である仏教精神に基づく人間性の涵養と幅広い視野から物事をとらえ、高い論理性と的確な判断を下すことができる力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

Following a 'Warm up' activity to introduce the theme of the unit, students will be introduced to the relative grammar and vocabulary through a series of listening and speaking exercises. Reading and writing exercises will follow to reinforce their knowledge of the material.

授業の到達目標

Expanding upon the material covered in English I a and I b, further attention will be given to developing the four 'core' skills of language learning. Students will continue to develop the speaking skills necessary to express themselves in general areas of conversation such as talking about their daily lives and exchanging personal information. Listening practice will focus on listening for key words and specific information. Reading exercises will focus on the important skills of scanning for general understanding as well as reading for specific content. Writing activities will center on developing the student's ability to express his or her own thoughts and opinions in an easy-to-understand manner.

授業の計画

第1回：Class Introduction
第2回：Unit 1 Lifestyles①
第3回：Unit 1 Lifestyles②
第4回：Unit 2 Leisure①
第5回：Unit 2 Leisure②
第6回：Unite 3 Getting along①
第7回：Unite 3 Getting along②
第8回：Review
第9回：Unit 4 Interests①
第10回：Unit 4 Interests②
第11回：Unit 5 Telling a story①
第12回：Unit 5 Telling a story②
第13回：Unit 6 Celebrations①
第14回：Unit 6 Celebrations②
第15回：Review
第16回：Examination

授業外の学習方法

Before each unit students are to familiarize themselves with the class material by reviewing the 'Grammar reference' pages for each unit and completing the exercises on those pages. Students must also complete homework assignments as instructed by their teachers; such as the written assignments suggested in the textbook, and accessing the online 'Digibook'(listening activities and video worksheets) to reinforce their in-class studies, as well as other assignments. Furthermore, students will have a TOEIC study component to do throughout the course.

成　績　評　価　方　法
Outside-class Assignments - 25% Proactive In-class Participation - 25% Examination - 50%
成　績　評　価　基　準
Students' abilities to participate in conversations and express opinions on a variety of subjects will be evaluated as well as their abilities to express opinions in written form and to comprehend reading passages
テキスト、参考図書
Breakthrough Plus 2 - Miles Craven - 2012 - Macmillan Publishers Limited - ISBN 978- 0 -230-43819- 4 & THE TOEIC TEST TRAINER Reading Supplement - Jefferey Hulihan, et al - 2007- Thomson Learning - ISBN 978- 4 -902902-87- 7
その他（受講上の注意）
At the start of each class a short time will be spent on preparation for the TOEIC. Students are encouraged to take the TOEIC during their studies at the university. Also, at least one class will be held in the E-Lounge（E-301） during the semester to familiarize the students with the latest available English study materials.
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語Ⅱb (English Ⅱb)			担当教員	加藤　優子、サルバトレ マイケル、フッド晴美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1242	1単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　外国語科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

建学の精神である仏教精神に基づく人間性の涵養と幅広い視野から物事をとらえ、高い論理性と的確な判断を下すことができる力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

Following a 'Warm up' activity to introduce the theme of the unit, students will be introduced to the relative grammar and vocabulary through a series of listening and speaking exercises. Reading and writing exercises will follow to reinforce their knowledge of the material.

授業の到達目標

Expanding upon the material covered in English I a and I b, further attention will be given to developing the four 'core' skills of language learning. Students will continue to develop the speaking skills necessary to express themselves in general areas of conversation such as talking about their daily lives and exchanging personal information. Listening practice will focus on listening for key words and specific information. Reading exercises will focus on the important skills of scanning for general understanding as well as reading for specific content. Writing activities will center on developing the student's ability to express his or her own thoughts and opinions in an easy-to-understand manner.

授業の計画

第1回：Class Introduction
第2回：Unit 7 Food & Drink①
第3回：Unit 7 Food & Drink②
第4回：Unit 8 Rules①
第5回：Unit 8 Rules②
第6回：Unit 9 Adventures①
第7回：Unit 9 Adventures②
第8回：Review
第9回：Unit 10 Health①
第10回：Unit 10 Health②
第11回：Unit 11 Comparisons①
第12回：Unit 11 Comparisons②
第13回：Unit 12 The Modern World①
第14回：Unit 12 The Modern World②
第15回：Review
第16回：Examination

授業外の学習方法

Before each unit students are to familiarize themselves with the class material by reviewing the 'Grammar reference' pages for each unit and completing the exercises on those pages. Students must also complete homework assignments as instructed by their teachers; such as the written assignments suggested in the textbook, and accessing the online 'Digibook'(listening activities & video worksheets) to reinforce their in-class studies, as well as other assignments. Furthermore, students will have a TOEIC study component to do throughout the course.

成 績 評 価 方 法
Outside-class Assignments - 25% Proactive In-class Participation - 25% Examination - 50%
成 績 評 価 基 準
Students' abilities to participate in conversations and express opinions on a variety of subjects will be evaluated as well as their abilities to express opinions in written form and to comprehend reading passages
テキスト、参考図書
Breakthrough Plus 2 - Miles Craven - 2012 - Macmillan Publishers Limited - ISBN 978- 0 -230-43819- 4 & THE TOEIC TEST TRAINER Reading Supplement - Jefferey Hulihan, et al - 2007- Thomson Learning - ISBN 978- 4 -902902-87- 7
その他(受講上の注意)
At the start of each class a short time will be spent on preparation for the TOEIC. Students are encouraged to take the TOEIC during their studies at the university. Also, at least one class will be held in the E-Lounge(E-301) during the semester to familiarize the students with the latest available English study materials.
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

生命科学 (Life Science)			担当教員	鳴瀬　　碧、野村　卓正
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2205	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

管理栄養士に必要な生命科学に関する知識を習得し、実際に医療チームの一員として行動する際に倫理学的に対応できる能力を養う

授業の到達目標

・「生命とは何か」「ヒトはどのように進歩してきたのか」「死とは何か」、生命の基本単位、発生と分化等、生命の誕生から死まで生命活動の一連の流れについて説明することができる。
・生命倫理の必要性を理解し、説明することができる。
・生命科学と生命に関する諸問題について学び、医療チームの一員としての管理栄養士に必要な倫理観を養う。

授業の計画

第1回：生命科学はどのように誕生したか
第2回：生命とは何か(生物とは何か)
第3回：細胞：生命の基本単位
第4回：生命の設計図：ゲノム・遺伝子・DNA
第5回：発生と分化①
第6回：発生と分化②
第7回：死とは何か
第8回：感染と免疫
第9回：健康とは何か：食と健康
第10回：生命倫理
第11回：発生期の倫理
第12回：終末期の倫理
第13回：医学研究の倫理
第14回：移植医療の倫理
第15回：疫学研究の倫理
第16回：定期試験

授業外の学習方法

新聞・ニュース等で報じられる生命科学や倫理に関する諸問題について日頃から興味を持つようにしてください。各回の講義内容についてよく復習し、生命科学技術の発展に対する自分の考えと医療チームの一員としての倫理観を構築すること。

成績評価方法

定期試験(70%)、課題レポート(20%)、平常点(10%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断する)

成　績　評　価　基　準
・「生命とは何か」「ヒトはどのように進歩してきたのか」「死とは何か」、生命の基本単位、発生と分化等、生命の誕生から死まで生命活動の一連の流れについて説明することができるか。 ・臓器移植、再生医療技術の発展等、医学研究にまつわる倫理的な諸問題について正しく理解できているか。
テキスト、参考図書
東京大学生命科学教科書編集委員会編『文系のための生命科学(第２版)』羊土社 2012年
その他(受講上の注意)
・授業中の私語や携帯電話など、他の学習の妨げとなる場合には退室させるので留意すること。 ・課題レポートなどは、提出期限を守ること。提出遅延は減点の対象となる。また、提出期限後は受領しない場合があるので注意すること。 ・疑問点や不明点があれば直ちに質問すること。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

公衆衛生学 (Public Health)			担当教員	鳴瀬　　碧
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2206	2単位	2年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格(選択)

授業の内容

集団的に人を捉えた予防医学が公衆衛生学であり、人々の健康状態の現状について学び、健康保持・増進を目的とした法律および施策について理解を深める。

授業の到達目標

・公衆衛生の概念とその重要性について理解し、説明することができる。
・人間を集団として捉え、人々の健康と環境および生活習慣との関わり、健康評価の方法等を理解し、説明することができる。
・集団としての健康の保持・増進に関する法律および施策について理解し、説明することができる。

授業の計画

第1回：社会と健康
第2回：環境と健康①(環境汚染と健康)
第3回：環境と健康②(環境衛生)
第4回：保健統計①
第5回：保健統計②
第6回：健康状態・疾病の測定と評価①(疫学の概念)
第7回：健康状態・疾病の測定と評価②(疫学の方法)
第8回：生活習慣の現状と対策
第9回：主要疾患の疫学と予防対策
第10回：保健・医療・福祉の制度
第11回：地域保健・母子保健
第12回：成人保健・高齢者保健・介護
第13回：産業保健
第14回：学校保健
第15回：公衆衛生学のまとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

新聞・ニュース等で報じられる健康の保持・増進に関する取組について日頃から興味を持つようにしてください。各回の講義内容についてよく復習し、疾病の予防や健康増進について公衆衛生学の重要性の理解に努めてください。

成績評価方法

定期試験(70%)、小テスト(20%)、平常点(10%)
(平常点は、授業への参加状況・授業態度等を総合して判断する)

成　績　評　価　基　準
・公衆衛生の概念について理解できているか。 ・環境と健康について理解できているか。 ・保健統計について理解できているか。 ・疫学の概念およびその手法について理解できているか。 ・健康増進のための取組みや疾病の予防対策について理解できているか。 ・保険・医療・福祉の制度や取組みについて理解できているか。
テキスト、参考図書
健康・栄養科学シリーズ『社会・環境と健康(改訂第４版)』　編集／田中平三・徳留信寛他　南江堂
その他(受講上の注意)
・授業中の私語や携帯電話など、他の学習の妨げとなる場合には退室させるので留意すること。 ・疑問点や不明点があれば直ちに質問すること。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

公衆衛生学実習 (Public Health Practicum)			担当教員	鳴瀬　　碧
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2207	1単位	2年後期	実習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格(選択)

授業の内容

公衆衛生管理に関する実験とグループ学習。
人々の健康を社会集団として捉え、その社会集団の健康の維持増進を目的として、環境因子(水、光、温度等)と健康、環境因子の異常原因、疾病の予防等について改善技術や方策などを理解する。

授業の到達目標

・公衆衛生学の講義で習得した基礎的知識を実習を通してより深く理解する。
・人々の健康問題に関心を持ち、問題を掘り起こし、健康の維持増進のための解決法の開発に貢献できる能力を習得する。
・チーム医療や保健衛生に関わる業務に必要な協調性とコミュニケーション能力を養成する。

授業の計画

第1回：ガイダンス
　　環境衛生実験①　(水質検査Ⅰ：水の硬度測定①)
第2回：環境衛生測定②　(水質検査Ⅱ：水の硬度測定②、残留塩素、細菌検査等)
第3回：環境衛生測定③　(水質検査Ⅲ：DO、BOD、COD等)
第4回：環境衛生測定④　(水質検査Ⅳ：第3回のつづき、まとめ)
第5回：健康管理に関する実験　(体力測定・疲労測定)
第6回：環境衛生実験⑤　(居住環境検査Ⅰ)
第7回：環境衛生実験⑥　(居住環境検査Ⅱ)
第8回：保健統計・疫学①
第9回：保健統計・疫学②
第10回：保健統計・疫学③
　　グループ調査研究①　(テーマ選定)
第11回：グループ調査研究②　(調査手法の検討)
第12回：グループ調査研究③　(情報収集および分析①)
第13回：グループ調査研究④　(情報収集および分析②)
第14回：グループ調査研究⑤　(プレゼンテーション資料の作成)
第15回：グループ調査研究⑥　(調査研究成果のプレゼンテーション)

授業外の学習方法

新聞・ニュース等で報じられる健康の保持・増進に関する取組について日頃から興味を持つようにしてください。各回の講義内容についてよく復習し、疾病の予防や健康増進について公衆衛生学の重要性の理解に努めてください。

成績評価方法

環境衛生測定レポート(20%)、保健統計および疫学のレポート(20%)、調査研究発表および報告書(40%)、平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度、課題への取組み方等を総合して判断する)

成　績　評　価　基　準

・環境衛生の分析方法および結果の評価方法を習得できているか。
・保健統計について理解できているか。
・疫学の概念およびその方法について理解できているか。
・グループで他者と強調して、調査テーマの選定、調査計画の立案、情報収集、情報の疫学的分析およびディスカッションを行い、得られた成果をまとめることができるか。

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

角野猛他編　『公衆衛生学実験・実習』　　建帛社　2011年
その他、必要に応じて、資料(実験ノート)を配布する。

そ　の　他(受　講　上　の　注　意)

・公衆衛生学の講義やテキスト、参考書により、あらかじめ自分達(５～７名程度のグループ)がどのような研究をしたいか、どのような研究ができるかを考えておいて欲しい。
・授業中の携帯電話など、他の学習の妨げとなる場合には退室させるので留意すること。
・課題レポートなどは、提出期限を守ること。提出遅延は減点の対象となる。また、提出期限後は受領しない場合があるので注意すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

基礎生化学 (Fundamental Biochemistry)			担当教員	尼子　克己
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2212	2単位	2年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格(選択)

授業の内容

管理栄養士が行う栄養指導等の業務内容は、最終的には生化学的知識がその基盤となっている。そうした観点から、本講義では生体構成成分の構造と機能および生体物質の代謝・動態を中心にして、人体の構造と機能を体系的に理解する。先ず、細胞・細胞小器官の構造と機能、生体成分の構造と機能を学ぶ。次いで、エネルギー代謝、糖質代謝、脂質代謝、タンパク質・アミノ酸代謝、核酸の構造・機能と代謝、無機質代謝、ホルモンやビタミンの機能と作用メカニズム、血液、免疫のしくみについて、体系的に学習する。

授業の到達目標

① 生体構成の階層性、細胞・細胞小器官の構造と機能および各生体成分の構造と機能を説明することができる。
② エネルギー代謝の統合性を理解した上で、糖質代謝、糖尿病、脂質代謝、高脂血症と動脈硬化、メタボリックシンドロームおよびタンパク質・アミノ酸代謝について、相互の関連性を含めて説明することができる。
③ 核酸の構造・機能と代謝、無機質代謝、代謝へのホルモン機能と作用メカニズム、ビタミンの化学的性質と役割、血液、免疫のしくみなどについて、体系的に説明することができる。

授業の計画

第1回：はじめに：学習目標の理解、生体構成の階層性、細胞と細胞小器官の構造と機能
第2回：生体構成成分の構造と機能.タンパク質とアミノ酸、酵素と酵素活性中心
　　糖質、脂質、生体膜の構造と機能、核酸・ヌクレオチドの構造と機能
第3回：物質代謝とその調節、統合性、同化と異化、電子伝達系とエネルギー論的理解
第4回：糖質代謝：解糖系、TCA回路、ペントースリン酸回路
第5回：グリコーゲン、糖新生、血糖調節、糖尿病
第6回：脂質代謝：リポタンパク質、高脂血症、脂肪酸の生合成
第7回：コレステロール代謝、動脈硬化、プロスタグランジン類、メタボリックシンドローム
第8回：タンパク質・アミノ酸代謝：尿素回路、アミノ酸と誘導体の合成
第9回：核酸とヌクレオチド代謝：生合成と分解、痛風
第10回：ホルモン機能と作用メカニズム、シグナル伝達
第11回：ビタミンの性質と役割、補酵素としての機能、カルシウム代謝と調節など
第12回：血液、ヘモグロビンと血漿タンパク、血液凝固、免疫のしくみ
第13回：遺伝と遺伝子：DNA複製と修復、遺伝子発現の調節機構
第14回：遺伝子組換え技術の基礎：遺伝子クローニング、PCR、塩基配列決定
第15回：栄養学領域での応用：食材や病原菌のDNA検査、遺伝子組換え食品、分子栄養学への招待、まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

・授業に先立ち、テキストの関連ページや配布資料を読んでおいて下さい。別途、予習教材を指定することがあります。
・毎回、授業の復習時にテキストや配布資料を見直し、整理をすると共に、わからないところがあったら、その度に図書館で調べたり、担当教員に質問するなどして、疑問を積み残さ無いようにすること。

成績評価方法

定期試験60%、ミニテスト30%、および授業への取り組み態度など10%を基準に総合的に評価する。

成績評価基準

① 細胞・細胞小器官の構造と機能および各生体成分の構造と機能を説明することができるかどうか。
② エネルギー代謝の統合性を理解した上で、糖質代謝、糖尿病、脂質代謝、高脂血症と動脈硬化、メタボリックシンドロームおよびタンパク質・アミノ酸代謝について、相互の関連性を含めて説明することができるか。
③ 核酸の構造・機能と代謝、無機質代謝、代謝へのホルモン機能と作用メカニズム、ビタミンの化学的性質と役割、血液、免疫のしくみなどについて、体系的に説明することができるか。

テキスト、参考図書

テキスト：伊東ら編・「管理栄養士講座 生化学・分子生物学」第2版・建帛社・2013年 および 講義用配布資料
授業で直接は取り扱わないが、薗田編・「栄養科学イラストレイティッド演習版 生化学ノート」(改訂第2版・羊土社・2012)は、基礎生化学およびその周辺で扱う用語を覚えるためのドリルとして活用できるので推奨する。
参考図書：
(1)山口編、成田著・「基礎からしっかり学ぶ生化学」・羊土社・2014年。管理栄養士課程用に編集されたものではないが、より論理的に理解したい学生に適した記述となっている。
(2)佐々木ら著・「サクセス管理栄養士講座 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち：生化学」・第一出版・2012年。必要最小限がコンパクトに記述されている。
(3)奥・山田編・「基礎から学ぶ生化学」改訂第2版・南江堂・2014。同じ内容を違う角度から分類・説明している点で参考になる。

その他(受講上の注意)

① 1年次に履修した基礎化学、生物学、有機化学、基礎栄養学などの授業内容を、復習しておくこと。
② 遅刻、欠席、私語等は、授業の理解の妨げになるので、厳に慎むこと。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

栄養生化学 (Nutritional Biochemistry)			担当教員	池田　涼子、鈴木　和春
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2213	2単位	2年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>　正常な人体の仕組みについて、細胞レベルから組織・器官レベルまでの機能を理解する。

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)
栄養士免許(必修)
食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格(選択)

授業の内容

生体を構成する物質の化学的性質を明らかにし、これらの物質が生体内でどのような化学的変化を受けているかを視聴覚資料などを通して観察し、栄養素が摂取された後、どのような経路を経て生体機能の維持に役立つかを学ぶ。

授業の到達目標

・栄養素の代謝、エネルギー代謝の機構、調節相互関係(血液や尿など)等を生体側に立って理解できる。
・からだの仕組みと生体成分の異化作用、同化作用について理解し、説明することができる。
・生きているということの物質代謝がほどよく滞りなく行われることが理解できる。
以上に列記した正常な人体の仕組みについての細胞レベルから組織・器官レベルまでの機能を理解する。

授業の計画

第1回：生体内におけるタンパク質、糖質、脂質の相互交換～三大栄養素の機能と相互作用～
第2回：エネルギーはどのように産生され利用されているのか～エネルギーの変換と利用～
第3回：タンパク質の代謝(1)　～タンパク質の体内動態、アミノ酸代謝～
第4回：タンパク質の代謝(2)　～糖原性とケト原性～
第5回：尿とはどのようにして作られるのか～尿素サイクル、ケトン体の生成～
第6回：糖質の代謝(1)　～フルクトース代謝とグリセロール合成～
第7回：糖質の代謝(2)　～ガラクトース代謝、ペントースリン酸経路～
第8回：糖質の代謝(3)　～糖新生経路～
第9回：脂質の代謝(1)　～脂肪酸の生合成と分解
第10回：脂質の代謝(2)　～コレステロールの代謝と機能～
第11回：物質代謝を調節するもの　～ビタミンB群～
第12回：物質代謝を調節するもの　～ビタミンCとビタミンE～
第13回：物質代謝を調節するもの　～ビタミンAとビタミンD～
第14回：物質代謝を調節するもの　～補因子としてのミネラル～
第15回：核酸の代謝
第16回：定期試験

授業外の学習方法

・学習する各単元ごとの重要なキーワードを各自ノートにファイルすることをすすめる。
・栄養・食品・からだに関する興味ある雑誌・単行本を読む習慣をつける。

成績評価方法

定期試験(70%)、レポート・課題など(20%)、平常点(10%)
(平常点は、授業への参加状況、授業態度などを総合して判断する)

成　績　評　価　基　準

・食物成分の生体での異化作用、同化作用について理解できているか。
・各栄養素の代謝について理解できているか。
・エネルギーの変換と利用について理解できているか。
・生命維持において物質代謝が恒常性のもとに滞りなく行われることが理解できているか。

テキスト、参考図書

教科書：奥恒行・山田和彦編集　谷　政八共著　「基礎から学ぶ生化学」(改訂第２版)　南江堂(2014)
参考図書：中野昭一編　「図説　からだの仕組みと働き、ヒトのからだ」　医歯薬出版(2010)
　　木村修一・古野純典 翻訳監修 最新栄養学〔第10版〕― 専門領域の最新情報 ―　健帛社(2014)

その他(受講上の注意)

授業を妨げる行為は退室させるので留意すること。
不明なことや疑問があれば聞きに来ること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

基礎生化学実験 (Experiments in Biochemistry)			担当教員	尼子　克己
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2214	1単位	2年後期	実験	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格(選択)

授業の内容

生化学の基本である生体成分の性質、酵素の特性ならびに遺伝子の性質を、それらに関する実験実技を通して理解する。グループに分かれて実験を行い、実験報告書(レポート)を作成し提出する。授業内容・学生の理解度に応じて課題を与えることがある。生化学実験は、一般の科学実験と同様に実験を遂行するにあたり基礎的な知識が必要であるとともに、慎重かつ細やかな観察力が不可欠である。実験の再現性を高めるために必要な事項、ならびに実験結果から推察される事象を論理的に導くことに意識する。

授業の到達目標

正常な人体の仕組みについて、個体とその機能を構成する遺伝子レベル細胞レベルから組織・器官レベルまでの構造や機能を 実験を通して理解する。学生一人一人が実験を通して生化学実験の基礎的な手法を習得するとともに、各種測定の原理を理解する。さらに酵素の基本的性質と栄養素・生体成分の性質と代謝について、教科書の記載に体験を伴った理解を加えることを到達目標とする。

授業の計画

第1回　ガイダンス：主要実験器具・装置と実験概要の説明
第2回　生体の成分の分析－1　肝グリコーゲンの分離・定量(1)－加水分解と分離
第3回　生体の成分の分析－2　肝グリコーゲンの分離・定量(2)-検量線作成と定量
第4回　生体の成分の分析－3　ビタミンの定量(1)
第5回　生体の成分の分析－4　ビタミンの定量(2)
第6回　生体の成分の分析－5　ペーパークロマトグラフィーによるアミノ酸の定性
第7回　生体の成分の分析－6　GC/MSによる揮発性物質の検出(1)
第8回　生体の成分の分析－7　GC/MSによる揮発性物質の検出(2)
第9回　酵素の基本的性質－1　酵素の失活・至適温度
第10回　酵素の基本的性質－2　活性化エネルギー・至適pH
第11回　酵素の基本的性質－3　ミカエリス定数と最大反応速度
第12回　酵素の基本的性質－4　阻害様式の検討
第13回　遺伝子の解析-1　遺伝子検査(1)：ゲノムDNAの分離
第14回　遺伝子の解析-2　遺伝子検査(2)：DNAの定量と純度検定
第15回　遺伝子の解析-3　遺伝子検査(3)：PCR-RFLPによるSNPs解析
第16回　定期試験

授業外の学習方法

授業内で出題される課題について調べ、まとめる。実験レポートについては原理・考察を記述する際に必ず参考文献を引用し、出典を明記すること。各回のキーワードは生化学を修得するための基本となるため、よく理解するよう努めること。

成績評価方法

レポート50%、定期試験40%、平常点10%とし、合計で評価する。
(平常点は、授業への参加状況。受講態度等から総合的に判断する。)

成 績 評 価 基 準

生化学実験の基礎的な手法が習得できているか。各種測定の原理を理解しているか。酵素の基本的性質と栄養素・生体成分の性質と代謝について、教科書の記載と実験結果の関係を合理的に説明できるか。

テキスト、参考図書

テキスト：独自に作成した実験書を分冊して配布する。授業内容に応じて適宜、参考図書の紹介、資料の配布をおこなう。

参考図書：

はじめてみよう生化学実験	山本克博編	三共出版	2008年
生命科学のための化学実験	高橋知義他編	東京教学社	2007年
生理・生化学実験第4版	谷政八編	地人書館	2007年

その他（受講上の注意）

実験室に入室する際は必ず白衣・上履きを着用し、タオル・ハンカチを持参すること。長い髪はまとめ、実験操作に支障をきたす化粧などはしないこと。安全管理上、授業中の指示や実験室使用のルールについては必ず従うこと。指示に従わない者、危険な行為に及ぶ者については実験を中止し、退去を命じることがある。
レポートは提出期限を厳守すること。期限外の提出は原則として認めない。また、期限内に提出された場合でも内容不十分な場合は再提出となる。
欠席については補講として追実験を実施する。日程については担当教員に相談すること。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

病理学 (Pathology)			担当教員	加藤　卓次
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2216	2単位	2年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格(選択)

授業の内容

総論的事項として循環障害、炎症、腫瘍などの発病機構を理解し、各論的事項では、各臓器、各器官別の疾病の成因、病態、診断、治療、予防等を体系的に理解できるように教授する。あわせて、各種疾病に対する食事療法の意義および応用についての知識を深めるよう講義する。

授業の到達目標

各臓器、各器官別の疾病の成因、病態、診断、治療、予防および各種疾病に対する食事療法の意義および応用について説明できる。

授業の計画

第1回：加齢・疾患に伴う変化(加齢、疾患に伴う変化、個体の死)
第2回：疾患診断の概要(問診・診察、主な症候、臨床検査)
第3回：疾患治療の概要(治療計画、治療の方法、末期患者の治療)
第4回：糖尿病
第5回：脂質異常症、高尿酸血症・痛風
第6回：消化器系疾患
第7回：循環器系疾患
第8回：腎・尿路系疾患
第9回：内分泌系疾患
第10回：神経系疾患
第11回：呼吸器系疾患
第12回：運動器系疾患
第13回：生殖器系・血液系疾患
第14回：免疫・アレルギー系疾患
第15回：感染症
第16回：定期試験

授業外の学習方法

教科書、授業時の板書やプリントに基づいて、各自のノートに授業の内容を整理しまとめて必ず繰り返し復習すること。理解が不十分な箇所については、質問すること。

成績評価方法

定期試験(80%)、平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します)

成績評価基準

各臓器、各器官別の疾病の成因、病態、診断、治療、予防および各種疾病に対する食事療法の意義および応用について説明できる。

テキスト、参考図書
－サクセス管理栄養士講座－『人体の構造と機能及び疾病の成り立ちⅡ』 加藤昌彦　第一出版　2013年 講義時にプリントを配布する
その他（受講上の注意）
講義中の私語は厳重に禁止する。疑問点や不明点があればすぐに質問すること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床医学概論 (Medical Science Compendium)			担当教員	加藤　卓次
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2217	2単位	2年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)

授業の内容

栄養アセスメント、栄養療法を適切に行うためには、患者の病態を正確に把握することが重要である。その前提として、各種疾患の病因、機序、症状、診断、食事療法も含めた治療、予防について分かりやすく講義する。あわせて、わが国の医療の現状と特徴についても教授する。

授業の到達目標

患者の病態を正確に把握し栄養指導、栄養療法を行ううえで必要な、各種疾患の病因、機序、症状、診断、食事療法も含めた治療、予防について説明できる。

授業の計画

第1回：わが国の医療対策の特徴
第2回：医療施設と医療関係者の現況
第3回：臨床医学における診療科
第4回：糖尿病
第5回：肥満、るい痩、痛風
第6回：高脂血症、動脈硬化症
第7回：高血圧、低血圧
第8回：心疾患
第9回：腎炎とネフローゼ症候群
第10回：腎不全と透析療法
第11回：消化管の疾患
第12回：肝疾患、膵疾患
第13回：中枢神経系疾患
第14回：血液疾患
第15回：内分泌疾患
第16回：定期試験

授業外の学習方法

教科書、授業時の板書やプリントに基づいて、各自のノートに授業の内容を整理しまとめて必ず繰り返し復習すること。理解が不十分な箇所については、質問すること。

成績評価方法

定期試験(80%)、平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します)

成績評価基準

患者の病態を正確に把握し栄養指導、栄養療法を行ううえで必要な、各種疾患の病因、機序、症状、診断、食事療法も含めた治療、予防について説明できる。

テキスト、参考図書
－サクセス管理栄養士講座－『人体の構造と機能及び疾病の成り立ちⅡ』 加藤昌彦　第一出版　2013年 講義時にプリントを配布する
その他（受講上の注意）
講義中の私語は厳重に禁止する。疑問点や不明点があればすぐに質問すること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

運動生理学 (Exercise Physiology)			担当教員	鳴瀬　碧
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2218	2単位	2年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)

授業の内容

運動はスポーツ選手のみならず一般の人々の体力づくりや健康の維持・増進に欠くことができない。しかし、運動の効果は運動の種類、強度、時間、頻度などによって異なるため運動についての正しい知識が求められる。筋収縮の機序、運動時の代謝、生理機能の変化、健康増進のための運動、疾患の運動療法などについて学ぶ。

授業の到達目標

筋収縮の機序、運動時の代謝、生理機能の変化、健康増進のための運動、疾患の運動療法などについて説明できる。

授業の計画

第1回：運動生理学とは
第2回：健康と運動
第3回：筋収縮のしくみ
第4回：運動時の生理機能
第5回：運動時のエネルギー代謝
第6回：運動と栄養素代謝
第7回：運動と食事
第8回：運動と疲労
第9回：運動と環境
第10回：メディカルチェック
第11回：運動処方の実際
第12回：運動基準
第13回：身体トレーニング
第14回：運動療法
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習では、各回の講義の前にテキストを読んで概要を把握し、疑問点を整理しておく。講義を受けた後は、講義ノートや配布資料を見直して復習し、日常生活におけるスポーツや運動の効果について理解や関心を深める。

成績評価方法

定期試験(80%)、平常点(20%)。平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成績評価基準

筋収縮の機序、運動時の代謝、生理機能の変化、健康増進のための運動、疾患の運動療法などについて説明できている。

テキスト、参考図書
岸恭一編、「栄養科学シリーズNEXT運動生理学 人体の構造と機能第２版」、講談社サイエンティフィック2011
その他（受講上の注意）
講義で学んだ知識を日常の生活や身体運動に活用できるようにすること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

食品加工実習 (Food Science and Technology Practicum)			担当教員	浦本　裕美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2224	1単位	2年後期	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

食品衛生管理者・食品衛生監視員　任用資格(選択)

授業の内容

食品加工学や食品学総論で学んだ知識をより深く総合的に理解するために、いろいろな加工食品を小規模に工夫して製造する。

授業の到達目標

食品成分の化学的特性を利用して、栄養面、安全面、嗜好面の各特性を高める食品加工の原理を理解するとともに、さまざまな食品を開発する能力を修得する。

授業の計画

第1回：ガイダンス
第2回：アイスクリームの加工①
第3回：アイスクリームの加工②
第4回：ジャム(びん詰)の加工①
第5回：ジャム(びん詰)の加工②
第6回：パンの加工①
第7回：パンの加工②
第8回：こんにゃくの加工①
第9回：こんにゃくの加工②
第10回：かまぼこの加工①
第11回：かまぼこの加工②
第12回：豆腐の加工①
第13回：豆腐の加工②
第14回：みかんのシラップ漬け(缶詰)の加工①
第15回：みかんのシラップ漬け(缶詰)の加工②

授業外の学習方法

食品加工についてのキーワードおよび加工理論をよく理解するように努める。

成績評価方法

レポート(90%)、平常点(10%)、平常点は授業への参加状況・受講態度等を総合して採点する。

成績評価基準

・食品加工の原理を理解して製品を評価できる。
・加工原理と製造方法を関連付けて製品を上手くつくることができる。

テキスト、参考図書

谷口亜樹子編著　食品加工学と実習・実験　光生館　2013、プリント配布

その他（受講上の注意）
・白衣、タオルを持参すること。 ・実習費は別途に集金する。詳細は、第１回目のガイダンスで説明する。 ・授業の計画の予定は、変更されることがある。また、授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業第１回目のガイダンスにて説明する。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

食品衛生学 (Food Hygiene)			担当教員	野村　卓正
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2126	2単位	2年･前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科 / 専門科目 / 専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)、食品衛生監視員･食品衛生管理者(任用資格)(選択)

授業の内容

食品衛生の概念を理解し、食糧の生産・加工・流通・消費の過程に潜むリスク要因を把握すると同時に、リスクを排除し「食の安全」を担保するための法整備・行政施策・食品関連技術に関する知識を習得する。
―食品衛生に関する法規・行政制度について理解し、食品が安全であるための原理・原則、食品の安全性の確保の方策などについて理解する―

授業の到達目標

人の命と健康を守る栄養士/管理栄養士としての職責を自覚する。
食品衛生と関連法規について理解する。
食品の生産･流通体制について理解する。
食品の変質による安全性低下とその衛生管理法の原理について理解する。
食中毒の分類と発生状況について理解する。
食中毒の原因物質(微生物･天然自然毒･化学物質等)について理解する。
食品による感染症･寄生虫症について理解する。
食品中の汚染物質について理解する。
食品添加物の種類と管理制度について理解する。
食品衛生管理の制度や手段について理解する。

授業の計画

第1回：食品衛生概念成立の歴史的経緯と現在の諸問題
第2回：食品供給行程と食品汚染
第3回：食品の腐敗･変質①　(食品の品質変化により生じる有害作用)
第4回：食品の腐敗･変質②　(食品の加工･保存･調理技術)
第5回：食品添加物　(分類、規格･基準、表示等)
第6回：食品中の有害汚染物質　(農薬･重金属･放射能･環境汚染物質等)
第7回：食品毒性学概論とリスク分析　(安全性評価)
第8回：食中毒①　(総論･疫学)
第9回：食中毒②　(細菌性食中毒)
第10回：食中毒③　(ウイルス性食中毒)
第11回：食中毒④　(天然自然毒性食中毒)
第12回：食品による感染症･寄生虫症①　(人獣共通感染症)
第13回：食品による感染症･寄生虫症②　(寄生虫症)
第14回：食品衛生関連法令･行政制度および施策①　(法令)
第15回：食品衛生関連法令･行政制度および施策②　(制度)
第16回：定期試験
※授業計画は、進捗状況等により変更する可能性があります。

授業外の学習方法

①定期試験は、「自筆ノート」の持込みを認めますので、毎週、授業の内容をまとめるよう努めてください。
②開講期間中に、関連書籍(専門書)を少なくとも１冊読み、内容をレポートにまとめてください。
③新聞･ニュース等で報じられる食品衛生に関する事件について日頃から関心を持ち、それらの事件がどのような原因で発生し、どのような脅威を公衆衛生に及ぼしたのか洞察し、再発防止の取組みの妥当性について評価するために必要な食品衛生学上の知識を修得できているか否か常に自己点検してください。

成績評価方法

①平常点　：15%(平常点は、授業への参加状況･受講態度等を総合して採点します。)
②レポート：35%(レポート課題①(20%) / レポート課題②(15%))
③定期試験：50%

成績評価基準

人の命と健康を守る栄養士/管理栄養士としての職責を自覚できているか。
食品衛生と関連法規について理解しているか。
食品の生産･流通体制について理解しているか。
食品の変質による安全性低下とその衛生管理法の原理について理解しているか。
食中毒の分類と発生状況について理解できているか。
食中毒の原因物質(微生物･天然自然毒･化学物質等)について理解できているか。
食品による感染症･寄生虫症について理解できているか。
食品中の汚染物質について理解できているか。
食品添加物の種類と管理制度について理解できているか。
食品衛生管理の制度や手段について理解できているか。

テキスト、参考図書

テキスト：
①『サクセス管理栄養士養成講座シリーズ：食品と健康②　食品衛生学』 第一出版　2010年
②『基礎･応用･臨床　微生物学と実験』 光生館　2014年 【購入済】
③ 配布資料(講義ノート形式)
参考図書：
① 熊谷進・山本茂貴編『食の安全とリスクアセスメント』 中央法規　2004年
②『大量調理施設　衛生管理のポイント(４訂)』 中央法規　2011年

その他(受講上の注意)

授業開始時に出欠状況を確認する。
遅刻は、授業の１/３(30分)以内に申し出れば認め、欠席１/３回としてカウントする。
それ以上の大幅な遅刻は欠席として扱う。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

食品衛生学実験 (Experiments in Food Hygiene)			担当教員	野村　卓正
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2227	1単位	2年･前期	実験	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科 / 専門科目 / 専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

① 管理栄養士国家試験受験資格 [必修]
② 食品衛生監視員(任用資格) / 食品衛生管理者(任用資格) [選択]

授業の内容

食の安全確保の実現に必要な食品衛生検査の原理を理解し、理化学的および微生物学的食品検査技術を習得する。
食品を介して人の健康を害する諸要因の特質･作用、危害の特質とその防止方法、食品をとりまく環境因子(水･光･温度等)と健康、環境因子の異常原因、予防、改善技術や方策などを理解する。

授業の到達目標

様々な環境(土壌･水中等)あるいは生物(食物)の体表面に微生物群が常在していることを理解する。
主な食物群について生産･流通･調理行程を把握し、各行程における微生物汚染のリスクを把握する。
主な食品群について主要な一次汚染微生物を列挙し、取扱い上留意すべき点を説明できる。
本邦における「飲用的の水」の法律上の定義と各検査項目の意味を理解する。
食品･添加物に設定されている規格･基準(成分規格および製造･加工･保存基準等)を把握する。
「大量調理施設衛生管理マニュアル」の各プロトコルを把握し、その意義と効果を説明できる。
主な衛生指標微生物の公衆衛生上の意義とその検査法(公定法および迅速簡易法)を理解する。
食品に付着あるいは内在している微生物を分離･培養し、検出する方法の原理を理解する。
各種微生物(真菌･細菌･ウイルス･寄生虫等)の生育要件を把握し、培養できる。
各種微生物(真菌･細菌等)を適切な染色法を用いて顕微鏡下で観察できる。
食中毒の病因となる主な細菌について、それぞれの微生物学特徴を利用して分離･培養できる。
微生物による汚染防止法の原理と効果を理解し、検体の無菌的操作法を修得する。
微生物を殺滅する各種の滅菌法および消毒法の原理と効果を理解する。
微生物の増殖を抑制する各種の保存法および加工･調理法の原理と効果を理解する。
食品の変質による品質および安全性の低下とその評価法の方法論を理解する。
食用油脂類の品質と安全性の指標とその検査法の原理を理解する。
食品の安全性を確保するための原理と方法論(加工･調理等)を理解する。
「食中毒予防の三原則」について、その意義と効果を説明できる。
各種抗原(特定原材料等)を検出する免疫学的検査法の原理を理解する。

授　業　の　計　画

第１回：食品衛生検査概論(品質と安全性の管理)
第２回：理化学的検査①：特定原材料の検査(アレルギー原因物質の検出)
第３回：理化学的検査②：食品の品質評価法の原理
第４回：理化学的検査③：油脂の品質評価(酸価･過酸化物価･カルボニル価)
第５回：理化学的検査④：食品添加物の検査(発色剤の検出)
第６回：食品衛生管理のまとめ①
第７回：微生物学的検査①：生鮮野菜類の塩素消毒効果の確認①
第８回：微生物学的検査②：生鮮野菜類の塩素消毒効果の確認②
第９回：微生物学的検査③：穀類の衛生管理効果の確認①
第10回：微生物学的検査④：穀類の衛生管理効果の確認②
第11回：微生物学的検査⑤：畜肉類の加熱調理効果の確認①
第12回：微生物学的検査⑥：畜肉類の加熱調理効果の確認②
第13回：微生物学的検査⑦：鮮魚介類の冷凍･冷蔵効果の確認①
第14回：微生物学的検査⑧：鮮魚介類の冷凍･冷蔵効果の確認②
第15回：食品衛生管理のまとめ②
※授業計画は、気候や進捗状況等により変更する可能性があります。

授 業 外 の 学 習 方 法

実験報告書(レポート)の作成にあたっては、第一に「精確な観察」、第二に「論理的な考察」に留意して記述してください。
① なぜそのような観察結果が得られたのか？
② 観察された事実･現象から何が示唆されるか？
③ どのような仮説を構築すれば、それらの観察結果を矛盾なく説明できるのか？
④ そして、どのような検証実験を行えば、その仮説の真偽を検証できるのか？
について固定観念を排してすなおに「考察」しながら「結論」を導いてください。
参考図書は、授業の際にも紹介します。

成　績　評　価　方　法

① 平常点　：30%(平常点は、授業への参加状況･受講態度等を総合して採点する。)
② レポート：50%(レポート(各10%) x５)
③ 確認試験：20%(確認試験(各10%) x２)
欠席回数が５回を上回った場合(６回以上欠席)、単位認定の資格を失います。
実験報告書(レポート)の評価にあたっては、第一に「精確な観察」、第二に「論理的な考察」を重視します。

成　績　評　価　基　準

様々な環境(土壌･水中等)あるいは生物(食物)の体表面に微生物群が常在していることを理解しているか。
主な食物群について生産･流通･調理行程を把握し、各行程における微生物汚染のリスクを把握しているか。
主な食品群について主要な一次汚染微生物を列挙し、取扱い上留意すべき点を説明できるか。
本邦における「飲用的の水」の法律上の定義と各検査項目の意味を理解しているか。
食品･添加物に設定されている規格･基準(成分規格および製造･加工･保存基準等)を把握しているか。
「大量調理施設衛生管理マニュアル」の各プロトコルを把握し、その意義と効果を説明できるか。
主な衛生指標微生物の公衆衛生上の意義とその検査法(公定法および迅速簡易法)を理解しているか。
食品に付着あるいは内在している微生物を分離･培養し、検出する方法の原理を理解しているか。
各種微生物(真菌･細菌･ウイルス･寄生虫等)の生育要件を把握し、培養できるか。
各種微生物(真菌･細菌･寄生虫卵等)を適切な染色法を用いて顕微鏡下で観察できるか。
食中毒の病因となる主な細菌について、それぞれの微生物学特徴を利用して分離･培養できるか。
微生物による汚染防止法の原理と効果を理解し、検体の無菌的操作法を修得しているか。
微生物を殺滅する各種の滅菌法および消毒法の原理と効果を理解しているか。
微生物の増殖を抑制する各種の保存法および加工･調理法の原理と効果を理解しているか。
食品の変質による品質および安全性の低下とその評価法の方法論を理解しているか。
食用油脂類の品質と安全性の指標とその検査法の原理を理解しているか。
食品の安全性を確保するための原理と方法論(加工･調理等)を理解しているか。
「食中毒予防の三原則」について、その意義と効果を説明できるか。
各種抗原(特定原材料等)を検出する免疫学的検査法の原理を理解しているか。

テキスト、参考図書

□テキスト：
①『基礎･応用･臨床　微生物学と実験』 光生館　2014年 【購入済】
②配布資料(実験ノート形式)
□参考図書：
① 熊谷進・山本茂貴編『食の安全とリスクアセスメント』 中央法規　2004年
②『大量調理施設　衛生管理のポイント(４訂)』 中央法規　2011年

その他(受講上の注意)

毎回の実験への出席(実験作業への参加)を重視し、授業開始時に出欠状況を確認します。
遅刻は、授業の１/３(45分)以内に申し出れば認め、欠席１/３回としてカウントします。
それ以上の大幅な遅刻は欠席として扱います。
実験用白衣および靴を持参しなかった場合、平常点から減点します。
授業中の私語･携帯電話(スマートフォン)の使用等で説明を聞かず実験に失敗した場合、平常点から減点します。
安全を期するために白衣を着用し、正確な実験操作を妨げるおそれのある華美な服装は慎むこと。実験は、ガス･火･薬品を使用し危険が伴うため、安全確保の決まりごとをよく理解するよう努め、これを遵守してください。
故意に安全衛生上の危険行為をとる者には、実験停止･室外退去の措置を取り、さらに単位を認定しないこともあります。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

調理科学実験 (Experiments in Fundamental Cookery Science)			担当教員	佐藤　真実
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2231	1単位	2年前期	実験	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)　食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格(必修)

授業の内容

健康を維持・増進できる「おいしい食事」を作るための調理学の理論を実験を通して科学的に理解する。

授業の到達目標

調理操作によって起こる食品の化学的・物理的変化について、実験を通して理論を裏づけ、より高い技術の向上と応用、高度の研究手法を学ぶ。
化学的・物理的手法を用いて食品のおいしさ、調理することの意義、調理学の重要性について学ぶ。

授業の計画

第1回：実験の基礎
第2回：食べ物の評価方法①
第3回：食べ物の評価方法②
第4回：調理の五感を鍛える実験①
第5回：調理の五感を鍛える実験②
第6回：栄養・健康性に視点をあてた実験①
第7回：栄養・健康性に視点をあてた実験②
第8回：調理による理化学的変化に視点をあてた実験①　(米、小麦)
第9回：調理による理化学的変化に視点をあてた実験②　(いも、野菜)
第10回：調理による理化学的変化に視点をあてた実験③　(肉、魚、卵)
第11回：調理による理化学的変化に視点をあてた実験④　(乳、砂糖、油脂)
第12回：調理による理化学的変化に視点をあてた実験⑤　(でん粉、寒天・カラギーナン・ゼラチン)
第13回：調理による理化学的変化に視点をあてた実験⑥　(嗜好飲料、冷凍食品)
第14回：調理機器の特徴を理解するための実験
第15回：まとめ・発表
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習として、各回に関連する教科書、プリントの頁をよく読み、あらかじめ疑問点等を考えておくこと。
復習として、実験データ、資料などを見直して、詳細にレポートをまとめておくこと。

成績評価方法

定期試験(40%)　平常点(20%)　実験レポート(40%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度、レポートの提出状況等を総合して判断します。)

成績評価基準

化学的・物理的手法を用いて食品のおいしさ、調理操作における食品の変化や諸現象を化学的に説明できる。

テキスト、参考図書
今井悦子・安原安代編　『健康を考えた調理科学実験』　（株）アイ・ケイコーポレーション　2012年
その他（受講上の注意）
衛生・安全に配慮すること。実験室では、必ず白衣を着用し、アクセサリーやマニキュアは厳禁とする。長い髪は束ねること。 授業への出席状況、実習態度、レポートの提出を重視する。欠席した場合は必ず補講を受講する。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

応用栄養学Ⅱ(栄養・体力アセスメント) (Applied Nutrition Ⅱ(Nutrition and Physical Activity Assessment))			担当教員	石黒　真理子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2235	1単位	2年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)

授業の内容

各ライフステージにおける身体機能、生理的特徴、代謝等を踏まえ、栄養アセスメント(栄養状態の評価と判定)や栄養評価に応じた栄養管理の基本的な考え方について学ぶ。

授業の到達目標

各ライフステージでの機能、生理、代謝等を理解した上で栄養アセスメントから栄養管理の計画、実施、評価にいたるプロセスを理解する。

授業の計画

第1回：栄養マネジメントの概要
第2回：栄養アセスメントの方法1(身体測定、食事調査)
第3回：栄養アセスメントの方法2(臨床診査、臨床検査)
第4回：栄養ケア・栄養プログラム(計画、目標設定、実施)
第5回：栄養評価・判定
第6回：メタボリックシンドロームの栄養ケア・マネジメント
第7回：要支援・要介護者の栄養ケア・マネジメント
第8回：健康づくりのための身体活動基準2013、アクティブガイド
第9回：定期試験

授業外の学習方法

授業前に予習を行い、興味・関心をもって授業に参加すること。終了後は配布プリントの内容を整理し、理解を深めること。

成績評価方法

定期試験(80%)、平常点(20%)(平常点は授業への参加状況、取組み態度等を総合的に判断する)

成績評価基準

各ライフステージでの機能、生理、代謝等について理解しているか。栄養アセスメント、栄養管理の計画、実施、評価の手法を適切に説明できるか。

テキスト、参考図書

健康・栄養科学シリーズ 「応用栄養学」戸谷誠、伊藤節子,渡邊令子　編、南江堂、第4版
※必要に応じてプリントを配布

その他(受講上の注意)

授業計画は進捗状況により変更することがあります。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

応用栄養学Ⅲ(ライフステージ栄養学) (Applied Nutrition Ⅲ(Life Stage))			担当教員	鈴木　和春、石黒　真理子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2236	2単位	2年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)

授業の内容

妊娠・授乳期から授乳期、幼児期、学童期、青年期、成人期を経て高齢期に至るプロセスにおいて各ステージの生理的特徴や栄養状態等の変化を理解し、それに基づいた基本的な栄養アセスメントのあり方を学ぶ。また、各ステージで留意すべき栄養関連の病態・疾患に関しても学修する。

授業の到達目標

各ライフステージの生理的特徴、栄養状態の特徴、栄養アセスメント、食事摂取基準、栄養関連疾患について理解し、栄養管理を行える能力を養う。

授業の計画

第1回：妊娠期、胎児期の特徴
第2回：妊娠期、胎児期の栄養
第3回：授乳期の特徴
第4回：授乳期の栄養
第5回：新生児期の特徴と栄養
第6回：乳児期の特徴
第7回：乳児期の栄養
第8回：幼児期の特徴
第9回：幼児期の栄養
第10回：学童期の特徴と栄養
第11回：思春期の特徴と栄養
第12回：成人期の特徴と栄養
第13回：更年期の特徴と栄養
第14回：高齢期の特徴
第15回：高齢期の栄養
第16回：定期試験

授業外の学習方法

授業前に予習を行い、興味・関心をもって授業に参加すること。終了後は配布プリントの内容を整理し、理解を深めること。

成績評価方法

定期試験(80%)　平常点(20%)(平常点は授業の取組み態度等)

成績評価基準

各ライフステージでの生理的特徴、栄養状態の特徴、栄養アセスメント、食事摂取基準、栄養関連疾患について理解しているか。さらに、栄養管理の進め方を適切に説明できるか。

テキスト、参考図書
健康・栄養科学シリーズ 「応用栄養学」戸谷誠、伊藤節子、渡邊令子　編(南江堂) ※必要に応じてプリントを配布
その他(受講上の注意)
授業計画は進捗状況により変更することがあります。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

応用栄養学Ⅳ(ライフスタイル・スポーツ栄養学) (Applied Nutrition Ⅳ(Lifestyle and Sports))			担当教員	石黒　真理子、桑守　豊美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2237	2単位	2年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

異常環境、ストレス、およびスポーツ実施者の栄養生理を理解し、栄養管理を行える能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)

授業の内容

スポーツ実施者の健康・体力、競技力の向上を支援するための栄養管理、異常環境、ストレス下での健康を維持増進するための栄養管理の方法を学習する。

授業の到達目標

スポーツ実施者および異常環境、ストレス下の栄養生理を理解し、栄養管理を行うための知識と技術を修得する。

授業の計画

第1回：スポーツと栄養の概要
第2回：運動時の生理的特徴とエネルギー代謝
第3回：スポーツと健康づくり
第4回：スポーツと栄養1(瞬発的運動)
第5回：スポーツと栄養2(持久的運動)
第6回：栄養管理の方法
第7回：スポーツ栄養のまとめ
第8回：環境と栄養の概要
第9回：生体リズムと栄養
第10回：ストレスと栄養
第11回：高温と栄養
第12回：低温と栄養
第13回：高圧・低圧と栄養
第14回：無重力状態の栄養
第15回：環境と栄養のまとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

授業前に予習を行い、興味・関心をもって授業に参加すること。終了後は授業内容をノートに整理し、知識と技術を修得すること。

成績評価方法

定期試験(80%)　平常点(20%)　(平常点は授業の取組み態度等を総合的に評価する)

成績評価基準

スポーツ実施者および異常環境、ストレス下の栄養生理について理解できたか。またこれらの環境における栄養管理の手法について説明できるか。

テキスト、参考図書
1)健康・栄養科学シリーズ「応用栄養学」戸谷誠、伊藤節子、渡邊令子　編、南工堂　第4版 2)「新版コンディショニングのスポーツ栄養学」樋口満　編　布村出版　2013年 3)必要に応じてプリント配布
その他(受講上の注意)
授業計画は進捗状況により変更することがあります。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

応用栄養学実習 (Applied Nutrition Practicum)			担当教員	三浦　　努
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2238	1単位	2年通年(隔週)	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)

授業の内容

妊娠や発育、加齢などによる心身・栄養状態等の変化の特徴を捉え、現代社会の多様な食環境等を踏まえて、各時期の栄養量の基準に応じた食事計画とその実際にについて学ぶ。
また、特に幼児期、学童期における栄養管理ならびに高齢者の咀嚼や嚥下障害などの介護食への対応も実習する。

授業の到達目標

各ライフステージによる心身・栄養状態等の変化に対応した栄養状態の評価・判定(栄養アセスメント)や栄養管理、食事方針を学び、各時期に起きる栄養上の問題点への栄養管理の対応を修得する。

授業の計画

第1回：ガイダンス　～授業計画の詳細と応用栄養学実習についての説明
第2回：妊娠期の栄養(栄養アセスメント)
第3回：妊娠期、授乳期食の対応
第4回：乳児期の栄養(栄養アセスメント)
第5回：乳児期食の対応(乳汁栄養、離乳栄養)
第6回：幼児期栄養(栄養アセスメント)
第7回：幼児期食の対応
第8回：学童期栄養(栄養アセスメント)
第9回：アレルギーについて
第10回：アレルギー対応食について
第11回：成人期の栄養について(栄養アセスメント)
第12回：メタボリックシンドロームと生活習慣病
第13回：高齢期栄養について(栄養アセスメント)
第14回：高齢者症候群と栄養ケア
第15回：介護食の対応
第16回：定期試験

授業外の学習方法

応用栄養学実習に関連する科目(基礎栄養学、応用栄養学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)で学修したことを復習して理解を深めておくこと。また、予習としては、各回の関連するところを教科書等にて目を通しておき、疑問点などをまとめておこくと。復習は授業時に配布されたプリントや板書についてを各自でまとめて授業後の理解を深めるとともに、レポート課題においては、さらに深い知識の修得と応用力を養うようにすること。

成績評価方法

レポート40%、定期試験40%、実習への取り組み態度等20%の総合評価(100%)

成 績 評 価 基 準

各ライフステージによる心身・栄養状態の評価・判定(栄養アセスメント)が的確にできること。
各ライフステージにおける栄養管理と食事方針が的確に立案でき対応できること。
各時期に起きる栄養上の問題点への栄養管理と食事方針が的確に立案でき対応できること。

テキスト、参考図書

「応用栄養学実習書 第6版」 西岡葉子・宮澤節子編　学建書院　2015年
「食品成分表2014」 香川芳子監　女子栄養大学出版部　2014年

その他(受講上の注意)

栄養士免許資格、管理栄養士国家試験受験資格を修得するためには、この科目は必修になるので積極的に実習に臨むこと。実習に臨む態度として、安全と衛生を期するために白衣(調理用)、室内用靴、タオルを持参すること。また、料理の味や香りに影響を与えるので、実習時には化粧等はしないこと。実習は、刃物、ガス、火を使用するので危険が伴うため、決まりごとについては遵守してもらう。指示に従わない者、危険行為や態度をとる者に対しては、実習停止の措置をとり、さらには単位を認定しないこともある。なお実習には連続性があるため、欠席や遅刻をすると内容理解の進展に支障をきたすことがある。遅刻は、安全衛生管理上、実習に参加させないこともある。授業の計画の予定は変更されることがある。授業内容や注意事項の詳細については、授業1回目のガイダンスの際に説明する。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

栄養教育論Ⅰ(栄養教育論) (Nutrition Education Ⅰ)			担当教員	坂本　達昭
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2239	2単位	2年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)

授業の内容

栄養教育プログラムをマネジメントするために必要な事項、行動変容の支援に必要となる行動科学の理論、モデルについて学ぶ。理解を促すため練習問題を交えて講義を進める。

授業の到達目標

栄養教育プログラムを総合的にマネジメントするために必要となる、栄養状態、食行動、食環境等についてのアセスメント、栄養教育の実践、それらを評価する方法を理解している。
健康および生活の質(Quality of Life)の向上をめざした行動変容の支援に必要となる、行動科学の理論、モデルについても説明することができる。

授業の計画

第1回：栄養教育の概念、歴史
第2回：食生活の変遷
第3回：健康教育を基礎とする栄養教育
第4回：行動変容技法と概念
第5回：行動科学の理論とモデル1　ヘルスビリーフモデル
第6回：行動科学の理論とモデル2　社会的認知理論、計画的行動理論
第7回：行動科学の理論とモデル3　トランスセオレティカルモデル
第8回：栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル
第9回：第1～8回のまとめ
第10回：栄養教育マネジメント1　アセスメント
第11回：栄養教育マネジメント2　目標設定
第12回：栄養教育マネジメント3　教材・学習形態の選択
第13回：栄養教育マネジメント4　評価
第14回：栄養教育マネジメント5　まとめ
第15回：第10～14回のまとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

講義を受講した後、教科書、配布資料等を用いて復習を行なうこと。

成績評価方法

試験(70%)、平常点(30%)
平常点は、授業への参加状況、受講態度、小テストの結果等から評価する。

成　績　評　価　基　準
栄養教育プログラムを総合的にマネジメントするために必要となる、栄養状態、食行動、食環境等についてのアセスメント、栄養教育の実践、それらを評価する方法を理解しているか。 健康および生活の質(Quality of Life)の向上をめざした行動変容の支援に必要となる、行動科学の理論、モデルについても説明することができるか。
テキスト、参考図書
エッセンシャル栄養教育論　第3版、春木敏　編、医歯薬出版、2014年
その他(受講上の注意)
授業計画は進捗状況により変更することがある。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

公衆栄養学Ⅰ(地域栄養活動) (Public Health Nutrition Ⅰ(Community Involvement))			担当教員	三浦　　努
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2252	2単位	2年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

国や地域・職域集団の健康の保持増進を図るため、公衆栄養活動を展開できる能力。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)　栄養士免許(必修)

授業の内容

地域集団における健康・ＱＯＬの向上や疾病の発症と重症化予防のための食行動の変容を図る方法を学修する。

授業の到達目標

地域集団における食生活上に存在する課題を分析して捉え、食行動の変容を図るための公衆栄養マメジメントとして、対象者に見合った栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントの知識と技術を修得する。

授業の計画

第1回：ガイダンス－授業計画の詳細と公衆栄養学Ⅰ(地域栄養活動)についての説明－
第2回：公衆栄養学の概念
第3回：公衆栄養学の歴史
第4回：公衆栄養活動　(管理栄養士の役割)
第5回：栄養関係法令①　(栄養士法、健康増進法)
第6回：栄養関係法令②　(地域保健法、食育基本法)
第7回：食事摂取基準2015の概要
第8回：食事摂取基準2015の活用
第9回：国民健康・栄養調査　(目的・概要)
第10回：わが国の健康・栄養問題の現状と課題
第11回：わが国の栄養施策　(国や地域における健康増進施策)
第12回：公衆栄養マネジメント　(アセスメント)
第13回：公衆栄養マネジメント　(プログラムの目標設定)
第14回：公衆栄養マネジメント　(プログラムの計画・実施・評価　PDCAサイクル)
第15回：公衆栄養プログラムの展開(地域公衆栄養活動の事例)
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習としては、各回の関連するところを教科書等にて目を通しておき、疑問点などをまとめておこくと。復習は授業時に配布された資料を各自でまとめて授業後の理解を深める。課題の取り組みについては、さらに深い知識の修得と応用力を養うようにすること。

成績評価方法

定期試験60%、課題レポート20%、実習への取り組み態度等20%の総合評価(100%)

成績評価基準

地域集団における食習慣や生活習慣に存在する課題を分析して捉えることができる。
公衆栄養マメジメントとして、対象者に見合った栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントの知識と技術を修得できる。

テキスト、参考図書
1. 健康・栄養科学シリーズ　公衆栄養学　南江堂　2013年 2. サクセス管理栄養士講座　公衆栄養学　第一出版　2013年 3. 平成25年版　栄養士・管理栄養士必携　第一出版　2013年
その他（受講上の注意）
管理栄養士国家試験受験資格を取得するためには、この科目は必修となるので講義中は集中して聴講すること。また、他の学生の聴講の妨げとなるので、私語はしないこと。課題は必ず提出すること。なお講義内容は連続性があり、欠席や遅刻ををすると内容理解の進展に支障をきたすので、欠席・遅刻をしないように心がけること。また、授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業１回目のガイダンスにて説明する。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

給食経営管理論Ⅰ(給食計画) (Food Service Management Ⅰ (Planning))			担当教員	樽井　雅彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2255	2単位	2年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

給食施設の最前線(現場)で活用できるよう、多岐にわたる知識の習得を目標とする。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)
食品衛生管理者、食品衛生監視員任用資格(選択)

授業の内容

給食運営や食品流通、品質管理等について関連の資源との関係を総合的に述べ、栄養面、安全面のマネジメントが行えるようにする。給食が生活習慣病予防の観点から果たす役割、栄養・食事管理を効率的かつ安全に運営するためのシステム構築、マネジメントの手法について理解し、関係法規及び指導事項に精通し、栄養・食事、衛生・安全、食材・品質、生産(調理)の管理について修得する。

授業の到達目標

・給食運営に関する栄養面、安全面のマネジメントについて理解出来ている。

授業の計画

第1回：給食の概念
第2回：給食経営管理の概念
第3回：栄養・食事管理Ⅰ　(栄養・食事管理の概要、栄養・食事アセスメント)
第4回：栄養・食事管理Ⅱ　(栄養・食事計画、栄養・食事計画の実施)
第5回：給食の品質　(給食の品質の標準化)
第6回：給食の生産Ⅰ　(原価)
第7回：給食の生産Ⅱ　(食材、生産(調理)と提供)
第8回：給食の安全・衛生Ⅰ　(安全・衛生管理の概要、給食の安全・衛生の実際)
第9回：給食の安全・衛生Ⅱ　(事故・災害時対策)
第10回：施設・設備管理　(生産(調理)施設・設備設計、食事環境の設計と設備)
第11回：給食の人事・事務　(人事・労務管理、事務管理)
第12回：施設別給食経営管理Ⅰ　(病院、高齢者・介護保険施設)
第13回：施設別給食経営管理Ⅱ　(児童福祉施設、障害者福祉施設)
第14回：施設別給食経営管理Ⅲ　(学校給食、事業所給食、外食・中食・配食)
第15回：まとめ　(今期授業の確認)
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習として、教科書の各回に関連する頁を読み、事前に疑問点を考えておくこと。また復習として授業終了時に実施する小テストで未回答だった項目は各自のノートにまとめておくこと。

成績評価方法

定期試験(50%)、授業への取り組み(30%)、小テスト(20%)

成績評価基準

・給食運営に関する栄養面、安全面のマネジメントについて説明することができるか。
・関係法規の内容について理解しているか。

テキスト、参考図書
『栄養管理と生命科学シリーズ』 給食経営と管理の科学　理工図書　2013年
その他（受講上の注意）
学籍番号順の座席配置になるので、視力等で前方を希望する者は予め申し出ること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

給食経営管理論Ⅱ(マネジメント) (Food Service Management Ⅱ(Management))			担当教員	樽井　雅彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2256	2単位	2年通年(隔週)	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

給食施設の最前線(現場)で活用できるよう、多岐にわたる知識の習得を目標とする。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)

授業の内容

給食運営や食品流通の理解を基に、経営管理(組織・人事、会計・原価、情報処理、事故・災害時対策等)について関連の資源(食品の流通や食品開発の状況、給食に関わる組織やそれにかかる経費)との関係を総合的に述べ、栄養面、安全面に加え、経済面全般のマネジメントが行えるようにする。また、マーケティングの原理やその応用法、組織管理などマネジメントの基本的考え方や方法について述べる。また、さらに各種給食施設の特徴についても講義する。

授業の到達目標

・経営管理の意義と機能について説明出来る。
・給食とマーケティングについて説明出来る。
・給食の衛生管理について説明出来る。
・給食の人事管理について説明出来る。
・給食の原価構成について説明出来る。

授業の計画

第1回：給食経営管理の概要
第2回：管理栄養士の役割
第3回：経営管理の意義Ⅰ　(給食経営と組織)
第4回：経営管理の意義Ⅱ　(給食経営管理の評価)
第5回：経営管理の機能と展開Ⅰ　(栄養・食事管理)
第6回：経営管理の機能と展開Ⅱ　(品質の標準化)
第7回：マーケティングⅠ　(マーケティングの原理)
第8回：マーケティングⅡ　(マーケティングの活用)
第9回：衛生管理の意義Ⅰ　(HACCPシステムの運用)
第10回：衛生管理の意義Ⅱ　(危機管理対策)
第11回：給食の人事管理Ⅰ　(雇用形態)
第12回：給食の人事管理Ⅱ　(教育・訓練)
第13回：給食の原価構成Ⅰ　(原価計算)
第14回：給食の原価構成Ⅱ　(財務諸表)
第15回：財務管理
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習として、教科書の各回に関連する頁を読み、事前に疑問点を考えておくこと。また復習として授業時の板書や資料に基づいて各自のノートにまとめておくこと。

成績評価方法

定期試験(50%)、授業への取り組み(30%)、小テスト(20%)

成　績　評　価　基　準
・経営管理の意義と機能について説明出来るか。 ・給食とマーケティングについて理解しているか。 ・給食の衛生管理について理解しているか。 ・給食の人事管理について理解しているか。 ・給食の原価構成について理解しているか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
『栄養管理と生命科学シリーズ』 給食経営と管理の科学　理工図書　2013年
その他（受講上の注意）
板書などが見えにくい場合は、必ず申し出ること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

給食経営管理論実習 (Food Service Management Practicum)			担当教員	樽井　雅彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2258	1単位	2年通年(隔週)	実習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

給食経営管理論をはじめとする専門科目で学習した理論・技術の活用の場であることを認識する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)

授業の内容

給食経営管理論において習得した内容を基礎として、大量調理を始め、マネジメント能力が身につくよう課題ディスカッションなどにより体験的に学習する。

授業の到達目標

・栄養士として業務全体のマネジメントが理解出来る。
・各種手順表(給食作業手順表、作業工程表等)及び資料が作成出来る。
・給食における栄養管理、帳票類が理解出来る。
・原価管理(原価計算、損益分岐点分析、ABC分析等)が理解出来る。

授業の計画

第1回：オリエンテーション(授業の進め方、グループ構成、課題説明など)
第2回：実習計画1(給与栄養目標量の設定、食品構成表の作成、献立の立て方等)
第3回：実習計画2(実習室案内及び機器類の説明、清掃、試作のための発注業務など)
第4回：大量調理(調理作業開始時の準備と点検、検収と保管、調理作業工程管理、配食管理、検食と保存食、食堂の準備と配膳管理、下膳と食器洗浄、清掃と点検等)
第5回：大量調理と事務処理①(試作、改善点の検討、評価・改善のための調査法、実習の全体評価等)
第6回：大量調理と事務処理②(栄養管理の設定、生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案、試作等)
第7回：大量調理と事務処理③(栄養管理の設定、生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案等)
第8回：まとめ1(原価計算の演習、加重平均栄養成分表作成等)
第9回：大量調理と事務処理④(栄養管理の設定、生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案、試作等)
第10回：大量調理と事務処理⑤(栄養管理の設定、生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案、試作等)
第11回：大量調理と事務処理⑥(栄養管理の設定、生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案、試作等)
第12回：大量調理と事務処理⑦(栄養管理の設定、生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案、試作等)
第13回：大量調理と事務処理⑧(栄養管理の設定、生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案、試作等)
第14回：大量調理と事務処理⑨(栄養管理の設定、生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案等)
第15回：まとめ2(損益分岐点分析の演習、小テスト、大掃除等)
第16回：定期試験

授業外の学習方法

試作段階での疑問点をまとめておき、シミュレーション(模擬実習)で解消しておくこと。
また早期に各種手順表(給食作業手順表、作業工程表等)及び栄養媒体等を完成させ、教員へ提出すること。

成績評価方法

実習記録ノート及び演習(40%)、実習への取り組み(30%)、定期試験(20%)、小テスト(10%)

成　績　評　価　基　準
・栄養士係として業務全体をマネジメント出来るか。 ・各種手順表(給食作業手順表、作業工程表等)及び栄養媒体等が作成出来るか。 ・原価管理(原価計算、損益分岐点分析、ABC分析等)が理解できるか。 ・加重平均栄養成分表作成の手順が理解できるか。
テキスト、参考図書
給食経営管理実習　ワークブック(第2版)　(株)みらい　2011年
その他(受講上の注意)
大量調理実習なので特に体調管理と衛生管理に気をつけること。 ※下痢・発熱の有無や化膿創の有無及び身支度(毛髪、爪等)、手洗い等
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

栄養総合演習Ⅰ (Integrated Seminar Ⅰ)			担当教員	佐藤　裕保、三浦　　努、樽井　雅彦、 山本　浩範
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2259	2単位	2年後期・ 3年・4年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)

授業の内容

専門分野を横断して、栄養評価や管理が行える総合的な能力を養う。
オムニバスにて臨地実習の事前事後指導を行う。
事前指導として、臨地実習の意義についての指導および、実習に際しての具体的準備を行う。
実習先施設の特徴の把握、実習テーマ設定等を実習グループにて行う。
事後指導として、実習の成果および実習テーマについてまとめ、プレゼンテーションを行う。

授業の到達目標

実習の成果および実習テーマについて確認し、栄養士・管理栄養士業務について理解する。

授業の計画

第1回　：臨地実習オリエンテーションⅠ：実習の目的・目標・学ぶ姿勢について
第2回　：臨地実習オリエンテーションⅡ：社会人としてのマナーについて
第3回　：事前指導(給食運営実習)：実習施設の特徴について
第4回　：事前指導(給食運営実習)：実習テーマ設定グループディスカッション
第5回　：事前指導(給食運営実習)：実習ノートについて・提出書類等の確認
第6回　：事後指導(給食運営実習)：実習報告Ⅰ
第7回　：事後指導(給食運営実習)：実習報告Ⅱ
第8回a：事前指導(公衆栄養臨地実習)：実習施設の特徴について
第9回a：事前指導(公衆栄養臨地実習)：実習テーマ設定グループディスカッション
第10回a：事前指導(公衆栄養臨地実習)：実習ノートについて・提出書類等の確認
第11回a：事後指導(公衆栄養臨地実習)：実習報告Ⅰ
第12回a：事後指導(公衆栄養臨地実習)：実習報告Ⅱ
第8回b：事前指導(給食経営管理臨地実習)：実習施設の特徴について
第9回b：事前指導(給食経営管理臨地実習)：実習テーマ設定グループディスカッション
第10回b：事前指導(給食経営管理臨地実習)：実習ノートについて・提出書類等の確認
第11回b：事後指導(給食経営管理臨地実習)：実習報告Ⅰ
第12回b：事後指導(給食経営管理臨地実習)：実習報告Ⅱ
第13回　：実習報告会：全体会
　　(給食運営実習・公衆栄養臨地実習・給食経営管理臨地実習の発表、臨床栄養臨地実習の聴講)
第14回　：事前指導(臨床栄養臨地実習)：実習施設の特徴について
第15回　：事前指導(臨床栄養臨地実習)：臨床栄養臨地実習の内容について
第16回　：事前指導(臨床栄養臨地実習)：実習テーマ設定グループディスカッション
第17回　：事前指導(臨床栄養臨地実習)：実習ノートについて・提出書類等の確認
第18回　：事後指導(臨床栄養臨地実習)：実習報告Ⅰ
第19回　：事後指導(臨床栄養臨地実習)：実習報告Ⅱ
第20回　：実習報告会：全体会
　　(給食運営実習・公衆栄養臨地実習・給食経営管理臨地実習の聴講、臨床栄養臨地実習の発表)

授業外の学習方法
それぞれの臨地実習の関連科目の復習を充分にすること。 臨地実習施設について、ホームページ等を利用して、施設の特徴を把握すること。
成績評価方法
提出物(60%)平常点(40%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します)
成績評価基準
実習の成果および実習テーマについて確認し、栄養士・管理栄養士業務について理解できたか。
テキスト、参考図書
それぞれの臨地実習の関連科目にて使用した教科書および参考図書。 必要に応じてプリント配布。
その他(受講上の注意)
理由なく事前指導を欠席した場合、臨地実習に出られない場合がある。 ８－12回については、選択した臨地実習に出席する。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

給食運営実習 (Field Practice in Food Service)			担当教員	樽井　雅彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2264	1単位	2年後期	実習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

給食現場における管理栄養士・栄養士業務を実習することにより、給食経営管理論をはじめとする専門科目で学習した理論・技術の活用の場であることを再確認し学習に繋げる。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)・栄養士免許(必修)

授業の内容

各種給食施設(学校給食・福祉施設給食・事業所給食等)での給食業務全般に必要な校外実習を行う。食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する技術を習得する。

授業の到達目標

・各種給食施設での栄養士の役割を理解出来る。
・各種給食施設での栄養士業務全般を理解出来ている。
・各種給食施設の喫食者の特徴を理解出来ている。

授業の計画

2年次2～3月に1週間(45時間以上)の給食施設(学校・病院・福祉施設・事業所等)実習を行う。
①実習施設事前訪問・実習挨拶および指導者との打ち合わせ
②実習施設ごとの実習計画による実習
③実習施設についての理解(組織・運営)
④食材料管理の把握・考察
⑤作業管理・業務分担の把握・考察
⑥安全・衛生管理の把握・考察
⑦給食業務にかかる帳票類の内容及び管理について学ぶ　など

授業外の学習方法

・実習施設について事前に十分な下調べ(施設概要等)を行なうこと。
・事前に出された課題は、必ず準備して実習に臨むこと。

成績評価方法

各自の実習実施施設の指導管理栄養士の評価(70%)、実習ノート(30%)

成績評価基準

・各種給食施設での栄養士の役割を理解出来ているか。
・各種給食施設での栄養士業務全般を理解出来ているか。
・各種給食施設の喫食者の特徴を理解出来ているか。

テキスト、参考図書

給食経営管理論および給食経営管理実習にて使用した教科書および参考図書。
『栄養管理と生命科学シリーズ』　給食経営と管理の科学　理工図書　2013年
給食経営管理実習　ワークブック(第2版)　(株)みらい　2011年

その他(受講上の注意)

・実習施設について事前に十分な下調べ(施設概要等)を行なうこと。
・事前に出された課題は、必ず準備して実習に臨むこと。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習 (Fieldwork)			担当教員	樽井　雅彦、佐藤　真実、池田　涼子、 浦本　裕美、坂本　達昭
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2165	2単位	2年・3年	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

本プログラムには、学内外でのボランティア活動体験、社会的イベント・コンティションなどへの参画体験が含まれる。教室や研究室で学習や研究をするのではなく、実際に社会での直接的体験を通して、優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。

授業の到達目標

1・2・3年次を対象に自己の進路を見据えた体験学習を課題にして設ける。例えば、福祉施設、病院などでの奉仕活動、事業所などでのインターンシップ参加、施設・事業所見学などの事前、事後計画の企画運営発表などを実施してたり、得られた成果について報告書を提出する。

授業の計画

受講希望者には、「実施計画書」の提出および面談を行い、計画を認めたうえで実施する。
受講希望者は、担当教員に問い合わせること。

授業外の学習方法

参画する奉仕活動やインターンシップについて事前に十分な下調べ(概要等)を行なうこと。

成績評価方法

プログラム取り組み(40%)、レポート(30%)、プレゼンテーション(30%)

成績評価基準

参加した福祉施設、病院などでの奉仕活動で自身が得た成果について報告書を参考に評価する。事業所などでのインターンシップ参加、施設・事業所見学などの事前、事後計画の企画運営発表などを実施する。

テキスト、参考図書

使用しない。

その他(受講上の注意)

本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の受講登録手続きを要しない。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

分子栄養学 (Molecular Nutrition)			担当教員	尼子　克己
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2271	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格(選択)

授業の内容

基礎生化学をはじめとする幾つかの科目において、生体内で起こる様々な現象が、酵素を触媒とする化学反応の組合せによって起こることを学んだ。本講義ではそれを踏まえ、変動する環境に対して生体がどのように情報を受け取り、対応して秩序を保っているか、およびその破綻がいかに疾病につながっていくかを、分子生物学の観点から説明する。一般的な遺伝子発現、その他の制御機構について理解したあと、生体における糖・脂質・たんぱく質などの栄養素の代謝と調節および栄養素自身が代謝調節に重要な役割を担っていることを分子生物学的観点から理解できるようにする。また遺伝的背景のわずかな差異が、個人の体質に与える影響を、実際の事例を引きながら解説する。講義は基礎生化学で学んだ内容を振り返りつつ、臨床栄養学等以降の講義で取り扱われる種々の栄養マネジメントに対して、基礎医学的な観点から根拠を与えられるよう配慮して進める。

授業の到達目標

生体における糖・脂質・たんぱく質などの栄養素の代謝と調節および栄養素自身が代謝調節に重要な役割を担っていることを分子生物学的観点から理解できる。具体的には、

① 遺伝子の構造・発現・調節機構ならびに遺伝子産物としてのたんぱく質の構造と機能を説明できる。
② 糖質、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラルの代謝と、これら栄養素自身が転写因子を介して、生体機能を制御していることを理解し、解説できる。
③ 生活習慣病：循環器系疾患、肥満、糖尿病、骨粗鬆症、がん、アレルギーなどの発症機構を、代謝と病態との関連において、分子生物学的視点から説明できる。
④ ゲノム解読に伴って進化を遂げた分子生物学およびその周辺分野の技術革新を理解し、それらの栄養学や医療への応用を概説することができる。

授　業　の　計　画

第１回：遺伝子の本体：DNA、DNAの複製
第２回：転写の仕組み
第３回：翻訳の仕組み、タンパク質の運命
第４回：情報伝達の概要
第５回：糖代謝と調節の分子機構
第６回：脂質代謝調節の分子機構
第７回：タンパク質代謝の分子機構
第８回：ビタミン・ミネラル代謝の分子機構
第９回：遺伝子解析の手法と原理
第10回：ヒトゲノム、遺伝子多型と体質
第11回：生活習慣病の分子栄養学①
第12回：生活習慣病の分子栄養学②
第12回：様々な疾患の分子栄養学
第13回：がん、アレルギー、老化と分子栄養学
第14回：ゲノムインプリンティング、時間栄養学
第15回：遺伝子組み換え作物・食品、まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

①　授業に先立ち、テキストの関連ページや配布資料を読んでおくこと。
②　毎講、キーワードを提示するので、それらについて説明できるよう復習し、都度の定着を心がけること。

成　績　評　価　方　法

定期試験50％、ミニテスト30％、授業に対する取り組み(受講姿勢、問題提起に対する応答等)20％を基準として、総合的に評価する。

成　績　評　価　基　準

①　遺伝子の構造・発現・調節機構ならびに遺伝子産物としてのたんぱく質の構造と機能を説明できるか。
②　糖質、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラルの代謝と、これら栄養素自身が転写因子を介して、生体機能を制御していることを理解し、説明できるか。
③　生活習慣病：循環器系疾患、肥満、糖尿病、骨粗鬆症、がん、アレルギーなどの発症機構を、代謝と病態との関連において分子生物学的に説明できるか。
④　ゲノム解読に伴って進化を遂げた分子生物学およびその周辺分野の技術を理解し、それらの栄養学や医療などへの応用を概説することができるか。

テキスト、参考図書

テキスト：
　管理栄養士講座「生化学・分子生物学」第２版・建帛社・2013年、および　講義用配布資料
参考書：
（１）佐久間著・『栄養と遺伝子のはなし　分子栄養学入門第３版』・技報堂出版・2014年
（２）加藤・藤原著『栄養科学イラストレイテッド　分子栄養学』・羊土社・2014年
（３）榊原隆三編・『分子栄養学』・建帛社・2003年
（４）アルバーツら著、中村ら訳・『細胞の分子生物学』第５版・(株)ニュートンプレス・2010年
上記は講義全体を通じて理解の助けになるものを紹介した。各講ごとの講義内容に関連するものとして通読すべき書物・記事等は、別途講義中に紹介する。

その他(受講上の注意)

・２年前期開講の「基礎生化学」、及び本科目と同時期に開講の「栄養生化学」は特に関連性が高いので、併せて十分に理解するよう心がけてください。
・遅刻、欠席、私語は自身だけでなく周囲の者の理解の妨げになるので厳に慎むこと。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

国際食糧・栄養情報論 (International Food Situation)			担当教員	由田　克士
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2272	1単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

-

授業の内容

先進国の多くは過剰栄養が問題となっている。一方、開発途上国では、食料不足による低栄養が問題となっている国、過剰栄養と低栄養が共存している国がある。国内外の食糧・栄養に関わる諸課題について学び、私たちの毎日の食生活と世界がどのようにつながっているのかを学ぶ。

授業の到達目標

諸外国の食糧・栄養に関わる諸課題やこれらと関連する世界の人口問題について理解する。諸外国の食料・栄養問題と日本人の食生活のつながりについて学び、個人や仲間と共にできることについて考え、食料・栄養問題について説明できるようになる。

授業の計画

第1回：諸外国における食糧・栄養状況
第2回：世界の人口問題、食糧問題
第3回：世界の人口問題、食糧問題Ⅱ
第4回：各国における水の問題
第5回：開発途上国における栄養支援活動
第6回：関連情報の収集
第7回：食糧問題・栄養問題についてのグループディスカッション
第8回：まとめ・試験

授業外の学習方法

予習復習については授業時に指示する。必要に応じて資料等を配布する。
講義を受講した後、配付された資料等により復習を行うこと。

成績評価方法

試験70%、平常点30%
平常点は、授業への参加状況、受講態度、課題の提出状況やその内容等から総合的に評価する

成績評価基準

諸外国の食糧・栄養に関わる諸課題やこれらと関連する世界の人口問題について理解しているか。諸外国の食料・栄養問題と日本人の食生活のつながりについて学び、食料・栄養問題について自らの意見や考えを説明できるか。

テキスト、参考図書

必要に応じて資料を配布する。

その他(受講上の注意)

本科目は、全8回の授業からなる。出来る限り欠席することなく、受講すること。
なお、3回以上の欠席により、試験を受ける事ができないので注意すること。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

食品品質評価演習 (Practice in Estimating Food Quality)			担当教員	浦本　裕美、佐藤　真実
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2273	2単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

食品衛生管理者・食品衛生監視員　任用資格(選択)

授業の内容

食品を選ぶという行為は、多くの背景と動機が存在しており、管理栄養士には食品についての深い知識と品質を見抜く能力が必要となる。そこで、その能力を養う目的で、食品の生産・流通・消費についての知識、食品鑑別法、食品品質評価法(化学的評価法、物理的評価法など)を演習で学ぶ。

授業の到達目標

目の前にある食品だけでなく、その食品が消費者に届くまで、すなわち、「生産・流通」にも着目した総合判断力をもって食品の品質を見抜く力と選択能力を養う。また、食品の品質評価法を理解する。

授業の計画

第1回：ガイダンス
第2回：個別食品の鑑別(1)
第3回：個別食品の鑑別(2)
第4回：個別食品の鑑別(3)
第5回：個別食品の鑑別(4)
第6回：化学的評価法(米の品質検査)
第7回：化学的評価法(果物の品質と糖度・酸度)(1)
第8回：化学的評価法(果物の品質と糖度・酸度)(2)
第9回：官能検査の基本と実施法
第10回：食品の官能検査演習(統計処理を含む)(1)
第11回：食品の官能検査演習(統計処理を含む)(2)
第12回：物理的評価法の目的と意義
第13回：物理的評価法の手法について
第14回：物理的評価演習(1)
第15回：物理的評価演習(2)

授業外の学習方法

演習内容は、毎回ノートに整理する。学外施設の見学の際は、事前に関連する内容を予習して臨み、現地で見て聞いて学んだことに合わせて常に自分の考えも整理し記録しておくこと。

成績評価方法

レポート(90%)、平常点(10%)、平常点は授業への参加状況・受講態度等を総合して採点する。

成績評価基準

食品自体の品質を評価できるだけでなく、生産・流通も考慮した広い視野を兼ね備えた品質評価および食品選択ができるか。
食品品質評価法が理解できているか。

テキスト、参考図書
(社)日本フードスペシャリスト協会編/新版　食品の官能評価・鑑別演習(第３版)/建帛社
その他(受講上の注意)
・個別食品の鑑別では福井県卸売中央市場などへの見学も予定しており、その際は、土曜日に実施する可能性がある。 ・使用教室は、演習内容によって変更し、第１回目のガイダンスで連絡する予定である。 ・授業内容は連続性があるため、欠席や遅刻をすると内容理解の進展に支障をきたすので、欠席・遅刻をしないように心掛けること。授業の計画の予定は、変更されることがある。また、授業の計画・内容や注意事項の詳細については、第１回目のガイダンスで連絡する予定である。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教職論 (Theory of Teacher Education)			担当教員	高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2280	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　教職に関する専門科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教職の意義等に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・教職の意義及び教員の役割
・教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。)
・進路選択に資する各種の機会の提供等

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状(必修)

授業の内容

教員とは、どのような役割を期待され、どのような環境で、どのような仕事をしているのか。本授業では、この問題に主に社会的・法的見地から考察する。また、様々な教師像を事例研究を通して考察することにより、受講生各自がよりよい教職像を展望するとともに、よりよい教職像に近づくために何をすべきかを模索する機会としたい。

授業の到達目標

教職の意義と役割を法的、社会的な見地から説明できる。
教員の職務内容を法的な見地から説明できる。
よりよい教職像を自分なりに展望することができる。

授業の計画

第1回：オリエンテーション
第2回：教師はどのような仕事をしているのか
第3回：よい教師とはどのような教師なのか
第4回：教師像の諸相 ― 聖職者、労働者、専門家 ―
第5回：教師の権力と権威
第6回：教師の愛と暴力
第7回：どうすればよい教師になれるのか
第8回：教員養成制度について
第9回：教員養成の歴史
第10回：教員に求められる専門性とは何か
第11回：教員を取り巻く法律、制度(1) ― 身分について ―
第12回：教員を取り巻く法律、制度(2) ― 服務について ―
第13回：教員を取り巻く法律、制度(3) ― 任用について ―
第14回：教員を取り巻く法律、制度(4) ― 研修について ―
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

「よい教師とはどのような教師か？」「教職課程とは何のためにあるのか？」という問いを常に抱きながら学習することが求められる。具体的には、図書館にある教職に関する書物(教職経験者が書いた本や教職の使命について書いた本など)を最低3冊は読破する必要がある。

成　績　評　価　方　法
定期試験(70%) 平常点(30%) (平常点は、授業への参加状況と、授業時の課題の内容をもとに判断する。)
成　績　評　価　基　準
教職の意義と役割を法的、社会的な見地から説明できるか。 教員の職務内容を法的な見地から説明できるか。 よりよい教職像を自分なりに展望することができるか。
テキスト、参考図書
プリントを配布する。
その他(受講上の注意)
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育心理学 (Educational Psychology)			担当教員	大野木　裕明
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2282	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部特設科目　教職に関する専門科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育の基礎理論に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程
(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)

求める学習成果(教育目標)

栄養教諭として、学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプラニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状(必修)

授業の内容

栄養教諭として学校及び地域社会の健康づくりを担う事ができる能力に関する授業内容である。栄養については専門学科において広く深く学ぶので、この教職科目においては、学校において栄養教諭としての役割を意識しながら学校という職場での専門職のあるべき姿を構想し学んでいく。
教職科目としての教育心理学は、他の教職に関する科目と同様、本来は栄養に関する科目ではないので、特に関連部分を考えながら学ぶ態度・姿勢が重要となる。

授業の到達目標

学校教育の場において、子どもの教育と学習に関する教育方法や関わり方、子どもの心理面について教育心理学の基礎理論を学び、方法を適用できるようにする。
・子どもの記憶について理解し、記憶を定着させる教授法を学ぶ。
・授業の方法として、視聴覚的方法、発見学習、有意味受容学習、講義法、プロジェクト学習、ＴＴなどについて　入門的な知識を身につけ、自分なりに模擬的に計画できるようにする。
・児童生徒の学級内の集団力学について知る方法を身につける。
・試験の諸形式についてその特徴を知り、自分なりに立案・作成できるようにする。
など。

授業の計画

第1回：全体の授業計画と成績評価の説明。教育心理学の歴史(1)
第2回：教育心理学の歴史(2)
第3回：第1章　生涯発達の心理と方法
第4回：第2章　発達の障害
第5回：第3章　記憶・知能の理解
第6回：第4章　学習指導と評価
第7回：ここまでの進度調整、および児童期以降の学力・知能研究の概説
第8回：第5章　生徒理解
第9回：第6章　生徒指導
第10回：第7章　教育相談
第11回：第8章　発達と学習の支援
第12回：進度調整、および「特別活動」指導法の概説
第13回：教育即的・教育評価と指導要録
第14回：教育心理学の研究法(1)
第15回：教育心理学の研究法(2)

授業外の学習方法

第1回の授業において、自己学習用のワークシートを配布する。すくなくとも、それらを参考にしながら、自分なりのスピードでしっかりと自己学習を行うこと。授業中に、入手しやすい関連図書や論文を紹介し、いくつかは解説を加えるので、自学自習して理解を深めること。

成　績　評　価　方　法
約１か月前に予告する課題レポート(30パーセント×２本)、授業中に実施する小テスト(20パーセント１回)、授業中の小レポート(20パーセント、数回)の合計による。
成　績　評　価　基　準
専門的な用語に関する知識については、配布するワークシートの内容とくに２回の小テストで扱うので、正確に知識として定着させることを重要視する。 実践的な力や総合的な基礎力に関しては、２回の演習的な提出レポートの内容などにより、よく検討し洗練されているかどうかを評価する。 さらに、授業の終わりに提出を求める小レポート(数回)によって、積極的で生産的な学習の意欲態度と、短時間で的確に要約し発表できる力を評価する。
テキスト、参考図書
『ガイドライン発達学習・教育相談・生徒指導』　ナカニシヤ出版　2007年
その他(受講上の注意)
この授業に関する連絡は、授業中の積極的な質問、あるいはメール連絡ohnogi@jindai.ac.jp、またはオフィスアワーに研究室へ来て下さい。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育課程・特別活動論 (Theory of Education Curriculum)			担当教員	高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2284	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　教職に関する専門科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・教育課程の意義及び編成の方法¦・道徳及び特別活動に関する内容

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状(必修)

授業の内容

教育課程とは、学習指導要領によって示される基準にもとづいて、各学校が編成する教育計画のことである。その計画には、各教科の授業計画だけではなく、教科外の活動(特別活動、総合的な学習の時間、など)の計画も含まれる。また近年では、この計画をよりよいものにするべく、評価、改善していくプロセスも教育課程編成の一環とみなされるようになっている。以上をふまえて、この授業では、①学習指導要領について、②特別活動、総合的な学習の時間について、③様々な教育評価について、の三つのテーマを取り上げる。

授業の到達目標

現行学習指導要領の内容を説明できる。
特別活動および総合的な学習の時間の意義と役割について説明できる。
教育評価にはどのような種類、方法があるのかについて説明できる。

授業の計画

第1回：オリエンテーション　教育課程とは何か
第2回：学習指導要領とは何か
第3回：学習指導要領を読む(1)　第一章「総則」前半
第4回：学習指導要領を読む(2)　第一章「総則」後半
第5回：学習指導要領の歴史的変遷(1)　1940年代後半
第6回：学習指導要領の歴史的変遷(2)　1950～60年代
第7回：学習指導要領の歴史的変遷(3)　1970～80年代
第8回：学習指導要領の歴史的変遷(4)　1990年代以降
第9回：学力とは何か
第10回：教育評価について　何のための評価なのか
第11回：学習指導要領を読む(3)　総合的な学習の時間、特別活動
第12回：特別活動、総合的な学習の時間の意義と課題
第13回：特別活動、総合的な学習の時間の実践例
第14回：特別活動、総合的な学習の時間の評価について
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

学習指導要領第一章「総則」を繰り返し読み直すことが求められる。
情報量が多い授業なので、毎時後の見直し、復習が必要となる。

成績評価方法

定期試験(80%)
平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況と授業時の課題の提出状況により判断する)

成　績　評　価　基　準
現行学習指導要領の内容を逐語的に理解しているか。 特別活動および総合的な学習の時間の意義と役割について説明できるか。 教育評価にはどのような種類、方法があるのかについて説明できるか。
テキスト、参考図書
プリントを配布する。
その他（受講上の注意）
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育の方法と技術 (Teaching Methods and Skills)			担当教員	篭谷　隆弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2286	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科教職科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状(必修)

授業の内容

教育方法の改善と、メディアを活用する教材設計・制作

授業の到達目標

教育実践の現場においては、教育方法の改善に関する工夫が必要である。すなわち、子どもの思考や自己表現を促す授業の方法や教師の役割についての理解を踏まえ、メディアの教育利用、学習教材の開発など、教育工学の知識の活用が望まれる。この授業では、授業の設計、実施・評価等に関する知識、教材や教育メディアの選択・構成・活用等に関する力量を育成することを目標としている。主として講義形式で行うが、パーソナルコンピュータ等の情報機器を併用する形式で行う。

授業の計画

第1回：授業の目的・計画・評価方法の説明
第2回：教育方法史・学校・カリキュラム
第3回：授業計画・教材
第4回：教育の情報化
第5回：情報機器の種類と活用方法
第6回：視聴覚教材・教育メディア
第7回：教材設計(1)　ホームページ
第8回：教材設計(2)　Webサービス
第9回：教材制作(1)　教材制作の概要
第10回：教材制作(2)　教材の加工
第11回：教材制作(3)　オリジナル教材
第12回：教育メディアを活用した模擬授業の計画
第13回：教育メディアを活用した模擬授業の実施と評価(1)
第14回：教育メディアを活用した模擬授業の実施と評価(2)
第15回：まとめ(評価の集計と分析)

授業外の学習方法

参考図書：
(1)「教育方法論(教職課程シリーズ)」　谷田貝公昭・成田国英・林邦雄著　一藝社　2004年
(2)「教育の方法と技術(教育学のポイント・シリーズ)(単行本)」　柴田義松・山崎準二著　学文社　2005年
オンラインフォーラムにおいて、授業テーマに関する自身の考えを述べ、他者との議論も深める必要がある。教材制作・模擬授業準備においては、市販のソフトウェア関連の書籍やWWWの資料を参考に、授業時間外にも作業を行う必要がある。

成績評価方法

課せられた課題・成果物を提出していることを重視して評価する。
受講態度20%、前半内容に関連する課題と制作物30%、後半内容に関する制作物30%、模擬授業内容と相互評価20%

成　績　評　価　基　準
授業の設計・実施・評価等に関する知識を修得しているか。 教材や教育メディアの選択・構成・活用等に関する力量が身についているか。 模擬授業について周到に準備を行い、的確に実施できているか。
テキスト、参考図書
特に指定しないが、プリント及びe-Learning教材を授業時に使用する。
その他（受講上の注意）
欠席した場合には、授業の進度を確認し次週に備えること。 模擬授業に関連して準備・練習を十分行うこと。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育心理学 (Educational Psychology)			担当教員	大野木　裕明
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AA−2201	2単位	2年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育の基礎理論に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程
(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の基礎理論の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプラニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)、幼稚園教諭一種免許状(必修)、保育士資格(選択)

授業の内容

教職に関する科目のうちの教育の基礎理論に関する科目「幼児、児童及び制との心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)」に対応する科目として位置づけられているので、その内容に関して網羅的包括的に概説してゆく。
本学では関連科目が用意されていないので、かなり急いだ解説になる。積極的な発展学習あるいは自己学習により補充してもらいたい。

授業の到達目標

学校教育の場において、子どもの教育と学習に関する教育方法や関わり方、子どもの心理面について教育心理学の諸理論を学び、方法を援用できるようにする。
・子どもの記憶や認知発達について理解し、記憶を定着させる効果的な教授法や学習法を学ぶ。
・授業の方法として、視聴覚的方法、発見学習、有意味受容学習、講義法、プロジェクト法、TTなどについて入門的な知識を身につけ、自分なりに模擬的に計画・構想できるようにする。
・児童生徒の学級内の集団力学について諸理論を知り、学級集団の特徴を理解する手がかりを学ぶ。
・試験の諸形式と評価法について、試験問題や学習指導案を例にしながら模擬的に、これを作成できるようにする。
など。

授業の計画

第1回：全体の授業計画と成績評価の説明。教育心理学の歴史(1)
第2回：教育心理学の歴史(2)
第3回：第1章　生涯発達の心理と方法
第4回：第2章　発達の障害
第5回：第3章　記憶・知能の理解
第6回：第4章　学習指導と評価
第7回：ここまでのまとめと幼児・児童期の学力・知能研究の概説
第8回：第5章　生徒理解
第9回：第6章　生徒指導
第10回：第7章　教育相談
第11回：第8章　発達と教育の支援
第12回：ここまでのまとめと発達の最近の諸問題
第13回：教育測定・教育評価と教育要領・指導要録
第14回：教育心理学の研究法(1)
第15回：教育心理学の研究法(2)
ただし学修の状態によって進度を変更することがある。

授業外の学習方法
第１回目の授業において、自己学習用のワークシートを配布する。すくなくとも、それらを参考にしながら自己学習を行うこと。 授業中に、ワークシートの課題の内容について質疑や解説を加える。
成績評価方法
約１か月前には予告する課題レポート(20パーセント×２本)、授業中に実施する小テスト(20パーセント×２回)、授業中の小レポート(20パーセント、数回)の合計による。
成績評価基準
課題レポートについては、教育心理学の専門的な内容について、最近の考え方とそれに対する各自なりの見解を文章によって表現する能力を評価する。 授業中に実施する小テストについては、教育心理学の専門的な多くの知識を正確に記憶しているかどうかを評価する。 授業中の小レポートについては、資料や講義の解説あるいはテキスト等を参照しながら、短時間に適切に文章表現する能力を評価する。
テキスト、参考図書
『ガイドライン発達学習・教育相談・生徒指導』　ナカニシヤ出版　2007年
その他(受講上の注意)
この授業に関する連絡は、授業中か、メール連絡ohnogi@jindai.ac.jp、またはオフィスアワーに研究室に来て下さい。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育の方法と技術 (Teaching Methods and Skills)			担当教員	篭谷　隆弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AB−2251	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科教職科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容及び方法の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)、幼稚園教諭一種免許状(必修)

授業の内容

教育方法の改善と、メディアを活用する教材設計・制作

授業の到達目標

教育実践の現場においては、教育方法の改善に関する工夫が必要である。すなわち、子どもの思考や自己表現を促す授業の方法や教師の役割についての理解を踏まえ、メディアの教育利用、学習教材の開発など、教育工学の知識の活用が望まれる。この授業では、授業の設計、実施・評価等に関する知識、教材や教育メディアの選択・構成・活用等に関する力量を育成することを目標としている。主として講義形式で行うが、パーソナルコンピュータ等の情報機器を併用する形式で行う。

授業の計画

第1回：授業の目的・計画・評価方法の説明
第2回：教育方法史・学校・カリキュラム
第3回：授業計画・教材
第4回：教育の情報化
第5回：情報機器の種類と活用方法
第6回：視聴覚教材・教育メディア
第7回：教材設計(1)　ホームページ
第8回：教材設計(2)　Webサービス
第9回：教材制作(1)　教材制作の概要
第10回：教材制作(2)　教材の加工
第11回：教材制作(3)　オリジナル教材
第12回：教育メディアを活用した模擬授業の計画
第13回：教育メディアを活用した模擬授業の実施と評価(1)
第14回：教育メディアを活用した模擬授業の実施と評価(2)
第15回：まとめ(評価の集計と分析)

授業外の学習方法

参考図書：
(1)「教育方法論(教職課程シリーズ)」　谷田貝公昭・成田国英・林邦雄著　一藝社　2004年
(2)「教育の方法と技術(教育学のポイント・シリーズ)(単行本)」　柴田義松・山崎準二著　学文社　2005年
オンラインフォーラムにおいて、授業テーマに関する自身の考えを述べ、他者との議論も深める必要がある。教材制作・模擬授業準備においては、市販のソフトウェア関連の書籍やWWWの資料を参考に、授業時間外にも作業を行う必要がある。

成績評価方法

課せられた課題・成果物を提出していることを重視して評価する。
受講態度20%、前半内容に関連する課題と制作物30%、後半内容に関する制作物30%、模擬授業内容と相互評価20%

成　績　評　価　基　準
授業の設計・実施・評価等に関する知識を修得しているか。 教材や教育メディアの選択・構成・活用等に関する力量が身についているか。 模擬授業について周到に準備を行い、的確に実施できているか。
テキスト、参考図書
特に指定しないが、プリント及びe-Learning教材を授業時に使用する。
その他（受講上の注意）
欠席した場合には、授業の進度を確認し次週に備えること。 模擬授業に関連して準備・練習を十分行うこと。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育課程論Ⅱ（特別活動を含む） （Theory of Curriculum Ⅱ）			担当教員	木曽　利雄
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AB−2252	2単位	2年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）

<科目に含めることが必要な事項>　・教育課程の意義及び編成の方法
・特別活動の指導法

求める学習成果（教育目標）

教育・保育の内容及び方法の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（必修）

授業の内容

小学校における教育課程の意義、その編成・実施、評価・改善について学ぶ。学校等の教育実践資料を検討し、幼・小の連続性に配慮しながら具体的に考察していく。また、教育課程の中で、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習と関連させ、特別活動の意義、目的・内容等について理解を深めていく。

授業の到達目標

1　幼小を比較しながら、教育課程の意義や基準性、編成と実施の仕方、評価と改善のあり方を理解できる。
2　学校の教育目標の機能と具備すべき条件を理解できる。
3　特別活動の基本的性格、その目標・内容等を理解できる。
4　学習指導要領の目指すものを理解できる。

授業の計画

第1回：カリキュラムの概念（1）　①カリキュラムの考え方の変遷、②カリキュラムと教育課程
第2回：カリキュラムの概念（2）　③「主題－探究－表現」様式による学び、潜在的カリキュラム
④カリキュラムの開発
第3回：教育課程の基準　①教育課程の意義、②教育課程に関する法制
③学習指導要領の基本方針、④幼・小の連続性
第4回：教育課程の編成と実施（1）　①教育課程編成の一般方針（幼・小との対比）
②内容の共通的取扱いと授業時数等
第5回：教育課程の編成と実施（2）　③指導計画の作成、④教育課程実施上の配慮事項
第6回：学校の教育目標と教育課程（1）　①学校の教育課程の全体構造、②学校の教育目標の機能
第7回：学校の教育目標と教育課程（2）　③学校の教育目標の具備すべき条件
④教育課程具現化のための教育条件
第8回：教育課程と特別活動　①特別活動の基本的な性格と役割、②特別活動の目標
③特別活動で育成する資質能力
第9回：特別活動の内容とその実際（1）　①特別活動内容の概観、②学級活動の活動内容とその実際
第10回：特別活動の内容とその実際（2）　③クラブと児童会の活動内容とその実際、④特別活動全体計画
第11回：特別活動の内容とその実際（3）　⑤学校行事の活動内容とその実際
第12回：特別活動の内容とその実際（4）　⑥特別活動と各教科・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間との関係
第13回：教育課程の評価と改善のあり方　①教育課程の評価と改善のあり方
②学校評価の意義、③外部評価の意義
第14回：学習指導要領が目指すもの　①「生きる力」、②基礎的・基本的な知識・技能
③思考力・判断力・表現力等
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法
予習として、21世紀を生きるという観点からテキストや参考図書の各回に関連する頁を読み、あらかじめ疑問点を考えて整理しておくこと。復習としては、授業時の板書や配布されたプリントを見直し、教育課程に対する考えや感想をまとめておくこと。また学習指導要領改訂のニュース等に関心を持ち、その流れを把握すること。
成績評価方法
定期試験(60%)　課題レポート(20%)　平常点(20%)　(平常点は受講態度やレポート提出状況で総合的に評価する。)
成績評価基準
教育課程の意義や必要性、その編成と実施の仕方、評価と改善について理解できたか。 学校の教育計画の全体構造について理解できたか。 教育課程の基準としての学習指導要領について理解できたか。
テキスト、参考図書
(1)「小学校学習指導要領解説(総則編)」　文部科学省　東洋館出版社　2008年 (2)「小学校学習指導要領解説(特別活動編)」　文部科学省　東洋館出版社　2008年
その他(受講上の注意)
受講態度については講義における発表等の貢献度を期待(評価)する。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会福祉 (Social Welfare)			担当教員	青井　夕貴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AA−2250	2単位	2年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の基礎理論の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

保育士は、国家資格化や保育所保育指針の改定などを経て、子どもを取りまく社会、地域、家庭などを踏まえた子育てニーズを捉え、社会福祉の専門職として応えることが求められている。本授業では、保育士に必要な社会福祉の知識を習得し、保育実践を福祉的な視点で考える作業を重視する。

授業の到達目標

現代社会における社会福祉の意義や歴史的変遷、動向と課題について説明することができる。
社会福祉の制度や実施体系、援助や保護にかかわる仕組みについて説明することができる。
社会福祉と児童家庭福祉、家庭支援との関連性について説明することができる。

授業の計画

第1回：オリエンテーション、社会福祉とは
第2回：社会福祉の理念と概念
第3回：社会福祉の歴史的変遷
第4回：社会福祉と児童家庭福祉
第5回：社会福祉の制度と法体系
第6回：社会福祉行財政と実施機関
第7回：社会福祉施設と社会福祉の専門職・実施者
第8回：社会保障及び関連制度の概要
第9回：社会福祉における相談援助
第10回：情報提供と第三者評価
第11回：利用者の権利擁護と苦情解決
第12回：少子高齢化社会への対応
第13回：在宅福祉・地域福祉の推進
第14回：他分野との連携とネットワーク
第15回：まとめ、保育における社会福祉とは
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習では、授業計画に沿ってテキストの該当頁を読み、疑問点などを整理しておく。授業後は、授業中に適宜紹介する図書やその他社会福祉に関連する文献を自ら調べ、読むことで、さらに理解を深める。

成績評価方法

定期試験(70%)、提出課題(30%)

成績評価基準

現代社会における社会福祉の意義や歴史的変遷、動向と課題について説明することができるか。
社会福祉の制度や実施体系、援助や保護にかかわる仕組みについて説明することができるか。
社会福祉と児童家庭福祉、家庭支援との関連性について説明することができるか。

テキスト、参考図書
新保育士養成講座編纂委員会　編 「新保育士要請講座第4巻　社会福祉　社会福祉と相談援助」 全国社会福祉協議会　2013
その他（受講上の注意）
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会的養護 (Social Nursing)			担当教員	永松　　真
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AA−2200	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の基礎理論の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)、児童厚生一級指導員(必修)

授業の内容

現代社会における社会的養護の意義や理念、体系等について幅広く理解を深rめるとともに、現在の児童をとりまく諸課題についても取り上げ、施設実習や将来保育士としての実践につながりをもてる内容としたい。
具体的には、社会的養護の理念や歴史的変遷、児童の権利擁護、社会的養護の制度や体系(施設養護と里親・養子制度等を含む)など基礎的な知識を学ぶとともに、施設養護の実際に即した基本原理、施設養護の流れ、他職種や援助技術への理解、さらにチームワークや専門職としての倫理等について述べる。また、児童虐待や児童の貧困など、今日的問題となっている諸課題にも触れ、問題成意識を醸成したい。

授業の到達目標

・社会的養護の歴史や理念を踏まえ、今日における社会的養護の意義を理解すること。
・社会的養護の体系、とりわけ児童相談所や児童福祉施設、里親等の連携をも含め理解すること。
・施設養護の実際に即し、子どもの権利条約や基本原理を踏まえた処遇について理解し、説明できること。
・施設養護、とりわけ児童養護施設での処遇の流れや課題(被虐待児・性の問題等)、他職種とのチームワーク等について理解すること。
・児童虐待や児童の貧困問題など今日的な課題にも関心を向け、社会的養護の視点や当事者の立場に立った理解や対応ができる力を養うこと。
・保育士を目指すものとして社会的養護領域に関心をもち、専門的援助技術や高い倫理観を養うこと。

授業の計画

第1回：オリエンテーション ― 子どもの社会的養護について考える
第2回：子どもの権利擁護 ― 子どもの権利条約等
第3回：社会的養護の歴史
第4回：現在の養護問題 ― 児童虐待問題とその対応①
第5回：　　同　　― 児童虐待問題とその対応②
第6回：社会的養護の体系① ― 児童相談所と各種児童福祉施設
第7回：社会的養護の体系② ― 里親制度等
第8回：施設養護の特質と基本原理
第9回：施設養護における職員の専門性と倫理観
第10回：施設養護における援助技術
第11回：社会的養護の実際① ― 日常生活の指導
第12回：社会的養護の実際② ― 親子・地域との関係調整と 自立支援
第13回：社会的養護の実際③ ― 子どもの生と性に向き合う
第14回：社会的養護の実際④ ― 個別支援計画と事例紹介
第15回：児童福祉施設の運営管理および今後の課題
第16回：定期試験

授業外の学習方法

・本教科では、テキストおよび関連資料(その都度配布)に沿いながら授業を進める。従って予習も大切だが、講義内容とテキスト・資料を関連付けながら、各自がノートにまとめるなど復習に重点をおくこと。
・関連科目として、『社会的養護内容』や『障害児保育』、さらに学外(施設)実習とも関連するので、その点も念頭におきながら自ら学習を深めること。
・中間時点で社会的養護に関連した課題図書を提示し、読後感想リポートの提出を求める。

成績評価方法

定期試験(60%)、読後感想等のリポート(40%)
欠席や遅刻・早退については減点扱いとする。

成績評価基準

・社会的養護の歴史や理念、今日的意義について理解しているか。
・社会的養護の体系や児童相談所・児童福祉施設・里親等の機能・関連性等を理解しているか。
・子どもの権利条約、施設養護の基本原理を理解し、説明することができるか。
・児童養護施設の処遇の流れや諸課題(被虐待児野生の問題等)、他職種への理解がなされているか。
・児童虐待や児童貧困の問題など、社会的養護の視点や当事者の立場に立った理解がなされているか。
(この点は、特にレポート課題を中心に評価する)
・保育専門職としての援助技術や倫理について理解されているか。

テキスト、参考図書

テキスト:『子どもの養護　第2版 ―社会的養護の原理と内容― 』 松本峰雄(編著) 建帛社 2013年
参考図書:『よくわかる社会的養護』 山縣文治・林浩康(編) ミネルヴァ書房 2012年

その他(受講上の注意)

対人援助職を目指す者として、受講マナーがしっかり守られることを期待する。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会 (Social Science)			担当教員	奥谷　崇
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AB−2253	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　・社会

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容及び方法の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)

授業の内容

授業課題への個人思考・集団思考・集団議論・質疑応答を通して授業課題についての共通理解を深め、課題学習の方法を体得する。更に、課題解決学習力をベースに意思決定力を高める学習方法についても発展的に体得する。受身な学習形態ではなく自らの学習課題をもって学習に取り組み、個別学習や集団学習を通して、自らの問題意識の深化を図る。

授業の到達目標

今日の我が国の社会には様々な問題が山積している。社会科は諸問題の解決と将来を切り拓くための切り札となる教科である。社会科の教科としての特質を知り、各学年の発達段階に応じた社会科の基礎・基本を理解し、時代の要請に対応できる社会科について理解を深める。

授業の計画

第1回：社会科の役割
第2回：社会科の目標
第3回：社会科の基礎・基本
第4回：学習指導要領と社会科
第5回：学習指導要領解説社会編のポイント
第6回：社会科の学力
第7回：社会科の授業
第8回：社会科授業の課題と発問
第9回：社会科授業の展開
第10回：実践事例の考察(1)単元計画指導計画
第11回：実践事例の考察(2)学習指導案
第12回：実践事例の考察(3)地域学習
第13回：実践事例の考察(4)歴史学習
第14回：実践事例の考察(5)公民学習
第15回：まとめ

授業外の学習方法

予習として学習課題について関連する資料を読み、質問点を用意する。復習として学習課題についての集団討議や学習資料、講義を参考に学習のまとめをする。

成績評価方法

レポート(70%)
平常点(30%)
平常点は、学習態度、ワークシート、ノート等を総合して判断する。

成　績　評　価　基　準
社会科の目標と役割と特質について自分の言葉で説明することができる。 現代社会における社会科の重要性について説明することができる。 社会科の目標を具現化できる社会科授業のあり方について説明することができる。
テキスト、参考図書
1.「小学校学習指導要領」 文部科学省 2.「小学校学習指導要領　社会編」 文部科学省 3．適宜プリントを配付する。
その他(受講上の注意)
私語・無気力厳禁。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

算数 (Arithmetic)			担当教員	木曽　利雄
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AB−2205	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　・算数

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容及び方法の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)、幼稚園教諭一種免許状(選択)

授業の内容

学習指導要領で定められた算数科の教育目標と学習内容について数学的立場及び教育的立場から理解させる。3つの視点、①有用性(教育的価値)。②系統性・論理性(数学的な意味)。③発達段階からのアプローチ(心理的な適合性)から数学的内容や考え方を身に付けさせる。学習内容は、各学年を見通して具体的に考え、その取り扱い方のポイントを究明していく。

授業の到達目標

1　算数科の教育目標とその変遷が理解できる。
2　算数科の学習内容を領域ごとに数学的立場から考察し、理解できる。
3　算数科の学習内容を領域ごとに教育的立場から考察し、理解できる。
4　算数教育の今日的課題の概要が把握できる。

授業の計画

第1回：算数科の目標　算数教育についての歴史的概観、算数科の特質と教育目標
第2回：数と計算(1)　整数の概念と表記
第3回：数と計算(2)　整数の加法と減法、整数の乗法と除法
第4回：数と計算(3)　小数・分数の加法と減法、小数・分数の乗法と除法
第5回：数と計算(4)　整数・有理数・実数と演算、見積もりと概数・概算
第6回：量と測定(1)　量の概念と性質、図形の計量
第7回：量と測定(2)　異種の2量の割合
第8回：図形(1)　図形の概念と操作
第9回：図形(2)　図形の性質と数学的推論
第10回：図形(3)　空間観念と図形的直観
第11回：数量関係(1)　関数と関数の考え
第12回：数量関係(2)　式・記号の考え
第13回：数量関係(3)　統計の考え
第14回：算数教育における今日的課題
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習として、数学的・教育的観点からテキストや参考書の各回に関連する頁を読み、あらかじめ疑問点を整理しておくこと。
復習としては、テキストや板書、プリントを見直し、次回に生かすこと。

成績評価方法

定期試験(60%)課題レポート(20%)平常点(20%)で総合的に評価する。
平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準
・算数科の教育目標について理解できたか。 ・算数科の学習内容を領域ごとに数学的立場・教育的立場から考察し、理解できたか。 ・算数教育の今日的課題の概要を把握できたか。
テキスト、参考図書
(1)「新訂　算数科教育研究　改訂版」 算数科教育学研究会　学芸図書 適宜、資料を配布する
その他(受講上の注意)
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

理科 (Science)			担当教員	西出　和彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AB−2254	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　・理科

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容及び方法の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭1種免許状(必修)

授業の内容

小学校理科で扱う内容を理解し、次の6項目の目標を達成するためにどのような授業を行ったら良いかを考える。①自然に親しむこと。②見通しをもって観察、実験などを行うこと。③問題解決の能力を育てること。④自然を愛する心情を育てること。⑤自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図ること。⑥科学的な見方や考え方を養うこと。

授業の到達目標

小学校理科の教育内容をよく理解し、授業の目的、目標に応じて、適切な教材を開発することができる。

授業の計画

第1回：オリエンテーション　理科とはどのような教科なのか。観察と実験。
第2回：自然科学における観察①
第3回：自然科学における観察②
第4回：自然科学における観察③
第5回：構造と機能を調べる実験①
第6回：構造と機能を調べる実験②
第7回：構造と機能を調べる実験③
第8回：結果を予想し、考察する観察実験①
第9回：結果を予想し、考察する観察実験②
第10回：結果を予想し、考察する観察実験③
第11回：不思議を演出して理科実験①
第12回：不思議を演出して理科実験②
第13回：不思議を演出して理科実験③
第14回：解剖実習
第15回：自然観察の方法
第16回：定期試験

授業外の学習方法

小学校理科の教科書、小学校理科学習指導要領をよく読み、理解する。

成績評価方法

定期試験(50%)　提出物(30%)　平常点(20%)

成績評価基準

(1)小学校理科の授業内容を理解している。
(2)学習内容の目標に応じて、適切な指導方法を指摘することができる。

テキスト、参考図書
(1)小学校理科教科書 (2)小学校学習指導要領解説(理科編)
その他(受講上の注意)
毎回、実験着、上靴を持参すること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

生活 (Life Studies)			担当教員	筧　みち子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AB−2255	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　・生活

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容及び方法の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(選択)、幼稚園教諭一種免許状(選択)

授業の内容

「小学校学習指導要領解説(生活編)」に基づき「生活科」の目標や内容、指導計画作成上の配慮事項について学ぶ。

授業の到達目標

生活科の教科目標・学年目標を説明できる。9つの内容が事例を挙げて説明できる。学習指導要領の目標及び内容を踏まえて、指導計画を綿密に作成することの必要性が理解できる。

授業の計画

第1回：「生活科学習指導要領」の変遷と生活科の目標について
第2回：生活科の教科目標、各学年の目標について
第3回：生活科の内容(1)　学校の施設の様子及び先生や安全を守っている人々
第4回：生活科の内容(2)　家庭生活を支えている家族のことや自分の役割
第5回：生活科の内容(3)　地域で生活したり働いたりしている人々
第6回：生活科の内容(4)　公共物や公共施設を利用し、身の周りのみんなで使う物やそれを支えている人々
第7回：生活科の内容(5)　身近な自然の観察や季節や地域の行事
第8回：生活科の内容(6)　身近な自然や物を利用し、遊びや遊びに使う物を工夫して制作
第9回：生活科の内容(7)　動植物を飼ったり育てたりし、生きものや命の大切さを実感
第10回：生活科の内容(8)　自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え会う活動を通して交流
第11回：生活科の内容(9)　自分自身の成長を振返り、多くの人々の支えに対する感謝の気持ち
第12回：生活科の指導計画作成上の配慮事項(1)(2)
第13回：生活科の指導計画作成上の配慮事項(3)(4)
第14回：生活科の内容取り扱いについての配慮事項
第15回：生活科における指導計画と学習指導
第16回：定期試験

授業外の学習方法

授業後次時の予告をするので、予習としてテキストを読んでおき次の授業に臨むとより理解が深められます。

成績評価方法

毎回授業終了の5分間感想レポート(30%)　平常点(20%)　定期試験(50%)
平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成績評価基準

生活科の教科目標・学年目標を説明できたか。9つの内容が事例を挙げて説明できたか。指導計画作成上の配慮事項等が理解できたか。

テキスト、参考図書
(1)「小学校学習指導要領解説(生活編)」 文部科学省　日本文教出版　2008年 (2)「生活科教科書」 東京書籍 (3)「生活科教科書」 啓林館
その他(受講上の注意)
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

体育Ⅰ (Physical EducationⅠ)			担当教員	野田　政弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AC−2207	2単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　・体育

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(選択)、幼稚園教諭一種免許状(必修)、保育士資格(必修)、児童厚生一級指導員(必修)

授業の内容

幼児および児童の豊かな人間性を育むためには、心身の発育発達段階に即した適切な運動の経験と健康・安全についての理解が必要である。運動遊び、基本の運動および各種の運動課題をとおしてその特性に応じた知識および技能を身につける。

授業の到達目標

幼児期・児童期の発育発達と運動の関係について理解できる。運動遊び、基本の運動、各種の運動の特性について理解できる。運動遊び、基本運動、各種の運動に関する技能を身につける。

授業の計画

第1回：体力、運動能力および運動技能のとらえ方
第2回：幼児期・児童期の発育発達と運動能力の測定
第3回：基本の運動(1)　体ほぐし
第4回：基本の運動(2)　鬼遊び①
第5回：基本の運動(3)　鬼遊び②
第6回：基本の運動(4)　小型遊具①ボール
第7回：基本の運動(5)　小型遊具②なわ、棒
第8回：ボール運動(1)　バスケットボール型ゲーム
第9回：ボール運動(2)　サッカー型ゲーム
第10回：ボール運動(3)　ベースボール型ゲーム
第11回：ボール運動(4)　バレーボール型ゲーム
第12回：陸上運動
第13回：水遊び
第14回：運動会種目
第15回：まとめ

授業外の学習方法

授業で実践した運動あそび、基本の運動にとどまらず、みずから積極的に遊びや運動について関心をもって調べる。

成績評価方法

レポート(60%)、平常点(40%)。平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成績評価基準

幼児期・児童期の発育発達と運動の関係について理解できている。運動遊び、基本の運動、各種の運動の特性について理解できている。運動遊び、基本運動、各種の運動に関する技能を身につけている。

テキスト、参考図書

文部科学省「小学校学習指導要領解説(体育編)」東洋館出版社　2008年

その他（受講上の注意）
演習形式の授業であるので積極的に参加し、主体性をもって積極的に参加すること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

体育Ⅱ (Physical EducationⅡ)			担当教員	野田　政弘、乾　典子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AC−2257	2単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　・体育

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(選択)、幼稚園教諭一種免許状(選択)、保育士資格(選択)

授業の内容

幼児および児童の豊かな人間性を育むためには、心身の発育発達段階に即した適切な運動の経験と健康・安全についての理解が必要である。「器械運動」や「表現運動」の運動課題をとおしてその特性に応じた知識および技能を身につける。さらには「保健」の課題をとおして心の健康や運動におけるケガ・事故の防止策についても学習する。

授業の到達目標

「器械運動」や「表現運動」の運動課題の特性を理解し、実践できる。「保健」の課題をとおして心の健康や運動におけるケガ・事故の防止策について理解できる。

授業の計画

第1回：固定施設を使っての運動遊びの紹介
第2回：器械・器具を使っての運動遊び　第1・2学年対象(野田)
第3回：器械運動(1)　マット運動②　第3・4学年対象(野田)
第4回：器械運動(2)　マット運動②　第5・6学年対象(野田)
第5回：器械運動(3)　鉄棒運動②　第3・4学年対象(野田)
第6回：器械運動(4)　鉄棒運動②　第5・6学年対象(野田)
第7回：器械運動(5)　跳び箱運動②　第3・4学年対象(野田)
第8回：器械運動(6)　跳び箱運動②　第5・6学年対象(野田)
第9回：表現リズム遊び　第1・2学年対象(乾)
第10回：表現運動(1)　第3・4学年対象①(乾)
第11回：表現運動(2)　第3・4学年対象②(乾)
第12回：表現運動(3)　第5・6学年対象①(乾)
第13回：表現運動(4)　第5・6学年対象②(乾)
第14回：保健　第3・4年学年、第5・6学年対象(野田)
第15回：まとめ

授業外の学習方法

授業で実践した器械運動、表現運動にとどまらず、みずから積極的に関連する運動についても関心をもって調べる。

成績評価方法

レポート(40%)、実技試験(40%)、平常点(20%)。平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成績評価基準

「器械運動」や「表現運動」の運動課題の特性を理解し、実践できている。「保健」の課題をとおして心の健康や運動におけるケガ・事故の防止策について理解できている。

テキスト、参考図書
文部科学省「小学校学習指導要領解説(体育編)」 東洋館出版社　2008年
その他(受講上の注意)
演習形式の授業であるので積極的に参加し、主体性をもって積極的に参加すること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

音楽表現Ⅰ (Music Expression Ⅰ)			担当教員	桂屋　京子、飯田　由美、太田　佳代、 福田安希子、野村加奈子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AC−2208	1単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(選択)

授業の内容

保育の現場で用いられる歌唱教材を使って、「歌唱表現の在り方」と「ピアノ伴奏法」の両方を総合的に融合した弾き語りの演習をとおして、音楽表現の研究を進める。

授業の到達目標

歌唱教材の中の言葉や歌の内容の適切な分析と把握をして表現することができる。 また、ピアノ伴奏において効果的な音色と和声感を身に付けて表現することができる。

授業の計画

第1回：保育園・幼稚園の歌／生活・集い・季節のうた
第2回：保育園・幼稚園の歌／生活・集い・季節のうた
第3回：保育園・幼稚園の歌／生活・集い・季節のうた
第4回：保育園・幼稚園の歌／生活・集い・季節のうた
第5回：公開演奏［第1～4回までの曲を対象とした“弾き語り”］
第6回：保育園・幼稚園の歌／動物のうた
第7回：保育園・幼稚園の歌／動物のうた
第8回：保育園・幼稚園の歌／動物のうた
第9回：保育園・幼稚園の歌／動物のうた
第10回：公開演奏［第6～9回までの曲を対象とした“弾き語り”］
第11回：保育園・幼稚園の歌／楽しいうた
第12回：保育園・幼稚園の歌／楽しいうた
第13回：保育園・幼稚園の歌／楽しいうた
第14回：保育園・幼稚園の歌／楽しいうた
第15回：公開演奏［第11～14回までの曲を対象とした“弾き語り”］

授業外の学習方法

音楽力は、日々の修練の成果として身に付くことから、レッスンノートの授業内容に沿って、各人が予習・復習をし、高い意識を持って毎週の実技授業に臨むことが望ましい。

成績評価方法

実技(80%)　平常点(20%)
平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成績評価基準

正しい音程とリズムに基づき、豊かな歌唱表現、伴奏表現ができるか。

テキスト、参考図書
「ポケットいっぱいのうた」実用幼児・児童の歌　簡単に弾ける144選(教育芸術社刊) ※上記テキストは一部の曲を除いて“弾き語り”を念頭にした簡易伴奏譜面なので、グレード能力によっては、その都度別に本格伴奏譜面も用いる。
その他(受講上の注意)
テキスト等、譜面なしでは受講できない。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

音楽表現Ⅱ (Music ExpressionⅡ)			担当教員	桂屋　京子、飯田　由美、太田　佳代、 福田安希子、野村加奈子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AC−2258	1単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(選択)

授業の内容

「音楽表現Ⅰ」に引き続き、題材としての楽曲をさらに多彩に拡げ、より豊かな音楽表現を深める。

授業の到達目標

歌唱教材の中の言葉や歌の内容の適切な分析と把握をして表現することができる。 また、ピアノ伴奏において効果的な音色と和声感を身に付けて表現することができる。

授業の計画

第1回：保育園・幼稚園の歌／生活・集い・季節のうた
第2回：保育園・幼稚園の歌／生活・集い・季節のうた
第3回：保育園・幼稚園の歌／生活・集い・季節のうた
第4回：保育園・幼稚園の歌／生活・集い・季節のうた
第5回：公開演奏［第1～4回までの曲を対象とした“弾き語り”］
第6回：保育園・幼稚園の歌／楽しいうた
第7回：保育園・幼稚園の歌／楽しいうた
第8回：保育園・幼稚園の歌／楽しいうた
第9回：保育園・幼稚園の歌／楽しいうた
第10回：公開演奏［第6～9回までの曲を対象とした“弾き語り”］
第11回：文部科学省小学校共通必修歌唱曲(1年～6年まで)
第12回：文部科学省小学校共通必修歌唱曲(1年～6年まで)
第13回：文部科学省小学校共通必修歌唱曲(1年～6年まで)
第14回：文部科学省小学校共通必修歌唱曲(1年～6年まで)
第15回：公開演奏［第11～14回までの曲を対象とした“弾き語り”］

授業外の学習方法

音楽力は、日々の修練の成果として身に付くことから、レッスンノートの授業内容に沿って、各人が予習・復習をし、高い意識を持って毎週の実技授業に臨むことが望ましい。

成績評価方法

実技(80%)　平常点(20%)
平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成績評価基準

正しい音程とリズムに基づき、豊かな歌唱表現、伴奏表現ができるか。

テキスト、参考図書

「ポケットいっぱいのうた」実用幼児・児童の歌　簡単に弾ける144選(教育芸術社刊)
※上記テキストは一部の曲を除いて“弾き語り”を念頭にした簡易伴奏譜面なので、グレード能力によっては、その都度別に本格奏譜面も用いる。

その他（受講上の注意）
テキスト等、譜面なしでは受講できない。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

発達心理学Ⅱ (Developmental PsychologyⅡ)			担当教員	大野木　裕明
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−BD−2209	2単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の対象の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプラニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

「発達心理学Ⅰ」では主として発達心理学の関連理論や基礎的な専門知識を学ぶので、それを受けて、この発達心理学Ⅱでは現実の具体的な発達と保育の場面を数多く見ていく。
・実習経験による偶発的な行動観察ではなく、発達の典型的な姿を見ていく。
・知的な場面について、具体的な道筋を知り、理論的な確認を行う。
・情意的な場面について、具体的な道筋を知り、理論的な確認を行う。
・社会的な場面について、具体的な道筋を知り、理論的な確認を行う。

授業の到達目標

・知的な発達の場面について、説明理論が妥当であるかどうかが確認できる。
・情意的な発達の場面について、説明理論が妥当であるかどうかが確認できる。
・社会的行動の発達の場面について、説明理論が妥当であるかどうかが確認できる。
・発達の説明理論では説明しきれない行動があることが確認できる。

授業の計画

第1回：全体の授業計画と成績評価の説明、子ども理解における発達の問題
第2回：子どもの発達と個人差を把握する
第3回：身体感覚を伴う経験と環境の準備
第4回：子どもの遊びの諸相と把握
第5回：観察法
第6回：自己主張と自己制御
第7回：保育における集団の意味と参加の諸相
第8回：集団を把握する諸技法
第9回：保育者の関わりの技法(1)
第10回：保育者の関わりの技法(2)
第11回：生きる力の心理
第12回：基礎的生活習慣の獲得における保育者の役割
第13回：基礎的生活習慣の獲得の援助方法
第14回：発達検査(1)
第15回：発達検査(2)

授業外の学習方法

第1回目の授業において、主なテーマに関するワークシートを配布する。関連する参考資料を手元においたり事前事後に調べて自学自習の参考にすること。

成績評価方法

提出する小レポートの数とその内容の適切さで100パーセント

成　績　評　価　基　準
主として授業担当講師が準備した最近の視聴覚教材の視聴に基づいて、受講生同士が意見交換を行い、グループ単位で意見を集約し、発表してゆく。発表の積極性や事後の提出レポートをもとに授業の到達目標に沿った評価を行う。参考図書なども目を通すことを期待している。
テキスト、参考図書
使用しない。授業担当講師の作成したワークシートを準備した資料に従って進める。参考書はテーマごとにその都度紹介するが、授業全体を通じての参考書を以下に挙げておく。小田豊(監)『保育の心理学Ⅱ』(光生館、2012年)、清水益治・無藤隆(編)『保育の心理学Ⅱ』(北大路書房、2011年)。
その他(受講上の注意)
主に視聴覚教材を使い、それに基づいた意見交換を行うことがあるので、遅刻しないこと。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子どもの保健Ⅰb (Children's Health Ⅰb)			担当教員	森川　浩子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−BD−2210	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の対象の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。
保育士資格(必修)

授業の内容

子どもの観察(健康状態・症状)を理解し、健康障害時に適切に対処できる能力を学ぶ。

授業の到達目標

子どもの観察(健康状態・症状)を理解し、健康障害時に適切に対処できる能力を習得する。小児期の健康状態は病状の変化が大きく、感染症などの急性疾患とともに、基礎疾患に対応することが求められる。集団生活は、感染症罹患のハイリスクの環境であり、感染症発生時における感染予防の対策を習得する。

授業の計画

第1回：小児の健康状態の把握　(一般状態・バイタルサイン)
第2回：小児症状の観察と対応　(意識・機嫌・発熱・熱性けいれん)
第3回：小児症状の観察と対応　(嘔吐・下痢・脱水・呼吸困難・鼻汁とくしゃみ)
第4回：小児の感染症対策・予防接種・学校伝染病法
第5回：よくかかる感染症　(麻疹・水痘・風疹・突発性発疹)
第6回：よくかかる感染症　(インフルエンザ・乳児下痢症)
第7回：アレルギー性疾患　(アトピー性皮膚炎・気管支喘息)
第8回：アレルギー性疾患　(食物アレルギー・アナフィラキシー)
第9回：先天性心疾患
第10回：子どもの与薬
第11回：こどもの精神疾患　(精神遅滞・ダウン症候群・ＡＤＨＤ)
第12回：応急処理　(頭部外傷・出血・けいれん・腹痛)
第13回：シュミレーションで学ぶ緊急時の対応
第14回：母子保健対策と保育
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習として、教科書の各回に関連するページを読み、あらかじめ疑問点等を考えておくこと。復習としては、出された宿題や必要に応じて、小児に関係する雑誌や書籍(ベビーサイエンス)を通して授業内容をまとめること。

成績評価方法

定期試験(80%)　　小レポート(10%)　　平常点(10点)(平常点は、受講態度を総合して判断する。)

成　績　評　価　基　準
・子どもの観察(健康状態・症状)を理解し、健康障害時に適切に対処できる能力を習得できたか。 ・小児期の健康状態は病状の変化が大きく、感染症などの急性疾患とともに、基礎疾患に対応することが求められる。集団生活は、感染症罹患のハイリスクの環境であり、感染症発生時における感染予防の対策を習得できたか。
テキスト、参考図書
テキスト:『子どもの保健』(第4報)　巷野悟郎　診断と治療社　2014年
その他(受講上の注意)
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子どもの保健Ⅱ (Children's HealthⅡ)			担当教員	日下　純子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−BD−2261	2単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の対象の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

授業計画に沿って子どもを取り巻く環境の理解と成長発達に応じた養護の実技や健康教育の演習を行い、子どもの保健について理解を深める。

授業の到達目標

「子どもの保健Ⅰ」で学んだ内容を基礎にして、保育実践における保健活動についてさらに理解を深めさせる。特に、小児の疾病や事故の特徴を正しく理解させ、保育現場での応急処置ができるよう基礎的な処置能力を身に付けさせる。また、養育上の問題と心身の健康との関連を取り上げ、家庭支援のための基本的な対応能力を身に付けさせる。さらに、疾病の予防対策及び事故防止対策を学びながら、幼児期の健康づくりの実践を学ぶとともに、効果的な安全教育のあり方を検討する。

授業の計画

第1回：子どもの保健Ⅱの目的・ねらい
第2回：子どもの成長発達1
第3回：子どもの成長発達2　(身体測定・生理機能の測定)
第4回：子どもの日常生活の養護1　(生活環境・抱き方・衣服)
第5回：子どもの日常生活の養護2　(栄養・排泄・睡眠)
第6回：子どもの日常生活の養護3　(身体の清潔)
第7回：子どもの日常生活の養護4　(沐浴実習)
第8回：健康教育
第9回：健康教育発表
第10回：健康観察
第11回：主な病気の予防と対応
第12回：事故防止と安全
第13回：救急処置
第14回：集団保育と保健
第15回：まとめ・実技試験
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習：次回の授業範囲についてテキストを読んでおくこと。復習：演習で実践した実技を復習し身に付けること。

成績評価方法

筆記試験・実技試験・レポート50%、平常点50%
(平常点は、授業への学習態度・授業への参加状況を総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準
演習項目についての事前学習ができており演習が確実に行えること。特に実技の根拠について理解ができていること。
テキスト、参考図書
巷野悟郎 「子どもの保健」同文書院　2014年 ビデオ、DVD等視聴し学習を深める。
その他（受講上の注意）
演習に相応しいみだしなみと沐浴時エプロン持参
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育内容研究(人間関係) (Studies on Contents of Early Childhood Care and Education(Personal Relations))			担当教員	松川　恵子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AB−2202	2単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・保育内容の指導法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容及び方法の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状(選択)、保育士資格(必修)、児童厚生一級指導員(必修)

授業の内容

「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」等を基に、「人間関係」を視点とした乳幼児期の発達の特徴及び領域「人間関係」のねらい・内容について学ぶとともに、実習での経験を事例にまとめて発表し合うことを通して、幼児理解や保育者としての関わり方など指導法について学びを深める。

授業の到達目標

・乳幼児期の「人とかかわる力」の発達について説明することができる。
・保育内容「人間関係」の領域のねらい・内容について理解する。
・乳幼児の「人とかかわる力」を育む保育者の援助・環境構成について考察することができる。

授業の計画

第1回：保育内容「人間関係」の基本となる考え方(オリエンテーション)
第2回：「人間関係」の視点から見た乳幼児期の発達の特性①　愛着と信頼関係の形成
第3回：「人間関係」の視点から見た乳幼児期の発達の特性②　情緒の安定
第4回：「人間関係」の視点から見た乳幼児期の発達の特性③　自我の発達
第5回：「人間関係」の視点から見た乳幼児期の発達の特性④　協同する経験
第6回：「人間関係」の視点から見た乳幼児期の発達の特性⑤　道徳性と規範意識の芽生え
第7回：「幼稚園教育要領」領域「人間関係」のねらい
第8回：「幼稚園教育要領」領域「人間関係」の内容①　内容(1)～(4)
第9回：「幼稚園教育要領」領域「人間関係」の内容②　内容(5)～(8)
第10回：「幼稚園教育要領」領域「人間関係」の内容③　内容(9)～(13)
第11回：「幼稚園教育要領」領域「人間関係」の内容の取扱い
第12回：「保育所保育指針」における領域「人間関係」
第13回：「保育所保育指針」領域「人間関係」のねらい
第14回：「保育所保育指針」領域「人間関係」の内容
第15回：事例の発表及び検討
第16回：定期試験

授業外の学習方法

各回の授業を受けた後で当該部分の教科書・配布資料を見直して復習をし、次の授業に臨んでください。
その上で、授業で説明したことを、自分の日常的な思考や観察される現象に当てはめて考え、理解を深めるようにしてください。

成績評価方法

定期試験(80%)　授業中の事例発表(20%)

成　績　評　価　基　準
・乳幼児期の「人とかかわる力」の発達について説明することができるか。 ・保育内容「人間関係」の領域のねらい・内容について理解しているか。 ・乳幼児の「人とかかわる力」を育くむ保育者の援助・環境構成について考察することができるか。
テキスト、参考図書
(1)「幼稚園教育要領解説」 文部科学省　フレーベル館　2008年 (2)「保育所保育指針解説書」 厚生労働省　フレーベル館　2008年 (3)「新時代の保育双書　保育内容　人間関係」 濱名浩 編　みらい　2009年
その他(受講上の注意)
質問等については、授業時間の前後やメール(matukawa@jin-ai.ac.jp)でお願いします。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育内容研究(環境) (Studies on Contents of Early Childhood Care and Education(Enviroment))			担当教員	西出　和彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AB−2203	2単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・保育内容の指導法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容及び方法の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□総合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状(選択)，保育士資格(必修)、児童厚生一級指導員(必修)

授業の内容

自然との触れあい方、関わり合い方、楽しみ方を学び、身近な環境に親しませる方法を身につけることによって、子どもたちを指導する力をつける。

授業の到達目標

保育内容としての「環境」のねらいを理解し、適切な活動を通してそのねらいを達成することができる。

授業の計画

第1回：オリエンテーション
第2回：環境に気づいて考える
第3回：生き物の体
第4回：春のネイチャーゲーム
第5回：環境の変化に気づく①
第6回：環境の変化に気づく②
第7回：環境の特徴に気づく①
第8回：環境の特徴に気づく②
第9回：植物の栽培を通して比べる、はかる①
第10回：植物の栽培を通して比べる、はかる②
第11回：動物の飼育を通して気づく、感じる①
第12回：動物の飼育を通して気づく、感じる②
第13回：夏のネイチャーゲーム
第14回：規則性や因果関係に気づく①
第15回：規則性や因果関係に気づく②
第16回：定期試験

授業外の学習方法

書籍やインターネット等、様々な手段を用いて、授業に関する情報を積極的に収集した上で、授業に臨む。

成績評価方法

定期試験(50%)　提出物(30%)　平常点(20%)

成績評価基準

(1)保育内容として「環境」を理解し、そのねらいを達成することができる。
(2)様々な活動を通して、自然に親しみ、生き物と触れあうことができる。

テキスト、参考図書

(1)「事例で学ぶ保育内容　領域　環境」　無藤隆監修・福元真由美(編集代表)　萌文書林　2007年
(2)「幼稚園教育要領解説」　文部科学省　フレーベル館　2008年

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育内容研究(言葉) (Studies on Contents of Early Childhood Care and Education(Language))			担当教員	鈴木　智子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AB−2204	2単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　保育内容の指導法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容及び方法の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状(選択)、保育士資格(必修)、児童厚生一級指導員(必修)

授業の内容

乳幼児期の言葉の発達について理解し、その発達を支える環境構成や保育者の援助の在り方について考えることを目的としている。講義を通して、幼稚園教育要領、保育所保育指針における「言葉」のねらいや内容、絵本や文字理解の発達を理解し、事例研究や言葉遊びの模擬保育を通して保育者のかかわり方を実践的に学ぶ。また言葉をめぐる様々な問題を通して、言葉の発達と支援の可能性を探求していく。

授業の到達目標

乳幼児期からの言葉の発達過程について理解する。
言葉を育む保育者の援助について理解し、指導計画立案と実践力を身につける。
保育者としての自身の言語的生活への配慮や精進を習慣化する。

授業の計画

第1回：オリエンテーション
第2回：幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「言葉」
第3回：言葉の発達過程1　(言葉の前のことば)
第4回：言葉の発達過程2　(話し言葉)
第5回：言葉が培う力1　(表現力)
第6回：言葉が培う力2　(コミュニケーション力)
第7回：言葉が培う力3　(思考力・自己調整力)
第8回：言葉を育む遊びと環境1　(指導案作成)
第9回：言葉を育む遊びと環境2　(模擬保育)
第10回：言葉を育む遊びと環境3　(評価)
第11回：言葉の育ちと絵本文化
第12回：文字の習得(学校教育との連続性)
第13回：言葉をめぐる発達の問題と対応1
第14回：言葉をめぐる発達の問題と対応2
第15回：言葉を育てる保育者の役割と援助
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習として、各回に関連するテキストの該当部分を読み、あらかじめ疑問点を考えておくこと。
復習として、各回の授業内容をまとめ、自分の言葉で説明できるようにしておくこと。

成績評価方法

定期試験(70%)、模擬保育の計画と実践(20%)、平常点(10%)
(平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する)

成　績　評　価　基　準
乳幼児期からの言葉の発達過程について理解できているか。 言葉を育む保育者の援助について理解し、指導計画立案と実践力を身につけることができているか。 保育者としての自身の言語的生活への配慮や精進を習慣化できているか。
テキスト、参考図書
テキスト 文部科学省 「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館　2008年 高濱裕子編著『事例で学ぶ保育内容＜領域＞言葉』萌文書林　2007年
その他（受講上の注意）
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育内容研究(表現B) (Studies on Contents of Early Childhood)			担当教員	伊東　知之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AB−2256	2単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・保育内容の指導法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容及び方法の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状(選択)、保育士資格(選択)、児童厚生一級指導員(選択)

授業の内容

幼児と造形の関わり、造形の発達過程等を理解できるような内容で、実際の現場で活用できるような保育教材研究を行う。また、幼児ができる造形表現を自ら体験し、制作することによって自らの表現方法、表現技術を習得しながら幼児の造形表現について絵画的視点、製作的視点から考察する。

授業の到達目標

・学んだ造形技法について説明することができる。
・学んだ造形技法の特質を活かして表現できる。
・子どもと造形の関わりについてその発達過程を踏まえて説明できる。

授業の計画

第1回：幼児と造形表現について
第2回：造形表現指導について
第3回：ドゥルーピング・ブローイング・ローリング表現
第4回：デカルコマニー・ストリング・チェンジング表現
第5回：貼り絵製作
第6回：小麦粉粘土製作
第7回：動くおもちゃ工作
第8回：絵本製作(1)　アイデアスケッチと製本
第9回：絵本製作(2)　下描き・着彩
第10回：パネルシアター台紙製作
第11回：パネルシアター製作(1)　アイデアスケッチとPペーパーの下描き
第12回：パネルシアター製作(2)　Pペーパーの着彩
第13回：パネルシアター発表(1)　Aグループ
第14回：パネルシアター発表(2)　Bグループ
第15回：まとめ

授業外の学習方法

・授業で必要な材料や道具を事前に準備し、授業の課題を次回までに完成する。
・テキストを読み、担当する項目についてレジュメを準備する。

成績評価方法

課題作品(70%)、テキスト発表(20%)、平常点(10%)
(平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物の提出状況等を総合して判断します。)

成績評価基準

・学んだ造形技法について説明できる。
・学んだ造形技法の特質を活かした表現ができる。
・子どもと造形について発達過程を踏まえて説明できる。

テキスト、参考図書
(1)野村知子・中谷孝子編著 『幼児の造形』 保育出版社 2002年 (2)文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 2008年 (3)大場幸夫著 『平成20年改定保育所保育指針解説』 フレーベル館 2008年
その他(受講上の注意)
図工用具一式を毎時間持参すること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

乳児保育 (Infant Care and Education)			担当教員	石川　昭義、山口　惠子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AB−2206	2単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容及び方法の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

わが国における乳児保育の変遷をたどりながら、今日の保育所・乳児院における乳児保育の意義と役割を理解する。特に、近年の乳児保育(低年齢保育を含む)へのニーズの増加という現状を認識し、現代社会における政策課題としての乳児保育の意味を理解する。また、乳児保育を担当する保育士として求められる、乳児期の発達と保健、乳児保育の保育内容について理解を深める。

授業の到達目標

今日の保育所・乳児院における乳児保育の意義と役割(法律を含む)を理解する。
現代社会における政策課題としての乳児保育の意味を理解する。
乳児期の発達、保健、乳児保育の内容について理解する。

授業の計画

第1回：オリエンテーション(授業の概要説明)(石川)
第2回：乳児保育の意義1　― 現代社会と乳児保育 ―(石川)
第3回：乳児保育の意義2　― 保育所と乳児院 ―(石川)
第4回：乳児保育の発展の経緯(石川)
第5回：保育所保育指針における乳児保育(石川)
第6回：3歳未満児の発達(石川)
第7回：3歳未満児の健康と安全(石川)
第8回：3歳未満児の保育の内容と方法1　― 0歳児 ―(石川)
第9回：3歳未満児の保育の内容と方法2　― 1歳児 ―(山口)
第10回：3歳未満児の保育の内容と方法3　― 2歳児 ―(山口)
第11回：3歳未満児の保育の計画1　― 保育課程と指導計画 ―(山口)
第12回：3歳未満児の保育の計画2　― 成長の記録 ―(山口)
第13回：保育の環境と職員の連携(山口)
第14回：家庭や他の機関との連携(山口)
第15回：まとめ(3歳未満児保育の課題)　(山口)
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習として、教科書の各回に関連するページを読み、あらかじめ疑問点等を考えておいてください。また、復習としては、出された宿題や指定された図書等を通して授業内容をまとめてください。

成績評価方法

定期試験(70%)　平常点(30%)
(平常点は、授業への参加状況、受講態度、自主ノートの提出等を総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準
今日の保育所・乳児院における乳児保育の意義と役割(法律を含む)を説明することができるか。 現代社会における政策課題としての乳児保育の意味を説明することができるか 乳児期の発達、保健、乳児保育の内容について説明することができるか。
テキスト、参考図書
待井和江他編　『乳児保育〔第７版〕』　ミネルヴァ書房　2009年 厚生労働省編　『保育所保育指針解説書』　フレーベル館　2008年
その他(受講上の注意)
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

障がい児保育 (Child Care for Children with Disabilities)			担当教員	安井　弘二
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−BD−2260	2単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の対象の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)　児童厚生一級指導員(必修)

授業の内容

障がい児保育の理念や障害のある子どもの発達特性について理解する。また、保育園における障がい児保育・家庭支援・関係機関との連携や協働等の知識を深め、具体的技能を獲得するとともに実践能力を高める。

授業の到達目標

障がい児保育を支える理念を理解し、これまでの障がい児保育の変遷と現状を考察する。また、障害の程度や特性に応じた保育支援や留意事項を学ぶことや、関係機関・専門機関との連携や協働による保護者を中心とした家庭支援の在り方など、今後の障がい児保育のあるべき姿を探求する。

授業の計画

第1回：障がい児保育とは何か
第2回：障がい児保育の仕組み
第3回：障がいのある子どもの理解と保育支援①　― 知的発達障害 ―
第4回：障がいのある子どもの理解と保育支援②　― 発達障害：自閉症スペクトラム ―
第5回：障がい子どもの理解と保育支援③　― 発達障害：ＬＤ、ＡＤＨＤなど ―
第6回：障がいのある子どもの理解と保育支援④　― 肢体不自由など ―
第7回：障がいのある子どもの理解と保育支援⑤　― 視覚障害、聴覚障害など ―
第8回：統合保育とは
第9回：保育所・幼稚園での支援体制
第10回：家族への支援
第11回：障がい児のアセスメント
第12回：発達支援の技法①
第13回：発達支援の技法②
第14回：障がい児保育計画の実際
第15回：補足とまとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

各回の講義を受けた後、当該部分の配布資料を見直して復習し、次の授業に臨んで下さい。講義の中で、ノーマライゼーション、バリアフリー、インクルージョン、ユニバーサルデザイン等日本語訳できにくい言葉も説明していきますが、障害の有無にかかわらず「普通の生活」が保障される社会の価値、物理的構造、サービスを整備していく理念をより良く理解していただくため、インターネットで「ノーマライゼーションの考え方(日本介護職員基礎研修知識；Nursing staff　base of Japan)」を一度検索してみて下さい。また、2004年に発達障害者支援法が成立し、自閉症・アスペルガー症候群等の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥・多動性障害と診断されている人たちの早期からの支援が重要視されている中、参考図書：よくわかる障害児保育(ミネルヴァ書房)、障害児保育(北大路書房)等を読んでいただくほかに、「レインマン」「光とともに」「モーツァルトとクジラ」「アイアム・サム」「ギルバート・グレイプ」「マラソン」等、障害児(者)の生き方をテーマにした映像が沢山あり、一度見ていただくと、障害特性が理解でき、ノーマライゼーションの理念を獲得できることもある。

成　績　評　価　方　法
定期試験(30%)　平常点(30%)　課題レポート(30%)　　小レポート(10%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。)
成　績　評　価　基　準
①ノーマライゼーションの理念が説明できるか　②統合保育について適切に説明できるか　③障害の種類(知的障害、自閉症、学習障害、注意欠陥・多動性障害等)による特徴が理解でき、その支援方法を説明できるか　④障がい児とその家族に対する支援方法が理解できているか(連携・協働等)　⑤障がい児のアセスメント方法を説明できるか　⑥発達支援の技法でよく用いられているものを説明できるか　⑦発達に障害のある児童についての保育計画が立てられるか等
テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書
(参考図書)よくわかる障害児保育(ミネルヴァ書房：尾崎康子、小林　真、水内豊和、阿部美穂子　編) (参考図書)　障害児保育(北大路書房；渡部信一、本郷一夫、無藤隆　編著)
その他(受講上の注意)
特記すべき点はなし。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会的養護内容 (General Social Nursing)			担当教員	木越　直昭
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−BD−2211	2単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の対象の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

社会的養護を必要とする子どもの現状と実態を把握し、子どもの日常を理解させる。主に、児童養護施設及び乳児院での生活プログラムを理解した上で、その児童に対する援助(養護)の内容を学ぶ。「子どもの最善の利益」を中心とする養護の理念を踏まえながら、基本的な日常生活での援助、心の傷を癒やすための援助、家族関係を調整するための援助、自己実現のための援助等を修得させる。更に、援助者としての知識、技能並びに倫理を修得させる。

授業の到達目標

社会的養護を必要とする子どもの心の叫びに応えるための技術取得を図る。

授業の計画

第1回：乳児院の現状と課題
第2回：児童養護施設の現状と課題
第3回：施設運営と管理
第4回：基本的な日常生活の援助
第5回：母子家庭の実態とその支援
第6回：児童虐待児童の保護と家庭支援
第7回：被虐待児童の対応と援助
第8回：ボーダーライン上の児童への対応と援助
第9回：地域へのかかわりと役割
第10回：家庭復帰及び里親委託への支援
第11回：自立支援
第12回：パーマネンシの保障と課題
第13回：子どもの最善の利益とは
第14回：権利擁護ノートの作成
第15回：援助者としての資質向上に向けて

授業外の学習方法

各回の講義を受けた後で当該部分の配付資料を見直して復習をし、次の授業に臨んで下さい。

成績評価方法

レポート(50%)　平常点(50%)(平常点は、授業への参加状況、受講態度など総合的に判断します。)

成績評価基準

家庭的養護を必要とする子どもの気持ちを受け止めているかどうか。
子供の権利擁護という視点に立っているかどうか。

テキスト、参考図書
必要に応じて、資料を配付する。
その他（受講上の注意）
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

算数科教育法２年 (Teaching Method s of Arithmetic)			担当教員	木曽　利雄
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AB−2352	２単位	２年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・各教科の指導法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容及び方法の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)

授業の内容

算数科の「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」の各領域についての授業方法や評価について考えていく。授業展開を考えていく際、授業の基本的な考え方、ＴＴや習熟度別指導等の個に応じた学習指導の仕方、発問・板書や子どもの発言の取り上げ方等主体的な学習活動のさせ方について解説する。児童の学習意欲を喚起するために、「課題づくり」・「算数的な活動」について検討させる。

授業の到達目標

1　算数教育の基本的な考え方や目標が理解できる。
2　各領域の内容の概観とその授業のポイントが分かる。
3　授業展開例を基に、主体的な学習指導、発問や応答、板書やノート指導などの学習指導の基礎基本を習得する。
4 学習指導計画と評価について理解できる。

授業の計画

第１回：算数教育の基本的考え方
第２回：算数科の目標
第３回：算数的な活動　意味と期待されること
第４回：数と計算(１)　整数と計算　①内容の概観、②数の意味と記数法、③四則計算(整数)
④概算と見積もり
第５回：数と計算(２)　小数・分数と計算　①内容の概観、②小数・分数の加法と減法
③小数・分数の乗法と除法
第６回：数と計算(３)　領域の授業展開　(学習指導の観点)主体的な学習指導、算数的な活動
第７回：量と測定(１)　①内容の概観、②量の指導、③測定の指導
第８回：量と測定(２)　領域の授業展開　(学習指導の観点)個に応じた学習指導、算数的な活動
第９回：図形(１)　①内容の概観、②図形についての理解(図形の構成、図形の性質)
③図形についての見方や感覚
第10回：図形(２)　領域の授業展開　(学習指導の観点)主体的な学習指導、算数的な活動、発問や応答、板書やノート指導
第11回：数量関係(１)　①内容の概観、②関数の考え、③式で表すことと式を読むこと、④統計的処理
第12回：数量関係(２)　領域の授業展開　(学習指導の観点)個に応じた学習指導、教育機器の活用
第13回：学習指導計画と評価
第14回：学習指導の創意・工夫　①学習指導案の作成と検討、②発問・応答、板書、ノート指導
③教育機器など
第15回：レポートのまとめ

授業外の学習方法

予習として、各回に関連する頁を読み、算数指導者の立場と児童の立場に立って、疑問点を整理しておくこと。復習としては、テキストや板書等を見直し、算数各領域の指導計画と指導のポイントや受講後の感想をまとめておくこと。

成　績　評　価　方　法
レポート内容と発表(70%)受講態度(30%)で総合的に評価する。
成　績　評　価　基　準
・算数教育の基本的な考え方や目標が理解できたか。 ・各領域の内容と授業ポイントが分かったか。 ・算数科学習指導の基礎基本を理解し、習得できたか。 ・学習指導計画と評価について理解できたか。
テキスト、参考図書
「小学校学習指導要領解説　算数編」 文部科学省　東洋館出版社　2008年
その他(受講上の注意)
受講態度については、講義における発表等の貢献度を期待(評価)する。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

理科教育法２年 (Teaching Method s of Science)			担当教員	西出　和彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AB−2353	２単位	２年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・各教科の指導法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容及び方法の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)

授業の内容

２～３名のグループをつくり、模擬授業を実施する。授業テーマはグループ内で協議して選択する。指導方法を協議し、予備実験をした上で、他の学生を小学生と見立てて、模擬授業を行う。学習指導案、実験のためのワークシートを作成し、授業後提出する。授業を受けた学生は、授業の評価を行う。

授業の到達目標

小学校理科の教育内容をよく理解し、観察実験を伴った模擬授業を行うことができる。また、授業を受けて、適切に評価することができる。

授業の計画

第１回：オリエンテーション　グループ編成、理科準備室の説明、授業担当単元についての協議
第２回：授業担当単元の決定
第３回：学習指導案、ワークシートの作成について
第４回：模擬授業と評価①
第５回：模擬授業と評価②
第６回：模擬授業と評価③
第７回：模擬授業と評価④
第８回：模擬授業と評価⑤
第９回：模擬授業と評価⑥
第10回：模擬授業と評価⑦
第11回：模擬授業と評価⑧
第12回：模擬授業と評価⑨
第13回：模擬授業と評価⑩
第14回：模擬授業と評価⑪
第15回：模擬授業と評価⑫
第16回：定期試験

授業外の学習方法

小学校理科の教科書、小学校理科学習指導要領をよく読み、理解する。

成績評価方法

定期試験(50%)　提出物(30%)　平常点(20%)

成績評価基準

(１)小学校理科の授業内容を理解している。
(２)学習内容の目標に応じて、適切な学習指導ができる。

テキスト、参考図書
（1）小学校理科教科書 （2）小学校学習指導要領解説(理科編)
その他(受講上の注意)
毎回、実験着、上履きを持参すること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育実習指導Ⅰ (Guidance for Field Practice Ⅰ)			担当教員	石川　昭義、柿本　真代、青井　夕貴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CE−2212	2単位	2年	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

学外実習による実践的能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

保育所と居住型児童福祉施設の学外実習を行うための事前及び事後の指導を行う。事前指導では、保育実習の意義と目的、実習の際の留意事項、実習日誌・日案の書き方などを理解する。また、現職の保育士や施設職員を招いて特別講義を行う。実習終了後は、個別指導のほか、グループ討議や全体反省会等を開いて、実習の成果と課題を共有するとともに、さらに研鑽すべき課題を明らかにする。

授業の到達目標

事前指導では、保育実習の意義と目的を説明することができる。
実習日誌及び指導計画の書き方の基本を身につける。
事後指導では、個別指導を通じて自己の長所と課題を理解する。また、グループ討議や全体反省会を開いて、実習の成果と課題を共有し、さらに研鑽すべき課題を明らかにする。

授　業　の　計　画

【前期 ― 事前指導】
第１回：実習の概要説明(保育所・施設)
第２回：保育所実習オリエンテーション①
第３回：施設実習オリエンテーション①
第４回：保育所実習オリエンテーション②
第５回：保育所実習オリエンテーション③
第６回：施設実習オリエンテーション②
第７回：保育所実習オリエンテーション④
第８回：施設実習オリエンテーション③
第９回：保育所実習オリエンテーション⑤
第10回：施設実習オリエンテーション④
第11回：保育所実習オリエンテーション⑥
第12回：特別講義(保育所実習で何を学ぶか)
第13回：施設実習オリエンテーション⑤
第14回：特別講義(施設実習で何を学ぶか)
第15回：事前指導まとめ
第16回：施設見学
【後期 ― 事後指導】
第１回：保育所実習個別振り返りシート
第２回：施設実習個別振り返りシート
第３回：保育所実習グループ討論①
第４回：保育所実習グループ討論②
第５回：施設実習グループ討論①
第６回：施設実習グループ討論②
第７回：保育所実習発表会
第８回：施設実習発表会
第９回：個別指導(保育所)
第10回：個別指導(保育所)
第11回：個別指導(施設)
第12回：個別指導(施設)
第13回：実習報告会

授業外の学習方法

予習として、教科書の各回に関連するページを読み、あらかじめ疑問点等を考えておいてください。また、復習としては、出された宿題や指定された図書等を通して授業内容をまとめてください。

成　績　評　価　方　法

課題レポート(50％)　平常点(50％)
(平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物等を総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準

事前指導では、保育実習の意義と目的を説明することができるか。
実習日誌及び指導計画の書き方の基本を身につけられたか。
事後指導では、個別指導を通じて自己の長所と課題を認識することができたか。
グループ討議やグループレポート集の作成に積極的に参加し、実習の成果と課題を共有し、さらに研鑽すべき課題を明らかにすることができたか。

テキスト、参考図書

阿部和子他編　『保育実習』　ミネルヴァ書房　2009年

その他(受講上の注意)

やむをえず欠席するときは、大学に連絡すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育実習Ⅰa (Field Practice Ⅰa(Day Care Center))			担当教員	石川　昭義、柿本　真代、青井　夕貴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CE−2213	2単位	2年前期	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

学外実習による実践的能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)、児童厚生一級指導員(必修)

授業の内容

2年次8月に2週間の保育所実習を行う。

授業の到達目標

実際の保育所における体験を通じて、児童福祉施設としての保育所の社会的機能を理解する。また、乳幼児に対する理解を深め、保育士という職務に対する認識を深める。実習において、学内で学んだ知識・技能を実践し、理論と実践との結びつきのずれを認識し、その結果から、これからの自分の学習課題を見つける。
2週間の期間で、「見学・観察」、「参加」、「部分」、「指導」の各段階の実習を行う。

授業の計画

保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務について学ぶため、次の内容を経験し、学習する。
1．実習施設について理解する。
2．保育の一日の流れを理解し、参加する。
3．観察や関わりを通して乳幼児の発達を理解する。
4．保育課程・指導計画を理解する。
5．生活や遊びなど保育の一部分を担当し、保育技術を習得する。
6．記録にもとづいて振り返りを行い、自己の課題を見つける。
7．職員間の役割分担とチームワークについて理解する。
8．乳幼児の最善の利益についての配慮を学ぶ。
9．保育士としての職業倫理を具体的に学ぶ。
10．健康、安全及び疾病予防の配慮について理解する。

授業外の学習方法

実習ノートを記載しながら振り返りを行う。
実習保育所の指示にしたがい、翌日以降の実習の準備を行う。

成績評価方法

実習園からの評価、教員の巡回指導の記録、実習日誌、出勤状況などにもとづき、総合的に評価する。

成績評価基準

実習評価表の項目(5項目及び総合評価)による。

テキスト、参考図書

なし

その他(受講上の注意)

大学及び実習保育所から指示された留意事項を守り、誠実に実習を行うこと。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育実習Ⅰb (Field Practice Ⅰb(Childcare)			担当教員	石川　昭義、柿本　真代、青井　夕貴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CE−2214	2単位	2年前期	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

学外実習による実践的能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)、児童厚生一級指導員(必修)

授業の内容

2年次9月に10日間の施設実習を行う。

授業の到達目標

児童福祉施設等での実習を行う。見学・観察及び参加実習を通して、児童福祉施設等がどのようなところか、どのような機能をもっているのかを理解するとともに、当該施設の児童とその生活について理解する。また、児童福祉施設等における保育士の職務と役割を理解し、他職員との協力関係を把握するとともに、保育士となるための必要な技術・知識の水準を認識する。

授業の計画

居住型児童福祉施設等の生活に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、居住型児童福祉施設等の機能とそこでの保育士の職務について学ぶため、次の内容を経験し、学習する。
1．実習施設について理解する。
2．養護の一日の流れを理解し、参加する。
3．観察や関わりを通して、子どもの発達と子どものニーズを理解する。
4．援助計画を理解する。
5．生活や援助などの一部分を担当し、養護技術を習得する。
6．記録にもとづいて振り返りを行う。
7．職員間の役割分担とチームワークについて理解する。
8．乳幼児の最善の利益についての配慮を学ぶ。
9．保育士としての職業倫理を具体的に学ぶ。
10．健康、安全及び疾病予防の配慮について理解する。

授業外の学習方法

実習ノートを記載しながら振り返りを行う。
実習施設の指示にしたがい、翌日以降の実習の準備を行う。

成績評価方法

実習施設からの評価、教員の巡回指導の記録、実習日誌、出勤状況などにもとづき、総合的に評価する。

成績評価基準

実習評価表の項目(5項目及び総合評価)による。

テキスト、参考図書

なし

その他(受講上の注意)

大学及び実習施設から指示された留意事項を守り、誠実に実習を行うこと。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習 (Fieldwork)			担当教員	伊東　知之、中野　研也、柿本　真代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−DG−2215	2単位	2年通年	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

実践活動を通した幅広い知識・技能

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

演習形態で子どもを対象にした発表や実践を伴うため、制作に費やす時間が別途企画されたり、時間外実践活動で学外(地域社会というフィールド)に出かけることもある。

授業の到達目標

学生が授業等で身に付けた理論や実践学習を学内外で子どもたちと共に具体的展開を試みる講座である。内容は音楽・身体・造形・児童文化などの表現活動を中心にした社会的活動実践を主軸に置く。フィールドは地域自治体からの要求に応じた場や自ら発表の場や対象を開拓して対応もする。長期・短期の活動時期を勘案して、学生自らが企画立案・運営し、対外交渉から実践、事後処理まで含めて主体的に活動していくことができるようにする。

授業の計画

第1回：フィールドワーク演習のオリエンテーション。授業概要の説明、実践における計画書の作成　4月
第2回：音楽の分野からの具体的実践アプローチの提案と試み1　4月
第3回：造形の分野からの具体的実践アプローチの提案と試み1　4月
第4回：子どもの文化からの具体的実践アプローチの提案と試み1　5月
第5回：音楽の分野からの企画立案へのアプローチ2　5月
第6回：造形の分野からの企画立案へのアプローチ2　5月
第7回：子どもの文化からの企画立案へのアプローチ2　5月
第8回：音楽・造形・子どもの文化の分野での班別制作実践1　6月
第9回：音楽・造形・子どもの文化の分野での班別制作実践2　6月
第10回：音楽・造形・子どもの文化の分野での班別制作実践3　6月
第11回：第2回～第10回の内容を総合的に組み立てプログラム作成　6月
第12回：総合的内容の実践発表参加者への案内　7月
第13回：実践発表参加者への案内　7月
第14回：実践発表の班別練習　7月
第14回：実践発表の班別練習　9月
第15回：学外会場における実践発表①　10月
第16回：実践発表のための総合練習1　10月
第17回：実践発表のための総合練習2　10月
第18～21回：大学祭にて実践発表②　1/8～4/8　10月
第22～25回：大学祭にて実践発表③　5/8～8/8　10月
第26回：発表会の実践後始末　11月
第27回：発表会参加対象者組織への意見交換　11月
第28回：発表における事後反省会　11月
第29回：発表を省みて次年度へ向けての新提案の作成　11月
第30回：反省とまとめ　レポートの作成提出　1月

授業外の学習方法
事前準備：企画・制作・実践・事後対応の流れを常に把握し、その都度次回の時間の目標を確認しておくこと。 事後処理：回毎に実践過程を振り返り、不足分、未対応部分など全体の流れに遅れていないか確認しながら対処する。
成績評価方法
制作物の提出(10%)、子ども対象の実践発表と学外実践への参加(30%)、受講生全員での総合発表会の発表(30%)、および実践結果の振り返りレポートと次年度への新提案(20%)、受講態度(10%)で総合的に評価する。
成績評価基準
リーダーとして実践の企画・立案・展開方法・制作の吟味・発表・反省までが緻密にプレゼン・説明できるか。
テキスト、参考図書
その都度、各分野の授業時にプリントを配布したり、資料の紹介等を行う。ファイル作りをしていくこと。
その他(受講上の注意)
規定外の時間帯に制作練習、実践発表等が組み込まれることがあるので、自主的に活動することを望む。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子どもの映像文化 (Visual Media for Children)			担当教員	篭谷　隆弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AC−2259	2単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科又は教職に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状(選択)、小学校教諭一種免許状(選択)

授業の内容

子ども教育のためのマルチメディアコンテンツの制作

授業の到達目標

この授業では、子どもの映像に対する認知的特性や学習効果について理解する。視聴覚教材やアニメーションの制作技術や近年多く利用されつつあるWWWやインタラクティブアニメーションについての制作技術を習得する。

授業の計画

第1回：授業の概要説明、使用設備等の説明、視聴覚教材・映像の鑑賞
第2回：静止画素材　(スキャンニング・撮影・ペインティング)
第3回：静止画編集　(合成・修復)
第4回：音素材編集　(サンプリング)
第5回：音素材編集　(スコア)
第6回：ビデオ編集　(撮影・キャプチャ)
第7回：ビデオ編集　(編集)
第8回：ビデオ作品の計画
第9回：ビデオ作品の相互評価
第10回：アニメーション制作(1)　基礎
第11回：アニメーション制作(2)　タイムライン編集
第12回：アニメーション制作(3)　トゥイーン
第13回：アニメーション制作(4)　インタラクティブ
第14回：アニメーション作品の計画と制作
第15回：アニメーション作品の制作と相互評価

授業外の学習方法

様々な課題作品を制作することになるため、毎回の授業時間内のみならず、放課後や空き時間などにも、制作に多くの時間が必要となる。 またより良い作品とするためには多くの資料を参考に自主的に取り組む必要もある。
市販のビデオ撮影・編集に関する書籍、Adobe Flashに関する書籍、マニュアルを参考にするとよい。

成績評価方法

各回で課す課題を提出する課題60%
テーマに沿った作品制作40%

成績評価基準

視聴覚教材やアニメーションの制作技術を修得できたか。

テキスト、参考図書
特に指定しないが、プリント及びe-Learning教材を授業時に使用する。
その他（受講上の注意）
欠席した場合には、授業の進度を確認し次週に備えること。また授業時間外での課題およびコンテンツ制作に、多くの時間を要することに留意すること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

音楽の世界 (The World of Music)			担当教員	中野　研也
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1321	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　人間学関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

建学の精神である仏教精神に基づく人間性の涵養と幅広い視野から物事をとらえ、高い論理性と的確な判断を下すことができる力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

さまざまな音楽の、魅力や特徴を探る。

授業の到達目標

音楽に対して、自分なりの考えを持つことができる。
音楽を通して、新たな視点での美的センスを身に付けることができる。

授業の計画

第1回：音と音楽、さまざまな種類の音楽について
第2回：音階とメロディー、拍子(ビート)とリズム、和声(ハーモニー)
第3回：西洋の音楽1　(バッハからストラヴィンスキーまで)
第4回：西洋の音楽2　(現代音楽と私達)
第5回：西洋の音楽3　(新たな潮流)
第6回：音楽鑑賞・視聴1　～器楽作品(予定)　鑑賞レポート
第7回：美術・デザイン1　～美術は如何にして生まれ、どのように発達したか
第8回：美術・デザイン2　～音楽と美術との関係を探る
第9回：世界の民族音楽と日本の伝統音楽
第10回：ジャズ1
第11回：ジャズ2
第12回：ロック、ポピュラー音楽　1
第13回：ロック、ポピュラー音楽　2
第14回：音楽を制作する・音楽を記録する
第15回：音楽鑑賞・視聴2　～ミュージカル作品(予定)　鑑賞レポート
第16回：定期試験

授業外の学習方法

配布した資料(プリント)や、授業で話したことのメモを見返すようにしてください。

成績評価方法

2度のレポート(20%)、定期試験(40%)、授業への参加状況(40%)で評価する。

成績評価基準

音楽についての幅広い知識と、自分なりの考えを持つことができたかどうか。

テキスト、参考図書

特定のテキストは使用しない。授業ごとに、資料(プリント)を配布する。

その他(受講上の注意)
試験問題は、授業で話した事と配布資料(プリント)から出すので、配布物と自分でメモをとったものは試験まで無くさずに持っておくこと。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

生活と環境C (Life Science and the Environment C)			担当教員	尼子　克己
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1331	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　環境・健康生活科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

建学の精神である仏教精神に基づく人間性の涵養と幅広い視野から物事をとらえ、高い論理性と的確な判断を下すことができる力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

有史以来の環境問題を、人間生活の豊かさ、疑似科学と科学の違いと関連させながら説明します。

授業の到達目標

有史以来、環境問題が如何に発生したか、人類はそれに以下に対処してきたかについて、その概要を説明できる。現代の環境問題が人口の増大と生活の豊かさとリンクし、その複雑さゆえ単純な解決法を持たないことを説明できる。環境問題に対峙し、自ら意思決定に関わる姿勢を身につける。

授業の計画

第1回：イントロダクション
第2回：地球の歴史と生物の進化
第3回：オゾンホール
第4回：疑似科学と科学リテラシー
第5回：大気汚染ガスと酸性雨①
第6回：大気汚染ガスと酸性雨②
第7回：怪しい健康情報：科学的に正しいとはどういうことか
第8回：BSE問題(科学が判断できないこと)
第9回：有機野菜・遺伝子組み換え作物の安全性
第10回：放射線と人体
第11回：温室効果ガスとIPCC報告書
第12回：エネルギー問題
第13回：エネルギーと人口論
第14回：相対的な時間軸でみた生物の一生と地球
第15回：まとめ：環境問題が解決するとはどういうことか
第16回：定期試験

授業外の学習方法

授業後にプリント、ノートを見直す。講義中に紹介したコラム・書籍等のうち気に入ったものを通読する。

成績評価方法

定期試験(60%)、平常点(40%)。平常点は授業への参加状況・受講態度・ノートテイクの状況等を総合して判断します。

成績評価基準

環境に関わる語句を正しく説明できるか。科学的な正しさを理解できているか。論理的に自分の意見を述べる、または書くことができるか。

テキスト、参考図書
テキストは使用しない。毎回プリントを配布する。参考図書：廣瀬千秋訳「実感する化学 ―地球感動編―」(株)NTS、門西岡秀三監修『地球温暖化』ニュートンプレス、石井彰著「エネルギー論争の盲点 ― 天然ガスと分散化が日本を救う」(ＮＨＫ出版新書)、SYNODOS編『もうダマされないための「科学」講義』(光文社新書)、坂口謙吾著「環境汚染で滅びないために：生物学者の目から見た環境問題」オーム社、その他
その他(受講上の注意)
講義内容のノートをとる用紙を毎回配布・回収(その日のうちに返却)します。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語Ⅲa (English Ⅲa)			担当教員	ME ハウカ
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1341	1単位	3年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　外国語科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

建学の精神である仏教精神に基づく人間性の涵養と幅広い視野から物事をとらえ、高い論理性と的確な判断を下すことができる力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

A pre-reading warm-up activity will be held before reading the essay for each unit. Comprehension exercises, including pair-work, will follow the introduction of new vocabulary. After discussing the topic in groups, a short writing exercise will be given.

授業の到達目標

The focus of the course is on developing reading and discussion skills. Students will learn about the world around them and then engage in thoughtful discussions in an effort to deepen their international understanding.

授業の計画

第1回: Introductions
第2回: Who Is J.K. Rowling? ①
第3回: Who Is J.K. Rowling? ②
第4回: What Are Some New Year's Customs? ①
第5回: What Are Some New Year's Customs? ②
第6回: Where Is Buckingham Palace? ①
第7回: Where Is Buckingham Palace? ②
第8回: Mid-term Examination / Why Are Cows Special In India? ①
第9回: Why Are Cows Special In India? ②
第10回: Why Do People Give Gifts For Weddings? ①
第11回: Why Do People Give Gifts For Weddings? ②
第12回: What's Special About The Blowfish? ①
第13回: What's Special About The Blowfish? ②
第14回: Who Are The Sami? ①
第15回: Who Are The Sami? ②
第16回: Final Examination

授業外の学習方法

Students are encouraged to consult the Internet for information on topics introduced in the textbook.

成績評価方法

Proactive In-class Participation, Homework and Assignments - 25%
Mid-term Examination - 25%
Final Examination - 50%

成績評価基準

Students will be evaluated on their contributions during in-class discussions and on assigned material as well as their performance on the mid-term and final examinations.

テキスト、参考図書
What A World Reading 1 : Amazing Stories from Around the Globe Milada Broukal Pearson Longman ISBN 978- 0 -13-247267- 8
その他（受講上の注意）
Active participation in class is essential for success in this course.
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語Ⅲb (English Ⅲb)			担当教員	ME ハウカ
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1342	1単位	3年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　外国語科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

建学の精神である仏教精神に基づく人間性の涵養と幅広い視野から物事をとらえ、高い論理性と的確な判断を下すことができる力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

A pre-reading warm-up activity will be held before reading the essay for each unit. Comprehension exercises, including pair-work, will follow the introduction of new vocabulary. After discussing the topic in groups, a short writing exercise will be given.

授業の到達目標

The focus of the course is on developing reading and discussion skills. Students will learn about the world around them and then engage in thoughtful discussions in an effort to deepen their international understanding.

授業の計画

第1回: Introductions
第2回: Why Are Rain Forests Important? ①
第3回: Why Are Rain Forests Important? ②
第4回: What Is Tornado Alley? ①
第5回: What Is Tornado Alley? ②
第6回: Who Was Andrew Carnegie? ①
第7回: Who Was Andrew Carnegie? ②
第8回: Mid-term Examination / Why Do People Decorate Their Bodies? ①
第9回: Why Do People Decorate Their Bodies? ②
第10回: What Is Canada's Favorite Sport? ①
第11回: What Is Canada's Favorite Sport? ②
第12回: What's Special About New Zealand? ①
第13回: What's Special About New Zealand? ②
第14回: Who Were The Men Sailing Dragon Ships? ①
第15回: Who Were The Men Sailing Dragon Ships? ②
第16回: Final Examination

授業外の学習方法

Students are encouraged to consult the Internet for information on topics introduced in the textbook.

成績評価方法

Proactive In-class Participation, Homework and Assignments - 25%
Mid-term Examination - 25%
Final Examination - 50%

成績評価基準

Students will be evaluated on their contributions during in-class discussions and on assigned material as well as their performance on the mid-term and final examinations.

テキスト、参考図書
What A World Reading 1 : Amazing Stories from Around the Globe Milada Broukal Pearson Longman ISBN 978- 0 -13-247267- 8
その他（受講上の注意）
Active participation in class is essential for success in this course.
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会福祉論 (Social Welfare)			担当教員	木村　多佳子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2309	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)

授業の内容

「健康」と「幸せ」につながる社会福祉の理念や法制度について講義し、栄養士・管理栄養士に必要とされる社会福祉の基礎知識について解説する。

授業の到達目標

・わが国の社会保障のしくみと主な社会福祉制度を理解し、栄養士・管理栄養士の職務とのつながりを説明できる。
・栄養士・管理栄養士が保健医療福祉および教育分野で連携する社会福祉専門職の業務を理解する。

授業の計画

第1回：オリエンテーション、栄養士が社会福祉を学ぶ意義と目的
第2回：社会福祉の意味と対象
第3回：社会福祉実践の場
第4回：社会福祉の専門職
第5回：社会福祉における援助の方法ーソーシャルワークの体系と展開過程ー
第6回：社会福祉の分野で働く栄養士
第7回：社会保障の体系と社会保険①
第8回：社会保障の体系と社会保険②
第9回：生活保護制度
第10回：高齢者の福祉と介護保険制度
第11回：介護保険制度と権利擁護のシステム
第12回：児童家庭福祉
第13回：障害者の福祉と障害者自立支援法①
第14回：障害者の福祉と障害者自立支援法②
第15回：地域福祉
第16回：定期試験

授業外の学習方法

各回の講義を受けた後、当該部分の教科書や配付資料を見直して復習し、次の授業に臨んでください。

成績評価方法

定期試験(80%)　平常点(20%)
(非常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。)

成績評価基準

・わが国の社会保障のしくみと主な社会福祉制度を理解し、栄養士・管理栄養士の職務とのつながりを説明することができるか。
・栄養士・管理栄養士が保健医療福祉および教育分野で連携する社会福祉専門職の業務を理解できたか。

テキスト、参考図書
岩松珠美・三谷嘉明編「四訂　栄養士・管理栄養士をめざす人の社会福祉」(株)みらい 2012年
その他(受講上の注意)
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

栄養生化学実験 (Experiments in Nutritional Biochemistry)			担当教員	池田　涼子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2315	1単位	3年前期	実験	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>　正常な人体の仕組みについて、細胞レベルから組織・器官レベルまでの機能を理解する。

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格(選択)

授業の内容

グループに分かれて実験を行い、実験報告書(レポート)を作成し提出する。授業内容・学生の理解度に応じて課題を与えることがある。
栄養生化学とは、栄養素の代謝および関連する生体成分の特性を生化学的手法を用いて究明する学問分野である。本科目では、生体成分の分析、消化実験、栄養素の摂取と生体指標の関係性についての実験を通して、栄養素と生体生化学反応・生理機能との相互関連ひいては生化学と生理学、栄養学とをつなぐ総合的な知識の定着を図るよう授業を展開する。

授業の到達目標

栄養学の科学的根拠を得る上で生化学的な視点は不可欠であり、その手法は近年大いに発達してきている。本講義は化学実験(定性・定量・機器分析)の内容を基本として、栄養実験、生理・生化学実験の具体的な手技の習得と、実験の結果を正確にとらえ、考察を導き出す洞察力・思考力を培うこと、正常な人体の仕組みについて、細胞レベルから組織・器官レベルまでの機能について実習を通して理解することを目的とする。

授業の計画

第1回：食品の種類と酵素活性
第2回：食品の加熱と酵素活性
第3回：食品と酵素活性についてのまとめ
第4回：腸管からのキシロース吸収
第5回：ビタミンC負荷試験　(尿中排泄ビタミンCの測定)
第6回：尿中クレアチニンの定量
第7回：尿中成分についてのまとめ
第8回：ラット血清中グルコースの定量
第9回：ラット血清中総タンパク質・A/G比の定量
第10回：ラット血清中尿素窒素・クレアチニンの定量
第11回：ラット血清中脂質の定量(トリグリセリド・遊離脂肪酸)
第12回：ラット血清中ミネラルの定量－1(カルシウム・鉄)
第13回：ラット血清中成分の統計処理
第14回：栄養素の摂取と生体指標に関するグループディスカッション
第15回：栄養素の摂取と生体指標に関する発表会
第16回：定期試験

授業外の学習方法

授業内で出題される課題について調べ、まとめる。実験レポートについては原理・考察を記述する際に必ず参考文献を引用し、出典を明記すること。ディスカッション・発表形式の授業に際しては、事前に参考とする情報の検索・整理、媒体や発表原稿の作成に取り組むこと。

成　績　評　価　方　法
レポート50%、定期試験40%、平常点10%とし、合計で評価する。 （平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断する。）
成　績　評　価　基　準
酵素実験を通して食品の種類や加熱が消化性に与える影響について説明できるか。血清中の成分を分析し、個体の栄養状態について考察できるか。尿中の成分を分析し、摂取した栄養素や生体成分のクリアランスについて評価できるか。 以上を鑑み、総合点60点以上を合格として単位を認定する。（詳細は履修規定第７条を確認すること）
テキスト、参考図書
生理・生化学実験　谷　政八　代表編集　共著　池田涼子他　地人書館　2007年 授業内容に応じて適宜、参考図書の紹介、資料の配布をおこなう。
その他（受講上の注意）
実験室に入室する際は必ず白衣・上履きを着用し、タオル・ハンカチを持参すること。長い髪はまとめ、実験操作に支障をきたす化粧などはしないこと。安全管理上、授業中の指示や実験室使用のルールについては必ず従うこと。指示に従わない者、危険な行為に及ぶ者については実験を中止し、退去を命じることがある。 レポートは提出期限を厳守すること。期限外の提出は原則として認めない。また、期限内に提出された場合でも内容不十分な場合は再提出となる。 欠席については補講として追実験を実施する。日程については担当教員に相談すること。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

栄養教育論Ⅱ(子ども・高齢期栄養教育論) (Nutrition Education Ⅱ(Children and Elderly))			担当教員	坂本　達昭
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2340	2単位	3年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)

授業の内容

栄養教育マネジメントで用いる行動科学の理論やモデルを踏まえ、乳幼児期、学童期、高齢期を中心にライフステージに応じた栄養教育のあり方を修得する。栄養教育プログラムを実践するために必要となる教材の選定や食環境の整備についても学修する。必要に応じて練習問題を交え授業を進める。

授業の到達目標

乳幼児期、学童期、高齢期を中心にライフステージに応じた栄養教育の方法論を修得する。また、栄養教育プログラムを実践するために必要となる、教材の選定や食環境の整備について説明することができる。

授業の計画

第1回：ガイダンス、栄養教育論Ⅰの復習
第2回：食環境作りと栄養教育
第3回：組織づくり、地域づくりへの展開
第4回：栄養教育に活用する教材1
第5回：栄養教育に活用する教材2
第6回：第1～5回のまとめ
第7回：乳児期、幼児期の特性
第8回：乳児期、幼児期の栄養教育
第9回：学童期の特性
第10回：学童期の栄養教育
第11回：思春期の特性
第12回：思春期の栄養教育
第13回：壮年期の特性・栄養教育
第14回：高齢期の特性、栄養
第15回：高齢期の栄養教育
第16回：定期試験

授業外の学習方法

栄養教育論Ⅰで学習した内容を復習しておくこと。また、講義を受講した後、教科書、配布資料等を用いて復習を行なうこと。

成績評価方法

試験(70%)、平常点(30%)
平常点は、授業への参加状況、受講態度、小テストの結果等から評価する。

成績評価基準

乳幼児期、学童期、高齢期を中心にライフステージに応じた栄養教育の方法論を修得しているか。栄養教育プログラムを実践するために必要となる教材の選定や食環境の整備について説明することができるか。

テキスト、参考図書
エッセンシャル栄養教育論　第３版、春木敏　編、医歯薬出版、2014年
その他（受講上の注意）
授業計画は、進捗状況により変更することがある。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

栄養教育論Ⅲ(行動療法・カウンセリング) (Nutrition Education Ⅲ(Behavior Theory and Counseling))			担当教員	森　　俊之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2341	1単位	3年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)

授業の内容

行動変容を促す基礎理論として、行動療法やカウンセリング理論の基本について学ぶとともに、具体的な栄養教育場面での実践方法について考える。

授業の到達目標

・行動療法・カウンセリング理論など行動変容に関する理論の基礎について理解する。
・栄養教育の場面で、どのような関わり方をしたらいいか考える。

授業の計画

第1回：ガイダンス(栄養教育において人間を理解する意義)
第2回：行動変容の基礎理論(行動療法・カウンセリング)
第3回：カウンセリングの基本的技術(相手を聴く)
第4回：カウンセリングの基本的技術(自分を伝える)
第5回：行動変容を促す効果的な環境設定
第6回：行動変容を促す効果的な報酬と罰
第7回：発達期に合わせた関わり方(乳幼児期・児童期)
第8回：発達期に合わせた関わり方(青年期・成人期・老年期)
第9回：定期試験

授業外の学習方法

授業終了時に、次回までにしておいてほしいことを指示する。
質問等がある場合は、積極的に研究室に来て質問すること。

成績評価方法

学期末に実施する筆記試験(80%)と、授業時に課す課題や授業時の受講態度等(20%)により、評価する。

成績評価基準

・行動療法・カウンセリング理論など行動変容に関する理論の基礎について説明できるか。
・栄養教育の場面で、どのような関わり方をしたらいいか考えることができ、模擬的に実践できるか。

テキスト、参考図書

テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配付するとともに、参考図書を紹介する。

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

栄養教育論 Ⅳ（健康栄養情報処理演習） （Nutrition Education Ⅳ (Statistical Practice in Health Nutrition)）			担当教員	三浦　　努
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2342	1単位	3年後期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果（教育目標）

栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

健康栄養に関する情報の処理と活用について学修する。

授業の到達目標

栄養教育論におけるニーズアセスメントや評価に活用する健康栄養に関する情報をMicrosoft Excelを用いて処理し、実際に利用するための技術を修得する。

授業の計画

第1回：ガイダンス　～授業計画の詳細と栄養情報処理演習についての説明
第2回：基本統計量について（その1）　代表値＜平均値、中央値、パーセントタイル＞
第3回：基本統計量について（その2）　散布度＜標準偏差、変動係数＞
第4回：基本統計量について（その3）　分布について＜度数分布＞
第5回：アンケート調査について　数量データ、カテゴリーデータの扱い方
第6回：データの整理と集計
第7回：データのグラフ化　統計量要約グラフ＜誤差グラフ、散布図、箱ひげ図＞
第8回：クロス集計、単相関係数、単回帰分析

授業外の学習方法

教科書等を参考に統計やMicrosoft Excelの操作を予習することが望ましい。復習は演習時に配布された資料を各自でまとめて授業後の理解を深めるとともに、演習課題の取り組みにおいては、さらに深い知識の修得と応用力を養うようにすること。

成績評価方法

授業ごとの演習課題および期末課題80％、演習への取り組み態度等20%の総合評価（100%）

成績評価基準

Microsoft Excelを活用して、健康栄養情報の処理や統計解析をすることができる。

テキスト、参考図書

「Excelで学ぶ統計解析入門　Excel2013/2010対応版」 菅民郎　オーム社　（2013年）

その他（受講上の注意）

管理栄養士国家試験受験資格を取得するためには、この科目は必修となるので演習中は集中して聴講すること。また、他の学生の聴講の妨げとなるので、私語はしないこと。演習課題は必ず提出すること。なお演習内容は連続性があり、欠席や遅刻ををすると内容理解の進展に支障をきたすので、欠席・遅刻をしないように心がけること。また、授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業1回目のガイダンスにて説明する。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

栄養教育論実習 (Nutrition Education Practicum)			担当教員	坂本　達昭
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2343	1単位	3年前期	実習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養士免許(必修)
管理栄養士国家試験受験資格(必修)

授業の内容

健康および生活の質(Quality of Life)の向上をめざした栄養教育プログラムの計画、実施、評価について一連のプロセスを学ぶ。集団栄養教育、個別栄養教育についてはグループワークにより学修する。

授業の到達目標

対象者のアセスメント、栄養教育プログラムの計画、実施、評価について一連のプロセスを学び、栄養教育の実践力を高め、栄養教育プログラムを総合的にマネジメントできる力を習得する。

授業の計画

第1回：ガイダンス、青年期における食生活課題の把握
第2回：青年期を対象とした食生活ニーズアセスメント、質問紙設計
第3回：質問紙設計(続)、完成
第4回：集計・解析
第5回：集計・解析(続)
第6回：考察、プレゼンテーション準備
第7回：青年期のニーズアセスメント報告会
第8回：集団栄養教育　テーマ設定(乳児・幼児期、学童期、青年期、成人期、高齢期)
第9回：集団栄養教育　行動科学理論に基づく指導計画、教材作成
第10回：集団栄養教育　模擬演習
第11回：集団栄養教育の実演
第12回：個別栄養教育　テーマ設定　計画立案
第13回：個別栄養教育　行動科学理論に基づく指導計画、教材作成
第14回：個別栄養教育　模擬演習
第15回：個別栄養教育の実演

授業外の学習方法

栄養教育論Ⅰで学習した内容を復習しておくこと。実習後は、レポート作成を通して学習事項を整理すること。

成績評価方法

レポート(50%)、発表・実演等(30%)、平常点(20%)
平常点は、授業への参加状況、受講態度等から総合的に評価する。

成績評価基準

対象者のアセスメント、栄養教育プログラムの計画、実施、評価についての一連のプロセスを理解しているか。栄養教育プログラムを総合的にマネジメントすることができるか。

テキスト、参考図書

授業時に指示する。必要に応じてプリントを配布する。

その他（受講上の注意）
グループのコミュニケーションをよくとって取り組むこと。また、実習内容には連続性があるため、欠席すると内容理解に支障をきたすことがある。 レポート等の提出期限は厳しく管理する。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床栄養病理学 (Clinical Dietetic Pathology)			担当教員	加藤　卓次
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2344	1単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的知識・技能　■理論的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格(選択)

授業の内容

臨床現場での栄養治療は、病態をよく理解して、食事や種々栄養剤に含まれる栄養素がどのように作用するかを正しく把握しながら実施していく必要がある。各種疾患の病態を十分理解したうえで、根拠に基づいた食事療法および栄養療法について教授する。

授業の到達目標

各疾患の病態を正確に把握した上で、その食事療法および栄養療法について説明できる。

授業の計画

第1回：臨床栄養病理学概説、生活習慣病概説
第2回：内分泌疾患
第3回：消化器疾患
第4回：呼吸幸疾患
第5回：運動器疾患
第6回：血液疾患
第7回：免疫とアレルギー疾患
第8回：感染症
第9回：定期試験

授業外の学習方法

教科書、授業時の板書やプリントに基づいて、各自のノートに授業の内容を整理しまとめて必ず繰り返し復習すること。理解が不十分な箇所については、質問すること。

成績評価方法

定期試験(80%)、平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します)

成績評価基準

各種疾患の病態を正確に把握した上で、その食事療法および栄養療法について説明できる。

テキスト、参考図書

−サクセス管理栄養士講座−『人体の構造と機能及び疾病の成り立ち』 加藤昌彦　第一出版　2013
講義時にプリントを配布する。

その他(受講上の注意)

講義中の私語は厳重に禁止する。疑問点や不明点がればすぐに質問すること。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床栄養学Ⅰ(栄養療法) (Clinical Nutrition Ⅰ (Dietetic Therapy))			担当教員	佐藤　裕保
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2345	2単位	3年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)

授業の内容

消化器疾患、代謝疾患、循環器疾患、腎疾患、先天性代謝異常などを、各疾患別にその発症機序、臨床症状に応じて、疾患の改善に必要な条件を栄養学の面から明らかにし、栄養食事療法の意義や方法・効果について学習する。

授業の到達目標

疾病と栄養・食事療法の関連を理解する。

授業の計画

第1回：ガイダンス、傷病者に対する栄養
第2回：消化器疾患：胃十二指腸潰瘍・胃がん
第3回：消化器疾患：クローン病・潰瘍性大腸炎
第4回：消化器疾患：肝臓病
第5回：消化器疾患：膵炎
第6回：代謝疾患：糖尿病
第7回：代謝疾患：肥満・メタボリックシンドローム
第8回：代謝疾患：脂質異常症
第9回：代謝疾患：高尿酸血症
第10回：循環器疾患：狭心症・心筋梗塞
第11回：循環器疾患：高血圧
第12回：腎疾患：ネフローゼ症候群
第13回：腎疾患：慢性腎臓病・透析
第14回：先天性代謝異常：フェニルケトン尿症
第15回：小児疾患：食物アレルギー・まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

基礎科目との知識の連携を心がけること。
予習として、各疾病と関連する解剖生理学・生化学などの復習を行うこと。
また授業後には、関連する基礎科目の知識と統合できるように復習すること。

成績評価方法

定期試験(80%)平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します)

成績評価基準

疾病と食事・栄養療法の関連を説明することができるか。

テキスト、参考図書
必要に応じてプリント配布
その他（受講上の注意）
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床栄養学Ⅱ(栄養アセスメント) (Clinical Nutrition Ⅱ(Nutrition Asessment))			担当教員	山本　浩範
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2346	2単位	3年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

対象者の栄養状態あるいは疾病コントロール状況を評価・判定し、適切な栄養ケアプランを立案できる技術を習得し、チーム医療の一員として貢献できる能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)

授業の内容

傷病者の栄養状態あるいは疾病コントロール状況を評価・判定し、適切な栄養ケアプランを立案できる知識と技術を身につけることを目的とする。

授業の到達目標

各疾患における生理的特徴、栄養状態の特徴、身体・栄養状態の評価・判定法について説明できる

授業の計画

第1回：医療の現状と管理栄養士の職務
第2回：医療における栄養管理の意義
第3回：カルテ(診療記録)の見方、読み方と情報
第4回：ＰＯＳと栄養管理
第5回：クリニカルパスの基礎知識
第6回：肥満の心理と食行動－人はなぜ食べ過ぎるのか－
第7回：ＩＴと栄養教育
第8回：食事記録法による栄養摂取量の把握とその問題点
第9回：栄養食事指導と食事療法の心理的要因
第10回：患者とのコミュニケーション
第11回：栄養補給法の種類と摘要
第12回：食品と医薬品の相互作用
第13回：個別栄養管理と管理栄養士
第14回：治療基準と栄養ケア・マネジメント(NCM)
第15回：在宅医療(地域連携)と栄養ケア
第16回：定期試験

授業外の学習方法

各回の講義を受けた後で、配付資料と教科書・参考書を見直して、次回の授業に臨んでください。また、講義予定に合わせて教科書・参考書の関連する項目を読み、疑問点などを考えておくこと。

成績評価方法

定期試験90%(授業の理解度を評価する)、 平常点10%(平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する)

成績評価基準

各疾患における生理的特徴、栄養状態の特徴、身体・栄養状態の評価・判定法について説明できるか

テキスト、参考図書
管理栄養士養成シリーズ 臨床栄養学－栄養ケアとアセスメント編－　編者　下田妙子ほか　化学同人
その他（受講上の注意）
医学会の治療基準等の改定により、授業計画は変更することがある。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床栄養学Ⅲ(チーム医療) (Clinical Nutrition Ⅲ(Team Healthcare))			担当教員	佐藤　裕保
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2347	2単位	3年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)

授業の内容

医療・介護保険における管理栄養士業務、チーム医療における管理栄養士の役割について学習する。
チーム医療の一員として活動するための知識を学習する。

授業の到達目標

チーム医療における管理栄養士の位置づけと役割について理解する。

授業の計画

第1回：ガイダンス、チーム医療への参画がなぜ必要か
第2回：医療保険制度Ⅰ(制度概要・入院時食事療養)
第3回：医療保険制度Ⅱ(特別食加算)
第4回：医療保険制度Ⅲ(入院基本料・NST加算)
第5回：医療保険制度Ⅳ(栄養食事指導料)
第6回：介護保険制度(制度概要・療養食加算・居宅療養管理指導)
第7回：医療・介護保険制度まとめ
第8回：NST・ターミナルケア
第9回：管理栄養士としての倫理
第10回：米国のRD
第11回：リスクマネジメント・災害時対応
第12回：クリティカルパス
第13回：医薬品と食品の相互作用Ⅰ(医薬品とは)
第14回：医薬品と食品の相互作用Ⅱ(実例)
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

2-6回は予習として、「健康管理概論」「社会福祉論」の復習を行うこと。
他の回はインターネット等により、予習すること。
他の臨床栄養学科目との知識の統合をはかること。

成績評価方法

定期試験(80%)平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します)

成績評価基準

チーム医療における管理栄養士の位置づけと役割について理解できたか。

テキスト、参考図書

必要に応じてプリント配布

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床栄養学 Ⅳ(臨床栄養管理) (Clinical Nutrition Ⅳ(Nutritional Care Management))			担当教員	山本　浩範
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2348	2単位	3年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)　食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格(選択)

授業の内容

栄養ケア・マネジメントを実践する上で栄養状態の適格な判断・評価に必要な知識と技術を解説する。各種疾患別に身体状況(口腔状態を含む)や栄養状況に応じた具体的な栄養管理方法について解説する。各疾病の病態と適切な臨床栄養管理における注意点について解説する。

授業の到達目標

各種疾患別に栄養状態を適格に評価・判定でき、身体状況(口腔状態を含む)や栄養状況に応じた具体的な栄養管理方法と施行時の注意点について説明できる。

授業の計画

第1回：臨床における栄養ケア・マネジメント
　　(目標設定、栄養管理計画書の作成、実施、モニタリングと評価・修正、記録・報告)
第2回：代謝・内分泌系疾患の栄養管理(飢餓、たんぱく質、エネルギー栄養障害(PEM))
第3回：代謝・内分泌系疾患の栄養管理(ビタミン・ミネラル欠乏症・過剰症)
第4回：代謝・内分泌系疾患の栄養管理(肥満、糖尿病・糖尿病合併症)
第5回：腎疾患の栄養管理(糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、慢性腎臓病、透析療法)
第6回：腎疾患の栄養管理(糖尿病性腎症)
第7回：栄養補給法の選択
第8回：経腸栄養法、静脈栄養法
第9回：消化器疾患の栄養管理(クローン病、潰瘍性大腸炎)
第10回：消化器疾患の栄養管理(肝炎、肝硬変)
第11回：循環器系疾患の栄養管理(本態性高血圧症、妊娠高血圧症、動脈硬化症、心疾患)
第12回：がんの栄養管理
第13回：術前・術後の栄養管理
第14回：クリティカルケア(熱傷、重症外傷、SIRS)
第15回：褥瘡の栄養管理
第16回：定期試験

授業外の学習方法

各回の講義を受けた後で当該部分のノートや配布資料を見直して復習をし、不明な点は、参考となる資料の収集を行い次の授業に挑んで下さい。

成績評価方法

定期試験(50%)、小テスト(30%)、平常点(20%)(平常点は、授業への参加状況・授業態度、質問用紙の提出状況を総合して判断します。)

成績評価基準

各種疾患別に栄養状態を適格に評価・判定でき、身体状況(口腔状態を含む)や栄養状況に応じた具体的な栄養管理方法と施行時の注意点について説明できるか。

テキスト、参考図書
1)臨床栄養管理学実習、塚原丘美　編　栄養科学シリーズNEXT、講談社サイエンティフィク 2)臨床栄養学実習書、医歯薬出版 3)その他、参考プリントを、授業の進捗過程で必要に応じて配布する。
その他(受講上の注意)
授業内容の理解促進のため、質問やディスカッション等を研究室にて受け付ける。また、国内外の文献・記事なども紹介するので利用すること。授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業1回目に説明する。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床栄養学実習Ⅰ(食事療法) (Clinical Nutrition Practicum Ⅰ (Dietetic Therapy))			担当教員	佐藤　裕保
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2349	1単位	3年前期	実習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)

授業の内容

消化器疾患、代謝疾患、循環器疾患、腎疾患、先天性代謝異常などを、各疾患別に疾病の改善や回復を、より適切に効果的に促進するための栄養食事療法を実習する。
対象者を的確に把握し、疾患の特徴と栄養食事療法の特徴を結び付けて考えることができるように、治療食作成の技術を学習する。

授業の到達目標

治療食作成を通して、栄養・食事療法を理解する。

授業の計画

第1回：ガイダンス、治療食献立作成について
第2回：消化器疾患：胃十二指腸潰瘍・胃がんⅠ(献立作成)
第3回：消化器疾患：胃十二指腸潰瘍・胃がんⅡ(調理・試食)
第4回：消化器疾患：肝臓病Ⅰ(献立作成)
第5回：消化器疾患：肝臓病Ⅱ(調理・試食)
第6回：代謝疾患：糖尿病Ⅰ(献立作成)
第7回：代謝疾患：糖尿病Ⅱ(調理・試食)
第8回：代謝疾患：脂質異常症Ⅰ(献立作成)
第9回：代謝疾患：脂質異常症Ⅱ(調理・試食)
第10回：循環器疾患：狭心症・心筋梗塞Ⅰ(献立作成)
第11回：循環器疾患：狭心症・心筋梗塞Ⅱ(調理・試食)
第12回：腎疾患：慢性腎臓病Ⅰ(献立作成)
第13回：腎疾患：慢性腎臓病Ⅱ(調理・試食)
第14回：先天性代謝異常：フェニルケトン尿症(献立作成)
第15回：小児疾患：食物アレルギー(献立作成)・まとめ

授業外の学習方法

臨床栄養学Ⅰとの知識の連携を心がけること。

成績評価方法

提出物(60%)平常点(40%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します)

成績評価基準

治療食作成を通して、栄養・食事療法を理解できたか。

テキスト、参考図書
「臨床栄養学実習書」医歯薬出版 「糖尿病食事療法のための食品交換表」日本糖尿病協会 「腎臓病食品交換表」医歯薬出版
その他（受講上の注意）
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床栄養学実習Ⅱ(栄養アセスメント) (Clinical Nutrition Practicum Ⅱ(Nutrition Asessment))			担当教員	山本　浩範
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2350	1単位	3年前期	実習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)

授業の内容

栄養ケア・マネジメントを実践するための栄養状態を適格に判断・評価できる栄養スクリーニングと栄養アセスメントの知識と技術を解説し、個人個人の栄養問題を解決していける臨床栄養管理能力を修得させる。各種疾患別症例の検討による栄養状態の把握と具体的な栄養管理方法について解説する。

授業の到達目標

各疾患における生理的特徴、栄養状態の特徴、各種計測による身体・栄養状態の評価・判定、栄養管理法の進め方について理解を深める。

授業の計画

第1回：オリエンテーション　臨床栄養学実習を学ぶにあたって　(臨床栄養管理に必要な技能)
第2回：栄養アセスメント　身体計測
第3回：栄養アセスメント　エネルギー消費量
第4回：栄養アセスメント　食事摂取量調査
第5回：栄養アセスメント　臨床検査、臨床診査
第6回：栄養計画　栄養補給法－経腸栄養法
第7回：栄養計画　栄養補給法－嚥下障害食－とろみ剤の検討、嚥下訓練、栄養ケアプランの作成－
第8回：栄養計画　栄養補給法－静脈栄養法
第9回：診療記録　SOAPに沿った栄養記録の作成
第10回：症例検討(糖尿病1)　－糖尿病食品交換表の使い方－
第11回：症例検討(糖尿病2)
第12回：症例検討(腎臓病1)　－腎臓病食品交換表の使い方－
第13回：症例検討(腎臓病2)
第14回：症例検討(腎臓病3)　－糖尿病性腎症の食品交換表の使い方－
第15回：症例検討(腎臓病4)
第16回：定期試験

授業外の学習方法

各回の実習を受けた後で当該部分のノートや配布資料を見直して復習をし、不明な点は、参考となる資料の収集を行い次の授業に挑んで下さい。

成績評価方法

定期試験(50%)、レポート(30%)、平常点(20%)(平常点は、授業への参加状況・授業態度、質問用紙の提出状況を総合して判断します。)

成績評価基準

各疾患における生理的特徴、栄養状態の特徴、各種計測による身体・栄養状態の評価・判定、栄養管理法の進め方について説明できるか。

テキスト、参考図書
1)臨床栄養管理学実習、塚原丘美　編　栄養科学シリーズNEXT、講談社サイエンティフィク 2)臨床栄養学実習書、医歯薬出版 3)日本糖尿病学会編　「糖尿病食事療法のための食品交換表」　文光堂 4)腎臓病食品交換表　第8版、黒川清　監修／中尾俊之　編集代表、医歯薬出版 5)糖尿病性腎症の食品交換表第2版、日本糖尿病学会(著)、文光堂
その他(受講上の注意)
授業内容の理解促進のため、質問やディスカッション等を研究室にて受け付ける。また、国内外の文献・資料なども紹介するので利用すること。授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業1回目に説明する。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床栄養学実習Ⅲ(臨床栄養管理) (Clinical Nutrition Practicum Ⅲ(Nutritional Care Management))			担当教員	山本　浩範、石黒真理子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2351	1単位	3年後期	実習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)

授業の内容

傷病者個々の病態や栄養状態に適合した栄養管理を行う能力を養うために、症例モデルを用いた栄養アセスメント・栄養管理計画・栄養量の設定・栄養教育計画など、栄養ケアプランの作成・実施・評価に関する総合的なマネジメントについて、グループディスカッションを通して臨床栄養管理を実習する。

授業の到達目標

各疾患における生理的特徴、栄養状態の特徴を理解し、栄養管理計画および栄養ケア計画を立てることができる。

授業の計画

第1回：特定保健指導について
第2回：PCソフトによる特定保健指導(対象者情報の入力・初回面談)
第3回：特定保健指導階層分け
第4回：栄養管理計画(肥満症例)
第5回：栄養管理計画(CKD症例)
第6回：栄養管理計画(透析導入症例)
第7回：栄養管理計画(糖尿病性腎症症例)
第8回：PCソフトによる特定保健指導(中間面談)
第9回：栄養ケア計画(肥満合併症症例)
第10回：栄養ケア計画(栄養不良症例)
第11回：栄養ケア計画(心疾患症例)
第12回：栄養ケア計画(肝不全・腎不全継続症例モニタリング)
第13回：栄養ケア計画(嚥下・食事介助・成分栄養剤)
第14回：PCソフトによる特定保健指導(最終面談)
第15回：まとめ：症例総合ディスカッション
第16回：定期試験

授業外の学習方法

症例理解に必要な関連科目の知識を統合すること。

成績評価方法

定期試験(50%)、レポート(30%)、平常点(20%)(授業への参加状況・授業態度、質問用紙の提出状況を総合して判断します。)

成績評価基準

各疾患における生理的特徴、栄養状態の特徴を理解し、栄養管理計画および栄養ケア計画を立てることができるか。

テキスト、参考図書
必要に応じてプリント配布
その他（受講上の注意）
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

公衆栄養学Ⅱ(栄養疫学) (Public Health NutritionⅡ(Nutritional Epidemiology))			担当教員	三浦　努
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2353	2単位	3年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格(選択)

授業の内容

日本における健康や栄養摂取状況の実態や国内や海外で行われている栄養疫学調査についての学術文献等で紹介し、さらに食事と疾病発症との因果関係を科学的に証明するための調査手法の理論について学ぶ。

授業の到達目標

保健・医療・福祉・介護システムにおいて、地域住民の栄養摂取状況における疾病の発症のハイリスク集団の特定とともに集団または個々の対象者の健康・栄養状態を適切に把握し、対象者に見合った栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントができるようにするために必要な理論と手法を修得する。集団または個々の対象者の栄養摂取状況を把握するための食事調査法を学び、さらに食事と疾病発症との因果関係を科学的に証明するための調査手法を修得する。

授業の計画

第1回：ガイダンス　−授業計画の詳細と公衆栄養学Ⅱ(栄養疫学)の概要についての説明−
第2回：栄養関連の法規と調査統計
第3回：国民健康・栄養調査　概要と調査法
第4回：我が国の健康・栄養の推移と現状①　(国民健康・栄養調査結果から)
第5回：我が国の健康・栄養の推移と現状②　(国民健康・栄養調査結果から)
第6回：我が国の健康・栄養の推移と現状③　(県民健康・栄養調査結果から)
第7回：諸外国の健康と栄養の現状と課題
第8回：栄養疫学の概要(役割と応用)
第9回：研究結果の競合的解釈
第10回：研究デザインの概要
第11回：暴露情報としての食事摂取量(食物摂取の変動要因)
第12回：食事調査法の概要①　(24時間思い出し法、秤量記録法<秤量法と目安法>)
第13回：食事調査法の概要②　(食物摂取頻度調査法)
第14回：食事摂取量を反映する身体計測値・生化学的指標
第15回：栄養疫学研究の文献紹介
第16回：定期試験

授業外の学習方法

公衆栄養学Ⅰの講義で学修したことを復習して理解を深めておくこと。また、予習としては、各回の関連するところを教科書等にて目を通しておき、疑問点などをまとめておこくと。復習は授業時に配布された資料を各自でまとめて授業後の理解を深める。課題の取り組みについては、さらに深い知識の修得と応用力を養うようにすること。

成績評価方法

定期試験60%、課題レポート20%、実習への取り組み態度等20%の総合評価(100%)

成　績　評　価　基　準
対象者の栄養摂取状況を把握するための食事調査法の理論を理解している。 食事と疾病発症との因果関係を科学的に証明するための調査手法を理解している。 対象者の健康・栄養状態を適切に把握し、疾病の発症のハイリスク集団の特定ができる。 対象者に見合った栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントができる。
テキスト、参考図書
「健康・栄養科学シリーズ　公衆栄養学」 南江堂　2013年 「日本人の食事摂取基準(2015年版)」 第一出版　2014年
その他(受講上の注意)
管理栄養士国家試験受験資格を取得するためには、この科目は必修となるので講義中は集中して聴講すること。また、他の学生の聴講の妨げとなるので、私語はしないこと。課題は必ず提出すること。なお講義内容は連続性があり、欠席や遅刻ををすると内容理解の進展に支障をきたすので、欠席・遅刻をしないように心がけること。また、授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業１回目のガイダンスにて説明する。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

公衆栄養学実習 (Public Health Nutrition Practicum)			担当教員	三浦　努
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2354	1単位	3年後期	実習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)

授業の内容

公衆栄養学の講義内容で学修した知識を基礎にして、地域における効果的な公衆栄養学活動が推進できるように学内で模擬的な実習を行う。

授業の到達目標

地域や職域等の集団における保健・医療・介護の実態把握や食生活状況や栄養摂取状況についての情報収集をどのように行うか、また得られた情報を実際にどのように処理し分析・解析していくかを修得する。さらに、実践で栄養摂取状況において疾病の発症のハイリスク集団に対しての適切な栄養関連サービスを行うプログラム作成・実施・評価することや総合的にマネジメントを行うことができるように手法を修得する。

授業の計画

第1回：ガイダンス　～授業計画の詳細についての説明と公衆栄養学研究とは～
第2回：公衆栄養学関連の文献検索法と資料検索
第3回：公衆栄養学における研究の情報処理　データ処理①(データ集計、作表、解析)
第4回：公衆栄養学における研究デザイン(観察研究と介入研究)
第5回：研究計画書作成、倫理審査、インフォームドコンセント
第6回：質問票の作成法(テーマの設定、質問票の構成)
第7回：生活活動時間調査によるエネルギー消費量測定
第8回：栄養摂取状況の実態把握　栄養調査法①　食品の目安量(ポーションサイズ)、摂取量の推定
第9回：栄養摂取状況の実態把握　栄養調査法②　24時間思い出し法
第10回：栄養摂取状況の実態把握　栄養調査法③　秤量記録法(実測値)
第11回：栄養摂取状況の実態把握　栄養調査法④　食物摂取頻度調査法
第12回：栄養摂取状況の実態把握　栄養調査法⑤　市販パソコンソフトによる調査(FFQ)
第13回：栄養摂取状況の評価　食事摂取基準の活用法
第14回：栄養情報におけるデータ解析①　カイ2乗検定
第15回：栄養情報におけるデータ解析②　2群の平均値の比較(t検定)

授業外の学習方法

公衆栄養学Ⅰ、Ⅱの講義で学修したことを復習して理解を深めておくこと。また、予習としては、各回の関連するところを教科書等にて目を通しておき、疑問点などをまとめておこくと。復習は授業時に配布された資料を各自でまとめて授業後の理解を深めるとともに、実習課題の取り組みにおいては、さらに深い知識の修得と応用力を養うようにすること。

成績評価方法

課題レポート70%、実習への取り組み態度等30%の総合評価(100%)

成　績　評　価　基　準
地域や職域等の集団における保健・医療・介護の実態把握や食生活状況や栄養摂取状況についての情報収集ができ、さらに得られた情報を適切に処理し分析・解析できること。 栄養摂取状況を評価し、疾病の発症のリスクの対象者や集団を見出し、それに対しての適切な栄養関連サービスを行うプログラム作成・実施・評価する総合的にマネジメントができること。
テキスト、参考図書
「栄養科学シリーズNEXT　公衆栄養学実習」 講談社サイエンティフィク　2011年 「健康・栄養科学シリーズ　公衆栄養学」 南江堂　2013年 「日本人の食事摂取基準(2015年版)」 第一出版　2014年
その他(受講上の注意)
栄養士免許資格、管理栄養士国家試験受験資格を修得するためには、この科目は必修になるので積極的に実習に臨むこと。私語など他人に迷惑をかける行為をする者、指示に従わない者に対しては、単位を認定しないこともある。なお実習内容は連続性があるため、欠席や遅刻をすると内容理解の進展に支障をきたすので、欠席・遅刻をしないように心がけること。授業の計画の予定は、変更されることもある。また、授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業１回目のガイダンスにて説明する。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

給食経営管理論Ⅲ(食料商品学) (Food Service Management Ⅲ(Food Product Studies))			担当教員	樽井　雅彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2357	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

食品業界について、経済学的・経営学的に、詳細に述べる。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

食料を食品として捉え、食品産業(生鮮食品、加工食品、特定保健用食品、外食産業など)の概念から食品産業の生み出す様々な食品素材の製造技術及び新製品の開発状況を紹介する。食品産業の占める経済活動について学び、食品の安全性問題をベースに今日の食環境の問題点を提起し、あるべき食品商品像について考える。

授業の到達目標

・食品産業を取り巻く環境を理解出来ている。
・食品産業の特色について理解する。
・国際化する食品産業について理解する。
・食品産業で働くことについて理解する。
・食品産業の未来について理解する。

授業の計画

第1回：食品産業について
第2回：食品産業を取り巻く環境
第3回：食品産業の特色Ⅰ
第4回：食品産業の特色Ⅱ
第5回：食品業界活性化Ⅰ
第6回：食品業界活性化Ⅱ
第7回：国際化する食品業界Ⅰ
第8回：国際化する食品業界Ⅱ
第9回：食品産業の魅力市場Ⅰ
第10回：食品産業の魅力市場Ⅱ
第11回：食品産業の魅力市場Ⅲ
第12回：食品企業で働くⅠ
第13回：食品企業で働くⅡ
第14回：21世紀の企業条件
第15回：食品産業の未来
第16回：定期試験

授業外の学習方法

各回終了時に実施する小テストで未回答だった項目は各自のノートにまとめておくこと。

成績評価方法

定期試験(50%)、授業への取り組み(30%)、小テスト(20%)

成　績　評　価　基　準
・食品産業を取り巻く環境を理解しているか。 ・食品産業の特色について理解しているか。 ・国際化する食品産業について理解しているか。 ・食品産業で働くことについて理解しているか。 ・食品産業の未来について理解しているか。
テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書
関係図書、プリント配布
そ　の　他（受　講　上　の　注　意）
板書などが見えにくい場合は、必ず申し出ること。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

栄養総合演習Ⅰ (Integrated Seminar Ⅰ)			担当教員	佐藤　裕保、三浦　　努、樽井　雅彦、 山本　浩範
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2259	2単位	2年後期・ 3年・4年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)

授業の内容

専門分野を横断して、栄養評価や管理が行える総合的な能力を養う。
オムニバスにて臨地実習の事前事後指導を行う。
事前指導として、臨地実習の意義についての指導および、実習に際しての具体的準備を行う。
実習先施設の特徴の把握、実習テーマ設定等を実習グループにて行う。
事後指導として、実習の成果および実習テーマについてまとめ、プレゼンテーションを行う。

授業の到達目標

実習の成果および実習テーマについて確認し、栄養士・管理栄養士業務について理解する。

授業の計画

第1回　：臨地実習オリエンテーションⅠ：実習の目的・目標・学ぶ姿勢について
第2回　：臨地実習オリエンテーションⅡ：社会人としてのマナーについて
第3回　：事前指導(給食運営実習)：実習施設の特徴について
第4回　：事前指導(給食運営実習)：実習テーマ設定グループディスカッション
第5回　：事前指導(給食運営実習)：実習ノートについて・提出書類等の確認
第6回　：事後指導(給食運営実習)：実習報告Ⅰ
第7回　：事後指導(給食運営実習)：実習報告Ⅱ
第8回a：事前指導(公衆栄養臨地実習)：実習施設の特徴について
第9回a：事前指導(公衆栄養臨地実習)：実習テーマ設定グループディスカッション
第10回a：事前指導(公衆栄養臨地実習)：実習ノートについて・提出書類等の確認
第11回a：事後指導(公衆栄養臨地実習)：実習報告Ⅰ
第12回a：事後指導(公衆栄養臨地実習)：実習報告Ⅱ
第8回b：事前指導(給食経営管理臨地実習)：実習施設の特徴について
第9回b：事前指導(給食経営管理臨地実習)：実習テーマ設定グループディスカッション
第10回b：事前指導(給食経営管理臨地実習)：実習ノートについて・提出書類等の確認
第11回b：事後指導(給食経営管理臨地実習)：実習報告Ⅰ
第12回b：事後指導(給食経営管理臨地実習)：実習報告Ⅱ
第13回　：実習報告会：全体会
　　(給食運営実習・公衆栄養臨地実習・給食経営管理臨地実習の発表、臨床栄養臨地実習の聴講)
第14回　：事前指導(臨床栄養臨地実習)：実習施設の特徴について
第15回　：事前指導(臨床栄養臨地実習)：臨床栄養臨地実習の内容について
第16回　：事前指導(臨床栄養臨地実習)：実習テーマ設定グループディスカッション
第17回　：事前指導(臨床栄養臨地実習)：実習ノートについて・提出書類等の確認
第18回　：事後指導(臨床栄養臨地実習)：実習報告Ⅰ
第19回　：事後指導(臨床栄養臨地実習)：実習報告Ⅱ
第20回　：実習報告会：全体会
　　(給食運営実習・公衆栄養臨地実習・給食経営管理臨地実習の聴講、臨床栄養臨地実習の発表)

授業外の学習方法
それぞれの臨地実習の関連科目の復習を充分にすること。 臨地実習施設について、ホームページ等を利用して、施設の特徴を把握すること。
成績評価方法
提出物(60%)平常点(40%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します)
成績評価基準
実習の成果および実習テーマについて確認し、栄養士・管理栄養士業務について理解できたか。
テキスト、参考図書
それぞれの臨地実習の関連科目にて使用した教科書および参考図書。 必要に応じてプリント配布。
その他(受講上の注意)
理由なく事前指導を欠席した場合、臨地実習に出られない場合がある。 ８－12回については、選択した臨地実習に出席する。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

給食経営管理臨地実習 (Field Practice in Food Service Management)			担当教員	樽井　雅彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2361	1単位	3年前期	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

実社会における管理栄養士業務を実習することにより、給食経営管理論をはじめとする専門科目で学習した理論・技術の活用の場であることを再確認し今後の学習に繋げる。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(選択)

授業の内容

給食運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力を養うために、マーケティングの原理や応用について理解するとともに、組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を習得する。

授業の到達目標

・各種給食施設に応じた栄養面のマネジメントが出来る。
・各種給食施設に応じた衛生面及び安全面のマネジメントが出来る。
・各種給食施設に応じた経済面のマネジメントが出来る。

授業の計画

3年次8～9月に1週間(45時間)の給食施設(学校・病院・福祉施設・事業所等)実習を行う。
①実習施設事前訪問・実習挨拶および指導者との打ち合わせ
②習施設ごとの実習計画による実習
③実習施設についての理解(組織・運営)
④食材料管理の把握・考察
⑤作業管理・業務分担の把握・考察
⑥安全・衛生管理の把握・考察
⑦給食に関するマネージメント全般についての理解
⑧給食業務にかかる帳票類の内容及び管理について学ぶなど

授業外の学習方法

・実習施設について事前に十分な下調べ(施設概要等)を行なうこと。
・事前に出された課題は、必ず準備して実習に臨むこと。

成績評価方法

各自の実習実施施設の指導管理栄養士の評価70%、実習ノート30%

成績評価基準

・各種給食施設に応じた栄養面のマネジメントが出来るか。
・各種給食施設に応じた衛生面及び安全面のマネジメントが出来るか。
・各種給食施設に応じた経済面のマネジメントが出来るか。

テキスト、参考図書

給食経営管理論Ⅰや給食経営管理論実習にて使用した教科書、参考図書及び実習ノート。
『栄養管理と生命科学シリーズ』 給食経営と管理の科学　理工図書　2013年
給食経営管理実習　ワークブック(第2版)　(株)みらい　2011年

その他（受講上の注意）
・実習施設について事前に十分な下調べ(施設概要等)を行なうこと。 ・事前に出された課題は、必ず準備して実習に臨むこと。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床栄養臨地実習 (Field Practice in Clinical Nutrition)			担当教員	佐藤　裕保、山本　浩範
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2362	2単位	3年後期･4年前期	実習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)

授業の内容

実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。
傷病者を対象とした臨床栄養管理について病院や老人保健施設において管理栄養士の業務を臨地で実習する。外来・入院患者や入所者に対する栄養評価・判定、栄養食事指導、診療科やベッドサイド訪問、栄養ケアプランの作成などを実習し、NST(栄養サポートチーム)における管理栄養士の役割など、医師・看護師など医療専門職との連携の実際を学び、医療スタッフの一員として必要な技術・能力を修得する。

授業の到達目標

医療領域における管理栄養士業務の実際を理解する。

授業の計画

実習施設事前訪問・実習挨拶および指導者との打ち合わせ
実習施設ごとの実習計画による実習
実習施設についての理解(組織・運営)
医療施設・介護老人保健施設における管理栄養士業務の理解
栄養評価・判定
栄養食事指導
診療科やベッドサイド訪問により栄養アセスメント、栄養介入の実際を学ぶ
栄養管理計画(栄養ケアプラン)の作成
医療専門職との連携・共働の実際について学ぶ　など

授業外の学習方法

これまでに学習した知識を総動員すること。
これまでに使用した教科書および参考図書を、最大限に活用すること。

成績評価方法

準備状況(20%)実習状況(20%)実習ノート等の提出物(20%)実習施設指導担当者による評価(40%)

成績評価基準

医療領域における管理栄養士業務の実際を理解できたか。

テキスト、参考図書

臨床栄養学および臨床栄養学実習にて使用した教科書および参考図書、配布プリント。

その他(受講上の注意)

社会の一員としての自覚を持ち、守秘義務、職業倫理の遵守に努めること。
事故発生時は、早急に実習施設および大学に連絡すること。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

公衆栄養臨地実習 (Field Practice in Public Health)			担当教員	三浦　　努
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2363	1単位	3年前期	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養行政部局で行われている公衆栄養マネジメントを実体験し、地域における食生活の変容を支援や健康・QOLの向上を図る能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(選択)

授業の内容

都道府県の保健所および市町村の保健センターなどで栄養行政における栄養マネジメントを体験し、公衆栄養マネージメントの能力を修得する。

授業の到達目標

都道府県の保健所や市町村の保健センターにおける栄養行政の役割について理解する。また、地域に食生活習慣における問題点を解析して明らかにし、生活習慣や食行動の変容を図る知識と技術を修得する。

授業の計画

栄養総合演習Ⅰの実習事前授業で実習の概要や内容について理解し、さらに、実習施設へ実習計画の事前打ち合わせを行う。
臨地実習中では、各実習施設の実習計画にもづいて実習を行う。
1)地域の生活環境の実態把握
2)地域における食生活習慣の問題点の分析
3)食生活の変容のための計画作成
4)地域において実施されている健康増進事業の参加
5)各段階での評価方法についてに学ぶ
6)各自でＰＤＣＡサイクルの模擬体験
7)各種専門職との連携・共働についてを実際に学ぶ。
実習中または実習後の栄養総合演習Ⅰの事後授業にて実習中に学んだことのまとめを行う。

授業外の学習方法

栄養総合演習Ⅰや臨地実習の時間内では、計画したテーマ、課題、与えられた業務を終えることは出来ないので、実習前、実習中の終了時間後、実習終了後などに取り組むことが必要である。

成績評価方法

実習前の準備作業の取り組み状況(20%)、実習中の取り組み状況(20%)、実習ノート、課題等の提出物の評価(20%)、実習施設の指導担当者による評価(40%)

成績評価基準

都道府県の保健所や市町村の保健センターが担う栄養行政の役割について理解したか。
地域における食生活上の問題点を明らかにし、生活習慣や食行動の変容を図る知識と技術を修得できたか。

テキスト、参考図書

本学作成「公衆栄養学臨地実習ノート」を使用する。その他、関係教科の教科書、参考書

その他（受講上の注意）
実習への取り組む姿勢や態度の他、礼儀、身だしなみ、規律、衛生管理、体調管理など十分留意して臨地実習に取り組むこと。臨地実習開始１カ月以内になったら、実習準備等に支障をきたすので私事の用事を入れないこと。また、教員の指示に従わないものや規律を順守せず問題行動を起こす学生に対しては、実習に参加させることはできない。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

給食経営管理論Ⅱ(マネジメント)(編入生) (Food Service Management Ⅱ(Management))			担当教員	樽井　雅彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2256	2単位	3年前期	演習	必須

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

給食施設の最前線(現場)で活用できるよう、多岐にわたる知識の習得を目標とする。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)

授業の内容

給食運営や食品流通の理解を基に、経営管理(組織・人事、会計・原価、情報処理、事故・災害時対策等)について関連の資源(食品の流通や食品開発の状況、給食に関わる組織やそれにかかる経費)との関係を総合的に述べ、栄養面、安全面に加え、経済面全般のマネジメントが行えるようにする。また、マーケティングの原理やその応用法、組織管理などマネジメントの基本的考え方や方法について述べる。また、さらに各種給食施設の特徴についても講義する。

授業の到達目標

・経営管理の意義と機能について説明出来る。
・給食とマーケティングについて説明出来る。
・給食の衛生管理について説明出来る。
・給食の人事管理について説明出来る。
・給食の原価構成について説明出来る。

授業の計画

第1回：給食経営管理の概要
第2回：管理栄養士の役割
第3回：経営管理の意義Ⅰ　(給食経営と組織)
第4回：経営管理の意義Ⅱ　(給食経営管理の評価)
第5回：経営管理の機能と展開Ⅰ　(栄養・食事管理)
第6回：経営管理の機能と展開Ⅱ　(品質の標準化)
第7回：マーケティングⅠ　(マーケティングの原理)
第8回：マーケティングⅡ　(マーケティングの活用)
第9回：衛生管理の意義Ⅰ　(HACCPシステムの運用)
第10回：衛生管理の意義Ⅱ　(危機管理対策)
第11回：給食の人事管理Ⅰ　(雇用形態)
第12回：給食の人事管理Ⅱ　(教育・訓練)
第13回：給食の原価構成Ⅰ　(原価計算)
第14回：給食の原価構成Ⅱ　(財務諸表)
第15回：財務管理
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習として、教科書の各回に関連する頁を読み、事前に疑問点を考えておくこと。また復習として授業時の板書や資料に基づいて各自のノートにまとめておくこと。

成績評価方法

定期試験(50%)、授業への取り組み(30%)、小テスト(20%)

成　績　評　価　基　準
・経営管理の意義と機能について説明出来るか。 ・給食とマーケティングについて理解しているか。 ・給食の衛生管理について理解しているか。 ・給食の人事管理について理解しているか。 ・給食の原価構成について理解しているか。
テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書
『栄養管理と生命科学シリーズ』 給食経営と管理の科学　理工図書　2013年
そ　の　他（受　講　上　の　注　意）
板書などが見えにくい場合は、必ず申し出ること。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅰ (Seminar in Health and Nutrition Ⅰ)			担当教員	加藤　卓次、佐藤　裕保、三浦　　努、 尼子　克己、池田　涼子、浦本　裕美、 樽井　雅彦、鳴瀬みどり、山本　浩範、 佐藤　真実、野村　卓正、坂本　達昭、 鈴木　和春、石黒真理子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2366	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

学生は、ゼミ形式の小グループに分かれ、各教員が各小グループを担当して管理栄養士養成の掲げるカリキュラムの大綱について資料・研究とミーティングを通して問題提起・検索・討論・発表などにより理解をする。

授業の到達目標

3年次学生を対象にゼミ形式の小グループに分け、各教員が各小グループを担当して管理栄養士養成の掲げるカリキュラムの大綱について問題提起・検索・討論・発表などにより理解を深めさせ学習効果の向上を図る。

授業の計画

各ゼミごとに、進め方を決め授業ごとに授業計画に沿って取り組んでいく。
第1回：ガイダンス
第2回：研究の方法に関する説明
第3回：資料、文献検索の仕方、
第4回：資料・研究レポートとミーティング1
第5回：資料・研究レポートとミーティング2
第6回：資料・研究レポートとミーティング3
第7回：資料・研究レポートとミーティング4
第8回：資料・研究レポートとミーティング5
第9回：資料・研究レポートとミーティング6
第10回：資料・研究レポートとミーティング7
第11回：資料・研究レポートとミーティング8
第12回：資料・研究レポートとミーティング9
第13回：資料・研究レポーとトミーティング10
第14回：卒業研究へのアプローチ
第15回：卒業研究への構想とミーティング

授業外の学習方法

資料、文献検索などを通して管理栄養士履修科目に重要なキーワードなどに関するノート作りをすること。

成績評価方法

レポートや発表(50%)　平常点(50%)
(レポートや発表の形式は担当教員により異なります。平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準
自らの研究課題を設定することができるか。研究課題に関連する文献などを適切に講読できるか。
テキスト、参考図書
必要に応じて指示する。
その他（受講上の注意）
ゼミ決定については、別途ガイダンスを行う。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習 (Fieldwork)			担当教員	樽井　雅彦、佐藤　真実、池田　涼子、 浦本　裕美、坂本　達昭
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2165	2単位	2年・3年	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

本プログラムには、学内外でのボランティア活動体験、社会的イベント・コンティションなどへの参画体験が含まれる。教室や研究室で学習や研究をするのではなく、実際に社会での直接的体験を通して、優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。

授業の到達目標

1・2・3年次を対象に自己の進路を見据えた体験学習を課題にして設ける。例えば、福祉施設、病院などでの奉仕活動、事業所などでのインターンシップ参加、施設・事業所見学などの事前、事後計画の企画運営発表などを実施してたり、得られた成果について報告書を提出する。

授業の計画

受講希望者には、「実施計画書」の提出および面談を行い、計画を認めたうえで実施する。
受講希望者は、担当教員に問い合わせること。

授業外の学習方法

参画する奉仕活動やインターンシップについて事前に十分な下調べ(概要等)を行なうこと。

成績評価方法

プログラム取り組み(40%)、レポート(30%)、プレゼンテーション(30%)

成績評価基準

参加した福祉施設、病院などでの奉仕活動で自身が得た成果について報告書を参考に評価する。事業所などでのインターンシップ参加、施設・事業所見学などの事前、事後計画の企画運営発表などを実施する。

テキスト、参考図書

使用しない

その他(受講上の注意)

本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の受講登録手続きを要しない。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

生涯発達心理学 (Developmental Psychology)			担当教員	大野木　裕明
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2370	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプラニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

・最近の発達心理学の諸理論と代表的な研究法を概説する。
・DVD等の視聴覚教材を援用しながら、具体的にケースを提示し、発達心理学的に考察を行う。

授業の到達目標

・授業中において、扱う発達心理学的なテーマ教材に関する内容について積極的に論じる。
・他者の発達心理学的な発言内容を適切に理解し、それに対して論理的に賛否を示す。
・考察した内容を適切な日本語によって短時間に作成するレポートとしてまとめる。
・最近の代表的な発達心理学の理論について正しく理解することに努める。

授業の計画

第1回：生涯発達心理学の基礎
第2回：発達研究の方法
第3回：胎児期・乳児期
第4回：幼児期
第5回：児童期
第6回：青年期前期
第7回：青年期中期
第8回：青年期後期
第9回：成人期前期
第10回：成人期中期
第11回：成人期後期
第12回：ここまでのまとめと進度調整
第13回：発達心理学に貢献した人物と思想(1)　エリクソンほか
第14回：発達心理学に貢献した人物と思想(2)　ピアジェほか
第15回：発達心理学に貢献した人物と思想(3)　日本の心理学者

授業外の学習方法

授業担当者が紹介したり解説したりする図書や研究論文の諸文献について、自分なりに取り組んで理解を深めることを促すので、各自が積極的に取り組むこと。授業のなかで各自の質問を受け付け、そのことについて時間を取る。

成績評価方法

・提出を課した短いレポート(60パーセント)
・意見の発表(40パーセント)
の合計により評価する。

成　績　評　価　基　準
・授業等で解説した代表的な発達心理学の理論を知っているかどうか。 ・発達心理学的な観点から、自分なりの意見・考えを口頭で発表できるかどうか。 ・発達心理学的な資料を見ながら自分なりの意見・考えをレポートとして短時間でまとめることができるかどうか。
テキスト、参考図書
例年、受講生の数が変動するので、授業担当者が用意する紙資料とDVD等の教材によって進める。
その他（受講上の注意）
学科には、発達心理学や心理学の授業科目がないので、特に意識して、発達心理学の研究法や考え方に馴染んでもらいたい。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

食文化論 (Dietary Culture)			担当教員	谷　洋子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2374	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

世界および日本の食文化の成立要因と特徴を学ぶ。例えばなぜヨーロッパはナイフ・フォークの文化で日本は箸の文化になったのか? など。また、日本や自分の生活する地域の行事食や郷土料理についても学ぶ。

授業の到達目標

食生活の歴史を振り返ることにより、先人たちが工夫と努力により食物を獲得し、それぞれの時代において試行錯誤を繰り返しながら、安全でおいしい食べ物を後世に伝えてきた精神と文化を学び取る。また、行事食や郷土料理についても学び日本、福井の食文化の特徴を知り、後世に伝える意欲を持つ。

授業の計画

第1回：食文化の領域
第2回：世界の食文化形成と展開
第3回：日本の食文化形成と展開
第4回：日本の食文化史
第5回：異文化接触と受容
第6回：主食の文化
第7回：副食の文化
第8回：調味料・菓子・茶・香辛料の発達
第9回：日本料理の形成と発達
第10回：台所・食器・食卓の文化
第11回：日本の食生活と食の教育
第12回：日本の年中行事と行事食
第13回：日本の郷土料理の分類と郷土料理
第14回：福井の食文化
第15回：福井の行事食と郷土料理
第16回：定期試験

授業外の学習方法

テキストを事前に読み、わからないワードを調べ記録しておくこと。
食材、料理、食べ方について日常生活において意欲的に実物観察、体験をすること。
授業で紹介された地域の行事、食文化に出来るだけ参加すること。

成績評価方法

期末試験50%、提出課題40%、授業への取り組み態度など10%

成績評価基準

先人達が残した食文化を理解できたか。また、地域の行事食や郷土料理も知ることができたか。これらの食文化を後世に残す意欲を持つことが出来たかを試験、レポート、発表などから評価する。

テキスト、参考図書
『日本の食文化　その伝承と食の教育』 編著者　江原絢子　石川尚子 著者　大久保洋子　富岡典子　中澤弥子　島崎とみ子　橋爪伸子 アイ･ケイコーポレーション　2009
その他（受講上の注意）
講義１回ずつ所定のレポート用紙を提出すること
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

学校栄養教育の理論と方法 (School Health Education)			担当教員	坂本　達昭、塚田　明美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2375	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　栄養に係る教育に関する科目
(栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項)
(幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項)
(食生活に関する歴史的及び文化的事項)

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状(必修)

授業の内容

栄養教諭の職務内容、学校給食の教育的な意義・給食管理の実際、児童生徒の食生活を取り巻く課題、食生活の機能、地域の食文化等、栄養教諭として必要な事項を演習を交えながら学修する。

授業の到達目標

栄養教諭の職務内容、学校給食の教育的な意義、児童生徒の食生活を取り巻く課題、食生活の機能や地域の食文化について説明することができる。

授業の計画

第1回：栄養教諭の役割と職務内容(坂本)
第2回：食生活の機能(坂本)
第3回：学校給食の変遷と意義・目的・献立の充実(坂本)
第4回：児童生徒の食生活アセスメント(坂本)
第5回：児童生徒の食生活の現状と問題点(坂本)
第6回：外部講師(栄養教諭)による講話(坂本)
第7回：学校から家庭に対する食情報提供(1)「給食たより」について(塚田)
第8回：学校給食の栄養・衛生・安全管理(塚田)
第9回：学校から家庭に対する食情報提供(2)「給食たより」の作成(塚田)
第10回：福井県の食育の先人、石塚左玄の訓えに学ぶ(塚田)
第11回：学校給食における給食管理の実際(1)　地場産物の活用、地場産物を活用した指導(塚田)
第12回：学校給食における給食管理の実際(2)　栄養管理の基本的な考え方、アレルギー対応(塚田)
第13回：食に関する啓発の推進(1)　講話の演習　指導案作成(塚田)
第14回：食に関する啓発の推進(2)　教材作り(坂本)
第15回：食に関する啓発の推進(3)　発表と評価(坂本)
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習復習については授業時に指示する。主に講義後は、配布プリントや栄養教諭論 ― 理論と実際(建帛社)や食に関する指導の手引(文部科学省)を用いて理解を深めること。

成績評価方法

試験60%、平常点20%、レポート等提出物20%
平常点は、授業への参加状況、受講態度、模擬授業の内容等から総合的に評価する。

成　績　評　価　基　準
栄養教諭の職務内容、学校給食の教育的な意義、児童生徒の食生活を取り巻く課題、食生活の機能や地域の食文化について説明することができるか。
テキスト、参考図書
栄養教諭論－理論と実際　三訂版;第２版、金田雅代著、建帛社、2012年 食に関する指導の手引　第１次改訂版、文部科学省、東山書房、2010年
その他（受講上の注意）
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

食育指導の理論と方法 (School Food and Nutritional Education)			担当教員	坂本　達昭、塚田　明美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2376	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　栄養に係る教育に関する科目(食に関する指導の方法に関する事項)

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状(必修)

授業の内容

栄養教諭として学校における食育をマネジメントするために必要となる、食に関する指導の全体計画作成、給食の時間や各教科等における食に関する指導の実践方法について演習を通して学修する。

授業の到達目標

学校における食に関する指導を推進するための全体計画作成の意義、各教科等と食に関する指導の関連性について理解する。また、食育実践演習を通して、児童生徒への食育指導の方法を修得し、食育指導をすることができる。

授業の計画

第1回：食に関する指導の意義　学校における食育の推進の必要性(坂本)
第2回：食に関する指導に係る全体計画の作成(1)(坂本)
第3回：食に関する指導に係る全体計画の作成(2)(坂本)
第4回：外部講師による講話(坂本)
第5回：各教科における食に関する指導(1)　体育科保健領域(坂本)
第6回：各教科における食に関する指導(2)　理科、家庭科(坂本)
第7回：学校給食を生きた教材として活用した食育の推進　楽しい食事の取り方(塚田)
第8回：学校給食を生きた教材として活用した食育の推進　食事のマナー、勤労と感謝(塚田)
第9回：個別的な相談指導の進め方(塚田)
第10回：各教科における食に関する指導(3)　社会、総合的な学習の時間(坂本)
第11回：外部講師(栄養教諭)による講話(坂本)
第12回：食育実践演習　小学校における食育実践(塚田)
第13回：食育実践演習(1)(塚田)
第14回：食育実践演習(2)(塚田)
第15回：食育実践演習(3)(塚田)
第16回：定期試験(坂本)

授業外の学習方法

講義後は、配布プリントや栄養教諭論－理論と実際(建帛社)や食に関する指導の手引(文部科学省)を用いて理解を深めること。

成績評価方法

試験60%、平常点30%、レポート・制作物10%
平常点は、授業への参加状況、受講態度、模擬授業の内容等から総合的に評価する。

成績評価基準

学校における食に関する指導を推進するための全体計画作成の意義、各教科等と食に関する指導の関連性について理解しているか。また、食育実践演習を通して、児童生徒への食育指導の方法を修得し、食育指導をすることができるか。

テキスト、参考図書
栄養教諭論－理論と実際　三訂版;第２版　金田雅代著　建帛社　2012年 食に関する指導の手引　第１次改訂版　文部科学省　東山書房　2010年
その他（受講上の注意）
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心と健康 (Health and Mind)			担当教員	大森　晶夫
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2377	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

生活の質を確保するには、健康の維持・増進は不可欠である。そして昨今のストレス社会では、体の健康に加えて、うつ病、不安症、摂食障害、依存症など様々な心の健康問題が重大視されてきている。この講義では、まず脳と心に関する基礎知識を学習する。その上で、乳幼児期から高齢期にいたるライフサイクルにおいて、また、家庭や学校、職場、そして地域にみられる代表的な精神疾患の成因、症状、治療や対応、その予防について解説する。

授業の到達目標

・脳と心に関する基礎知識と代表的な精神疾患の成因、症状、治療や対応、その予防について理解する。
・理解した知識を、社会人としてあるいは職業人として、自らあるいは他者の精神保健のために利用できるようにする。

授業の計画

第1回：脳と心
第2回：心の不健康状態とその診断
第3回：心身症
第4回：パニック症と社交不安症
第5回：強迫症と解離症群
第6回：心的外傷後ストレス障害と睡眠障害
第7回：摂食障害と性別違和
第8回：うつ病
第9回：双極性障害
第10回：統合失調症
第11回：意識障害とせん妄
第12回：認知症
第13回：依存症
第14回：小児期・青年期の心の健康、および注意欠如・多動症
第15回：自閉スペクトラム症
第16回：定期試験

授業外の学習方法

普段から、メディアや本等を通じて、心の健康や社会性の問題に関心をもち、それらに関する自分自身のイメージや考えをもつように努める。また、本講義で得た知識を、実生活上や本等の情報で確認・強化する。

成績評価方法

定期試験(100%)　なお、試験は60点を合格基準とする。

成　績　評　価　基　準
脳と心に関する基礎知識と代表的な精神疾患の成因、症状、治療や対応、その予防について理解しているか。
テキスト、参考図書
テキストは使用せず、プリントを配布する。 参考図書：山下格『精神医学ハンドブック』第７版　日本評論社　2013
その他（受講上の注意）
大学生、社会人、あるいは人として必要な知識であることを理解し、興味、意見、疑問をもつこと。講義中の質問や意見は大いに歓迎する。なお、欠席等の連絡先はmomori@fpu.ac.jp。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育経営論 (Educational Administration)			担当教員	奥谷　崇
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2383	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科教職科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育の基礎理論に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状(必修)

授業の内容

我が国では、地域や家庭の教育力が低下し、教育を巡る困難な教育課題が混迷の度を深めている。1日も早い教育課題の解決が望まれている今日、我が国の様々な教育課題や時事問題を取り上げ、問題の本質を理解し、解決について集団討議をもとに課題解決策を探る。今日の教育課題の解決に果敢に挑む教育観と教師としての力量を養う。授業をとおして人間関係力、自己表現力、集団討論力を体得する。

授業の到達目標

教育課題の原因と解決法について自分の意見を出し合い、意欲的に議論し合うことができる。
教育課題について自分の考えをわかり易くは発表することができる。
時事問題に関心をもち、特に教育的課題について自分の考えをもち議論し合うことができる。

授業の計画

第1回：自他の追究課題を把握する
第2回：わが国の教育課題について
第3回：いじめと非行
第4回：不適応と不登校
第5回：学級崩壊と校内暴力
第6回：モンスターペアレントと親
第7回：学級担任と学校組織
第8回：授業と学校行事
第9回：問題解決への挑戦
第10回；子どもの成長
第11回：現職教育と研究授業
第12回：開かれた学校と学校評価
第13回：学校教育と家庭教育と社会教育
第14回：自己課題の解明と共通理解
第15回：まとめ

授業外の学習方法

予習として新聞記事の中から関心のある教育記事を探し、自分の考えや疑問点をまとめる。また、復習として話し合った新聞記事での意見交換のポイントを整理し、課題についての自分の考えの深まりや新たな疑問をまとめる。

成績評価方法

レポート(70%)
平常点(30%)
平常点は、出席状況、受講態度、受講ノート等を総合して判断する。

成　績　評　価　基　準
時事問題について自分の意見をまとめ発表することができる。 仲間の発表を聞き、意欲的に話し合いをすることができる。 話し合い、講義を通して自分の考えの深まりをまとめることができる。
テキスト、参考図書
「小学校学習指導要領解説(総則編)」文部科学省　東洋館出版社　2008年
その他(受講上の注意)
私語・無気力厳禁。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

道徳教育の理論と方法 (Theory and Methods of Moral Education)			担当教員	高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2385	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部特設科目　教職に関する専門科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・教育課程の意義及び編成の方法
・道徳及び特別活動に関する内容

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状(必修)

授業の内容

学校で道徳教育をいかに行うかが大きな問題となっている。この古くて新しい問題について理解を深めたうえで、学習指導要領における道徳教育の内容について詳細に考察していく。これと並行して、グループごとに指導案を作成してもらい、完成したグループから順次模擬授業を実施してもらう。これらの作業を通じて、道徳教育の指導法について検討していく。

授業の到達目標

学習指導要領における道徳教育の内容を確実に説明することができる。
学習指導要領の内容を踏まえて、指導案を作成することができる。

授業の計画

以下は、現時点での計画であるが、模擬授業の実施状況に応じて、変更が生じる場合がある。
第1回：オリエンテーション
第2回：学習指導要領第1章「総則」を読む
第3回：学習指導要領第3章「道徳」を読む
第4回：教材研究(1)　『心のノート』を読む
第5回：教材研究(2)　読み物教材をどう取り上げるか
第6回：日本における道徳教育の歴史的変遷(1)　江戸時代～戦前
第7回：日本における道徳教育の歴史的変遷(2)　戦後
第8回：道徳教育の難しさ(1)　道徳は知識か行為か
第9回：道徳教育の難しさ(2)　宗教と道徳
第10回：指導法の検討(1)　インカルケーション
第11回：指導法の検討(2)　ディベート
第12回：指導法の検討(3)　モラルジレンマ
第13回：指導法の検討(4)　ロールプレイ
第14回：指導法の検討(5)　構成的グループエンカウンター
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

指導案の作成は、授業外の時間にグループごとに行ってもらう。また、指導案の添削、修正等も授業外の時間にグループごとに行っていく。具体的な作業はその都度指示するが、授業外においてかなりの学習時間が必要となることを覚悟されたい。

成　績　評　価　方　法
定期試験(50%) 指導案の内容(25%) 平常点(25%) (平常点は、授業への参加状況、授業時の課題の内容をもとに判断する。)
成　績　評　価　基　準
学習指導要領における道徳教育の内容を確実に説明することができるか。 学習指導要領の内容を踏まえて、指導案を作成することができるか。
テキスト、参考図書
必要に応じてプリントを配布する。
その他(受講上の注意)
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

生徒指導論 (Educational Guidance)			担当教員	黒田　祐二
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2387	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科教職科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(生徒指導及び教育相談に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・生徒指導の理論及び方法

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状(必修)

授業の内容

近年の学校教育現場における諸問題を鑑み、児童・生徒の全人格形成の過程を深く理解した上で適切に支援できるように、児童期・青年期の生徒指導上の諸問題と生徒指導の理論的知識とその応用について講義する。グループディスカッションを積極的に取り入れながら講義を進める。

授業の到達目標

生徒指導に関する基本的な知識や考え方を身につける。また、児童期から青年期までの生徒指導上の諸問題に関する事例に接し、これらの問題に実践的に対応するための視点とスキルを身につける。

授業の計画

第1回：オリエンテーション　学校教育において生徒指導に関わる諸問題と課題を概観する
第2回：生徒指導の概要と機能　生徒指導の定義や内容､教育課程との関連から生徒指導の機能する領域を学ぶ
第3回：発達段階と生徒指導(1)小学生の心身の発達段階を踏まえた指導のあり方と留意点を学ぶ
第4回：発達段階と生徒指導(2)中学生の心身の発達段階を踏まえた指導のあり方と留意点を学ぶ
第5回：発達段階と生徒指導(3)高校生の心身の発達段階を踏まえた指導のあり方と留意点を学ぶ
第6回：子どもの心と生徒指導(1)子どもの自己と、その問題から派生する様々な不適応行動について学ぶ
第7回：子どもの心と生徒指導(2)子どもの自己の問題から派生する様々な不適応行動への対応を学ぶ
第8回：子どもの心と生徒指導(3)子どもの社会性と､その問題から派生する様々な不適応行動について学ぶ
第9回：子どもの心と生徒指導(4)子どもの社会性の問題から派生する様々な不適応行動への対応を学ぶ
第10回：学校現場における諸問題(1)不登校児童生徒の心の理解と対応について学ぶ
第11回：学校現場における諸問題(2)いじめ現象の生じる心理的力動や社会的背景、その対応を学ぶ
第12回：学校現場における諸問題(3)学級崩壊現象の生じる集団力動や社会的背景、その対応を学ぶ
第13回：学校現場における諸問題(4)暴力や逸脱行為を伴う問題行動や非行の理解とその対応を学ぶ
第14回：学校における生徒指導の実際　生徒指導の運営と組織、学内外の連携体制や指導計画を学ぶ
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

各回の講義を受けた後で、当該部分の配付資料や下記の参考図書を見直して復習をし、次の講義に臨んでください。

成績評価方法

定期試験(80%)　平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する)

成績評価基準

1. 生徒・進路指導に関する基本的な知識と考え方を身につけたかどうか。
2. 生徒・進路指導上の問題に実践的に対応するための視点やスキルを身につけたかどうか。

テキスト、参考図書
参考図書：黒田祐二(編集)『実践につながる教育相談』(北樹出版　2014年)
その他(受講上の注意)
講義のみならずディスカッションも多く取り入れるため、これらに積極的に取り組めることが大切です
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育経営論 (Educational Administration)			担当教員	奥谷　崇
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AA−2301	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育の基礎理論に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の基礎理論の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状(必修)　小学校教諭一種免許状(必修)

授業の内容

我が国では、地域や家庭の教育力が低下し、教育を巡る困難な教育課題が混迷の度を深めている。1日も早い教育課題の解決が望まれている今日、我が国の様々な教育課題や時事問題を取り上げ、問題の本質を理解し、解決について集団討議をもとに課題解決策を探る。今日の教育課題の解決に果敢に挑む教育観と教師としての力量を養う。授業をとおして人間関係力、自己表現力、集団討論力を体得する。

授業の到達目標

教育課題の原因と解決法について自分の意見を出し合い、意欲的に議論し合うことができる。
教育課題について自分の考えをわかり易く発表することができる。
時事問題に関心をもち、特に教育的課題について自分の考えをもち議論し合うことができる。

授業の計画

第1回：自他の追究課題を把握する
第2回：わが国の教育課題について
第3回：いじめと非行
第4回：不適応と不登校
第5回：学級崩壊と校内暴力
第6回：モンスターペアレントと親
第7回：学級担任と学校組織
第8回：授業と学校行事
第9回：問題解決への挑戦
第10回；子どもの成長
第11回：現職教育と研究授業
第12回：開かれた学校と学校評価
第13回：学校教育と家庭教育と社会教育
第14回：自己課題の解明と共通理解
第15回：まとめ

授業外の学習方法

予習として新聞記事の中から関心のある教育記事を探し、自分の考えや疑問点をまとめる。また、復習として話し合った新聞記事での意見交換のポイントを整理し、課題についての自分の考えの深まりや新たな疑問をまとめる。

成績評価方法

レポート(70%)
平常点(30%)
平常点は、受講態度、受講ノート等を総合して判断する。

成　績　評　価　基　準
時事問題について自分の意見をまとめ発表することができる。 仲間の発表を聞き、意欲的に話し合いをすることができる。 話し合い、講義を通して自分の考えの深まりをまとめることができる。
テキスト、参考図書
「小学校学習指導要領解説(総則編)」文部科学省　東洋館出版社　2008年
その他(受講上の注意)
私語・無気力厳禁。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

道徳教育の理論と方法 (Theory and Methods of Moral Education)			担当教員	高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AB−2306	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・道徳の指導法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容及び方法の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)

授業の内容

学校で道徳教育をいかに行うかが大きな問題となっている。この古くて新しい問題について理解を深めたうえで、学習指導要領における道徳教育の内容について詳細に考察していく。これと並行して、グループごとに指導案を作成してもらい、完成したグループから順次模擬授業を実施してもらう。これらの作業を通じて、道徳教育の指導法について検討していく。

授業の到達目標

学習指導要領における道徳教育の内容を確実に説明することができる。
学習指導要領の内容を踏まえて、指導案を作成することができる。

授業の計画

以下は、現時点での計画であるが、模擬授業の実施状況に応じて、変更が生じる場合がある。
第1回：オリエンテーション
第2回：学習指導要領第1章「総則」を読む
第3回：学習指導要領第3章「道徳」を読む
第4回：教材研究(1)　『心のノート』を読む
第5回：教材研究(2)　読み物教材をどう取り上げるか
第6回：日本における道徳教育の歴史的変遷(1)　江戸時代～戦前
第7回：日本における道徳教育の歴史的変遷(2)　戦後
第8回：道徳教育の難しさ(1)　道徳は知識か行為か
第9回：道徳教育の難しさ(2)　宗教と道徳
第10回：指導法の検討(1)　インカルケーション
第11回：指導法の検討(2)　ディベート
第12回：指導法の検討(3)　モラルジレンマ
第13回：指導法の検討(4)　ロールプレイ
第14回：指導法の検討(5)　構成的グループエンカウンター
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

指導案の作成は、授業外の時間にグループごとに行ってもらう。また、指導案の添削、修正等も授業外の時間にグループごとに行っていく。具体的な作業はその都度指示するが、授業外においてかなりの学習時間が必要となることを覚悟されたい。

成績評価方法

定期試験(50%)
指導案の内容(25%)
平常点(25%)
(平常点は、授業への参加状況、授業時の課題の内容をもとに判断する。)

成　績　評　価　基　準
学習指導要領における道徳教育の内容を確実に説明することができるか。 学習指導要領の内容を踏まえて、指導案を作成することができるか。
テキスト、参考図書
必要に応じてプリントを配布する。
その他（受講上の注意）
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

生徒・進路指導論 (Educational Guidance and Consultation)			担当教員	黒田　祐二
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−BD−2310	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・生徒指導の理論及び方法¦・進路指導の理論及び方法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の対象の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)

授業の内容

近年の学校教育現場における諸問題を踏まえ、児童・生徒の全人格形成の過程を深く理解した上で適切に支援できるように、児童期・青年期の生徒・進路指導上の諸問題と、生徒指導・進路指導の理論的知識及びその応用について講義する。講義においてはグループディスカッションを積極的に取り入れる。

授業の到達目標

生徒・進路指導に関する基本的な知識と考え方を身につける。同時に、児童期から青年期までの生徒・進路指導上の諸問題についての各種事例に接し、実践的に対応するための視点とスキルを身につける。

授業の計画

第1回：現代日本の学校を巡る諸状況　児童生徒を取り巻く養育・教育・社会環境の現状を概観する
第2回：生徒・進路指導の意義と課題　生徒・進路指導の教育的意義や原理を学び現状と課題を概観する
第3回：生徒・進路指導の機能　教育課程との関連から生徒・進路指導の機能する領域や内容を学ぶ
第4回：生徒・進路指導の実践　生徒・進路指導の運営と組織、学内外の連携体制や指導計画を学ぶ
第5回：生徒・進路指導と教育相談　緊密な関係にある教育相談との連携や関連について学ぶ
第6回：生徒指導と学校保健　緊密な関係にある学校保健との連携や関連、養護教諭の役割について学ぶ
第7回：生徒指導と危機管理　学校における危機管理について、組織体制と実践上の留意点について学ぶ
第8回：小学校の生活指導　小学生の心身の発達段階を踏まえた指導のあり方と留意点を学ぶ
第9回：中学校の生徒・進路指導　中学生の心身の発達段階を踏まえた指導のあり方と留意点を学ぶ
第10回：高等学校の生徒・進路指導　高校生の心身の発達段階を踏まえた指導のあり方と留意点を学ぶ
第11回：学校現場における諸問題(1)　不登校　不登校児童生徒の心の理解と対応について学ぶ
第12回：学校現場における諸問題(2)　いじめ　いじめ現象の生じる心理的力動や社会的背景、対応を学ぶ
第13回：学校現場における諸問題(3)　学級崩壊　学級崩壊現象の生じる集団力動や社会背景、対応を学ぶ
第14回：学校現場における諸問題(4)　非行　暴力や逸脱行為を伴う問題行動の理解と対応を学ぶ
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

各回の講義を受けた後で、当該部分の配付資料や下記参考図書を見直して復習をし、次の講義に臨んでください。

成績評価方法

定期試験(80%)　平常点(20%)
平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成績評価基準

1.生徒・進路指導に関する基本的な知識と考え方を身につけたかどうか。2.生徒・進路指導上の問題に実践的に対応するための視点やスキルを身につけたかどうか。

テキスト、参考図書
参考図書：黒田祐二(編集)『実践につながる教育相談』(北樹出版　2014年)
その他(受講上の注意)
講義のみならずディスカッションも多く取り入れるため、これらに積極的に取り組めることが大切です
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育相談 (Educational Counseling)			担当教員	佐々木　雅代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−BD−2358	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。
小学校教諭一種免許状(必修)、幼稚園教諭一種免許状(必修)、保育士資格(選択)

授業の内容

いじめ、不登校への対応及び発達障害を抱える児童生徒の支援について学ぶ。現場で活用されている技法について体験的に学ぶ。グループワークを通して視野を広げ、自分で考え行現する体験を積む。

授業の到達目標

教育相談を実践する際に必要な多角的視点と技能を身に着ける。総合的にとらえ支援プランをたてる。

授業の計画

第1回：教育相談が生きる場
第2回：教育相談に生かす心理学的理解:見立て
第3回：教育相談に生かす心理学的理解:介入
第4回：子育て支援のいろいろ
第5回：不登校の理解と対応
第6回：いじめ・非行の理解と対応
第7回：特別支援教育(発達障害の理解と対応)
第8回：保護者支援
第9回：予防開発的アプローチＳＳＴ
第10回：予防開発的アプローチ：アサーティブトレーニング1
第11回：予防開発的アプローチ：アサーティブトレーニング2
第12回：事件・事故・災害対応
第13回：連携について
第14回：リラクゼーション
第15回：ふりかえり

授業外の学習方法

各回の講義やワーク体験で気が付いたことを、各自ノートに自分の言葉で書き残してください。配布した資料や予習復習はその都度指示します。

成績評価方法

小レポート(50%)　平常点(50%)
平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成績評価基準

いじめ、不登校、発達障害について基礎知識を習得している。支援プランを提案できる。

テキスト、参考図書

テキストは指定しません。各回にレジュメを用意します。
参考図書「教師のための初等教育相談」西本絹子著　萌文書林

その他（受講上の注意）
予習復習については、授業時に指示します。授業で行う体験学習に積極的に取り組んでください。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

家庭 (Domestic Science)			担当教員	松田　淑子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AB−2302	2単位	3年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　・家庭

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容及び方法の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(選択)

授業の内容

小学校の家庭科の内容に沿って、大学生としての学びへと展開する。アクティブラーニング形式での実践的探究学習も取り入れる。

授業の到達目標

小学校家庭科に関する理解を深めるとともに、生活に関する課題意識を持ち、解決へと取り組むことができる。

授業の計画

第1回：オリエンテーション　受講及び講義内容の確認、プレテストの実施
第2回：学習観の転換と家庭科教育について
第3回：『A 家庭生活と家族』について
第4回：『C 快適な衣服と住まい』の「住まい」について
第5回：『B 日常の食事と調理の基礎』について
第6回：『C 快適な衣服と住まい』の衣服について
第7回：『D 身近な消費生活と環境』について　①
第8回：『D 身近な消費生活と環境』について　②
第9回：全領域にわたる総合的な探究学習への取り組み　①
第10回：全領域にわたる総合的な探究学習への取り組み　②
第11回：全領域にわたる総合的な探究学習への取り組み　③
第12回：小学校家庭科の模擬授業に向けて　①
第13回：小学校家庭科の模擬授業に向けて　②
第14回：小学校家庭科の模擬授業に向けて　③
第15回：講義全体の振り返りと課題の提示

授業外の学習方法

予習として、当該領域の小学校教科書及び学習指導要領解説に目を通しておくこと。
授業後は、その時間に学んだこと、及び考察をまとめること。

成績評価方法

最終レポート(40%)　小レポート(30%)　　平常点(30%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合的に判断します。)

成績評価基準

小学校家庭科の内容について理解を深めることができたか。
生活全般について興味・関心を持ち、課題解決に向け実践的に学ぶことができたか。

テキスト、参考図書

(1)「小学校学習指導要領解説(家庭編)」文部科学省　東洋館出版社　2008年
(2)小学校家庭科教科書(開隆堂)

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

国語科教育法 (Teaching Method s of Japanese Language)			担当教員	三好　修一郎
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AB−2350	2 単位	3 年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・各教科の指導法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容及び方法の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)

授業の内容

小学校の国語授業に関する知識の習得と実践的な能力の育成

授業の到達目標

小学校の国語学習指導要領の内容を理解し、国語科学習指導案の作成とそれに基づいた授業実践ができる。

授業の計画

第 1 回：国語科教育の目標・内容・構造
第 2 回：教材研究と学習者研究
第 3 回：国語科学習指導案の作成
第 4 回：「話すこと・聞くこと」の教育
第 5 回：「書くこと」の教育
第 6 回：「読むこと」の教育① 音読・朗読
第 7 回：「読むこと」の教育② 説明的文章
第 8 回：「読むこと」の教育③ 文学的文章
第 9 回：「伝統的な言語文化と国語の特質」に関する教育
第10回：モデル授業の提示
第11回：模擬授業と省察(１)
第12回：模擬授業と省察(２)
第13回：模擬授業と省察(３)
第14回：模擬授業と省察(４)
第15回：小学校の国語教師に求められるもの
第16回：定期試験

授業外の学習方法

小学校の国語学習指導要領と教科書の熟読。模擬授業の事前グループ研究。

成績評価方法

提出課題(50%)　授業内の課題レポート(20%)　平常店(30%)
平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成績評価基準

基本を踏まえ、また児童の言葉の力の育成に資する内容をもった国語科学習指導案を作成し、実践することができるか。

テキスト、参考図書

牛頭哲宏・森篤嗣『現場で役立つ小学校国語科教育法』ココ出版　2012
『小学校学習指導要領解説　国語編』文部科学省

その他（受講上の注意）
授業への貢献や出席状況も重視する。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会科教育法 (Teaching Method s of Social Science)			担当教員	奥谷　崇
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AB−2351	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・各教科の指導法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容及び方法の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)

授業の内容

戦後新たに登場した社会科教育の目標を踏まえ、社会科教育の目標を具現化し、社会科の知識理解と課題解決力を高める社会科教育の学習指導の方法について理解する。また、単元指導計画、学習指導案の書き方を身につけ、模擬授業を通して社会科教育法を身につける。

授業の到達目標

社会科教育の目標と使命について説明することができる。
社会科教育の課題を克服し社会科教育の目標を実現させる社会科教育の実践力を養うことができる。
知識理解・課題解決・意思決定型の社会科授業の相違点と意義について説明することができる。

授業の計画

第1回：社会科教育の目標と役割
第2回：社会科教育の登場の意味
第3回：各学年の社会科教育の目標
第4回：各学年の社会科教育の内容
第5回：社会科教育の方法
第6回：社会科の単元指導計画
第7回：地理的分野の内容と指導
第8回：歴史的分野の内容と指導
第9回：公民的分野の内容と指導
第10回：教材研究と学習指導案(1)　地理的分野
第11回：教材研究と学習指導案(2)　歴史的分野
第12回：教材研究と学習指導案(3)　公民的分野
第13回：模擬授業と発問・討論
第14回：模擬授業と教師の力量
第15回：まとめ

授業外の学習方法

学習課題についての予習ページを読み、質問点を考える。復習として、課題について集団で考えた意見や話し合い、講義の中で得た考えや疑問を整理し、次時の自分の学習課題にする。

成績評価方法

レポート(70%)
平常点(30%)
平常点は、受講態度、ワークシート、ノート等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準
社会科教育の目標と使命について説明することができる。 課題解決学習の学習指導案を書き、実際に模擬授業を実践することができる。 社会的事象に関心をもち自分の意見をもって討論し合うことができる。
テキスト、参考図書
「小学校学習指導要領解説(社会編)」文部科学省　東洋館出版社　2008年
その他(受講上の注意)
私語及び授業への無気力厳禁。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

算数科教育法 (Teaching Method s of Arithmetic)			担当教員	木曽　利雄
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AB−2352	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・各教科の指導法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容及び方法の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)

授業の内容

算数科の「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」の各領域についての授業方法や評価について考えていく。授業展開を考えていく際、授業の基本的な考え方、ＴＴや習熟度別指導等の個に応じた学習指導の仕方、発問・板書や子どもの発言の取り上げ方等主体的な学習活動のさせ方について解説する。児童の学習意欲を喚起するために、「課題づくり」・「算数的な活動」について検討させる。

授業の到達目標

1　算数教育の基本的な考え方や目標が理解できる。
2　各領域の内容の概観とその授業のポイントが分かる。
3　授業展開例を基に、主体的な学習指導、発問や応答、板書やノート指導などの学習指導の基礎基本を習得する。
4 学習指導計画と評価について理解できる。

授業の計画

第1回：算数教育の基本的考え方
第2回：算数科の目標
第3回：算数的な活動　意味と期待されること
第4回：数と計算(1)　整数と計算　①内容の概観、②数の意味と記数法、③四則計算(整数)
④概算と見積もり
第5回：数と計算(2)　小数・分数と計算　①内容の概観、②小数・分数の加法と減法
③小数・分数の乗法と除法
第6回：数と計算(3)　領域の授業展開　(学習指導の観点)主体的な学習指導、算数的な活動
第7回：量と測定(1)　①内容の概観、②量の指導、③測定の指導
第8回：量と測定(2)　領域の授業展開(学習指導の観点)　個に応じた学習指導、算数的な活動
第9回：図　　形(1)　①内容の概観、②図形についての理解(図形の構成、図形の性質)
③図形についての見方や感覚
第10回：図　　形(2)　領域の授業展開(学習指導の観点)
主体的な学習指導、算数的な活動、発問や応答、板書やノート指導
第11回：数量関係(1)　①内容の概観、②関数の考え、③式で表すことと式を読むこと、④統計的処理
第12回：数量関係(2)　領域の授業展開(学習指導の観点)　個に応じた学習指導、教育機器の活用
第13回：学習指導計画と評価
第14回：学習指導の創意・工夫　①学習指導案の作成と検討、②発問・応答、板書、ノート指導
③教育機器など
第15回：レポートのまとめ

授業外の学習方法

予習として、各回に関連する頁を読み、算数指導者の立場と児童の立場に立って、疑問点を整理しておくこと。復習としては、テキストや板書等を見直し、算数各領域の指導計画と指導のポイントや受講後の感想をまとめておくこと。

成　績　評　価　方　法
レポート内容と発表(70%)受講態度(30%)で総合的に評価する。
成　績　評　価　基　準
・算数教育の基本的な考え方や目標が理解できたか。 ・各領域の内容と授業ポイントが分かったか。 ・算数科学習指導の基礎基本を理解し、習得できたか。 ・学習指導計画と評価について理解できたか。
テキスト、参考図書
「小学校学習指導要領解説　算数編」 文部科学省　東洋館出版社　2008年
その他(受講上の注意)
受講態度については、講義における発表等の貢献度を期待(評価)する。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

理科教育法 (Teaching Method s of Science)			担当教員	西出　和彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AB−2353	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・各教科の指導法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容及び方法の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)

授業の内容

2～3名のグループをつくり、模擬授業を実施する。授業テーマはグループ内で協議して選択する。指導方法を協議し、予備実験をした上で、他の学生を小学生と見立てて、模擬授業を行う。学習指導案、実験のためのワークシートを作成し、授業後提出する。授業を受けた学生は、授業の評価を行う。

授業の到達目標

小学校理科の教育内容をよく理解し、観察実験を伴った模擬授業を行うことができる。また、授業を受けて、適切に評価することができる。

授業の計画

第1回：オリエンテーション　グループ編成、理科準備室の説明、授業担当単元についての協議
第2回：授業担当単元の決定
第3回：学習指導案、ワークシートの作成について
第4回：模擬授業と評価①
第5回：模擬授業と評価②
第6回：模擬授業と評価③
第7回：模擬授業と評価④
第8回：模擬授業と評価⑤
第9回：模擬授業と評価⑥
第10回：模擬授業と評価⑦
第11回：模擬授業と評価⑧
第12回：模擬授業と評価⑨
第13回：模擬授業と評価⑩
第14回：模擬授業と評価⑪
第15回：模擬授業と評価⑫
第16回：定期試験

授業外の学習方法

小学校理科の教科書、小学校理科学習指導要領をよく読み、理解する。

成績評価方法

定期試験(50%)　提出物(30%)　平常点(20%)

成績評価基準

(1)小学校理科の授業内容を理解している。
(2)学習内容の目標に応じて、適切な学習指導ができる。

テキスト、参考図書
（1）小学校理科教科書 （2）小学校学習指導要領解説(理科編)
その他(受講上の注意)
毎回、実験着、上履きを持参すること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

生活科教育法 (Teaching Method s of Life Studies)			担当教員	筧　みち子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AB−2354	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・各教科の指導法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容及び方法の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)

授業の内容

小学校低学年教育の中核的な教科の一つでもある「生活科」の指導計画作成と学習指導法について学び、模擬授業をして授業の実践力を高める。

授業の到達目標

生活科年間指導計画を作成する。単元計画の作成と学習指導の進め方を理解し、模擬授業に生かすことができる。

授業の計画

第1回：年間指導計画の作成(配慮事項)
第2回：年間指導計画の作成(実習)
第3回：年間指導計画の作成(実習)
第4回：単元計画の作成と学習指導の進め方
第5回：「あきをたのしもう」活動計画作成
第6回：「あきまつり」の準備、制作
第7回：「あきまつり」の実施
第8回：「あきまつり」の相互評価
第9回：模擬授業計画と単元計画の作成
第10回：模擬授業の指導案作成と教材研究
第11回：模擬授業の実施と相互評価(1)
第12回：模擬授業の実施と相互評価(2)
第13回：模擬授業の実施と相互評価(3)
第14回：模擬授業の実施と相互評価(4)
第15回：模擬授業の実施と相互評価(5)
第16回：定期試験

授業外の学習方法

授業後、次時の予告をするので、予習としてテキストを読んでおくと、より理解が深められる。模擬授業のための教材研究が必要。

成績評価方法

毎回授業終了の5分間感想レポート(30%)　平常点(20%)　定期試験(50%)
平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成績評価基準

生活科年間指導計画を作成できたか。単元計画の作成と学習指導の進め方を理解し、模擬授業に生かすことができたか。

テキスト、参考図書
（1）「小学校学習指導要領解説(生活編)」文部科学省　日本文教出版　2008年 （2）「生活科教科書」東京書籍、啓林館
その他(受講上の注意)
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

音楽科教育法 (Teaching Method s of Music)			担当教員	奥田　健雄
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AB−2303	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・各教科の指導法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容及び方法の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)

授業の内容

学習指導要領に示された「音楽教育の目標」、すなわち、学校教育における教科音楽の目指そうとするものは何かについて理解をし、教科目標達成のための具体的な学習指導内容「表現と鑑賞」活動について実践的な能力を身につける。特に表現活動や鑑賞享受の活動の二面は、相互に独立したものでなく、常に表裏一体となって機能することに留意する。また、授業展開の実際を互いの実践の中から身につけ、学習指導計画並びに学習指導案の作成について、具体的な研究を行う。さらに、音楽活動における「歌う喜び」「表現する喜び」「まわりとつながる喜び」などを感受し、音楽の楽しさや素晴らしさを伝えることのできる資質を身につける。

授業の到達目標

・学習指導要領に示された「音楽教育の目標」を理解できる。
・教科目標達成のための具体的な学習指導内容「表現と鑑賞」活動について実践的な能力を身につけることができる。
・授業展開の実際を互いの実践の中から身につけ、学習指導計画並びに学習指導案の作成ができる。
・音楽活動における「歌う喜び」「表現する喜び」「まわりとつながる喜び」などを感受し、音楽の楽しさや素晴らしさを伝えることのできる資質を身につける。

授業の計画

第1回：音楽科教育について(全般・今後の計画)　・表現活動(歌唱指導)の実際1　・指揮法1
第2回：「小学校学習指導要領　音楽科」の改訂ポイント　・表現活動(歌唱指導)の実際2　・指揮法2
第3回：表現活動(歌唱指導)の実際3　・表現活動(器楽学習)の実際1
第4回：表現活動(歌唱指導)の実際4　・表現活動(器楽学習)の実際2
第5回：表現活動(歌唱指導)の実際5　・表現活動(創作活動)の実際1
第6回：表現活動(歌唱指導)の実際6　・表現活動(創作活動)の実際2
第7回：表現活動(歌唱指導)の実際7　・鑑賞の授業の進め方
第8回：授業研究1(1年生の題材を使用して)
第9回：授業研究2(2年生の題材を使用して)
第10回：授業研究3(3年生の題材を使用して)
第11回：授業研究4(4年生の題材を使用して)
第12回：授業研究5(5年生の題材を使用して)
第13回：授業研究6(6年生の題材を使用して)
第14回：授業研究7(自由な題材を使用して)
第15回：授業研究8(自由な題材を使用して)
第16回：定期試験

授業外の学習方法
・授業案作成、表現活動の指導法、指揮法、伴奏法等について、それらを実践できるよう事前の準備をする。 ・毎回授業後の小レポートを作成し、次時の初めに提出する。 ・演奏会、劇場公演など、一流のものをできるだけ多く観賞する。生の良い音楽を聴き、耳を肥やし、自己の感じ取る力を育て、感性を高めていくよう心がける。
成績評価方法
定期試験(40%)　模擬授業及び小レポート(30%)　平常点(30%)　　平常点は欠席・遅刻・早退については減点の対象とし、受講中の積極的な実践活動や能動的な表現活動は加点の対象とする。
成績評価基準
音楽教育の目標を理解したうえで、実践的な授業の進め方や指導法を体得しているか。
テキスト、参考図書
・小学校の音楽教科書１～６年生(教育芸術社)　　・小学校学習指導要領解説音楽編(教育芸術社)
その他(受講上の注意)
表現活動や模擬授業の中で、積極的に実践活動に取り組み、人を指導する体験を積み重ねることを望む。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

図画工作科教育法 (Teaching Method s of Arts and Crafts)			担当教員	伊東　知之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AB−2304	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・各教科の指導法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容及び方法の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)

授業の内容

絵画及び立体についての造形表現や発達段階について理解するとともに子どもの年齢に応じた造形活動の具体的内容について研究する。実際の学校教育の中でできる図画工作の内容を絵画、彫刻、工芸、デザインの分野ごとに具体的に考え、指導案としてまとめていき、それを模擬授業として発表することによってお互いに評価し合い、改善点等を検討していく。そして指導案の意味や作成方法を習得するとともに教材開発等の教材研究能力を養い、図画工作の総合的な指導力を高めていく。

授業の到達目標

・指導案の意味や作成方法を説明できる。
・指導案を作成し、実践することができる。
・教材研究の意味を理解し、教材研究をすることができる。

授業の計画

第1回：子どもと図画工作
第2回：乳幼児期と造形活動
第3回：児童期と造形活動
第4回：人間と造形活動
第5回：作品の評価と鑑賞
第6回：指導案、保育案、日案について
第7回：指導案発表(1)グループA
第8回：指導案発表(2)グループB
第9回：指導案発表(3)グループC
第10回：指導案発表(4)グループD
第11回：模擬授業(1)絵画分野
第12回：模擬授業(2)立体分野
第13回：模擬授業(3)デザイン分野
第14回：模擬授業(4)工作分野
第15回：まとめ

授業外の学習方法

・事前に授業に必要な材料や道具を準備する。
・指導案を作成し、作品例をいくつか制作する。
・課題となるレポートを作成する。

成績評価方法

模擬授業(30%)、指導案(20%)、作品例(20%)、レポート(20%)、平常点(10%)
(平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物の提出状況等を総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準
・緻密な指導案を作成できるか。 ・指導案に基づいて模擬授業を行えるか。 ・作品例を制作しながら教材研究を行えるか。 ・工夫した作品を制作できるか。 ・課題に即したレポートを作成できるか。
テキスト、参考図書
文部科学省　『小学校学習指導要領解説(図画工作編)』　日本文教出版　2008年 その他、文献を適宜指示する。
その他(受講上の注意)
図工用具一式を毎時間持参すること。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

家庭科教育法 (Teaching Method s of Domestic Science)			担当教員	松田　淑子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AB−2355	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・各教科の指導法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容及び方法の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)

授業の内容

小学校の家庭科の学習内容に沿って、模擬授業を展開し、省察的に学び合う。

授業の到達目標

小学校家庭科に関する理解を深めるとともに、授業を創造し、実践し、省察し合うことができる。

授業の計画

第1回：オリエンテーション　受講及び講義予定の確認
第2回：模擬授業をつくるに当たって
第3回：模擬授業に向けて　テーマ決定及び学習指導案作成について
第4回：模擬授業案の検討(1)　個別指導①
第5回：模擬授業案の検討(2)　個別指導②
第6回：模擬授業案の提示と検討　グループでの検討会
第7回：模擬授業案の決定と練り上げ　グループの協働作業
第8回：模擬授業と検討会(1)　衣領域
第9回：模擬授業と検討会(2)　食領域
第10回：模擬授業と検討会(3)　住領域
第11回：模擬授業と検討会(4)　家族領域
第12回：模擬授業と検討会(5)　環境教育領域
第13回：模擬授業と検討会(6)　消費者教育領域
第14回：学習指導案の再検討
第15回：授業全体の振返りと課題の提示

授業外の学習方法

予習として、当該領域の小学校教科書及び学習指導要領解説に目を通しておくこと。
授業後は、その時間に学んだこと、及び考察をまとめること。

成績評価方法

最終レポート(30%)　小レポート(30%)　　平常点(40%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合的に判断します。)

成績評価基準

小学校家庭科の内容について深く理解し、模擬授業を創造し、実践できたか。
模擬授業を省察し、学び合うことができたか。

テキスト、参考図書

(1)「小学校学習指導要領解説(家庭編)」文部科学省　東洋館出版社　2008年
(2)小学校家庭科教科書(開隆堂・東京書籍のいずれか)

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

体育科教育法 (Teaching Method s of Physical Education)			担当教員	宗倉　　啓
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AB−2305	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・各教科の指導法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容及び方法の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。
小学校教諭一種免許状(必修)

授業の内容

学習指導を組織するために必要となる専門的手続きの修得を目的に、体育及び保健に関する目標、領域、教科内容、学習者のつまずき、学習指導、教材づくり、教授スキル、評価、安全管理等について講義する。

授業の到達目標

1　体育科の目標、領域、教科内容について説明することができる。
2　学習者のつまずきに関する原因の追究方法とその解決方法及び教材づくりに関する手続きがわかる。
3　学習指導過程の組織化及び評価方法の原則がわかるとともに、学習指導案を作成することができる。

授業の計画

第1回：オリエンテーション　学習指導要領における体育科の目標、領域の概説
第2回：教科内容－学習者のつまずき－教材づくりの関係(1)　走・跳・陸上運動の場合
第3回：教科内容－学習者のつまずき－教材づくりの関係(2)　器械運動の場合
第4回：教科内容－学習者のつまずき－教材づくりの関係(3)　ボール運動の場合
第5回：教科内容－学習者のつまずき－教材づくりの関係(4)　水遊び・水泳の場合
第6回：教科内容－学習者のつまずき－教材づくりの関係(5)　体つくり、表現運動の場合
第7回：伝承遊び・アナロゴン・基本運動の重要性
第8回：年間指導計画、単元指導計画の作成上の留意点
第9回：教授学習過程の組織化(授業マネジメント)の原則と評価の関係
第10回：体育の学習指導案作成のための留意点と学習指導案試案の作成
第11回：体育の学習指導案の作成
第12回：保健学習の目標、内容、指導、評価の要点
第13回：保健学習の年間指導計画、単元指導計画、学習指導案の作成上の留意点
第14回：保健学習の学習指導案の作成
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

配付資料や講義ノートを見直して復習するとともに、必要に応じて出される課題のレポートを提出すること。

成績評価方法

定期試験(60%)　レポート(30%)　平常点(10%)平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成績評価基準

体育及び保健に関する教授学習過程の組織化のための原則・手続きに関する知識を習得しているか。

テキスト、参考図書
「小学校学習指導要領解説(体育編)」文部科学省　東洋館出版社　2008年
その他(受講上の注意)
講義ではDVDの視聴を多用する。欠席すると講義内容の脈絡がつかめなくなるため、全出席を心がけること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

音楽演習 (Music Practice)			担当教員	篠田　　洋
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AC−2307	1単位	3年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(選択)

授業の内容

器楽演奏に必要と思われる演奏法、リズム表現等を重視した器楽アンサンブルの知識、技術の向上をねらう。

授業の到達目標

幼児が個々に感じた歌やリズムを音楽的にとらえ、楽器を用いたアンサンブルの楽しさを理解させる。

授業の計画

第1回：手拍子等によるリズム表現1、及び打楽器を用いての演奏表現
第2回：手拍子等によるリズム表現2、及び打楽器を用いての演奏表現や譜面の読み方
第3回：手拍子や打楽器を用いたリズム表現、及びリズムアンサンブル1
第4回：手拍子や打楽器を用いたリズム表現、及びリズムアンサンブル2
第5回：鍵盤ハーモニカや木琴を用いた、簡単な楽曲演奏、及びアンサンブル表現
第6回：鍵盤ハーモニカや木琴を用いた、簡単な楽曲演奏、及びアンサンブル表現
第7回：鍵盤ハーモニカや木琴を用いた、楽曲演奏、及びアンサンブル表現
第8回：鍵盤ハーモニカや木琴を用いた、楽曲演奏、及びアンサンブル表現
第9回：音律のない打楽器による、リズム表現、及びアンサンブル表現
第10回：音律のない打楽器による、リズム表現、及びアンサンブル表現
第11回：木琴、鉄琴による、リズム表現、及びメロディ・アンサンブル表現
第12回：木琴、鉄琴による、リズム表現、及びメロディ・アンサンブル表現
第13回：木琴、鉄琴による、リズム表現、及びメロディ・アンサンブル表現
第14回：いろんな楽器の導入によるアンサンブル表現や楽譜の読み方
第15回：楽曲のアンサンブル表現、及び作成
第16回：定期試験

授業外の学習方法

自宅にある楽器を用いての演奏や予習・復習や日常生活の中でのリズム・メロディに興味を持つ。
いま、子どもたちはどんな音楽に興味を持っているのかを探り鑑賞・分析してみる。

成績評価方法

定期試験(50%)　演奏表現(40%)　平常点(10%)
平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成績評価基準

演奏技術、譜読能力に重視し、演奏表現を評価する。また、アンサンブルでの協調性等も重視する。

テキスト、参考図書

前半は、自作の楽譜等で実施し、後半は市販のアンサンブル楽曲(ミュージック・エイト社等)を用いる。

その他（受講上の注意）
楽器等の搬入・搬出時に伴う楽器の損傷、学生たちの怪我に十分注意を払う。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

相談援助 (Social Work)			担当教員	青井　夕貴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−DH−2317	2単位	3年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

子育て支援の理解と実践力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)、児童厚生一級指導員(必修)

授業の内容

現在保育所等は、社会的な状況を踏まえ、児童の保育・教育と共に保護者や地域住民を対象とした相談援助、他専門機関との連携などの業務が求められている。つまり、保育者にとって、ソーシャルワークの習得・実践は不可欠といえる。本授業では、プレゼンテーションや体験学習を通して、ケースワークやグループワークを中心にソーシャルワークの理論や技術を体得してほしい。

授業の到達目標

相談援助(ソーシャルワーク)の意義・原則を説明することができる
相談援助(ソーシャルワーク)の方法・技術を理解し、対人援助のスキルを身につける
相談援助(ソーシャルワーク)の具体的展開過程を説明することができる

授業の計画

第1回：オリエンテーション～授業の目的と計画、相談援助とは
第2回：対人援助の基礎
第3回：相談援助の意義と機能
第4回：相談援助の理論
第5回：社会福祉とソーシャルワーク、保育とソーシャルワーク
第6回：相談援助の対象と過程
第7回：個人に対する援助技術(ケースワーク)
第8回：ケースワークの具体的展開
第9回：ケースワークとカウンセリング
第10回：小集団を活用した援助(グループワーク)
第11回：グループワークの進め方
第12回：グループワークの諸原則
第13回：記録と評価
第14回：関係機関との協働、専門職との連携、社会資源の活用
第15回：事例分析・まとめ

授業外の学習方法

予習では、授業計画に沿ってテキストの該当頁を読み、疑問点などを整理しておく。授業後は、授業中に適宜紹介する図書やその他相談援助に関連する文献を自ら調べ、読むことで、さらに理解を深める。

成績評価方法

授業中の提出物(40%)、授業中の発表(40%)、小レポート(20%)

成績評価基準

・相談援助の意義と原則を説明することができるか。
・相談援助の方法や技術を説明することができるか。
・相談援助の具体的展開過程を説明することができるか。

テキスト、参考図書
小林育子・小舘静枝・日高洋子 「保育者のための相談援助」 萌文書林　2011
その他（受講上の注意）
演習を通した理論や技術の習得を重視するため、積極的・意欲的な参加を求める。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

児童福祉援助技術 (Social Work for Child Welfare)			担当教員	西村　重稀
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−DH−2365	2単位	3年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

子育て支援の理解と実践

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

児童厚生一級指導員(必修)

授業の内容

核家族化、都市化等の進行により、家庭や地域の子育て機能も低下し、それらを背景に児童虐待や不登校児童など、児童福祉問題が増加していることを理解する。また、児童福祉問題の専門機関である児童相談所の見学を通して児童福祉問題を理解するとともに学生が主体となった演習方式によって児童の福祉問題について議論をする。

授業の到達目標

福井県内の児童専門機関を理解する。
児童の家庭の現状、児童問題等を理解させ、児童やその家族に対する福祉的なかかわりや援助方法等について理解する。

授業の計画

第1回：オリエンテーション
第2回：最近の児童の問題(主に児童虐待について)
第3回：児童福祉援助技術について(児童相談所の見学)
第4回：社会福祉援助技術について
第5回：グループ発表　個別援助技術日ついて
第6回：グループ発表　集団援助技術について
第7回：グループ発表　電話相談について
第8回：グループ発表　間接援助技術について
第9回：グループ発表　地域子育て支援拠点事業について
第10回：グループ発表　福井県内の子育て支援事業について
第11回：グループ発表　発達障害児の指導について
第12回：グループ討議　知的障害児の指導について
第13回：グループ討議　身体障害児の指導について
第14回：グループ討議　児童福祉援助事業に必要な関係機関と社会資源について
第15回：まとめ

授業外の学習方法

各グループで決めたテーマに沿ってグループ構成員がそろって図書館等で調べ、まとめること。

成績評価方法

発表内容(60%)、レポート(20%)、平常点(20%)
(平常点は授業への参加状況、受講態度、質問等用紙の提出状況等を総合して判断します。)

成績評価基準

福祉援助技術について説明することができるか。
児童の問題や家族の問題について理解するとともに支援について説明ができるか。

テキスト、参考図書
民秋言編者『幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷と幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立』(萌文書林) 日本保育協会編『子育て相談の手引き』(日本保育協会出版)
その他(受講上の注意)
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育原理Ⅱ (Principles of Early Childhood)			担当教員	石川　昭義
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AA−2300	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の基礎理論の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(選択)

授業の内容

保育所保育指針を読み解きながら、保育の在り方及び保育者の在り方について学ぶ。また、子ども・子育て支援新制度を含む近年の保育施策についてその概要を理解するとともに、それらの諸課題を探究する。

授業の到達目標

保育所保育指針の内容を理解し、その概要を説明することができる。
子ども・子育て支援新制度を含む近年の保育施策について理解する。

授業の計画

第1回：オリエンテーション(保育所保育指針を読む)
第2回：保育所保育指針の意義1
第3回：保育所保育指針の意義2
第4回：保育の内容と方法について
第5回：保育の内容の自己評価
第6回：保護者支援の現在
第7回：保育者の専門性と資質向上
第8回：保育所の自己評価
第9回：子ども・子育て支援新制度について
第10回：幼保連携型認定こども園教育・保育要領について1
第11回：幼保連携型認定こども園教育・保育要領について2
第12回：保育をめぐる現代の課題(学生発表1)
第13回：保育をめぐる現代の課題(学生発表2)
第14回：保育をめぐる現代の課題(学生発表3)
第15回：まとめ

授業外の学習方法

予習として、保育所保育指針の各回に関連するページを読み、あらかじめ疑問点等を考えておいてください。また、出された宿題について各自で調べ、授業で発表できるようにまとめてください。復習としては、配布プリント等をもとに授業内容をまとめておいてください。

成績評価方法

レポート(60%)　平常点(40%)
(平常点は、授業への参加状況、受講態度、積極的な発表意欲及び発表内容を総合して判断します。)

成績評価基準

保育所保育指針の内容を理解し、その概要を説明することができているか。
子ども・子育て新新制度を含む近年の保育施策の諸課題について自分の見解が明確に述べられているか。

テキスト、参考図書
厚生労働省編　『保育所保育指針解説書』　フレーベル館　2008年
その他（受講上の注意）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領の購入については授業中に連絡します。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子どもの食と栄養 (Nutrition for Children)			担当教員	桑守　豊美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−BD−2359	2単位	3年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養の基礎知識を習得する。また、子どもの成長・発育を支援する栄養管理を行える能力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

幼児期・学童期の子どもの指導者(保育士、教師など)として、食の領域での職務を十分に果たすために必要な知識(小児の発育・発達、小児の栄養特性、小児の食生活の問題点、栄養と疾病、生活習慣と食習慣、小児への栄養教育の必要性と方法、人格形成と食習慣など)について解説し、指導者としての資質を培う指導をする。

授業の到達目標

栄養の基礎知識を理解する。子どもの成長･発育を支援する栄養管理の知識と技術を修得する。

授業の計画

第1回：子どもの食と栄養の概要
第2回：栄養の基礎知識1
第3回：栄養の基礎知識2
第4回：栄養の基礎知識3
第5回：栄養の基礎知識4
第6回：栄養の基礎知識5
第7回：栄養の基礎知識のまとめ、テスト
第8回：小児の成長と発達
第9回：胎児・妊娠期の栄養
第10回：乳汁栄養
第11回：離乳期栄養
第12回：幼児期の栄養
第13回：学童期・思春期の栄養
第14回：小児期の病気と食生活・障害のある子どもの食生活
第15回：児童福祉施設給食、学校給食
第16回：定期試験

授業外の学習方法

授業前に予習を行い、終了後はノートを完成すること。

成績評価方法

2回のテストで80%、提出物や授業の取り組み態度などで20%とする。

成績評価基準

栄養の基礎知識は理解できたか。子どもの成長･発育を支援する栄養管理の知識と技術を修得できたか。

テキスト、参考図書

高内正子監修「子どもの食と栄養」保育出版社

その他（受講上の注意）
授業計画は進捗状況により変更することがある。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

精神保健 (Mental Health)			担当教員	瀧川　薫、藤本　智美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−BD−2309	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の対象の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(選択)

授業の内容

こころの健康・不健康とはどのようなことかを見きわめ、精神病理と身体病理・社会病理の密接な関係について知る。

授業の到達目標

①成長過程における精神機能や自我の発達、こころの健康に影響する要因を説明できる。
②こころの健康の維持増進に関する基礎的な知識を体系的に習得し、教育・保育に活用できる。

授業の計画

第1回：精神保健の概要と理論的背景
第2回：社会病理・精神病理・身体病理の関連について
第3回：こころの健康・不健康とその基準について
第4回：こころの発達(発達理論)について
第5回：ライフサイクルにおける発達課題と出現する危険性のある精神症状
第6回：トラウマとＰＴＳＤの関係
第7回：ストレスのもたらす影響／セリエのストレス理論より
第8回：ストレス、ストレスコーピング、ストレスマネジメントについて
第9回：防衛機制と適応機制について
第10回：バーンアウトについて
第11回：対人専門職における感情労働の側面と精神保健
第12回：家族における人間関係と精神保健
第13回：学校における人間関係と精神保健
第14回：会社における人間関係と精神保健
第15回：依存や嗜癖の問題について
第16回：定期試験

授業外の学習方法

復習として、授業で説明した配布済みスライド資料に該当する教科書の頁を読み、さらに理解を深めておくこと。
同様に、予習として教科書の関連する頁に目を通しておけば、授業内容にさらに興味が持てるようになる。

成績評価方法

定期試験(60%) 平常点(40%)
なお、平常点は授業への参加状況ならびに受講態度等を総合的に判断し、定期試験は60点以上を必要とする。

成績評価基準

精神保健に関して論理的に説明でき、教育・保育に活用可能なように工夫できる。

テキスト、参考図書
瀧川薫 編著：『精神保健看護学』 オーム社 2013 （ISBN 978-4-274-21447-9）
（看護学系のテキストだが精神保健や精神病理について丁寧に記述されている。当初は独自に作成した資料で教授するため使用しないが、購入しておくように。）
その他（受講上の注意）
授業ではスライドや視聴覚教材を使用するため、欠席や遅刻・私語および授業中の出入りについては慎んでもらいたい。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

家庭支援論 (Family Support)			担当教員	青井　夕貴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−DH−2318	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

子育て支援の理解と実践力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)、児童厚生一級指導員(必修)

授業の内容

子どもの発達にとって基礎的な環境(集団)のひとつが家庭である。その家庭の機能やあり方は、核家族化や少子高齢化などのような社会のさまざまな影響を受け、大きく変化している。同時に、地域や家庭での子育てを支援する形態も多様に展開されている。本授業では、子育て家庭に対する支援の重要性とそのあり方について考察してほしい。

授業の到達目標

子育て家庭やそれを構成する家族のもつ機能や役割について説明することができる。
子育て家庭のニーズに応じた支援の展開や体制について説明することができる。
子育て家庭を支える関係機関とその連携について説明することができる。

授業の計画

第1回：オリエンテーション、家庭・家族とは
第2回：家庭支援の意義と役割
第3回：家庭生活を取り巻く社会的状況
第4回：家族関係のあり方～夫婦関係
第5回：家族関係のあり方～親子関係
第6回：家族関係のあり方～きょうだい関係、祖父母との関係
第7回：子育て家庭の福祉を図るための法体系と社会資源
第8回：子育て支援における施策
第9回：子育て支援サービスの体系とその内容
第10回：保育所入所児童の家庭への支援
第11回：地域の子育て家庭への支援
第12回：要保護児童及びその家庭に対する支援
第13回：子育て家庭支援における関係機関との連携
第14回：子育て家庭の福祉を図るための課題
第15回：まとめ、家庭支援の意義とは
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習では、授業計画に沿ってテキストの該当頁を読み、疑問点などを整理しておく。授業後は、授業中に適宜紹介する図書やその他家庭支援に関連する文献を自ら調べ、読むことで、さらに理解を深める。

成績評価方法

定期試験(70%)、提出課題(30%)

成　績　評　価　基　準
子育て家庭やそれを構成する家族のもつ機能や役割について説明することができるか。 子育て家庭のニーズに応じた支援の展開や体制について説明することができるか。 子育て家庭を支える関係機関とその連携について説明することができるか。
テキスト、参考図書
新保育士養成講座編纂委員会 編　「新保育士養成講座第10巻　家庭支援論　家庭支援と保育相談支援」 全国社会福祉協議会　2014
その他（受講上の注意）
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育内容総論 (General Early Childhood Care and Education)			担当教員	石川　昭義
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AB−2356	2単位	3年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　保育内容の指導法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容及び方法の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状(選択)、保育士資格(必修)、児童厚生一級指導員(必修)

授業の内容

幼稚園教育要領と保育所保育指針を通して、わが国の幼稚園及び保育所における現代の保育観及び保育の内容と指導法を理解する。

授業の到達目標

幼稚園教育要領と保育所保育指針におけるわが国の保育観及び保育の内容と指導法について説明することができる。
グループワーク(指導計画の作成と保育課程の編成)を通して、協働して課題に取り組み、発表することができる。

授業の計画

第1回：オリエンテーション(授業の概要と留意事項)
第2回：わが国の保育観と保育内容(1) ― 幼稚園教育要領と保育所保育指針
第3回：わが国の保育観と保育内容(2) ― 指導・援助の概念
第4回：幼稚園と保育所の保育内容の比較
第5回：保育内容と保育指導法(間接教育の原理)
第6回：指導計画の作成(グループ討議1)
第7回：指導計画の作成(グループ討議2)
第8回：指導計画の発表
第9回：教育課程と保育課程
第10回：保育課程の編成(グループ討議1)
第11回：保育課程の編成(グループ討議2)
第12回：保育課程の発表
第13回：保育内容と自己評価(1) ― PDCAサイクル
第14回：保育内容と自己評価(2) ― 幼稚園幼児指導要録と保育所児童保育要録
第15回：保育内容と小学校の教科学習
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習として、教科書の各回に関連するページを読み、あらかじめ疑問点等を考えておいてください。また、グループワークのための準備をしっかり行ってください。復習としては、グループワークの振り返りとともに指定された図書等を通して授業内容をまとめてください。

成績評価方法

定期試験(50%)　グループワークの取り組みと発表(30%)　平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況と受講態度を総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準
幼稚園教育要領と保育所保育指針におけるわが国の保育観及び保育の内容と指導法について説明することができるか。 グループワーク(指導計画の作成と保育課程の編成)に協働して取り組み、グループの考えを明確に表現し発表することができるか。
テキスト、参考図書
授業中に連絡します。
その他(受講上の注意)
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育相談支援 (Early Childhood Care and Education Counseling and Support)			担当教員	青井　夕貴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−DH−2366	2単位	3年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

子育て支援の理解と実践力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)、児童厚生一級指導員(必修)

授業の内容

家庭や地域の養育機能の低下等により、保育者には、子どもの保育だけでなく保護者を対象とした相談・支援の業務が課せられ、保育相談支援に必要な知識・技術の習得が不可欠となっている。本授業では、「相談援助」で学んだ理論を基に、事例検討や体験学習等を実施する。その中で、保育者として子どもの最善の利益を擁護するために、保護者を理解する多面的な視点をもち、保護者に対して根拠に基づいた支援を展開できるための基礎を築いてほしい。

授業の到達目標

保育相談支援の意義と原則を説明することができる。
保育者として保護者を支援するための基本的姿勢や技術を身につける。
保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際を説明することができる。

授業の計画

第1回：オリエンテーション～授業の目的と計画、保育相談支援とは
第2回：保育相談支援の意義
第3回：保育相談支援の原則(1)～子どもの最善の利益
第4回：保育相談支援の原則(2)～バイスティック
第5回：保育相談支援の進め方(1)～全体のプロセス
第6回：保育相談支援の進め方(2)～アセスメント
第7回：保育相談支援の進め方(3)～関係機関との連携
第8回：保育相談支援の技術(1)～面接の技法(非言語)
第9回：保育相談支援の技術(2)～面接の技法(言語)
第10回：保育相談支援の技術(3)～記録の書き方
第11回：保育相談支援の技術(4)～社会資源の活用
第12回：保育相談支援の技術(5)～面接の技法(DVD演習)
第13回：保育相談支援の技術(6)～連絡帳の活用
第14回：保育相談支援の実際～多様な保護者支援
第15回：まとめ

授業外の学習方法

各回の授業を受けた後で配付資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。

成績評価方法

平常点(80%)、小レポート(20%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度、毎回のコメント用紙の提出状況等を総合して判断する。)

成　績　評　価　基　準
・保育相談支援の意義と原則を説明することができるか。 ・保育者として保護者を支援するための基本的姿勢や技術を説明することができるか。 ・保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際を説明することができるか。
テキスト、参考図書
テキストは使用しない。ただし、「相談援助」のテキストを毎回持参する。その他、適宜プリント等を配付する。
その他（受講上の注意）
「相談援助」の復習をしておく。演習を通した理論や技術の習得を重視するため、積極的・意欲的な参加を求める。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育実習Ⅱ (Field PracticeⅡ(Day Care Center))			担当教員	石川　昭義、柿本　真代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CE−2362	2単位	3年後期	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

学外実習による実践的能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(選択)

授業の内容

3年次11月に2週間の保育所実習を行う。

授業の到達目標

この実習科目は、保育士資格取得のための選択必修科目としての保育所実習であり、「保育実習Ⅰa」と比べて、さらに発展的に課題の解決に取り組む実習科目である。「保育実習Ⅰa」の経験を踏まえ、乳幼児に対する理解、保育士の職務に対する理解をよりいっそう深めることが目標である。2週間の期間で、「見学・観察」、「参加」、「部分」、「指導」の各段階の実習を行うが、特に「部分」、「指導」の各段階を多く取り入れ、より実践的な能力を身に付ける。

授業の計画

保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務について学ぶため、次の内容を経験し、学習する。
1．保育全般に参加し、保育技術を習得する。
2．子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。特に発達の遅れや生活環境にともなう子どものニーズを理解し、その対応方法を学ぶ。
3．指導計画を立案し、実際に実践する。
4．記録にもとづいて振り返りを行い、自己の学習課題を明らかにする。
5．子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する。
6．地域社会に対する理解を深め、連携の方法について具体的に学ぶ。
7．子どもの最善の利益への配慮を学ぶ。
8．保育士としての職業倫理を理解する。
9．保育所の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化する。

授業外の学習方法

実習ノートを記載しながら振り返りを行う。
実習保育所の指示にしたがい、翌日以降の実習の準備を行う。

成績評価方法

実習園からの評価、教員の巡回指導の記録、実習日誌、出勤状況などにもとづき、総合的に評価する。

成績評価基準

実習評価表の項目(5項目及び総合評価)による。

テキスト、参考図書

なし

その他（受講上の注意）
大学及び実習保育所から指示された留意事項を守り、誠実に実習を行うこと。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育実習Ⅲ (Field Practice Ⅲ (Childcare Institution))			担当教員	石川　昭義、柿本　真代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CE−2363	2単位	3年後期	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

学外実習による実践的能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(選択)、児童厚生一級指導員(必修)

授業の内容

3年次2～3月に10日間の施設実習(または児童館における実習)を行う。

授業の到達目標

この実習科目は、保育士資格取得のための選択必修科目としての施設実習であり、「保育実習Ⅰb」と比べて、さらに発展的に課題の解決に取り組む実習科目である。特に、ケースに応じた個別的な関わりを通して児童の理解を深め、保育士及び他職員との協力関係による児童への援助的な働きかけを実践的に理解する。また、実習施設の中に、社会福祉関係諸法令の規定に基づいて設置されている施設も含め、幅広い観点からケアの実践的能力を身に付ける。
なお、児童厚生員資格の取得を希望する人は、児童館において実習を行い、児童館の役割や児童厚生員の職務内容を理解する。

授業の計画

居住型児童福祉施設または児童館において、子どもへの理解を深めるとともに、施設の機能とそこでの保育士、児童厚生員の職務について学ぶため、次の内容を経験し、学習する。
1．養護全般に参加し、養護技術を習得する。
2．子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。特に発達の遅れや生活環境にともなう子どものニーズを理解し、その対応方法を学ぶ。
3．援助計画を立案し、実際に実践する。
4．記録にもとづいて振り返りを行い、自己の学習課題を明らかにする。
5．子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する。
6．地域社会に対する理解を深め、連携の方法について具体的に学ぶ。
7．子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。
8．保育士、児童厚生員としての倫理を具体的に学ぶ。
9．児童福祉施設等の保育士、児童厚生員に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化する。

授業外の学習方法

実習ノートを記載しながら振り返りを行う。
実習施設の指示にしたがい、翌日以降の実習の準備を行う。

成績評価方法

実習施設からの評価、教員の巡回指導の記録、実習日誌、出勤状況などにもとづき、総合的に評価する。

成績評価基準

実習評価表の項目(5項目及び総合評価)による。

テキスト、参考図書
なし
その他（受講上の注意）
大学及び実習施設から指示された留意事項を守り、誠実に実習を行うこと。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

事前・事後指導(幼稚園) (Guidance for Field Practice(Preschool))			担当教員	伊東　知之、鈴木　智子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CE−2109	1単位	1年・3年	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育実習)

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

学外実習による実践的能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状(必修)

授業の内容

この授業は「教育実習Ⅰ(幼稚園)」(1年次)及び「教育実習Ⅱ(幼稚園)」(3年次)の事前事後指導として実施されるものである。幼稚園実習の目的・内容・方法及び留意事項などを理解するとともに、実習日誌の記録や指導計画の作成をはじめとして、実践に必要な基礎的な技能・技法についても学習する。また、教育実習を評価・反省することを通して、実習後の学習課題を明確にしていくための場でもある。

授業の到達目標

・実習の目的や意義を理解する。
・実習に必要な知識や技能を修得する。
・実習に必要な態度や心構えを身につける。

授業の計画

1年次
第1回：教育実習オリエンテーション・教育実習の意義と目的を理解する。
第2回：4段階実習(見学･観察実習､参加実習､部分実習､指導実習)の意義・役割とその方法について理解する。
第3回：実習ノート(日誌)等の取り方、記入の仕方を学習する。
第4回：指導案(週案・日案・設定保育案)の作成法、模擬保育実践を仮定して、立案を試みる。
第5回：模擬保育①
第6回：模擬保育②
第7回：模擬保育③
第8回：研究テーマ、実習の心構えの作成及び実習に臨む際、子どもの健康面、安全面などへの配慮、留意すべき点の確認をする。
第9回：実習報告会(2年生の実習体験報告を聞き、疑問点等を質問する)。
第10回：スキルアップ講座①　(学外指導者による実習に対する講演)
第11回：スキルアップ講座②　(学外指導者による実践的指導)
第12回：スキルアップ講座③　(学外指導者による実践的指導)
3年次
第1回：教育実習オリエンテーション・実習の目標、課題の持ち方、観察の仕方等の再学習をする。
第2回：実習ノート(日誌)、指導案について教育実習Ⅱの様式で再学習する。
第3回：実習園への事前訪問内容や心構えを確認する(外部講師)。
第4回：実習ノート(日誌)の書き方について教育実習Ⅱの様式で学習をする(外部講師)。
第5回：指導案の作成について教育実習Ⅱの様式で学習する(外部講師)。
第6回：模擬保育を想定して指導案を実際に作成する。
第7回：模擬保育①
第8回：模擬保育②
第9回：模擬保育③
第10回：模擬保育④
第11回：教育実習Ⅱオリエンテーションについて
第12回：まとめ・お礼状の書き方について

授業外の学習方法
・模擬保育の指導案を作成し、実施に必要なものを準備する。 ・模擬保育の練習を行う。 ・実習の心構えや研究テーマを作成する。
成績評価方法
課題提出物(40%)、模擬保育(40%)、平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物の提出状況等を総合して判断します。)
成績評価基準
・実習の意義や目的を理解している。 ・指導案がしっかり作成されている。 ・実習に必要な提出物が提出されている。
テキスト、参考図書
林幸範、石橋裕子編　『最新　保育園幼稚園の実習　完全マニュアル』 文部科学省　『幼稚園教育要領』 仁愛大学実習指導委員会編　『教育実習(幼稚園)実習の手引き』
その他(受講上の注意)
1年次の受講者は、3年次も受講すること。評価は3年次末にあわせて行う。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育実習Ⅱ(幼稚園) (Teaching PracticeⅡ(Preschool))			担当教員	伊東　知之、鈴木　智子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CE−2312	3単位	3年前期	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育実習)

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

学外実習による実践的能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状(必修)

授業の内容

3年次9月に公私立幼稚園等において、3週間(15日)の教育実習を行う。

授業の到達目標

・幼児の心身の発達、興味や関心、生活や遊び、特性を理解する。
・幼児と適切に関わることができる。
・保育の方法と技術を修得する。
・保育に取り組む姿勢を修得する。
・積極的で適切な実習中の態度を身につける。

授業の計画

教育実習は次に掲げる目的をもって幼稚園教諭として必要な資質・能力・技術を身につけ、教職課程を学ぶ学生の問題意識の構築や専門的学習の必要性を知る機会とする。
(1)実習先の運営機構、教育方針、指導計画、事務分掌、教育環境等を理解する。
(2)グループ別、個人別等の形態により、観察、参加、指導、研究授業、教材及び指導法の研究、指導案の作成等の方法を通じて、学級経営の在り方を理解する。
(3)園の行事・運営にかかる実践活動への参加をする。
(4)保護者、地域社会と幼稚園の連携、相互理解等における教師の関わり方などを観察、把握する。

授業外の学習方法

・実習ノート(日誌)を毎日記録し、実習園に提出する。
・指導案を作成し、指導者の助言により修正を繰り返す。
・部分実習等の責任実習の準備を行う。
・ピアノ課題曲の練習を行う。

成績評価方法

実習園の評価(評価表)と大学の評価を総合して評価する。

成績評価基準

・幼児の心身の発達、興味や関心、生活や遊び、特性を理解できたか。
・幼児と適切に関わることができたか。
・保育の方法と技術を修得できたか。
・保育に取り組む姿勢がよかったか。
・実習中の態度がよかったか。

テキスト、参考図書

文部科学省　『幼稚園教育要領』
子ども教育学科実習指導委員会編　『教育実習(幼稚園)実習の手引き』
子ども教育学科実習指導委員会編　『教育実習Ⅱ(幼稚園)実習ノート』

その他（受講上の注意）
教育実習は、卒業後、教員として就職することを強く希望する学生のために、実習園の教育的配慮・好意によって受け入れていただくものである。また、受講要件として、学生便覧、実習要項に記載されている科目の履修が必要である。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

事前・事後指導(小学校) (Guidance for Field Practice(Elementary))			担当教員	木曽　利雄
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CE−2361	1単位	3年後期、4年	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育実習)

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

学外実習による実践的能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)

授業の内容

事前指導として、教育実習の意義についての指導及び実地実習に際しての具体的指導を大学及び実習校で行う。教育実践場面に関わる学習として学校参観・授業参観を行う。事後指導として、授業を中心とした教育実習の成果・課題を踏まえ、教職に必要な事項について実践的な指導を行う。

授業の到達目標

・事前学習を通して教育実習の意義を理解し、実地実習に際しての予備的な学習を行う。学校参観・授業参観を通して、学校教育について理解を深め、実践的知識を身に付ける。
・事後指導を通して各自の実習の成果・課題を確認し、それを踏まえ教職についての理解を深める。

授業の計画

[事前指導]
第1回：小学校教育実習の意義、目的、内容
第2回：教育実習の準備と心得
第3回：授業参観の目的とその観点,
第4回：授業参観(協力校にて)
第5回：授業参観(協力校にて)　同日に2コマ分で実施
第6回：授業参観しての意見交換
第7回：授業参観(協力校にて)
第8回：教材研究と学習指導案の作成方法(一般)
第9回：教材研究と学習指導案の作成方法(算数)
第10回：模擬授業
第11回：特別講義「教育実習の心得」(小学校教諭を招いての特別講義)
第12回：模擬授業
第13回：実習日記の記入方法及び教育実習の具体的留意点
第14回：教育実習直前指導
[事後指導]
第15回：教育実習の振り返り①　(実習ノートのまとめをする。各自が実習の成果、課題を明確にする。)
第16回：教育実習の振り返り②　(実習ノートのまとめをする。各自が実習の成果、課題を明確にする。)
第17回：教育実習反省会①　(課題別反省会を実施する。)
第18回：教育実習反省会②　(課題別反省会を実施する。)
第19回：教育実習反省会③　(課題別反省会を実施する。)
第20回：教育実習報告書作成①　(各自の実習の成果、課題を教育実習報告書にまとめる。)
第21回：教育実習報告書作成②　(各自の実習の成果、課題を教育実習報告書にまとめる。)
第22回：教育実習の総括①
　　(全体反省会、評価表をもとに全般的講評、報告書を発表・討議し、卒業までの課題を明確にする。)
第23回：教育実習の総括②
　　(全体反省会、評価表をもとに全般的講評、報告書を発表・討議し、卒業までの課題を明確にする。)

授業外の学習方法
予習として、教育実習を意義深いものとするために、教育実習の手引きや研究協力校の学校要覧に記載されている事項、特に教育方針や教育重点事項について理解しておくこと。日頃から身近な子どもの言動を意識的に観察し、児童理解の一助とすること。また、教材研究は十分に行い、授業参観や教育実習の質を高めるよう努力すること。復習としては、受講後その都度振り返り細かい気づきや子供の言動の意外性等をノートし、反省や感想を整理しまとめておくこと。
成績評価方法
レポート(60%)各活動への取り組み状況(40%)で総合的に評価する。
成績評価基準
・事前指導で教育実習の意義を理解し、実践的知識を習得できているか。 ・事後指導で教育実習の成果や課題を踏まえ、教職についての理解が深まったか。
テキスト、参考図書
小学校教育実習の手引き 小学校教科書(国語、社会、算数、理科)
その他(受講上の注意)
教育実習校は、実習生が実習に必要な学習内容を十分に習得し、教育について深く理解していることを前提として迎えてくれる。そして、実習生には教職に就きたいという強い意志を持って臨むことが求められる。 教育実習を全力で臨むためにも、事前指導で十分準備を、事後指導で実習の省察をすることが重要である。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育実習指導Ⅱ (Guidance for Field Practice Ⅱ)			担当教員	石川　昭義、柿本　真代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CE−2313	1単位	3年	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

学外実習による実践的能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(選択)

授業の内容

保育所の学外実習を行うための事前及び事後の指導を行う。事前指導では、保育実習の意義と目的、実習の際の留意事項、実習日誌・日案の書き方を理解する。実習終了後は、個別指導を行う。また、ゲストスピーカーによる特別講義を行い、実習を振り返りながらさらに研鑽すべき課題を明らかにする。

授業の到達目標

事前指導では、保育実習の意義と目的を説明することができる。
実習日誌及び指導計画の書き方、エピソード記録の書き方の基本を身につける。
事後指導では、振り返りシートを通じて自己の長所と課題を理解し、さらに研鑽すべき課題を明らかにする。

授業の計画

第1回：保育所実習オリエンテーション①　(実習の意義、目的の理解)
第2回：保育所実習オリエンテーション②　(実習の内容の理解)
第3回：保育所実習オリエンテーション③　(指導計画の作成)
第4回：保育所実習オリエンテーション④　(指導計画の作成)
第5回：保育所実習オリエンテーション⑤　(エピソード記述)
第6回：保育所実習の事後指導①　(個別振り返りシート)
第7回：保育所実習の事後指導②　(ゲストスピーカー特別講義)
第8回：保育所実習の事後指導③　(実習のまとめ)

授業外の学習方法

予習として、教科書の各回に関連するページを読み、あらかじめ疑問点等を考えておいてください。また、復習としては、出された宿題や指定された図書等を通して授業内容をまとめてください。

成績評価方法

課題レポート(50%)　平常点(50%)
(平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物等を総合して判断します。)

成績評価基準

事前指導では、保育実習の意義と目的を説明することができるか。
実習日誌、指導計画、エピソード記録の書き方の基本を身につけられたか。
事後指導では、振り返りシートを通して自己の長所と課題を認識し、さらに研鑽すべき課題を明らかにすることができたか。

テキスト、参考図書

阿部和子他編　『保育実習』　ミネルヴァ書房　2009年

その他（受講上の注意）
この科目は、「保育実習Ⅱ」と組み合わせて履修すること。 やむをえず欠席するときは、大学に連絡すること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育実習指導Ⅲ (Guidance for Field Practice(Childcare Institution))			担当教員	石川　昭義、柿本　真代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CE−2313	1単位	3年	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

学外実習による実践的能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(選択)

授業の内容

保育所以外の児童福祉施設等(児童館を含む)の学外実習を行うための事前及び事後の指導を行う。事前指導では、保育実習の意義と目的、実習の際の留意事項、実習日誌・日案の書き方を理解する。実習終了後は、個別指導を行う。また、ゲストスピーカーによる特別講義を行い、実習を振り返りながらさらに研鑽すべき課題を明らかにする。

授業の到達目標

事前指導では、保育実習の意義と目的を説明することができる。
実習日誌及び指導計画の書き方、エピソード記録の書き方の基本を身につける。
事後指導では、振り返りシートを通じて自己の長所と課題を理解し、さらに研鑽すべき課題を明らかにする。

授業の計画

第1回：施設実習オリエンテーション①　(児童館を含む施設実習の意義、目的の理解)
第2回：施設実習オリエンテーション②　(ゲストスピーカー特別講義 ― 実習の内容の理解)
第3回：施設実習オリエンテーション③　(児童の健全育成)
第4回：施設実習オリエンテーション④　(実習の目標についてグループ討論)
第5回：施設実習オリエンテーション⑤　(指導計画等の立案)
第6回：施設実習の事後指導①　(個別振り返りシート)
第7回：施設実習の事後指導②　(グループ討議)
第8回：施設実習の事後指導③　(グループレポート集のまとめ)

授業外の学習方法

予習として、教科書の各回に関連するページを読み、あらかじめ疑問点等を考えておいてください。また、復習としては、出された宿題や指定された図書等を通して授業内容をまとめてください。

成績評価方法

課題レポート(50%)　平常点(50%)
(平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物等を総合して判断します。)

成績評価基準

事前指導では、施設実習の意義と目的を説明することができるか。
実習日誌、指導計画の書き方の基本を身につけられたか。
事後指導では、振り返りシートを通して自己の長所と課題を認識し、さらに研鑽すべき課題を明らかにすることができたか。

テキスト、参考図書

阿部和子他編　『保育実習』　ミネルヴァ書房　2009年

その他(受講上の注意)

この科目は、「保育実習Ⅲ」と組み合わせて履修すること。
やむをえず欠席するときは、大学に連絡すること。
事後指導は４年次の前期時間割の中で実施する。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育実践演習 (Seminar on Practice in Early Childhood Care and Education)			担当教員	鈴木　智子、西出　和彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2364	2単位	3年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)、児童厚生一級指導員(必修)

授業の内容

保育に関する諸課題の中から、少子化社会、子どもの発達、小学校との連携をテーマとして取り上げ、そのテーマについて分析、考察、検討を行う。
(鈴木智子／8回)
少子化社会、子どもの発達と保育をテーマとして取り上げ、グループ討論を行い、考察結果を報告する。
(西出和彦／7回)
小学校との連携をテーマとして取り上げ、グループ討論を行い、考察結果を報告する。

授業の到達目標

保育に関する諸課題の中からテーマを取り上げ、そのテーマについて、グループワークで分析、考察を行い、発表する。
グループワークで協働して取り組み、各自が役割上の責務を果たす。

授業の計画

第1回：子どもの発達と保育について(鈴木)
第2回：少子化社会について(鈴木)
第3回：グループ討議(鈴木)
第4回：グループ討議(鈴木)
第5回：グループによる発表(鈴木)
第6回：グループによる発表(鈴木)
第7回：グループによる討議、発表を踏まえてのまとめ(鈴木)
第8回：グループ討議、発表を踏まえたまとめ(鈴木)
第9回：幼稚園・認定こども園・小学校との連携について1(西出)
第10回：幼稚園・認定こども園・小学校との連携について2(西出)
第11回：グループ討議(西出)
第12回：グループ討議(西出)
第13回：グループによる発表(西出)
第14回：グループによる発表(西出)
第15回：グループによる討議、発表を踏まえてのまとめ(西出)

授業外の学習方法

これまでの学習成果を整理すること、保育に関する動向や情勢について情報を得ること、問題意識を持って考えることを通じて、保育実践に対する自分の意見を形成していくことが求められる。

成績評価方法

担当者が、それぞれに授業への参加状況、受講態度、課題発表、レポート等をもとに評価を出し、それらを総合して評価する。

成　績　評　価　基　準
取り上げたテーマについて、グループワークで協働して十分な分析と考察を行い、発表において、自分たちの主張を明確に表明することができたか。
テキスト、参考図書
必要に応じてプリントを配布する。
その他（受講上の注意）
担当者２人が分担し、計15回の授業を行う。欠席が全15回の３分の１を超えると失格となる。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (Seminar Ⅰ)			担当教員	石川　昭義
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2315	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例を参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について学ぶ。この演習において文献等を講読し、討論することを通して、自らの研究テーマを設定する。

授業の到達目標

文献等の講読や討論を通じて、研究課題の対象と方法を学び、自らの研究テーマを設定する。

授業の計画

第1回：オリエンテーション(ゼミの概要や方針について説明)
第2回：文献検索の方法(図書館の活用方法)
第3回：文献講読
第4回：文献講読
第5回：文献講読
第6回：文献講読
第7回：文献講読
第8回：中間のまとめ
第9回：研究課題のデザイン発表
第10回：研究課題のデザイン発表
第11回：文献講読
第12回：文献講読
第13回：文献講読
第14回：研究のデザイン発表
第15回：研究のデザイン発表

授業外の学習方法

自分の関心のあるテーマに関する文献、論文等を読んでレポートにまとめる。

成績評価方法

課題レポート(50%)　平常点(50%)
(平常点は、授業への参加状況、レポート発表を総合して判断します。)

成績評価基準

講読した文献等の内容をレポート形式でまとめ、発表することができるか。
自分の研究テーマに係る対象と方法について、デザイン発表することができるか。

テキスト、参考図書

講読する文献、論文は適宜紹介する。

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (Seminar Ⅰ)			担当教員	伊東　知之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2315	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

造形・美術養育等の分野で自分自身がどのようなことに興味や関心があるのかを考え、各自が卒業研究に向けて研究を深めていく内容、テーマを探っていく。併せてこれまでの卒業研究を参考にしながらテーマや自分にあった研究の方法についても考えていく。

授業の到達目標

・自分の興味や関心のある内容を説明できる。
・研究の方法について説明できる。
・研究の計画を立てることができる。

授業の計画

第1回：オリエンテーション
第2回：美術・造形について
第3回：美術・造形教育について
第4回：作品、作家研究①
第5回：作品、作家研究②
第6回：作品、作家研究③
第7回：作品、作家研究④
第8回：作品、作家研究⑤
第9回：文献研究①
第10回：文献研究②
第11回：文献研究③
第12回：文献研究④
第13回：文献研究⑤
第14回：研究発表
第15回：研究発表

授業外の学習方法

・出された課題について次回の発表までに研究し、レジュメにまとめてくる。
・発表内容について質問等に対応できるように準備してくる。
・出された意見や質問について付け加えていく。

成績評価方法

発表内容(80%)、平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物の提出状況等を総合して判断します。)

成績評価基準

・研究内容について説明できるか。
・今後の計画を説明できる。

テキスト、参考図書
必要に応じて指示する。
その他（受講上の注意）
「図画工作Ⅰ」「図画工作Ⅱ」「保育内容研究(表現Ｂ)」「美術の世界」の単位を取得しており、「図画工作科教育法」を履修していること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (Seminar Ⅰ)			担当教員	大野木　裕明
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2315	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプラニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

各自が卒業論文のテーマに沿って構想からとりまとめを進めてゆく。
卒業論文の内容の準備については、中断することなく定期的に進め、他のゼミ生のナイーブな意見にも十分に説明できるよう、深く根拠を探り検討してゆく。自分なりに構想を発表し、多様な観点からの検討を加える。

授業の到達目標

・所定の形式によるレポートを期限までに提出する。
・レポートには過去の諸研究の文献的成果を反映させる。
・研究したい目的を達成するための具体的な方法をまとめる。
・レポートを適切な日本語を用いてまとめる。
・レポートは、研究されわかっていること、まだわかっていないことを明確に区別するようにまとめる。

授業の計画

第1回：観察法の解説
第2回：観察法の演習
第3回：質問紙調査法の解説
第4回：質問し調査法の演習
第5回：面接法の解説
第6回：面接法の演習
第7回：発達検査法の解説
第8回：発達検査法の解説
第9回：発達検査法の演習
第10回：発達検査法の演習
第11回：子ども向けの心理検査法の解説
第12回：子どもむけの心理検査法の演習
第13回：研究計画の構想発表
第14回：研究計画の構想発表
第15回：研究計画の構想発表、まとめ

授業外の学習方法

関心に応じて、DVD教材や図書、あるいは研究論文を紹介するので、各自で十分に時間を取って進めてゆく。

成績評価方法

演習で、授業中の発表の準備と提出レポートにより100パーセント

成績評価基準

授業の到達目標に記載した行動目標を達成しているかどうかによる。分割してポイント制による加算とせず、総合的に評価する。

テキスト、参考図書
授業担当者が準備した資料を配付する。配付資料による解説を行うが、加えて受講生自身が準備した資料によっても演習を進めてゆく。
その他（受講上の注意）
継続的な学習・探究的態度が重要であるから中断しないこと。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (Seminar Ⅰ)			担当教員	篭谷　隆弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2315	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

卒業研究に必要となる関連知識や技術の修得

授業の到達目標

専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例も参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について習得できる。この演習を通して、各自がより深く研究しようとするテーマを見つけることができる。
特に、情報メディアやソフトウェアの活用方法について理解を深められる。さらに基礎的なプログラミング技術を学ぶことで、情報を視覚的にとらえ、論理的な手続によって処理する能力を身に付けられる。

授業の計画

第1回：ゼミに関するガイダンス・研究に関する興味・関心分野の確認
第2回：学習するプログラミング言語の選定
第3回：プログラミング環境の構築
第4回：進捗報告①
第5回：進捗報告②
第6回：進捗報告③
第7回：進捗報告④
第8回：先行研究の調査・文献収集
第9回：関連ソフトウェア・システムの検討
第10回：進捗報告⑤
第11回：進捗報告⑥
第12回：進捗報告⑦
第13回：進捗報告⑧
第14回：成果物のまとめと発表
第15回：次年度に向けての計画設定

授業外の学習方法

授業の大半は、担当教員と相談の上各自が設定する計画に基づき、授業時間外に自主的に進めてきたことの報告と、それに対する助言や議論・次の計画の時間に充てる。
従って、授業時間外も意欲をもち積極的に研究に取り組む必要がある。

成績評価方法

平常点100%(受講態度、研究計画に対する達成状況により総合的に判断する。)

成績評価基準

選択したプログラミング言語を用いて、参考資料に記載された内容のプログラムを入力・動作させられたか。またそれを踏まえ独自の応用的なプログラムを作成できたか。研究に関する進捗報告を定期的に行えたか。

テキスト、参考図書
前半のプログラミングに関するテキスト、後半のソフトウェア・システムに関連するテキストを、それぞれ１冊以上ずつ授業内で選定し購入する必要がある。
その他（受講上の注意）
PCを多用するので、購入することが望ましい。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (Seminar Ⅰ)			担当教員	野田　政弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2315	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例も参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方、レポートの作成方法について学ぶ。

授業の到達目標

文献の内容を理解できる。他者の発表に対して討議に参加できる。レポートが作成できる。

授業の計画

第1回：オリエンテーション(演習の概要や方針に関するガイダンス)
第2回：研究資料の収集方法(文献検索の方法、図書館の利用方法)
第3回：レポート(ゼミ資料)の作成方法
第4回：文献講読
第5回：文献講読
第6回：文献講読
第7回：文献講読
第8回：中間まとめ
第9回：文献講読
第10回：文献講読
第11回：文献講読
第12回：文献講読
第13回：研究課題の設定
第14回：研究課題の設定
第15回：まとめ

授業外の学習方法

自らの関心がある問題について積極的に情報を収集すること。

成績評価方法

発表内容・課題レポート(80%)、平常点(20%)平常点は授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します。

成績評価基準

文献の内容を理解できている。他者の発表に対する討議に参加できている。レポートが論理的に作成できている。

テキスト、参考図書

関連する文献、図書などを必要に応じて紹介する。

その他(受講上の注意)

常に問題意識をもち主体的、継続的に取り組むこと。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (Seminar Ⅰ)			担当教員	木曽　利雄
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2315	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

算数教育学に関するこれまでの学修を基礎に、国際調査(TIMMS・PISA)や国内調査(達成度調査・全国学力学習状況調査等)の公表された結果から問題点を知る。実際の授業を問題解決・算数的活動・コミュニケーション等の視点から考察し、自己の興味関心のある課題を明確にして、研究テーマを見つけさせる。先行研究を手がかりに、自己のテーマへのアプローチの仕方について考えさせたい。

授業の到達目標

専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例を参考にして、研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について学ぶ。この演習を通して、各自がより深く研究しようとするテーマを見つける。
1. 算数教育の目標や基本的な考え方が理解できる。
2. 算数の各領域の内容の概観ができる。
3. 先行研究を読みとる。
4. 実践の事例研究を試みる。

授　業　の　計　画

第１回：算数科教育法が未履修のため、演習形式で算数教育の目標や基本的な考え方について学ぶ。
その際、pisa,学力調査結果の問題点を把握し、授業を見る目を養うとともに各領域の内容の概観をする。①
第２回：算数科教育法が未履修のため、演習形式で算数教育の目標や基本的な考え方について学ぶ。
その際、授業を見る目を養うとともに各領域の内容の概観をする。②
第３回：算数科教育法が未履修のため、演習形式で算数教育の目標や基本的な考え方について学ぶ。
その際、授業を見る目を養うとともに各領域の内容の概観をする。③
第４回：算数科教育法が未履修のため、演習形式で算数教育の目標や基本的な考え方について学ぶ。
その際、授業を見る目を養うとともに各領域の内容の概観をする。④
第５回：算数科教育法が未履修のため、演習形式で算数教育の目標や基本的な考え方について学ぶ。
その際、授業を見る目を養うとともに各領域の内容の概観をする。⑤
第６回：算数科教育法が未履修のため、演習形式で算数教育の目標や基本的な考え方について学ぶ。
その際、授業を見る目を養うとともに各領域の内容の概観をする。⑥
第７回：算数科教育法が未履修のため、演習形式で算数教育の目標や基本的な考え方について学ぶ。
その際、授業を見る目を養うとともに各領域の内容の概観をする。⑦
第８回：算数教育学に関するこれまでの学修を基礎に、国際調査(TIMMS・PISA)や国内調査(達成度調査・全国学力学習状況調査等)の公表された結果の問題点について知り、実際の授業を問題解決・算数的活動・コミュニケーション等の視点から考察したりしながら、自己の興味関心のある課題を明らかにして、自らの研究テーマを見つけさせる。先行研究を手がかりに、自己のテーマへのアプローチの仕方について考える。①
第９回：算数教育学に関するこれまでの学修を基礎に、国際調査(TIMMS・PISA)や国内調査(達成度調査・全国学力学習状況調査等)の結果の問題点を知り、実際の授業を問題解決・算数的活動・コミュニケーション等の視点から考察したりしながら、自己の興味関心のある課題を明らかにして、自らの研究テーマを見つけさせる。先行研究を手がかりに、自己のテーマへのアプローチの仕方について考える。②
第10回：算数教育学に関するこれまでの学修を基礎に、国際調査(TIMMS・PISA)や国内調査(達成度調査・全国学力学習状況調査等)の結果の問題点を知り、実際の授業を問題解決・算数的活動・コミュニケーション等の視点から考察したりしながら、自己の興味関心のある課題を明らかにして、自らの研究テーマを見つけさせる。先行研究を手がかりに、自己のテーマへのアプローチの仕方について考える。③
第12回：算数教育学に関するこれまでの学修を基礎に、国際調査(TIMMS・PISA)や国内調査(達成度調査・全国学力学習状況調査等)の結果の問題点を知り、実際の授業を問題解決・算数的活動・コミュニケーション等の視点から考察したりしながら、自己の興味関心のある課題を明らかにして、自らの研究テーマを見つけさせる。先行研究を手がかりに、自己のテーマへのアプローチの仕方について考える。④
第13回：算数教育学に関するこれまでの学修を基礎に、実際の授業を問題解決・算数的活動・コミュニケーション等の視点から考察したりしながら、自己の興味関心のある課題を明らかにして、自らの研究テーマを見つけさせる。先行研究を手がかりに、自己のテーマへのアプローチの仕方について考える。⑤
第14回：算数教育学に関するこれまでの学修を基礎に、実際の授業を問題解決・算数的活動・コミュニケーション等の視点から考察したりしながら、自己の興味関心のある課題を明らかにして、自らの研究テーマを見つけさせる。先行研究を手がかりに、自己のテーマへのアプローチの仕方について考える。⑥
第15回：算数教育学に関するこれまでの学修を基礎に、実際の授業を問題解決・算数的活動・コミュニケーション等の視点から考察したりしながら、自己の興味関心のある課題を明らかにして、自らの研究テーマを見つけさせる。先行研究を手がかりに、自己のテーマへのアプローチの仕方について考えをまとめる。⑦

授業外の学習方法

受講学生の興味関心に沿ってアドバイスするので紹介された参考図書を熟読すること。

成　績　評　価　方　法

研究レポート(40%)、調査研究(40%)、討論や授業観察の様子等(20%)総合的に評価する。

成　績　評　価　基　準

・算数教育の目標や基本的な考え方が理解できたか。
・研究を進める課題の選び方や課題解決の仕方を理解できたか。
・興味関心をもって深く研究しようとするテーマを見つけることができたか。

テキスト、参考図書

課題に対応して、適宜紹介する。

その他(受講上の注意)

演習をしながら、新たな課題を設定していく。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (Seminar Ⅰ)			担当教員	鈴木　智子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2315	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例も参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について学ぶ。この演習を通して、各自がより深く研究しようとするテーマを見つける。
幼児教育や保育の現場における諸問題や子どもの発達と援助について興味・関心を掘り起こし、問題意識を育む。そして、深く多面的な理解を育むために資料や情報を収集しつつ、問題解決についての考えを展開し構築していく。専門分野における理解を深めるとともに、少人数、双方向型の教育によって発表や集団討議を繰り返すことで、問題意識と関連させた内省が生まれる。それを契機として、幼児教育者を志す自身の在り方や生き方についても問いかけができるように切磋琢磨する。

授業の到達目標

幼児教育・保育にかかわる諸問題について理解を深める。
多様な研究方法について理解を深める。
一つのテーマに基づいて問題意識を持ち、討論する力を養う。
卒業研究につながる各自の研究テーマを明確化する。

授業の計画

第1回：オリエンテーション
第2回：文献検索、先行研究の読み方
第3回：文献講読1
第4回：文献講読2
第5回：文献講読3
第6回：文献講読4
第7回：文献講読5
第8回：文献講読6
第9回：中間のまとめ
第10回：研究発表と討論1
第11回：研究発表と討論2
第12回：研究発表と討論3
第13回：研究発表と討論4
第14回：研究発表と討論5
第15回：まとめ

授業外の学習方法

受講者が関心を持つテーマに関する先行研究の調査と発表の準備を予習とする。
各回の討論内容を次の自分の発表に活かしていくことを復習とする。

成　績　評　価　方　法
発表内容(50%)、討論への参加態度(30%)、平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する)
成　績　評　価　基　準
幼児教育にかかわる諸問題について理解を深めることができているか。 多様な研究方法について理解を深めることができているか。 一つのテーマに基づいて問題意識を持ち、討論する力を養うことができているか。 卒業研究につながる各自の研究テーマを明確化できているか。
テキスト、参考図書
テキストは用いない。受講生のテーマに応じて、適宜参考図書を紹介する。
その他(受講上の注意)
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (Seminar Ⅰ)			担当教員	高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2315	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例も参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について学ぶ。この演習を通して、各自がより深く研究しようとするテーマを見つける。
本演習では、とりわけ文献学的な手法を用いて課題にアプローチしていく。文献の蒐集、読解、さらなる蒐集を行うことにより、文献を批判的に読む技術を身につける。また、文献にもとづいた討論の仕方についても考える機会としたい。

授業の到達目標

相手の意見を聞いたうえで、自らの意見を論理的に述べることができる。
自らが興味のあることを研究課題としてまとめることができる。

授業の計画

第1回：オリエンテーション
第2回：文献の探し方について
第3回：文献講読(担当者による発表と討論)
第4回：文献講読(担当者による発表と討論)
第5回：文献講読(担当者による発表と討論)
第6回：文献講読(担当者による発表と討論)
第7回：文献講読(担当者による発表と討論)
第8回：文献講読(担当者による発表と討論)
第9回：文献講読(担当者による発表と討論)
第10回：文献講読(担当者による発表と討論)
第11回：文献講読(担当者による発表と討論)
第12回：文献講読(担当者による発表と討論)
第13回：文献講読(担当者による発表と討論)
第14回：文献講読(担当者による発表と討論)
第15回：文献講読(担当者による発表と討論)

授業外の学習方法

授業当日までに、その日の講読文献を精読したうえで、よくわからない箇所や疑問に思った箇所、興味をひかれた箇所などをまとめておくことが必要となる。

成績評価方法

討論への参加状況(50%)
発表内容(50%)

成　績　評　価　基　準
相手の意見を聞いたうえで、自らの意見を論理的に述べることができるか。 自らが興味のあることを研究課題としてまとめることができるか。
テキスト、参考図書
相談して決める.。
その他（受講上の注意）
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (Seminar Ⅰ)			担当教員	中野　研也
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2315	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

音楽または音楽に関連することについて、各自が興味を持つ対象を研究・発表し、少人数での討論を行う。

授業の到達目標

1.音楽に関する知識と理解を深める。
2.音楽を通して、豊かな教養を身に付け、教育・保育に活かす。

授業の計画

第1回：オリエンテーション。各自の関心と研究テーマについて選定の視点と今後の要望について述べる。
第2回：それぞれのテーマについての文献及び関連情報を収集する。
第3回：それぞれのテーマについての文献及び関連情報を通読する。
第4回：それぞれのテーマについての発表をする。
第5回：それぞれのテーマについての発表と討議をする。
第6回：ここまでに研究したテーマについて、必要であれば見直しを行う
第7回：それぞれのテーマについて実践している現場の観察1
第8回：それぞれのテーマについて実践している現場の観察2
第9回：現場の観察についての発表と討議1
第10回：現場の観察についての発表と討議2
第11回：ここまでに研究したテーマについて、必要であれば見直しを行う
第12回：それぞれのテーマについての研究発表と意見交換1
第13回：それぞれのテーマについての研究発表と意見交換2
第14回：それぞれのテーマについての研究発表と意見交換3
第15回：次年度への展望のまとめ

授業外の学習方法

文献等の情報収集に努め、要点をまとめておくこと。

成績評価方法

授業に対する姿勢(50%)、およびレポートなどの提出物(50%)を総合して評価する。

成績評価基準

音楽および音楽関連についての知識が深まったか。

テキスト、参考図書

ゼミ生個々の主体的な研究に負うため、共通のテキストは用いない。

その他(受講上の注意)

-

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (Seminar Ⅰ)			担当教員	西出　和彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2315	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的な思考力と想像力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

専門分野に関するこれまでの学修を基礎とし、課題設定、仮説の立て方、研究の方法、結果のまとめ方、発表の方法を学び、問題解決能力の向上を目指す。

授業の到達目標

幼児教育、保育、小学校理科における課題を見出すことができる。理科の観察実験の指導ができる。自然科学領域に関する観察実験を行い、結果を適切にまとめ、考察することができる。

授業の計画

第1回：オリエンテーション
第2回：実験器具、実験室の使い方
第3回：予備実験①
第4回：予備実験②
第5回：予備実験③
第6回：模擬授業Ⅰ①
第7回：模擬授業Ⅰ②
第8回：模擬授業Ⅰ③
第9回：模擬授業Ⅰ④
第10回：模擬授業Ⅰを終えてのまとめ
第11回：模擬授業Ⅱ①
第12回：模擬授業Ⅱ②
第13回：模擬授業Ⅱ③
第14回：模擬授業Ⅱ④
第15回：課題設定、考察、発表に関するまとめ

授業外の学習方法

模擬授業のための準備、ワークシートの作成。観察実験を効果的に指導するための理科器具の管理、教材開発。

成績評価方法

平常点(70%)　提出物(30%)

成績評価基準

(1)幼児教育、保育、小学校理科における課題を見出すことができる。
(2)課題を適切に処理し、考察し、結論を導くことができる。

テキスト、参考図書

必要に応じて提示する。

その他（受講上の注意）
学外での授業研究会や学会等への参加、支援活動等も含まれる。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (Seminar Ⅰ)			担当教員	柿本　真代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2315	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

絵本や児童文学をはじめとした子ども文化の分野を中心に、自分自身が特にどのようなことに興味や関心があるのかを考える。またその分野でどのような先行研究があるのかなどを整理し、卒業研究の方向性を決める。

授業の到達目標

自分の関心を適切な言葉で説明できる。先行研究でどこまで明らかになっているかを整理し、自分の考えと区別して論じることができる。

授業の計画

第1回：オリエンテーション(ゼミの進め方の説明など)
第2回：資料の探し方
第3回：ゼミ報告の仕方
第4回：各自発表、討論
第5回：各自発表、討論
第6回：各自発表、討論
第7回：各自発表、討論
第8回：中間まとめ
第9回：各自発表、討論
第10回：各自発表、討論
第11回：各自発表、討論
第12回：各自発表、討論
第13回：各自発表、討論
第14回：卒業研究にむけて
第15回：卒業研究にむけて

授業外の学習方法

発表者はゼミが円滑に進められるよう配付資料(作品の該当部分や先行研究のコピーなど)を人数分準備してください。また、自分の発表が終わったら討論の内容を踏まえレポートを作成してください。

成績評価方法

発表時の内容40%、レポート40%、討論への参加状況20%で総合的に評価します。

成績評価基準

自分の関心を適切な言葉で説明できているか。先行研究でどこまで明らかになっているかを整理し、自分の考えと区別して論じることができているか。討論の内容を踏まえたレポートが作成できているか。

テキスト、参考図書

授業中に適宜紹介します。

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (Seminar Ⅰ)			担当教員	青井　夕貴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2315	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例も参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について学ぶ。この演習における文献購読、発表、議論を通して、各自がより深く研究しようとするテーマを見つける。

授業の到達目標

自らの関心や問題意識を明確化し、他者へ論理的に伝えることができる。
他者の関心や問題意識にも関心をもち、議論することができる。

授業の計画

第1回：オリエンテーション
第2回：文献の探し方、読み方、まとめ方
第3回：担当者による発表と議論
第4回：担当者による発表と議論
第5回：担当者による発表と議論
第6回：担当者による発表と議論
第7回：担当者による発表と議論
第8回：担当者による発表と議論
第9回：中間まとめ～研究テーマの方向性の共有
第10回：先行研究と研究計画に関する発表と議論
第11回：先行研究と研究計画に関する発表と議論
第12回：先行研究と研究計画に関する発表と議論
第13回：先行研究と研究計画に関する発表と議論
第14回：先行研究と研究計画に関する発表と議論
第15回：先行研究と研究計画に関する発表と議論

授業外の学習方法

予習では、自分が関心をもつテーマに関する文献等を探し、まとめる。自分の考えや疑問点などを整理し、発表の準備をする。復習では、自他の発表と議論で学んだことを次の自分の発表につなげるためにまとめておく。

成績評価方法

発表内容(50%)、議論への参加状況(50%)

成績評価基準

自らの関心や問題意識を明確化し、他者へ論理的に伝えることができるか。
他者の関心や問題意識にも関心をもち、議論することができるか。

テキスト、参考図書
テキストは使用しない。参考図書は、テーマに合わせて適宜紹介する。
その他（受講上の注意）
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

特別支援教育論 (Theory of Special Educational Needs)			担当教員	水田　敏郎
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−BD−2311	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科又は教職に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　-

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の対象の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状(選択)、小学校教諭一種免許状(選択)

授業の内容

障害種別、すなわち知的障害・視覚障害・聴覚障害・肢体不自由などの障害の定義ならびに分類とそれに基づく障害メカニズムや心理特性について概説します。近年、幼稚園や保育所、学校などの教育現場で注目されている軽度発達障害についてもとりあげ、障害特性の理解をはかります。また、発生頻度の高い知的障害の説明に時間をかけ、同障害のアセスメントや発達支援のあり方について考えます。

授業の到達目標

特別支援教育の目的と対象、方法を理解する。各種(代表的)障害の定義や概念について理解する。障害に応じた支援方法の基礎的な考え方を身につける。

授業の計画

第1回：障害の概念
第2回：知的障害の定義と分類
第3回：知的障害のアセスメント
第4回：知的障害の心理機能(1)　知覚と学習
第5回：知的障害の心理機能(2)　言語とコミュニケーション
第6回：知的障害の心理機能(3)　数概念と記憶
第7回：知的障害の心理機能(4)　運動
第8回：知的障害に関連する障害(1)　肢体不自由
第9回：知的障害に関連する障害(2)　自閉症、ダウン症
第10回：知的障害に関連する障害(3)　学習障害、注意欠陥多動障害
第11回：知的障害に関連する障害(4)　重複障害
第12回：知的障害に関連する障害(5)　その他の障害
第13回：障害に対する発達支援の視点(1)　知的障害、ダウン症
第14回：障害に対する発達支援の視点(2)　自閉症、学習障害
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

各回の講義を受講した後、当該部分の配布資料をよく読んで復習してください。また、予習にあたっても次の授業の内容部分をよく見て、疑問点などをもって授業に臨んでください。

成績評価方法

定期試験(70%)　平常点(30%)
(平常点は、授業への参加状況、質問用紙の提出状況などを総合して判断します。)

成績評価基準

特別支援教育の目的と対象、方法を理解することができたか。代表的な障害の定義や概念について理解することができたか。障害に応じた支援方法の基礎的な考え方を理解することができたか。

テキスト、参考図書
テキストは使用しない。授業中にプリントを配布する。 参考図書：『知的障害の心理学－発達支援からの理解』　小池敏英・北島善夫著　北大路書房
その他（受講上の注意）
障害に対する理解を得たり、疑問点を解決しようとするなど、目的意識をもって受講することを期待します。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子どもの発達臨床 (Clinical Development of Children)			担当教員	水田　敏郎
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−BD−2360	2単位	3年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　(幼)教職に関する科目(生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目)¦(小)教科又は教職に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　(幼)幼児理解の理論及び方法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の対象の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状(必修)、小学校教諭一種免許状(選択)、保育士資格(選択)

授業の内容

発達障害全般の基本的理解を目標に、発達障害のなかに含まれる様々な障害について、それぞれの障害メカニズムと心理的特徴、臨床的問題について解説します。さらに、それらをふまえた具体的な支援方法について理解をはかります。

授業の到達目標

発達障害全般の定義や臨床像、障害メカニズムについて理解する。発達障害に対する基本的な支援方法について理解する。

授業の計画

第1回：発達における臨床的問題について
第2回：発達障害の概要(1)
第3回：発達障害の概要(2)
第4回：発達と障害(1)　知的障害の心理・病理特性
第5回：発達と障害(2)　知的障害の支援
第6回：発達と障害(3)　広汎性発達障害の心理・病理特性
第7回：発達と障害(4)　広汎性発達障害への支援
第8回：発達と障害(5)　注意・欠陥他動性障害の心理・病理特性
第9回：発達と障害(6)　注意・欠陥他動性障害への支援
第10回：発達と障害(7)　学習障害の心理・病理特性
第11回：発達と障害(8)　学習障害への支援
第12回：発達と障害(9)　その他の障害①(肢体不自由)
第13回：発達と障害(10)　その他の障害②(感覚障害、病弱)
第14回：臨床的支援の実際
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

ご各回の講義を受講した後、当該部分の配布資料をよく読んで復習してください。また、予習にあたっても次の授業の内容部分をよく見て、疑問点などをもって授業に臨んでください。

成績評価方法

定期試験(70%)　平常点(30%)
(平常点は、授業への参加状況、質問用紙の提出状況などを総合して判断します。)

成績評価基準

発達障害全般の定義や臨床像、障害メカニズムについて理解することができたか。発達障害に対する基本的な支援方法について理解することができたか。

テキスト、参考図書
テキストは使用しない。授業中にプリントを配布する。参考図書は授業中に示します。
その他（受講上の注意）
発達障害に対する理解と支援に関して、問題意識をもって受講してください。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子どもと英語教育 (Child and English Education)			担当教員	内藤　　徹
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AB−2357	2単位	3年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科又は教職に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容及び方法の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。
小学校教諭一種免許状(選択)、幼稚園教諭一種免許状(選択)

授業の内容

第二言語習得理論、基礎英語(含英文法)、クラスマネジメントを踏まえて、オーラルスキル、発音の基礎と指導法、教育課程や指導計画、教材研究と教材作成、ティーチャートーク、授業実演など理論と実践面から子ども英語指導のあり方を研究する。

授業の到達目標

目標としての「子ども達に楽しく英語を学ばせるにはどうすればよいか」をテーマに、主に「子ども英語の基礎力」、「子ども英語指導法」、「指導計画の立て方」などを習得させ、子ども英語の教育者を育成する。従って、様々な英語指導法を理解した上で、いろいろな授業実践を体験することにより、子ども英語教育者として指導ができるようになることを目指す。

授業の計画

第1回：子ども英語教育の目標(1)　国際理解と子ども英語教育
第2回：子ども英語教育の目標(2)　コミュニケーション能力の養成と子ども英語教育
第3回：子ども英語教育の理論(1)　第二言語習得理論からの示唆①
第4回：子ども英語教育の理論(2)　第二言語習得理論からの示唆②
第5回：子ども英語教育の理論(3)　発達段階と子ども英語教育
第6回：子ども英語教育の理論(4)　子ども英語教育における動機付け
第7回：子ども英語教育の理論(5)　シラバスデザイン
第8回：子ども英語教育の指導法(1)　研究開発校から学ぶもの①
第9回：子ども英語教育の指導法(2)　研究開発校から学ぶもの②
第10回：子ども英語教育の指導法(3)　指導の実際①
第11回：子ども英語教育の指導法(4)　指導の実際②
第12回：子ども英語教育の指導法(5)　指導の実際③
第13回：子ども英語教育のための教材作成と指導実践(1)　クラスマネジメント
第14回：子ども英語教育のための教材作成と指導実践(2)　自立した学習者
第15回：子ども英語教育のまとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習として、教科書や参考図書の各回に関連する頁を読み、あらかじめ疑問点等を考えておくこと。また復習としては授業時の板書やプリントに基づいて各自のノートに授業内容をまとめておくこと。

成績評価方法

定期試験(50%)プレゼンテーション(30%)平常点(20%)で総合的に評価する。
(平常点は、授業への参加状況・受講態度、レポート等の提出状況)

成　績　評　価　基　準
子ども英語の特徴を理解したうえで、教材を作成しその指導ができるか。
テキスト、参考図書
（1）文部科学省　『小学校英語活動実践の手引き』　開隆堂出版　2006年(改訂版) （2）内藤　徹　『小学校外国語(英語)活動－理論から実践へ－』　自作教材冊子　2015年(改訂版) その他
その他(受講上の注意)
プレゼンテーションではパソコン(主にパワーポイント)を用いるので、使用法について習熟しておくこと。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

絵本・児童文学論 (Theory of Picture Books and Juvenile Literature)			担当教員	柿本　真代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AC−2308	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科又は教職に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□」キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(選択)、幼稚園教諭一種免許状(選択)、保育士資格(選択)

授業の内容

実際の資料や作品を読みながら戦前からの子どもの本の歴史を辿る。絵本の読み方・制作方法を説明する。

授業の到達目標

日本における子どもの本の歴史を理解した上で、絵本というメディアの特質を説明することができるようになる。また、自分で絵本を作ることを通して、絵本の文章だけでなく絵を含めて作品を鑑賞できるようになる。

授業の計画

第1回：オリエンテーション(授業の進め方などについて)
第2回：子どもの本の歩み①
第3回：子どもの本の歩み②
第4回：子どもの本の歩み③
第5回：『こどものとも』と戦後の絵本①
第6回：『こどものとも』と戦後の絵本②
第7回：『こどものとも』と戦後の絵本③
第8回：子どもの文化と子ども観
第9回：絵本を読む①
第10回：絵本を読む②
第11回：絵本を読む③
第12回：絵本を作る①
第13回：絵本を作る②
第14回：絵本を作る③
第15回：まとめ

授業外の学習方法

授業中紹介する絵本を図書館等で自分でも読んでみてください。詳しくはオリエンテーションで説明します。

成績評価方法

学期末のレポート30%、作品の鑑賞30%、作品の制作30%、受講態度等10%を総合して評価します。

成績評価基準

日本の子どもの本の歴史を簡潔に説明できるか。絵本の特質を説明できるか。また自分で絵本を作ることを通して、絵本の文章だけでなく絵を含めて作品を鑑賞できるか。

テキスト、参考図書

授業中に適宜紹介していきます。

その他(受講上の注意)

今年度は絵本を中心に扱います。形式は講義ですが、授業中にスピーチや制作をしてもらいます。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

自然体験 (Experiences in Nature)			担当教員	依田　秀任、金坂尚人
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−DG−2316	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

実践活動を通した幅広い知識・技能

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

児童厚生一級指導員(必修)

授業の内容

子どもの自然体験は児童健全育成の観点から大変重要な方法です。この授業では、自然体験や野外での活動の知識と具体的な指導技術を身につけていくこととします。

授業の到達目標

自然体験による子どもの健全育成の意義と効果について、文章または口頭にて簡潔に説明できるようになること。

授業の計画

第1回：オリエンテーション(授業の目標、予定、要旨、内容、方法の説明)
第2回：子どもの健全育成と自然体験の意義
第3回：子どもの育成環境と自立
第4回：自然体験活動での安全管理と指導上の配慮
第5回：自然体験プログラムの実際①
第6回：自然体験プログラムの実際②
第7回：自然体験活動の企画と運営方法
第8回：自然体験プログラムの実際③
第9回：自然体験プログラムの実際④
第10回：身近な自然と感受性
第11回：自然体験プログラムの実際⑤
第12回：自然体験プログラムの実際⑥
第13回：プログラムのふりかえりと指導のポイント
第14回：指導者の資質と姿勢
第15回：まとめ

授業外の学習方法

配布する講義資料を通読して、わからない用語や不明な点があれば事前に調べるなどして授業に臨んでください。また、講義中にわからない用語や不明な点があれば、授業終了後に質問するとともに、自ら関連する文献などにより理解を深めるようにしてください。

成績評価方法

平常点(受講態度および取組姿勢)60%、レポート(授業中の課題含む)40%により総合的に評価します。
出席を重視し、欠席・遅刻・早退は減点します。

成績評価基準

子どもの自然体験活動についてその意義や効果について簡潔に説明できるとともに、具体的なプログラムを企画できるようになること。

テキスト、参考図書
必要に応じて資料を配布するため、テキストは特に使用しません。参考図書は必要に応じて授業の中で紹介します。
その他（受講上の注意）
キャンパス内を中心にフィールドワークをおこなうため、動きやすい服装で受講すること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

栄養総合演習Ⅰ (Integrated Seminar Ⅰ)			担当教員	佐藤　裕保、三浦　　努、樽井　雅彦、 山本　浩範
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2259	2単位	2年後期・ 3年・4年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)

授業の内容

専門分野を横断して、栄養評価や管理が行える総合的な能力を養う。
オムニバスにて臨地実習の事前事後指導を行う。
事前指導として、臨地実習の意義についての指導および、実習に際しての具体的準備を行う。
実習先施設の特徴の把握、実習テーマ設定等を実習グループにて行う。
事後指導として、実習の成果および実習テーマについてまとめ、プレゼンテーションを行う。

授業の到達目標

実習の成果および実習テーマについて確認し、栄養士・管理栄養士業務について理解する。

授業の計画

第1回　:臨地実習オリエンテーションI:実習の目的・目標・学ぶ姿勢について
第2回　:臨地実習オリエンテーションⅡ:社会人としてのマナーについて
第3回　:事前指導(給食運営実習):実習施設の特徴について
第4回　:事前指導(給食運営実習):実習テーマ設定グループディスカッション
第5回　:事前指導(給食運営実習):実習ノートについて・提出書類等の確認
第6回　:事後指導(給食運営実習):実習報告I
第7回　:事後指導(給食運営実習):実習報告Ⅱ
第8回a:事前指導(公衆栄養臨地実習):実習施設の特徴について
第9回a:事前指導(公衆栄養臨地実習):実習テーマ設定グループディスカッション
第10回a:事前指導(公衆栄養臨地実習):実習ノートについて・提出書類等の確認
第11回a:事後指導(公衆栄養臨地実習):実習報告I
第12回a:事後指導(公衆栄養臨地実習):実習報告Ⅱ
第8回b:事前指導(給食経営管理臨地実習):実習施設の特徴について
第9回b:事前指導(給食経営管理臨地実習):実習テーマ設定グループディスカッション
第10回b:事前指導(給食経営管理臨地実習):実習ノートについて・提出書類等の確認
第11回b:事後指導(給食経営管理臨地実習):実習報告I
第12回b:事後指導(給食経営管理臨地実習):実習報告Ⅱ
第13回　:実習報告会:全体会
　　(給食運営実習・公衆栄養臨地実習・給食経営管理臨地実習の発表、臨床栄養臨地実習の聴講)
第14回　:事前指導(臨床栄養臨地実習):実習施設の特徴について
第15回　:事前指導(臨床栄養臨地実習):臨床栄養臨地実習の内容について
第16回　:事前指導(臨床栄養臨地実習):実習テーマ設定グループディスカッション
第17回　:事前指導(臨床栄養臨地実習):実習ノートについて・提出書類等の確認
第18回　:事後指導(臨床栄養臨地実習):実習報告I
第19回　:事後指導(臨床栄養臨地実習):実習報告Ⅱ
第20回　:実習報告会:全体会
　　(給食運営実習・公衆栄養臨地実習・給食経営管理臨地実習の聴講、臨床栄養臨地実習の発表)

授業外の学習方法
それぞれの臨地実習の関連科目の復習を充分にすること。 臨地実習施設について、ホームページ等を利用して、施設の特徴を把握すること。
成績評価方法
提出物(60%)平常点(40%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します)
成績評価基準
実習の成果および実習テーマについて確認し、栄養士・管理栄養士業務について理解できたか。
テキスト、参考図書
それぞれの臨地実習の関連科目にて使用した教科書および参考図書。 必要に応じてプリント配布。
その他(受講上の注意)
理由なく事前指導を欠席した場合、臨地実習に出られない場合がある。 ８−12回については、選択した臨地実習に出席する。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

栄養総合演習Ⅱ (Integrated Seminar Ⅱ)			担当教員	佐藤　裕保、三浦　　努、樽井　雅彦、 山本　浩範、石黒真理子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2460	2単位	4年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

専門的な分野で学んだ理論と方法論を総合的に応用し、各領域で栄養評価や管理が行える能力を養う。
グループワークやグループディスカッション等を取り入れ、臨地実習で経験した内容や症例、カンファレンスなどの内容の理解を深める。
オムニバス方式にて行う。

授業の到達目標

臨地実習で確認できた知識や技術の不足部分の気付きや問題点について再認識し、理解を深める。

授業の計画

第1回：治療食献立作成に必要な知識「食品構成・荷重平均栄養成分値」(佐藤裕保)
第2回：治療食献立作成に必要な知識「コーディング・使用量・調味料」(佐藤裕保)
第3回：治療食献立作成に必要な食品学「食品選択について」(佐藤裕保)
第4回：公衆栄養活動に必要な知識「県民栄養調査結果の概要」(三浦努)
第5回：公衆栄養活動に必要な知識「福井県民の健康状態と課題」(三浦努)
第6回：公衆栄養活動に必要な知識「高齢者における健康問題」(三浦努)
第7回：臨床栄養管理に必要な知識「病態と栄養代謝」(山本浩範)
第8回：臨床栄養管理に必要な知識と技術「栄養アセスメント」(山本浩範)
第9回：臨床栄養管理に必要な知識と技術「栄養管理法の選択」(山本浩範)
第10回：給食における調理工程・提供管理システムについて(樽井雅彦)
第11回：食品業界について「カップめんの誕生秘話」(樽井雅彦)
第12回：介護保険について「基礎編」(樽井雅彦)
第13回：栄養量設定に必要な知識「食事摂取基準の理解」(石黒真理子)
第14回：栄養量設定に必要な知識「食事摂取基準の活用」(石黒真理子)
第15回：栄養量設定に必要な知識「食事摂取基準の展開」(石黒真理子)

授業外の学習方法

それぞれの臨地実習の関連科目の復習を充分にすること。

成績評価方法

提出物(60%)平常点(40%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します)

成績評価基準

臨地実習で確認できた知識や技術の不足部分の気付きや問題点について再認識し、理解を深めたか。

テキスト、参考図書

必要に応じてプリント配布。
それぞれの臨地実習の関連科目にて使用した教科書および参考図書。

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床栄養臨地実習 (Field Practice in Clinical Nutrition)			担当教員	佐藤　裕保、山本　浩範
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2362	2 単位	3年後期･4年前期	実習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)

授業の内容

実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。
傷病者を対象とした臨床栄養管理について病院や老人保健施設において管理栄養士の業務を臨地で実習する。
外来・入院患者や入所者に対する栄養評価・判定、栄養食事指導、診療科やベッドサイド訪問、栄養ケアプランの作成などを実習し、NST(栄養サポートチーム)における管理栄養士の役割など、医師・看護師など医療専門職との連携の実際を学び、医療スタッフの一員として必要な技術・能力を修得する。

授業の到達目標

医療領域における管理栄養士業務の実際を理解する。

授業の計画

実習施設事前訪問・実習挨拶および指導者との打ち合わせ
実習施設ごとの実習計画による実習
実習施設についての理解(組織・運営)
医療施設・介護老人保健施設における管理栄養士業務の理解
栄養評価・判定
栄養食事指導
診療科やベッドサイド訪問により栄養アセスメント、栄養介入の実際を学ぶ
栄養管理計画(栄養ケアプラン)の作成
医療専門職との連携・共働の実際について学ぶ　など

授業外の学習方法

これまでに学習した知識を総動員すること。
これまでに使用した教科書および参考図書を、最大限に活用すること。

成績評価方法

準備状況(20%)実習状況(20%)実習ノート等の提出物(20%)実習施設指導担当者による評価(40%)

成績評価基準

医療領域における管理栄養士業務の実際を理解できたか。

テキスト、参考図書

臨床栄養学および臨床栄養学実習にて使用した教科書および参考図書、配布プリント。

その他(受講上の注意)

社会の一員としての自覚を持ち、守秘義務、職業倫理の遵守に努めること。
事故発生時は、早急に実習施設および大学に連絡すること。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅱ (Seminar in Health and Nutrition Ⅱ)			担当教員	佐藤　裕保、野村　卓正、三浦　　努、 樽井　雅彦、鳴瀬みどり、佐藤　真実、 池田　涼子、浦本　裕美、加藤　卓次、 山本　浩範、坂本　達昭、尼子　克己
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2467	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

各教員がゼミ形式の小グループに担当して卒業研究について問題提起・検索・討論・発表などで理解を深め卒業研究としての集大成を図る上にも学習効果を高める演習授業である。

授業の到達目標

ゼミ形式の小グループに分かれ、指導教員が担当する卒業研究について問題提起・検索・討論・発表などで理解を深め集大成を図る上に学習効果を高めることをめざす。

授業の計画

年度当初に指導教員と協議の上、具体的な計画を各週回(授業毎)ごとにたてる。
第1回:ガイダンス
第2回:研究方法に関する説明
第3回:文献検索の仕方、論文の読み方
第4回:研究発表と討議1
第5回:研究発表と討議2
第6回:研究発表と討議3
第7回:研究発表と討議4
第8回:研究発表と討議5
第9回:研究発表と討議6
第10回:研究発表と討議7
第11回:研究発表と討議8
第12回:研究発表と討議9
第13回:研究発表と討議10
第14回:研究発表と討議11
第15回:まとめ

授業外の学習方法

課題及び自主的な学習の取り組みなどを参考文献、学会誌などから見つけること。

成績評価方法

授業参加の状況、課題及び自主的学習への取り組みなどを総合して評価する。

成績評価基準

授業参加の状況、課題及び自主的学習への取り組みができたか。

テキスト、参考図書
必要に応じて指示する。
その他（受講上の注意）
ゼミ初回に、ガイダンスを行う。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅲ (Seminar in Health and Nutrition Ⅲ)			担当教員	佐藤　裕保、野村　卓正、三浦　　努、 樽井　雅彦、鳴瀬みどり、佐藤　真実、 池田　涼子、浦本　裕美、加藤　卓次、 山本　浩範、坂本　達昭、尼子　克己
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2468	2単位	4年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

各科目の総復習をする。
オムニバスにより行い、理解不十分な点について補完する。

授業の到達目標

管理栄養士に必要な、基本的知識を確認する。

授業の計画

第1回：病理学・解剖生理学(加藤卓次)
第2回：解剖生理学(鳴_碧)
第3回：基礎栄養学(池田涼子)
第4回：生化学(尼子克己)
第5回：食品衛生学・微生物学(野村卓正)
第6回：食品学(浦本裕美)
第7回：調理学(佐藤真実)
第8回：応用栄養学(○○○○)
第9回：臨床栄養学(山本浩範)
第10回：臨床栄養学(佐藤裕保)
第11回：栄養教育論(坂本達昭)
第12回：管理栄養士の概要(三浦努)
第13回：管理栄養栄としての心構え(三浦努)
第14回：公衆栄養学(三浦努)
第15回：給食経営管理論(樽井雅彦)

授業外の学習方法

当該科目の復習をして授業に臨むこと。

成績評価方法

提出物(60%)平常点(40%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します)

成績評価基準

管理栄養士に必要な、基本的知識を確認できたか。

テキスト、参考図書

当該科目で使用した教科書および、参考図書。
必要に応じてプリント配布。

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	佐藤　裕保、野村　卓正、三浦　　努、 樽井　雅彦、鳴瀬みどり、佐藤　真実、 池田　涼子、浦本　裕美、加藤　卓次、 山本　浩範、坂本　達昭、尼子　克己
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2469	4単位	4年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

基本的な授業の内容は以下のとおりである。
・栄養管理に関わる研究のテーマの明確化を深める。
・具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件の整備を確立する。
・実験的または疫学的研究の遂行による論文の完成にまとめる。

授業の到達目標

医学・栄養学・食品学に関する知識・技能を基礎にして、栄養管理に関する専門的な最新知見を収集・分析し、それを更に発展・深化させるための実験的及び疫学的な研究を行ない、得られた成果を論文としてまとめ完成させ履修科目に対する集大成としてまとめる。

授業の計画

各担当者の基本的な授業計画は以下のとおりである。
第1回：栄養管理に関わる研究のテーマの明確化①
第2回：栄養管理に関わる研究のテーマの明確化②
第3回：栄養管理に関わる研究のテーマの明確化③
第4回：栄養管理に関わる研究のテーマの明確化④
第5回：栄養管理に関わる研究のテーマの明確化⑤
第6回：具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件の整備①
第7回：具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件の整備②
第8回：具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件の整備③
第9回：具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件の整備④
第10回：具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件の整備⑤
第11回：実験的または疫学的研究の遂行による論文の完成①
第12回：実験的または疫学的研究の遂行による論文の完成②
第13回：実験的または疫学的研究の遂行による論文の完成③
第14回：実験的または疫学的研究の遂行による論文の完成④
第15回：実験的または疫学的研究の遂行による論文の完成⑤
年度当初に指導教員と協議の上、具体的な研究計画を立てる。

授業外の学習方法

各週回(授業毎)ごとに授業計画に沿って、随時進捗状況を報告し、指導を受けること。

成績評価方法

授業参加の状況、課題および自主的学習への取り組みなどを総合して評価する。
そのために、集大成として研究論文をまとめおよび研究発表会で発表して成績評価を得なければならない。

成　績　評　価　基　準
授業参加の状況、課題および自主的学習への取り組みなどができたか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
参考書・研究文献など必要に応じて指示する。
その他（受講上の注意）
実験・実習に関しては、特にカリキュラム表以外に実験室および実習室などを使用することとなることから、厳重に実験・実習室利用マニュアルに従うこと。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育相談(健康栄養学科) (Educational Counseling)			担当教員	佐々木　雅代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2488	2単位	4年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科教職科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(生徒指導及び教育相談に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状(必修)

授業の内容

いじめ、不登校、非行への対応および発達障害を抱える児童生徒への支援について学ぶ。現場で活用されている技法について体験的に学ぶ。グループディスカッションを通して、視野を広げ、自分で考える経験を積む。

授業の到達目標

いじめ、不登校、非行への対応および発達障害について基礎知識を習得。支援プランをたてる。

授業の計画

第1回:教育相談が生きる場
第2回:教育相談に生かす心理学的理解:見立て
第3回:教育相談に生かす心理学的理解:介入
第4回:不登校の理解と対応1
第5回:不登校の理解と対応2
第6回:いじめ・非行の理解と対応1
第7回:特別支援教育(発達障害の理解と対応)1
第8回:予防開発的アプローチSST 1
第9回:予防開発的アプローチSST 2
第10回:予防開発的アプローチ:アサーティブトレーニング1
第11回:予防開発的アプローチ:アサーティブトレーニング2
第12回:事件・事故・災害対応
第13回:学齢期の精神科疾患について
第14回:リラクゼーション
第15回:ふりかえり

授業外の学習方法

各回の講義やワーク体験で気が付いたことを、各自ノートに自分の言葉で書き残してください。配布した資料や予習復習はその都度指示します。

成績評価方法

小レポート(50%)　平常点(50%)
平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成績評価基準

いじめ、不登校、発達障害について基礎知識を習得している。支援プランを提案できる。

テキスト、参考図書

テキストは指定しません。各回にレジュメを用意します。
参考図書「教師のための初等教育相談」西本絹子著　萌文書林

その他（受講上の注意）
予習復習については、授業時に指示します。授業で行う体験学習に積極的に取り組んでください。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教職実践演習(栄養教諭) (Applied Systems in School Education(Nutrition Teachers))			担当教員	坂本　達昭、奥谷　　崇、塚田　明美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2489	2単位	4年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　教職に関する専門科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教職実践演習)

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状(必修)

授業の内容

これまで学修した教職課程科目や教職に関する経験を振り返るとともに、ロールプレイ、事例研究、グループ討議等により、栄養教諭として必要な能力の向上をはかる。

授業の到達目標

教職課程におけるこれまでの学習成果を振返り、栄養教諭に必要な知識や資質を確認し、栄養教諭としての総合的な資質能力を高める。

授業の計画

奥谷　崇　担当分(5回)
第1回:教職の意義、教職員の職務と役割、児童・生徒に対する使命と責任の重さについて事例研究・ロールプレーイング・グループ討論
第2回:児童・生徒理解と学級経営について事例研究・グループ討論
第3回:教科等や生徒指導の方法についての事例研究・グループ討論
第4回:学校現場の調査研究とグループ討論
第5回:社会性や対人関係能力についての確認とまとめ
坂本達昭　担当分(5回)
第6回:児童生徒の食生活改善についての事例研究・グループ討論
第7回:食に関する全体指導計画、教科内における指導計画に関する演習
第8回:食を通じて知識を引き出す指導方法についての講義および討論
第9回:食物アレルギーへの対応等についての事例研究及びロールプレーイング
第10回:教員としての表現力や授業力、生徒の反応を生かした授業運営についてのグループ討論
塚田明美　担当分(5回)
第11回:栄養教諭としての学修理解についての自己評価及びグループ討論
第12回:栄養教諭としての使命と役割についての講義及びグループ討論
第13回:栄養教諭として求められる社会性、対人関係能力(組織の一員としての自覚や地域や保護者との連携のとり方)等についての講義及びグループ討論
第14回:自らの課題を洗い出し、実践的指導力を培うための事例研究とグループ討論
第15回:現職の栄養教諭による授業と意見交換

授業外の学習方法

これまで学修した教職課程科目について復習しておくこと。

成績評価方法

グループ討論の様子や事例研究(50%)、レポートまたは授業における作成物(30%)、平常点(20%)
平常点は、授業への参加状況、受講態度等から総合的に評価する。

成　績　評　価　基　準
栄養教諭として働くうえで必要となる知識や技能、資質等が身についているか。
テキスト、参考図書
参考図書は適宜指示する。
その他（受講上の注意）
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

事前・事後指導(栄養教諭) (Directed Teaching Practicum(Nutrition Teachers))			担当教員	坂本　達昭、塚田　明美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2490	1単位	4年	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科教職科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(栄養教育実習)

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状(必修)

授業の内容

栄養教育実習に臨むにあたって必要な心構え、実践的な教職能力の基礎を学修する。
第1～15回は前期、第16～23回は後期に行う。

授業の到達目標

「事前指導」では栄養教育実習の意義や目的を理解し、実習生としての態度や心構えを身につける。栄養教育実習に向け、課題意識をもって積極的に取り組むことができ、模擬授業をすることができる。
「事後指導」は実習について報告し、実習での体験とその反省をもとに栄養教諭に求められる資質・能力を高める。

授業の計画

【前期】
第1回：オリエンテーション、栄養教育実習の意義・目的(坂本)
第2回：学校と家庭で育む子どもの生活習慣(坂本)
第3回：給食の時間における指導の計画(坂本)
第4回：給食の時間における指導の実演(坂本)
第5回：魅力的な教材づくりの工夫(1)(坂本)
第6回：栄養教諭による食育授業の実践例(1)(外部講師)(坂本)
第7回：栄養教諭による食育授業の実践例(2)(外部講師)(坂本)
第8回：魅力的な教材づくりの工夫(2)　指導案に基づく教材づくり　(塚田)
第9回：学習指導案の作成 演習　(塚田)
第10回：模擬授業(1)(塚田)
第11回：模擬授業(2)(塚田)
第12回：模擬授業(3)(塚田)
第13回：模擬授業(4)(塚田)
第14回：実習校における課題研究(坂本)
第15回：実習校における課題研究(坂本)
【後期】
第16回：実習状況報告書の作成・実習アンケート(坂本)
第17回：学習体験発表・意見交換・評価(1)(坂本)
第18回：学習体験発表・意見交換・評価(2)(坂本)
第19回：学習体験発表・意見交換・評価(3)(坂本)
第20回：学習体験発表・意見交換・評価(4)(坂本)
第21回：学習体験発表・意見交換・評価(5)(坂本)
第22回：学習体験発表・意見交換・評価(6)(坂本)
第23回：まとめと今後の学習方針について(坂本)

授業外の学習方法

実習校から与えられた課題に真摯に取組むこと。必要に応じて、教材、資料等を紹介する。

成績評価方法

模擬授業および発表等(50%)、レポート等の提出物(30%)、平常点(20%)
平常点は、授業への参加状況、受講態度等から総合的に評価する。

成 績 評 価 基 準

栄養教育実習の意義や目的を理解し、実習生としての態度や心構えを身につけ、栄養教育実習に向けて課題意識をもって積極的に取り組むことができ、模擬授業をすることができるか。実習の体験とその反省をもとに栄養教諭に求められる資質・能力を身につけているか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

適宜資料を提示する。

そ の 他 (受 講 上 の 注 意)

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育実習(栄養教諭) (Teaching Practicum(Nutrition Teachers))			担当教員	坂本　達昭、塚田　明美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2491	1単位	4年前期	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科教職科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　栄養教育実習

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状(必修)

授業の内容

小学校または中学校において1週間の教育実習を行う。

授業の到達目標

教育現場において栄養教諭の職務を経験し、授業方法、指導案作成能力、児童生徒への声掛け、接し方など栄養教諭として身につけるべき基本的能力を習得する。

授業の計画

(1)　実習校でのオリエンテーション
　実習校の運営機構、教育方針、指導計画、事務分掌、教育環境等の理解
(2)　授業参観
　授業参観を通して、児童及び生徒個々の心身及び知的発達状況の段階、学級機能の特性を観察し、個人指導及び集団指導の実態についての把握
(3)　授業実習
　食に関する指導にかかわる授業計画・指導案の作成、指導にかかわる知識・技術・資料の準備及び事前研究。授業実習の実施状況の検討・評価。
(4)　学校経営への参加実習(参観、補助)
　給食放送指導、配膳指導、後片付け指導への参加。配属学級の授業、放課後の研究指導、クラブ活動への参加、学校行事への参加等

授業外の学習方法

実習校から与えられた課題に真摯に取組むこと。

成績評価方法

実習校からの評価(80%)、教員の巡回指導の記録・実習ノートの内容等(20%)

成績評価基準

授業方法、指導案作成能力、児童生徒への声掛け、接し方など栄養教諭として身につけるべき基本的能力を習得できているか。

テキスト、参考図書

必要に応じて、教材・資料等を紹介する。

その他(受講上の注意)

教育実習には、将来、教職に就きたいという強い意志を持ち、事前準備を計画的に行い、体調を整えて臨むこと。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教職実践演習(幼・小) (Seminar on the Teaching Profession(Preschool & Elementary))			担当教員	高野　秀晴、鈴木　智子、木曽　利雄
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2452	2単位	4年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教職実践演習)

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)、幼稚園教諭一種免許状(必修)

授業の内容

本授業は、教員になるうえで自己にとって何が課題であるかを自覚し、不足している知識や技能などを補い、その定着と実践的指導力の育成を図ることにより、教職生活を円滑にスタートできることを目的とする。授業方法としては、ロールプレーイングやグループ討論、事例研究、模擬授業などを取り入れ、学びの集大成とする。
本授業の受講者には、これまでの教職課程の履修履歴を把握するための「履修カルテ」を作成し、これを踏まえたうえでの指導を20～25名程度のクラス編成にて実施するものとする。
なお、本授業は、教科に関する科目及び教職に関する科目担当者3人がオムニバス形式で行うこととし、教師の意義と使命・幼稚園教諭・小学校教諭の各視点から、自己にとっての課題を考えさせ、その課題解決を通して、実践的指導力を育てることを目指す。
また、必要に応じ個別に補完的な指導を行うこととするが、この場合、補完する領域・内容等によっては、授業担当者以外の教科に関する科目の科目担当教員又は教職に関する科目の科目担当教員の参画を得て指導を行う。

授業の到達目標

教職の意義や使命、役割について説明することができる。
教員に求められる資質能力について説明することができる。
教員になるうえで自己にとって何が課題であるのかを明確化することができる。
幼稚園教諭としての実践的指導力を培うための方策を見通すことができる。
小学校教諭としての実践的指導力を培うための方策を見通すことができる。

授業の計画

高野秀晴担当分（５回）
第１回：教員の意義と使命、役割について（事例研究）
第２回：地域・家庭と連携するための方策を考える（グループ討論）
第３回：教員に求められる資質能力を明確化する（グループ討論）
第４回：教員に求められる社会性や対人関係能力を培うにはどうすればよいか（ロールプレーイング）
第５回：今後の課題を明確化する（グループ討論とレポート）
鈴木智子担当分（５回）
第６回：幼児教育者に求められる資質能力を明確化する（グループ討論）
第７回：実習体験を客観化し、実践的指導力を培う方策を考える（ロールプレーイングとグループ討論）
第８回：自らの課題を洗い出し、幼児理解を深める方策を考える（事例研究とグループ討論）
第９回：自らの課題を洗い出し、実践的指導力を培う方策を考える（模擬授業とグループ討論）
第10回：これまでの学びを振り返り、今後の課題を明確化する（グループ討論とレポート）
木曽利雄担当分（５回）
第11回：各自が課題を洗い出し、全員でいくつかの課題に集約する。その解決のための学習計画を立てる。
（話し合いと協働作業）
第12回：学習計画にしたがって課題解決のための実践的指導力の習得にあたる。
（例：授業の構成の仕方　グループ討論）
第13回：学習計画にしたがって課題解決のための実践的指導力の習得にあたる。
（例：発問と応答について　ロールプレーイング）
第14回：学習計画にしたがって課題解決のための実践的指導力の習得にあたる。
（例：子ども理解について　事例研究）
第15回：学習計画にしたがって課題解決のための実践的指導力の習得にあたる。これまでの学びを振り返る。
（例：学級経営について　グループ討論とレポート）

授業外の学習方法

本授業は、これまでの学びの集大成であるため、これまでの学習内容を振り返り、整理する作業が必要となる。また、この作業を通じて見出された今後の課題に応じて、各自に補完的な学習が求められる。

成績評価方法

レポート（25%）
事例研究の内容（25%）
グループ討論やロールプレーイングの参加状況（25%）
模擬授業の内容（25%）

成績評価基準

教職の意義や使命、役割について説明することができるか。
教員に求められる資質能力について説明することができるか。
教員になるうえで自己にとって何が課題であるのかを明確化できているか。
幼稚園教諭としての実践的指導力を培うための方策を見通すことができているか。
小学校教諭としての実践的指導力を培うための方策を見通すことができているか。

テキスト、参考図書

参考図書は授業時に紹介する。

その他（受講上の注意）

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

事前・事後指導(小学校)(4年) (Guidance for Field Practice(Elementary))			担当教員	木曽　利雄
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CE−2361	1単位	3年後期、4年	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育実習)

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

学外実習による実践的能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)

授業の内容

事前指導として、教育実習の意義についての指導及び実地実習に際しての具体的指導を大学及び実習校で行う。教育実践場面に関わる学習として学校参観・授業参観を行う。事後指導として、授業を中心とした教育実習の成果・課題を踏まえ、教職に必要な事項について実践的な指導を行う。

授業の到達目標

・事前学習を通して教育実習の意義を理解し、実地実習に際しての予備的な学習を行う。学校参観・授業参観を通して、学校教育について理解を深め、実践的知識を身に付ける。
・事後指導を通して各自の実習の成果・課題を確認し、それを踏まえ教職についての理解を深める。

授業の計画

[事前指導]
第1回:小学校教育実習の意義、目的、内容
第2回:教育実習の準備と心得
第3回:授業参観の目的とその観点,
第4回:授業参観(協力校にて)
第5回:授業参観(協力校にて)同日に2コマ分で実施
第6回:授業参観しての意見交換
第7回:授業参観(協力校にて)
第8回:教材研究と学習指導案の作成方法(一般)
第9回:教材研究と学習指導案の作成方法(算数)
第10回:模擬授業
第11回:特別講義「教育実習の心得」(小学校教諭を招いての特別講義)
第12回:模擬授業
第13回:実習日記の記入方法及び教育実習の具体的留意点
第14回:教育実習直前指導
[事後指導]
第15回:教育実習の振り返り①　(実習ノートのまとめをする。各自が実習の成果、課題を明確にする。)
第16回:教育実習の振り返り②　(実習ノートのまとめをする。各自が実習の成果、課題を明確にする。)
第17回:教育実習反省会①　(課題別反省会を実施する。)
第18回:教育実習反省会②　(課題別反省会を実施する。)
第19回:教育実習反省会③　(課題別反省会を実施する。)
第20回:教育実習報告書作成①　(各自の実習の成果、課題を教育実習報告書にまとめる。)
第21回:教育実習報告書作成②　(各自の実習の成果、課題を教育実習報告書にまとめる。)
第22回:教育実習の総括①
　　(全体反省会、評価表をもとに全般的講評、報告書を発表・討議し、卒業までの課題を明確にする。)
第23回:教育実習の総括②
　　(全体反省会、評価表をもとに全般的講評、報告書を発表・討議し、卒業までの課題を明確にする。)

授業外の学習方法
予習として、教育実習を意義深いものとするために、教育実習の手引きや研究協力校の学校要覧に記載されている事項、特に教育方針や教育重点事項について理解しておくこと。日頃から身近な子どもの言動を意識的に観察し、児童理解の一助とすること。また、教材研究は十分に行い、授業参観や教育実習の質を高めるよう努力すること。復習としては、受講後その都度振り返り細かい気づきや子供の言動の意外性等をノートし、反省や感想を整理しまとめておくこと。
成績評価方法
レポート(60%)、各活動への取り組み状況(40%)で総合的に評価する。
成績評価基準
・事前指導で教育実習の意義を理解し、実践的知識を習得できているか。 ・事後指導で教育実習の成果や課題を踏まえ、教職についての理解が深まったか。
テキスト、参考図書
小学校教育実習の手引き 小学校教科書(国語、社会、算数、理科)
その他(受講上の注意)
教育実習校は、実習生が実習に必要な学習内容を十分に習得し、教育について深く理解していることを前提として迎えてくれる。そして、実習生には教職に就きたいという強い意志を持って臨むことが求められる。 教育実習に全力で臨むためにも、事前指導で十分準備を、事後指導で実習の省察をすることが重要である。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育実習(小学校) (Teaching Practice(Elementary))			担当教員	木曽　利雄
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CE−2400	4単位	4年前期	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育実習)

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

学外実習による実践的能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)

授業の内容

1、観察実習
　学校教育の全体、特に学習指導実践の具体的あり方を観察し、教育実践者としての力量を形成していくための準備をする。
2、参加実習
　観察実習を、さらに実践に近づけたものである。指導教員が行う学習指導等に、できるだけ参画し、実践力の育成を目指す。
3、実習(特に、授業実習)
　学習指導、生徒指導等、学校教育の全領域にわたって、指導教員の指導・助言を受けながら、現職教員を手本に実践を試みる。

授業の到達目標

実習校において、各学級及び各学年の教育活動の観察・参加・指導実習を通し、小学校教育全般(授業・生徒指導・学級経営に関わる教育実務等)の基礎的な内容について指導を行う。
1、児童理解の知識・技能に基づき、子どもに対応できる。
2、教員のための基礎実践能力が習得できる。
3、学校における教育活動全般について理解できる。
4、教育者としての適性の吟味ができる。

授業の計画

4年次6月に小学校において、4週間の教育実習を行う。
各小学校教育実習校の実習計画により実施する。

授業外の学習方法

各小学校教育実践の実習計画に沿って、指導教員の指導・助言を受けながら、余裕をもって諸準備に取り掛かっておくこと。また、一日一日の実習後の反省や指導教員の高評等をその都度まとめ、次回に生かすこと。

成績評価方法

教育実習ノートの実践内容(70%)実習態度(30%)　で総合評価する。

成績評価基準

・児童理解の知識・技能に基づき、子供に適切に対応できたか。
・教員のための基礎実践能力を習得できたか。
・学校教育全般について理解できたか。

テキスト、参考図書

授業実習のため、主要教科(国・社・算・理)の教科書は、各自準備すること。

その他（受講上の注意）
各小学校教育実習校の指示に従うこと。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

児童館実習 (Practice in Children's Halls)			担当教員	石川　昭義、依田　秀任
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CE−2401	2単位	4年前期	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>　児童厚生員として現場で必要な知識･技術･倫理観などを理解する。¦一人ひとりの子どもの発達状況やその対応について理解する。¦児童館に訪れる児童の保護者を理解し、保護者支援のあり方を理解する。¦児童厚生員に求められる資質･能力･技術等についての自己の課題を明確にする。

求める学習成果(教育目標)

学外実習による実践的能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

児童厚生一級指導員(必修)

授業の内容

4年次の8月に10日間の児童館･児童センターで実習を行い、地域における子どもの健全育成と子育て支援に必要な児童館活動を理解する。

授業の到達目標

児童館･児童センターで実習を行い、児童館等の機能や運営について学ぶことを目的とする。地域福祉的視点をもって児童館の運営を考えることが大切であり、実際に子どもと関わることによって、子どもの理解を深めるとともに遊びの指導や生活指導についても学ぶ。

授業の計画

実地体験を通して、児童館等や児童クラブの機能や運営について理解することを目的としている。
そのため、児童館・児童センターの生活等に参加し、子どもへの理解を深めるとともにそこで働いている児童厚生員の職務について学ぶため、以下の内容を経験し、学習する。

1　児童館活動に参加し、活動についての知識、技術を学ぶ。
2　子どもの発育・発達について理解し、対応方法等を修得する。
3　児童厚生員としての倫理等を学ぶ。
4　子どもの保護者等の子育て支援について学ぶ。
5　児童館を取り巻く地域社会との連携について学ぶ。
6　児童館等における児童厚生員に求められる資質・能力・技術等についての自己の課題を明確化する。

授業外の学習方法

実習時の記録をまとめるとともに児童･保護者との対応において疑問なことがあったらまとめておくこと。

成績評価方法

実習児童館からの評価、巡回指導の記録、実習日誌、出勤状況などに基づき総合的に評価する。

成績評価基準

児童館等の職員として適しているか
児童館等の運営や子どもの理解とその対応について積極的に行動しているか

テキスト、参考図書

児童館実習のてびき

その他(受講上の注意)

実習前には実習する児童館を事前訪問を行い、事前の説明を聞いておくこと。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (Seminar Ⅱ)			担当教員	石川　昭義
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2402	2 単位	4 年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

保育・教育に関連する文献、論文を講読する。
自分の研究テーマを設定し、各自研究計画を立て、これに基づいて研究を進め、成果をまとめてレポートを作成する。
研究成果を受講者に報告し、お互いに批評・検討し合うとともに今後の課題等を明確にする。

授業の到達目標

自分の研究テーマを設定し、具体的な対象と方法を定める。研究デザインや途中経過を受講者に報告し、お互いに批評・検討し合うとともに今後の課題等も明確にする。

授業の計画

第 1 回：オリエンテーション(ゼミの概要や方針について説明)
第 2 回：文献講読
第 3 回：文献講読
第 4 回：文献講読
第 5 回：文献講読
第 6 回：文献講読
第 7 回：文献講読
第 8 回：文献講読
第 9 回：文献講読
第10回：文献講読
第11回：研究の中間発表
第12回：研究の中間発表
第13回：研究の中間発表
第14回：研究の中間発表
第15回：まとめ

授業外の学習方法

自分の関心のあるテーマに関する文献、論文等を読んでレポートにまとめる。

成績評価方法

課題レポート(50%)　平常点(50%)
(平常点は、授業への参加状況、レポート発表を総合して判断します。)

成績評価基準

講読した文献等の内容をレポート形式でまとめ、発表することができるか。
自分の研究テーマに係る対象と方法を具体的に定め、実施に向けた準備態勢に入ることができるか。

テキスト、参考図書

授業前に指示する。

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (SeminarⅡ)			担当教員	伊東　知之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2402	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

「子ども教育特別演習I」で研究したことを基に造形、美術教育分野で自分が研究していく研究課題、テーマを設定し、そのテーマにそって各自が研究を深めていく。そしてその研究経過を定期的に報告しながら、問題点、改善方法等を検討するとともに、お互いに意見を出し合い、よりよいレポートになるようにさらに研究を深めていく。

授業の到達目標

・自分の研究課題について説明ができる。
・研究方法や計画について説明ができる。

授業の計画

第1回：オリエンテーション
第2回：これまでの研究発表
第3回：課題研究①
第4回：課題研究②
第5回：課題研究③
第6回：課題研究④
第7回：各自研究、制作①
第8回：各自研究、制作②
第9回：各自研究、制作③
第10回：各自研究、制作④
第11回：各自研究、制作⑤
第12回：研究発表①
第13回：研究発表②
第14回：研究発表③
第15回：まとめと課題

授業外の学習方法

・出された課題を次回の報告までに研究してくる。
・研究経過についてレジュメにまとめてくる。

成績評価方法

研究報告(80%)、平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物の提出状況を総合して判断します。)

成績評価基準

・研究内容について説明することができる。
・研究方法や研究計画について説明することができる。

テキスト、参考図書

必要に応じて指示する。
その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (SeminarⅡ)			担当教員	大野木　裕明
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2402	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプラニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

各自が卒業論文のテーマに沿って構想からとりまとめを進めてゆく。
自分なりに構想を発表し、現実的に論考を深めてゆく。

授業の到達目標

・前回から進めた箇所について所定の形式によるレポートを作成する習慣を身につける。
・研究したい目的を達成するための方法についてあらゆる可能性を探し現実的に絞り込む力を身につける。

授業の計画

第1回：研究課題に関連する諸理論の学習と評価①
第2回：研究課題に関連する諸理論の学習と評価②
第3回：研究課題に関連する諸理論の学習と評価③
第4回：研究課題に関連する諸理論の学習と評価④
第5回：研究課題に関連する諸理論の学習と評価⑤
第6回：研究課題に関連する最新の研究の学習と評価⑥
第7回：研究課題に関連する最新の研究の学習と評価⑦
第8回：研究課題に関連する最新の研究の学習と評価⑧
第9回：研究課題に関連する最新の研究の学習と評価⑨
第11回：研究課題に関連する最新の研究の学習と評価⑩
第12回：模擬的な研究計画とその評価①
第13回：模擬的な研究計画とその評価②
第14回：模擬的な研究計画とその評価③
第15回：模擬的な研究計画とその評価④、まとめ

授業外の学習方法

授業担当者が紹介したり解説したりする図書や研究論文の諸文献について、自分なりに取り組んで理解を深めること。各自が積極的に取り組むこと。授業のなかで各自の質問を受け付け、そのことについて時間を取る。

成績評価方法

・発表のためのレポート作成と関連資料の収集準備の程度で100パーセント

成績評価基準

授業の到達目標に記載した行動目標を達成しているかどうかによる。分割によるポイント制とせず、総合的に評価する。

テキスト、参考図書

テキストは用いない。参考図書や関連文献はその都度の紹介。

その他(受講上の注意)

ゼミなので欠席しないこと。やむを得ず欠席するときは事前連絡し、代わりの日を決める手順をとること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (SeminarⅡ)			担当教員	篭谷　隆弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2402	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

卒業研究テーマについての報告と議論

授業の到達目標

設定したテーマについて研究したことを中心に、その報告と議論を行うことで、自身および他者の研究内容について理解を深め評価を行えるようになる。

授業の計画

第1回：卒業研究テーマの確認
第2回：進捗報告①
第3回：進捗報告②
第4回：進捗報告③
第5回：進捗報告④
第6回：進捗報告⑤
第7回：進捗報告⑥
第8回：進捗報告⑦
第9回：進捗報告⑧
第10回：進捗報告⑨
第11回：進捗報告⑩
第12回：進捗報告⑪
第13回：進捗報告⑫
第14回：進捗報告⑬
第15回：後期に向けての計画設定

授業外の学習方法

授業の大半は、担当教員と相談の上各自が設定する計画に基づき、授業時間外に自主的に進めてきたことの報告と、それに対する助言や議論・次の計画の時間に充てる。
従って、授業時間外も意欲をもち積極的に研究に取り組む必要がある。

成績評価方法

平常点100%(受講態度、研究計画に対する達成状況により総合的に判断する。)

成績評価基準

設定したテーマについて研究したことを中心に定期的に報告が行えたか。自身および他者の研究内容について理解を深め評価を行えるようになったか。

テキスト、参考図書

特に指定しないが、選定した研究テーマに関する書籍を多く読むこと。

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (Seminar Ⅱ)			担当教員	野田　政弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2402	2 単位	4 年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

「子ども教育特別演習 1 」の学習成果をふまえて各自が関心をもつテーマに関連する研究資料・論文を収集し、先行研究についてまとめ、研究の理論と方法について学ぶ。研究課題を設定し計画を立て、成果をレポートにまとめて発表・報告する。他者(指導教員やゼミ生)との討議をとおして今後の課題を明らかにする。

授業の到達目標

先行研究についてまとめて課題を整理できる。研究課題に関連する理論や方法について理解できる。他者の発表に対して討議に参加できる。

授業の計画

第 1 回 : オリエンテーション(「子ども教育特別演習 1 」の振り返り、演習 2 の進め方)
第 2 回 : 研究課題に関連する資料の収集・整理、理論の学習 1
第 3 回 : 研究課題に関連する資料の収集・整理、理論の学習 2
第 4 回 : 研究課題に関連する資料の収集・整理、理論の学習 3
第 5 回 : 研究課題に関連する資料の収集・整理、理論の学習 4
第 6 回 : 研究課題に関連する資料の収集・整理、理論の学習 5
第 7 回 : 中間のまとめ
第 8 回 : 研究課題に関する経過発表と討議 1
第 9 回 : 研究課題に関する経過発表と討議 2
第10回 : 研究課題に関する経過発表と討議 3
第11回 : 研究課題に関する経過発表と討議 4
第12回 : 研究課題に関する経過発表と討議 5
第13回 : 研究課題に関する経過発表と討議 6
第14回 : 研究課題に関する経過発表と討議 7
第15回 : まとめと今後の課題の確認

授業外の学習方法

自ら疑問点や問題点を整理して授業に臨む。また、指導教員やゼミ生から指摘されたコメントを参考に次への作業を進める。

成績評価方法

発表内容・課題レポート(80%)、平常点(20%)平常点は授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します。

成績評価基準

研究課題の発表レポートが提出され、発表ができている。他者の発表に対する討議に参加できている。

テキスト、参考図書

各自の研究課題に関連する文献、図書などをその都度紹介する。

その他（受講上の注意）
常に問題意識をもち主体的、継続的に取り組むこと。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (Seminar Ⅱ)			担当教員	木曽　利雄
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2402	2 単位	4 年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

自分が関心を持つテーマについて課題研究を設定する。研究課題は小学校の算数教育についての実践的研究又は開発的研究に関するものとする。各自研究計画をたて、これに基づいて研究を進める。
研究を推進する際、算数教育の現状を踏まえ「算数でどんな力をつけたいのか」、「授業の何を問い直したいのか」等の問題意識を明確にしながら、実践的研究又は開発研究をしていくように指導する。
研究成果については,レポートにまとめさせる。研究過程で研究協議の場を適宜設け、研究をさらに深めていくための新たな課題につなげていけるように指導する。

授業の到達目標

・自分が関心を持つテーマについて研究課題が設定できる。
・研究課題の問題意識が明確である。(どんな力をつけたいのか。授業の何を問い直したいのか。)
・実践的研究または開発研究するための研究計画ができる。
・研究成果をレポートにまとめる。
・レポートの報告を基に、研究協議できる。
・さらに深めていくための新たな課題につなげることができる。

授業の計画

第 1 回 : オリエンテーション
第 2 回 : 研究課題の設定・参考資料の収集と整理 1
第 3 回 : 研究課題の設定・参考資料の収集と整理 2
第 4 回 : 研究課題の研究計画再検討・学校参観や授業参観資料の整理と活用
第 5 回 : 研究課題の観点別検討会・参考資料の整理と活用
第 6 回 : 研究の中間まとめ
第 7 回 : 中間まとめと検討会
第 8 回 : 研究課題・研究計画の再検討 : 参考資料の収集と整理
第 9 回 : 研究資料の整理と考察
第10回 : 研究資料の整理と考察検討・まとめ
第11回 : 研究資料の整理と発表・討議 1
第12回 : 研究資料の整理と発表・討議 2
第13回 : 研究資料の整理とレポート作成
第14回 : レポート発表会・討議
第15回 : レポート発表会と反省会

授業外の学習方法

必要に応じてアドバイスするので紹介された参考図書を熟読し、要点をまとめ、参考資料を整理すること。

成績評価方法

研究レポート(70%)、平常点(30%)(平常点は、授業への参加状況、レポート発表を総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準
・関心を持つ研究テーマを設定できたか。 ・研究課題に対する問題意識を明確に表現できたか。 ・研究成果をレポートにまとめることができたか。 ・積極的な研究協議ができたか。
テキスト、参考図書
特になし
その他（受講上の注意）
何回かのレポートの報告会を節目に研究を推進する。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (Seminar Ⅱ)			担当教員	鈴木　智子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2402	2 単位	4 年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

自分が関心を持つテーマについて課題研究を設定する。研究課題は保育・教育、子どもの発達や援助についての実証的研究又は開発的研究に関するものとする。各自研究計画をたて、これに基づいて研究を進め、成果をまとめてレポートを作成する。研究成果を受講者に報告し、お互いに批判・検討し合うとともに今後の課題等も明確にする。
「子ども教育特別演習Ⅰ」での学習成果を踏まえて、自主的研究のための課題をそれぞれが設定し、研究計画をたてる。その計画に沿ってそれぞれが研究成果を発表するとともに、相互理解・相互批判を繰り返しつつ研究を深めていく。

授業の到達目標

研究計画を立てて、研究を進めることができる。
他者の研究について批判的検討ができる。
論文の書き方を修得する。

授業の計画

第 1 回：オリエンテーション
第 2 回：研究発表と討論 1
第 3 回：研究発表と討論 2
第 4 回：研究発表と討論 3
第 5 回：研究発表と討論 4
第 6 回：研究発表と討論 5
第 7 回：研究発表と討論 6
第 8 回：研究発表と討論 7
第 9 回：中間のまとめ
第10回：研究発表と討論 1
第11回：研究発表と討論 2
第12回：研究発表と討論 3
第13回：研究発表と討論 4
第14回：研究発表と討論 5
第15回：まとめ

授業外の学習方法

各受講生の研究テーマにもとづいて、自主的に資料収集、文献講読、調査などに取り組み、成果を発表する準備を予習とする。
各回の討論を踏まえて、研究を進めていくことを復習とする。

成績評価方法

発表内容(50%)、討論への参加態度(30%)、平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する)

成績評価基準

研究計画を立てて、研究を進めることができるか。 他者の研究について批判的検討ができるか。 論文の書き方を修得できているか。
テキスト、参考図書
テキストは用いない。受講生のテーマに応じて、適宜参考図書を紹介する。
その他（受講上の注意）
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (SeminarⅡ)			担当教員	高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2402	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

「子ども教育特別演習I」における学修を基礎に、各自が研究課題を明確化していくことを目指す。そのためには、自身の関心を先行研究との関連のもとに位置付けていく作業が不可欠となる。したがって、授業の内容は、各自が蒐集した文献の講読と討論が中心となる。

授業の到達目標

相手の意見を聞いたうえで、自らの意見を論理的に述べることができる。
自らの関心と照らし合わせ、研究課題を明確化することができる。
研究課題について体系的に調べることができる。

授業の計画

第1回：オリエンテーション
第2回：担当者による発表と討論
第3回：担当者による発表と討論
第4回：担当者による発表と討論
第5回：担当者による発表と討論
第6回：担当者による発表と討論
第7回：担当者による発表と討論
第8回：担当者による発表と討論
第9回：担当者による発表と討論
第10回：担当者による発表と討論
第11回：担当者による発表と討論
第12回：担当者による発表と討論
第13回：担当者による発表と討論
第14回：担当者による発表と討論
第15回：担当者による発表と討論

授業外の学習方法

興味のある文献を集めて読む。
文献に向き合いながら、自らの関心の所在を考察することが必要となる。

成績評価方法

討論への参加状況(50%)
発表内容(50%)

成績評価基準

相手の意見を聞いたうえで、自らの意見を論理的に述べることができるか。
自らの関心と照らし合わせ、研究課題を明確化することができているか。
研究課題について体系的に調べることができているか。

テキスト、参考図書
必要に応じて配布する。
その他（受講上の注意）
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (SeminarⅡ)			担当教員	中野　研也
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2402	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

音楽または音楽に関連することについて、各自が興味を持つ対象を研究・発表し、少人数での討論を行う。

授業の到達目標

1. 音楽に関する知識と理解を深める。
2. 音楽を通して、豊かな教養を身に付け、教育・保育に活かす。

授業の計画

第1回：学期の研究計画(実践先・内容・回数)発表
第2回：実践と報告1
第3回：実践と報告2
第4回：実践と報告3
第5回：実践と報告4
第6回：実践と報告、討議1
第7回：実践と報告、討議2
第8回：実践と報告、討議3
第9回：実践と報告、討議4
第10回：実践と報告、討議5
第11回：実践と報告、討議6
第12回：実践と報告、討議7
第13回：実践と報告、討議8
第14回：まとめと卒業研究論文作成計画への展望1
第15回：まとめと卒業研究論文作成計画への展望2

授業外の学習方法

文献などの情報収集には普段から心掛けておく。
実技の学生は、製作や練習に励む。

成績評価方法

授業に対する姿勢(50%)、およびレポートなどの提出物(50%)を総合して評価する。

成績評価基準

音楽および音楽関連についての知識が深まったか。
実技の場合、必要な技術が身についてきているか。

テキスト、参考図書

ゼミ生の主体的な研究テーマを出発点とするため、共通のテキストは用いない。

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (SeminarⅡ)			担当教員	西出　和彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2402	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

卒業研究に取り組む。課題設定、仮説設定、観察実験の方法、結果、考察についてまとめ、科学の方法を身につける。また、結果を発表し、ディスカッションする。

授業の到達目標

幼児教育、保育、小学校理科における課題を設定し、問題解決を図り、ディスカッションができる。

授業の計画

第1回：オリエンテーション
第2回：課題設定①
第3回：課題設定②
第4回：予備実験①
第5回：予備実験②
第6回：仮説設定①
第7回：観察実験の方法①
第8回：観察実験の方法②
第9回：中間発表
第10回：実験結果の整理①
第11回：実験結果の整理②
第12回：考察
第13回：発表準備①
第14回：発表準備②
第15回：研究発表会

授業外の学習方法

先行研究の調査。研究方法、戦略の検討。学内、学外における様々な人たちへのインタビューや様々な立場の人とのディスカッション。書籍やインターネット等からの情報収集とその内容検証。研究目的に応じた観察実験。

成績評価方法

平常点(70%)　提出物(30%)

成績評価基準

(1)幼児教育、保育、小学校理科における課題を見出すことができる。
(2)課題を適切に処理し、考察し、結論を導くことができる。

テキスト、参考図書

必要に応じて提示する。

その他(受講上の注意)

学外での授業研究会や学会等への参加、支援活動等も含まれる。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (SeminarⅡ)			担当教員	柿本　真代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2402	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

「子ども教育特別演習I」を踏まえ、絵本や児童文学をはじめとした子どもの文化を中心とした分野で自分が関心を持つテーマについて、具体的な課題を設定する。各自研究計画をたて、これに基づいて研究を進め、成果を受講者に報告し、お互いに批判・検討し合うことで、今後の課題を明確にする。

授業の到達目標

具体的に課題設定ができる。先行研究を踏まえ、課題の解決方法や必要なデータを説明できる。

授業の計画

第1回：オリエンテーション(これまでのゼミでの進捗など)
第2回：研究計画のたて方
第3回：調査の進め方
第4回：各自発表、討論
第5回：各自発表、討論
第6回：各自発表、討論
第7回：各自発表、討論
第8回：中間まとめ
第9回：各自発表、討論
第10回：各自発表、討論
第11回：各自発表、討論
第12回：各自発表、討論
第13回：各自発表、討論
第14回：各自発表、討論
第15回：まとめ

授業外の学習方法

発表者はゼミが円滑に進められるよう配布資料(作品の該当部分や先行研究のコピーなど)を人数分準備してください。また、自分の発表が終わったら討論の内容を踏まえレポートを作成してください。

成績評価方法

発表の内容40%、発表後レポート40%、討論への参加状況20%で総合的に評価します。

成績評価基準

具体的な課題設定ができているか。先行研究を踏まえて、課題の解決方法や必要なデータを説明できるか。討論の内容をレポートに反映できているか。

テキスト、参考図書

授業中に適宜紹介します。

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (SeminarⅡ)			担当教員	青井　夕貴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2402	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探求的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

「子ども教育特別演習I」で学んだことを基に、各自の研究目的を明確化し、研究計画を立て、これに沿って研究を進めていく。途中経過を他の受講者に報告し、互いに批評、検討し合うことで、研究の質を高めていく。

授業の到達目標

研究目的を明確化し、研究計画に沿って、研究を進めることができる。
自他の研究について、批判的・論理的思考をもって検討することができる。

授業の計画

第1回：オリエンテーション
第2回：担当者による研究発表と議論
第3回：担当者による研究発表と議論
第4回：担当者による研究発表と議論
第5回：担当者による研究発表と議論
第6回：担当者による研究発表と議論
第7回：担当者による研究発表と議論
第8回：担当者による研究発表と議論
第9回：担当者による研究発表と議論
第10回：担当者による研究発表と議論
第11回：担当者による研究発表と議論
第12回：担当者による研究発表と議論
第13回：担当者による研究発表と議論
第14回：担当者による研究発表と議論
第15回：まとめ

授業外の学習方法

予習では、自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、発表の準備をする。復習では、自他の発表と議論で学んだことを踏まえて自分の研究を進めていく。

成績評価方法

発表内容(50%)、議論への参加状況(50%)

成績評価基準

研究目的を明確化し、研究計画に沿って、研究を進めることができるか。
自他の研究について、批判的・論理的思考をもって検討することができるか。

テキスト、参考図書

テキストは使用しない。参考図書は、必要に応じて適宜紹介する。

その他(受講上の注意)

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ (SeminarⅢ)			担当教員	石川　昭義
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2451	2単位	4年後期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

子ども教育特別演習Ⅱ」に引き続き、研究を進め、卒業研究へとつなげる。
これらの演習を通して、専門分野に関する研究方法を修得する。

授業の到達目標

自分の研究計画にしたがって研究を進め、自らの課題について自分なりの考察と解決方法をまとめる。

授業の計画

第1回：オリエンテーション(ゼミの概要や方針について説明)
第2回：文献講読①
第3回：文献講読②
第4回：文献講読③
第5回：文献講読④
第6回：卒業研究指導①
第7回：卒業研究指導②
第8回：卒業研究指導③
第9回：卒業研究指導④
第10回：卒業研究指導⑤
第11回：研究成果の発表①
第12回：研究成果の発表②
第13回：卒業研究発表に向けた準備①
第14回：卒業研究発表に向けた準備②
第15回：卒業研究発表に向けた準備③

授業外の学習方法

自分の研究テーマに関連する文献、論文等を読んでレポートにまとめる。

成績評価方法

課題レポート(50%)　平常点(50%)
(平常点は、授業への参加状況、レポート発表を総合して判断します。)

成績評価基準

講読した文献等の内容をレポート形式でまとめ、発表することができるか。
自分の研究について、進捗状況を適宜報告するとともに、意欲的に進めることができるか。
研究の成果について、考察を加え、自分なりの課題解決方法を説明できるか。

テキスト、参考図書

授業前に提示する。

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ (SeminarⅢ)			担当教員	伊東　知之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2451	2単位	4年後期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

「子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲ」を踏まえ、自身が設定した造形、美術教育等の研究課題をさらに深め、完成度の高い卒業研究となるように定期的な報告、検討を重ねながら進めていく。制作を伴うものについては、制作技術について学ぶとともに制作過程や制作方法等についてもレポートとしてまとめ、作品とともに総合的な研究としていく。

授業の到達目標

・研究内容について説明することができる。
・研究方法や研究計画について説明することができる。

授業の計画

第1回：これまでの経過確認と今後の計画について
第2回：各自の研究、制作
第3回：各自の研究、制作
第4回：各自の研究、制作
第5回：各自の研究、制作
第6回：中間発表
第7回：各自の研究、制作
第8回：各自の研究、制作
第9回：各自の研究、制作
第10回：各自の研究、制作
第11回：研究のまとめ
第12回：研究のまとめ
第13回：研究のまとめ
第14回：研究のまとめ
第15回：まとめ

授業外の学習方法

・研究課題について調査、研究を行い、報告できるようにレジュメにまとめる。
・作品については、制作を進める。

成績評価方法

報告内容(80%)、平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物の提出状況等を総合して判断します。)

成績評価基準

・研究内容について説明することができる。
・研究課題や研究計画について説明することができる。

テキスト、参考図書

必要に応じて指示する。
その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ (SeminarⅢ)			担当教員	大野木　裕明
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2451	2単位	4年後期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプラニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

各自の卒業論文のテーマに深く関連すると思われる研究資料について意見交換や情報収集と評価を行う。
・研究論文や図書の内容を正しく理解する。
・研究論分野図書の内容を自分なりに評価できる。
・研究論文や図書の中から深く関わる資料を選択できる。

授業の到達目標

卒業論文の導きとなる先行研究に触れ,慣れ,取り入れ,学ぶこと、あるいは反映しなくてもその特徴を理解し自分なりに評価することができるようにする。

授業の計画

同時変更して進められている各自の卒業論文の作成に深くあるいは周辺的関連すると思われる各種の図書や研究論文を収集し、読み、自分の構想の中に位置づけていく。
第1回：関連資料の収集と評価①
第2回：関連資料の収集と評価②
第3回：関連資料の収集と評価③
第4回：関連資料の収集と評価④
第5回：関連資料の収集と評価⑤
第6回：関連資料の収集と評価⑥
第7回：関連資料の収集と評価⑦
第8回：関連資料の収集と評価⑧
第9回：関連資料の収集と評価⑨
第10回：関連資料の収集と評価⑩
第11回：関連資料の収集と評価⑪
第12回：関連資料の収集と評価⑫
第13回：関連資料の収集と評価⑬
第14回：関連資料の収集と評価⑭
第15回：関連資料の収集と評価⑮

授業外の学習方法

あらゆる機会を見つけて卒業論文に関連する資料を収集する努力を惜しまないこと。

成績評価方法

提出レポートとその発表、および意見交換の活動に関して100パーセント。

成績評価基準

・専門的な知識の習得
・最近の動向について自分なりの理解と見識を持つことができていること。

テキスト、参考図書
用いない。参考資料は、ゼミ発表の内容を受けて、授業中に、個別にその都度指示する。
その他（受講上の注意）
授業時間にとどまらず、オフィスアワー等を利用して広く関連する資料の収集に努めること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ (SeminarⅢ)			担当教員	篭谷　隆弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2451	2単位	4年後期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

卒業研究テーマについての報告と議論

授業の到達目標

設定したテーマについて研究したことを中心に、その報告と議論を行うことで、自身および他者の研究内容について理解を深め評価を行えるようになる。

授業の計画

第1回：進捗報告①
第2回：進捗報告②
第3回：進捗報告③
第4回：進捗報告④
第5回：進捗報告⑤
第6回：進捗報告⑥
第7回：進捗報告⑦
第8回：進捗報告⑧
第9回：進捗報告⑨
第10回：進捗報告⑩
第11回：論文内容の確認①
第12回：論文内容の確認②
第13回：論文内容の確認③
第14回：成果発表
第15回：成果発表

授業外の学習方法

授業の大半は、担当教員と相談の上各自が設定する計画に基づき、授業時間外に自主的に進めてきたことの報告と、それに対する助言や議論・次の計画の時間に充てる。
従って、授業時間外も意欲をもち積極的に研究に取り組む必要がある。

成績評価方法

平常点100%(受講態度、研究計画に対する達成状況により総合的に判断する。)

成績評価基準

設定したテーマについて研究したことを中心に定期的に報告が行えたか。自身および他者の研究内容について理解を深め評価を行えるようになったか。

テキスト、参考図書

特に指定しないが、選定した研究テーマに関する書籍を多く読むこと。

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ (SeminarⅢ)			担当教員	野田　政弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2451	2単位	4年後期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

「子ども教育特別演習2」における学習を基礎に各自の研究課題に沿って計画を進め卒業研究につなげていく。各自が研究成果の途中経過をレポートにまとめて発表・報告し、他者(指導教員やゼミ生)との討議をとおして問題点、改善方法など今後の課題を明らかにする。さらには、プレゼンテーションや質疑応答の準備を行う。

授業の到達目標

研究計画に沿って研究を遂行できる。研究成果の途中経過をレポートにまとめて報告できる。他者の発表に対して討議に参加できる。効果的なプレゼンテーションができる。

授業の計画

第1回：研究課題に関する経過発表と討議
第2回：研究課題に関する経過発表と討議
第3回：研究課題に関する経過発表と討議
第4回：研究課題に関する経過発表と討議
第5回：研究課題に関する経過発表と討議
第6回：卒業論文の中間報告
第7回：卒業論文の中間報告
第8回：研究課題に関する経過発表と討議
第9回：研究課題に関する経過発表と討議
第10回：卒業論文の確認
第11回：卒業論文の確認
第12回：卒業論文の確認
第13回：卒業研究発表に向けた準備(資料の作成、プレゼンテーション)
第14回：卒業研究発表に向けた準備(資料の作成、プレゼンテーション)
第15回：総まとめ

授業外の学習方法

自ら疑問点や問題点を整理して授業に臨む。また、指導教員やゼミ生から指摘されたコメントを参考に次への作業を進める。

成績評価方法

発表内容・課題レポート(80%)、平常点(20%)平常点は授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します。

成績評価基準

研究計画に沿って研究を遂行できている。研究課題の発表レポートが提出され、発表ができている。他者の発表に対する討議に参加できている。

テキスト、参考図書

テキストは使用せず、参考図書や関連文献はその都度紹介する。

その他（受講上の注意）

常に問題意識をもち主体的、継続的に取り組むこと。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ (SeminarⅢ)			担当教員	木曽　利雄
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2451	2単位	4年後期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

・各自研究課題に基づき、研究計画を立て、研究を推進する。・随時研究成果をレポートにまとめる。・レポートに基づき、お互いに研究協議・検討をし次の課題を明らかにする。・新たな課題を究明するための研究計画を立てる。このようにPDSシステムの考え方で特別演習を実施する。

授業の到達目標

「子ども教育特別演習Ⅱ」に引き続き、研究を進めていく。これらの演習を通して専門分野に関する研究方法を習得すると同時に、卒業研究へとつなげていく。
「子ども教育特別演習Ⅰ・Ⅱ」を踏まえ、自身が設定した研究テーマをさらに深めさせ、完成度の高い研究になるように定期的な報告、指導を重ねながら研究を進めさせる。その総括として研究成果をまとめてレポートを作成させる。
授業等の実践が必要な場合は、地域の小学校等で実施できるように指導教官として協力していく。授業実施後の検討会では、できるだけ現場教師の意見が聞けるよう配慮する。

授業の計画

各自の研究計画に沿って進める。

授業外の学習方法

必要に応じて研究についてアドバイスし、参考資料を紹介する。熟読し参考とすること。

成績評価方法

研究レポート(70%)研究姿勢等(30%)で総合的に評価する。

成績評価基準

・自らが設定した研究テーマを深め、研究成果をレポートにまとめることができたか。

テキスト、参考図書

必要に応じて参考書を紹介する。

その他(受講上の注意)

レポートの報告会を節目にして、研究を推進する。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ (SeminarⅢ)			担当教員	鈴木　智子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2451	2単位	4年後期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

「子ども教育特別演習Ⅱ」での研究成果を踏まえて、自主的研究のための課題をそれぞれが設定し、研究計画をたてる。その計画に沿ってそれぞれが研究成果を発表するとともに、相互理解・相互批判を繰り返しつつ研究を深めていく。まとめた研究を他者にわかりやすいものにするため、プレゼンテーションや質疑応答の準備を行う。

授業の到達目標

研究計画を立てて、研究を進めることができる。
他者の研究について批判的検討ができる。
論文の書き方を修得する。
研究成果のプレゼンテーション能力を養う。

授業の計画

第1回：オリエンテーション
第2回：研究発表と討論
第3回：研究発表と討論
第4回：研究発表と討論
第5回：研究発表と討論
第6回：研究発表と討論
第7回：研究発表と討論
第8回：研究発表と討論
第9回：中間のまとめ
第10回：研究のまとめと口頭発表の準備
第11回：研究のまとめと口頭発表の準備
第12回：研究のまとめと口頭発表の準備
第13回：研究のまとめと口頭発表の準備
第14回：研究のまとめと口頭発表の準備
第15回：まとめ

授業外の学習方法

各受講生の研究テーマにもとづいて、自主的に資料収集、文献講読、調査などに取り組み、成果を発表する準備を予習とする。
各回の討論を踏まえて、研究を進めていくことを復習とする。

成績評価方法

発表内容(50%)、討論への参加態度(30%)、平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する)

成績評価基準

研究計画を立てて、研究を進めることができるか。
他者の研究について批判的検討ができるか。
論文の書き方を修得できているか。
研究成果のプレゼンテーション能力を養うことができているか。

テキスト、参考図書

テキストは用いない。受講生のテーマに応じて、適宜参考図書を紹介する。

その他（受講上の注意）

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ (SeminarⅢ)			担当教員	高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2451	2単位	4年後期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

「子ども教育特別演習Ⅱ」に引き続き、研究を進めていく。これらの演習を通して専門分野に関する研究方法を習得すると同時に、卒業研究へとつなげていく。

授業の到達目標

各自の研究課題を先行研究との関連のもとに、明確に記述することができる。

授業の計画

第1回：研究経過報告と討論1
第2回：研究経過報告と討論2
第3回：研究経過報告と討論3
第4回：研究経過報告と討論4
第5回：研究経過報告と討論5
第6回：研究経過報告と討論6
第7回：研究経過報告と討論7
第8回：研究経過報告と討論8
第9回：研究経過報告と討論9
第10回：研究経過報告と討論10
第11回：研究経過報告と討論11
第12回：研究経過報告と討論12
第13回：研究経過報告と討論13
第14回：研究経過報告と討論14
第15回：研究経過報告と討論15

授業外の学習方法

こまめに文献を蒐集し、読解したことを自らの問題として記述していく作業が求められる。

成績評価方法

発表内容(100%)

成績評価基準

各自の研究課題を先行研究との関連のもとに、論理的に記述することができるか。

テキスト、参考図書

必要に応じて資料を配布する。

その他(受講上の注意)

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ (SeminarⅢ)			担当教員	中野　研也
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2451	2単位	4年後期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

子ども教育特別演習IIで研究した音楽または音楽関連についてさらに深く検証し、卒業研究へと繋げる。

授業の到達目標

1.音楽に関する知識と理解を深める。
2.音楽を通して、豊かな教養を身に付け、教育・保育に活かす。

授業の計画

第1回:実践の検証と発表、討議1
第2回:実践の検証と発表、討議2
第3回:実践の検証と発表、討議3
第4回:実践の検証と発表、討議4
第5回:実践の検証と発表、討議5
第6回:実践の検証と発表、討議6
第7回:実践の検証と発表、討議7
第8回:実践の検証と発表、討議8
第9回:実践の検証と発表、討議9
第10回:実践の検証と発表、討議10
第11回:卒業研究論文(実践報告書)作成1
第12回:卒業研究論文(実践報告書)作成2
第13回:「卒業研究要旨集」レジュメ作成、口頭発表準備1
第14回:「卒業研究要旨集」レジュメ作成、口頭発表準備2
第15回:「卒業研究要旨集」レジュメ作成、口頭発表準備3

授業外の学習方法

1.文献等の情報収集に努め、要点をまとめておくこと。
2.実技や作品発表の場合は、練習や製作に励むこと。

成績評価方法

授業に対する姿勢(50%)、およびレポートなどの提出物(50%)を総合して評価する。

成績評価基準

音楽および音楽関連についての知識が深まったか。
実技もしくは作品発表のために必要な技術が身についたか。

テキスト、参考図書

ゼミ生の主体的な研究テーマを出発点とするため、共通のテキストは用いない。

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ (SeminarⅢ)			担当教員	西出　和彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2451	2単位	4年後期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

卒業研究のまとめ方、発表の仕方、ディスカッションの仕方等を学び、各自の研究内容をより深化させる。さらに、他人の研究に対しても、適切なコメントを述べることができるように心がける。

授業の到達目標

各自の研究テーマについて適切に考察し、分かりやすく発表し、活発にディスカッションすることができる。他人の研究に対しても適切なコメントを述べることができる。

授業の計画

第1回：オリエンテーション
第2回：卒業研究検討会Ⅰ①
第3回：卒業研究検討会Ⅰ②
第4回：卒業研究検討会Ⅰ③
第5回：卒業研究検討会Ⅰ④
第6回：卒業研究検討会Ⅰ⑤
第7回：学外研修等
第8回：中間発表会
第9回：卒業研究検討会Ⅱ①
第10回：卒業研究検討会Ⅱ②
第11回：卒業研究検討会Ⅱ③
第12回：卒業研究検討会Ⅱ④
第13回：卒業研究検討会Ⅱ⑤
第14回：卒業研究発表練習会
第15回：卒業研究発表練習に対するまとめ

授業外の学習方法

収集した情報を整理し、まとめ、自分の考えを整理する。論理的に明快な主張になっているか良く検討する。

成績評価方法

平常点(100%)　普段の研究に対する取り組みを総合的に判断する。

成績評価基準

(1)設定した課題に対して明快に答えているか。
(2)仮説を適切に検証しているか。
(3)結果を適切に考察しているか。

テキスト、参考図書

必要に応じて提示する。

その他（受講上の注意）
学外での授業研究会や学会等への参加、支援活動等も含まれる。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ (SeminarⅢ)			担当教員	柿本　真代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2451	2単位	4年後期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

「子ども教育特別演習Ⅰ・Ⅱ」を発展させ、絵本や児童文学をはじめとした子どもの文化を中心とした分野で自分が設定した課題を解決へと導く。成果を受講者に報告し、お互いに批判・検討し合うことで、完成度の高い卒業研究を目指す。

授業の到達目標

先行研究を整理できる。課題の解決方法を明確に説明できる。必要なデータを収集・提示し、実証的に論じることができる。

授業の計画

第1回：論文執筆にむけて
第2回：演習Ⅱを踏まえた改善点など
第3回：演習Ⅱを踏まえた改善点など
第4回：各自報告、討論
第5回：各自報告、討論
第6回：各自報告、討論
第7回：各自報告、討論
第8回：中間まとめ
第9回：目次・要旨の発表
第10回：目次・要旨の発表
第11回：目次・要旨の発表
第12回：目次・要旨の発表
第13回：口頭試問に向けて
第14回：口頭試問に向けて
第15回：口頭試問に向けて

授業外の学習方法

発表者はゼミが円滑に進められるよう配布資料(作品の該当部分や先行研究のコピーなど)を人数分準備してください。また、自分の発表が終わったら討論の内容を踏まえレポートを作成してください。

成績評価方法

平常点100%(授業への参加状況、各発表を総合的に判断します。)

成績評価基準

先行研究を整理し、理解できているか。課題の解決方法が明確に説明できるか。必要データを収集・提示し、実証的に卒業論文がまとめられているか。

テキスト、参考図書

必要があれば授業中個別に紹介します。

その他(受講上の注意)

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ (SeminarⅢ)			担当教員	青井　夕貴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2451	2単位	4年後期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

「子ども教育特別演習Ⅱ」に引き続き授業を進めていく。これらの演習を通して、専門分野に関する研究方法を理解するとともに、卒業研究へとつなげていく。

授業の到達目標

研究計画に沿って、研究を進めることができる。
自他の研究について、批判的・論理的思考をもって検討することができる。
自分の研究結果や考察をまとめることができる。

授業の計画

第1回：オリエンテーション
第2回：研究経過報告と議論
第3回：研究経過報告と議論
第4回：研究経過報告と議論
第5回：研究経過報告と議論
第6回：研究経過報告と議論
第7回：研究経過報告と議論
第8回：研究経過報告と議論
第9回：研究経過報告と議論
第10回：研究経過報告と議論
第11回：卒業研究発表の準備
第12回：卒業研究発表の準備
第13回：卒業研究発表の準備
第14回：卒業研究発表の準備
第15回：卒業研究発表の準備

授業外の学習方法

予習では、自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、発表の準備をする。復習では、自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、自分の研究を進めていく。

成績評価方法

発表内容(50%)、議論への参加状況(50%)

成績評価基準

研究計画に沿って、研究を進めることができるか。
自他の研究について、批判的・論理的思考をもって検討することができるか。
自分の研究結果や考察をまとめることができるか。

テキスト、参考図書
テキストは使用しない。参考図書は、必要に応じて適宜紹介する。
その他（受講上の注意）
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	石川　昭義
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2403	4 単位	4 年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

個別に論文指導を行う

授業の到達目標

学生各自の 1 年～ 3 年次までにおける学修・研究の成果を踏まえて、 4 年次当初に各自が研究課題を選び、指導教員に自己の研究概要を述べ、「子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲ」などをとおして、指導を受けながら卒業研究を進める。

授業の計画

論文指導を行う。デザイン発表、中間発表、下書き提出等適宜指示する。

授業外の学習方法

自主的に研究を進める。

成績評価方法

①研究成果物を提出する、②研究要旨を提出する、③口頭発表を行う(口頭試問を兼ねる)の 3 項目を単位認定の基本要件とする。そのうえで、副査の意見を参考としながら主査が最終の評価を判定する。

成績評価基準

研究の目的が明確か。研究の方法が妥当か。研究結果に対する考察が十分に行われて結論が導かれているか。論文(文章)の展開に一貫性があるか。

テキスト、参考図書

なし

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	伊東　知之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2403	4 単位	4 年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

各自の研究テーマに沿った研究、制作を行い、原則として定期的な授業は行わない。
これまで学んできたことの集大成として卒業研究を仕上げる。具体的には「子ども教育特別演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の授業の中で行われてきたものを自分のテーマに即してレポートとして完成させて提出する。造形、美術教育等に関する内容のものであることから、場合によっては作品が伴うこともあり、その場合は作品とレポートの両方を提出することとなる。大学 4 年間の総まとめとなるものであるから質、量ともに相応のものとしたい。

授業の到達目標

・研究課題を論文または報告書としてまとめることができる。
・作品がある場合には作品として質の高いものを制作することができる。

授業の計画

・年度当初に具体的な研究計画をたて、それに基づいて各自が研究を進めていく。
・研究内容を論文または、作品と報告書にまとめ、提出する。
・定期的な授業は行わない。

授業外の学習方法

・研究課題について定期的に報告できるようにレジュメにまとめる。
・作品がある場合には、作品の質を高めるように制作を進める。

成績評価方法

①研究成果物を提出する、②研究要旨を提出する、③口頭発表を行う(口頭試問を兼ねる)の 3 項目を単位認定の基本要件とする。そのうえで、副査の意見を参考としながら主査が最終の評価を判定する。

成績評価基準

・卒業研究として質の高い研究成果(論文、報告書、作品)が提出できる。
・卒業研究を踏まえて、的確な内容の要旨をまとめることができる。
・卒業研究発表会でわかりやすく発表することができる。

テキスト、参考図書

適宜、指示する。

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	大野木　裕明
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2403	4 単位	4 年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプラニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

各自の卒業論文のテーマに沿って構想から取りまとめまでを進めていく。
卒業論文の内容については、中断することなく定期的に進め、他のゼミ生のナイーブな意見にも謙虚に耳を傾ける時間を用意するので、積極的な参加が重要。

授業の到達目標

・提出の〆切までに卒業論文を作成すること。
・適切な日本語で書かれていること。
・論理的に構成されていること。
・わかりやすい表現でかかれていること。
・図表を用いて誤解のないような実証的な書き方になっていること。

授業の計画

他の卒業論文ゼミ生と同様に、合意したスケージュールに沿って、定期的に積極的に論文指導の時間に参加すること。また、そのために、充分な準備を怠ることのないように取り組むこと。

授業外の学習方法

卒業論文の指導教員の論文指導や具体的なコメントに留まらず、自ら進んで探究するための時間と量録を確保し論文に反映させること。

成績評価方法

①研究成果物を提出する、②研究要旨を提出する、③口頭発表を行う(口頭試問を兼ねる)の 3 項目を単位認定の基本要件とする。そのうえで、副査の意見を参考としながら主査が最終の評価を判定する。

成績評価基準

子ども教育学科の教育目標に沿った卒業論文であること。適切な方法により、丁寧に論考し論理的に書かれていること。

テキスト、参考図書

一人ひとりの卒業論文テーマに関連する文献や図書など。随時、紹介し、解説を加える。

その他(受講上の注意)

継続的な学習・探究的態度が重要であるから中断しないこと。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	篭谷　隆弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2403	4 単位	4 年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

卒業論文の執筆

授業の到達目標

研究内容に関する卒業論文を執筆できる。

授業の計画

各自でテーマに従って、制作・実践活動を進める。

授業外の学習方法

各自で進めた研究内容については、子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲで進捗報告を行い、助言を受け、次の計画を行うこと。

成績評価方法

①研究成果物を提出する、②研究要旨を提出する、③口頭発表を行う(口頭試問を兼ねる)の 3 項目を単位認定の基本要件とする。そのうえで、副査の意見を参考としながら主査が最終の評価を判定する。

成績評価基準

研究成果物を提出したか。研究要旨を提出したか。口頭発表を行ったか。

テキスト、参考図書

特に指定しない。

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	野田　政弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2403	4 単位	4 年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

各自が設定した卒業研究のテーマに沿って、論文全体の構想、段取り、文献収集・整理から論文の完成に到るまでの作業を計画的、継続的に進める。また、他者(指導教員やゼミ生)との積極的な意見交換をとおして論文の考察を深めてゆく。

授業の到達目標

卒業論文が論理的に構成されている。簡潔・平明な正しい日本語で書くことができる。文献の引用、図表の使用が適切である。提出締め切り日までに完成できる。

授業の計画

各自が設定したスケジュールに沿って研究を進めながら、指導教員と定期的な論文指導の時間を設定し、進捗状況を報告し論文指導を受ける。

授業外の学習方法

自ら疑問点や問題点を整理して論文指導に臨む。また、指導教員から指摘されたコメントを参考に次への作業を進める。そのためにも常に計画的に時間を確保する。

成績評価方法

①研究成果物を提出する、②研究要旨を提出する、③口頭発表を行う(口頭試問を兼ねる)の 3 項目を単位認定の基本要件とする。そのうえで、副査の意見を参考としながら主査が最終の評価を判定する。

成績評価基準

子ども教育学科の教育目標に合致した卒業論文である。論理的に卒業論文が構成され、設定した研究課題に対して充分な考察がなされている。卒業研究発表会において発表、口頭試問に適切に対応できている。

テキスト、参考図書

各自の卒業論文テーマに関連する文献、図書などをその都度紹介する。

その他(受講上の注意)

常に問題意識をもち主体的、継続的に取り組むこと。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	木曽　利雄
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2403	4 単位	4 年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

「子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲ」などをとおして、指導を受けながら卒業研究を進める。

授業の到達目標

学生各自の 1 年～ 3 年次までにおける学修・研究の成果を踏まえて、 4 年次当初に各自が研究課題を選び、指導教員に自己の研究概要を述べ、「子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲ」などをとおして、指導を受けながら卒業研究を進める。
これまで学んできたことの集大成として卒業研究に仕上げる。具体的には「子ども教育特別演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で学んできたことを自分のテーマに即して卒業論文にまとめる。論文作成の過程において、残された課題を明確にしながら研究のポイントを示し、それに沿って卒業研究を進めるように指導する。

授業の計画

各自の研究計画に沿って進める。

授業外の学習方法

必要に応じて研究にアドバイス、参考書等を紹介、卒業研究を深めまとめる。

成績評価方法

①　研究成果物を提出する
②　研究要旨を提出する。
③　口頭発表を行うまたは口頭試問を受けるの 3 項目を単位認定の基本要件としたうえで、主査と副査による合議により評価を判定する。

成績評価基準

研究成果物、研究要旨、口頭発表等の内容が、研究テーマに即して論理的に考察展開され適切であるか

テキスト、参考図書

特になし

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	鈴木　智子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2403	4 単位	4 年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探求的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

学生各自の 1 年～ 3 年次までにおける学修・研究の成果を踏まえて、 4 年次当初に各自が研究課題を選び、指導教員に自己の研究概要を述べ、「子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲ」などをとおして、指導を受けながら卒業研究を進める。

具体的には「子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲ」などによって深めた自身の専門的な問題意識に即してテーマを決定し、研究計画を立て、調査・事例研究・文献研究などの手法の導入によって研究の成果をまとめる。専門領域における知識を深めるとともに、計画立案、問題解決能力、論理的思考力、表現力、プレゼンテーション能力などの総合的な人間力を培うこともあわせて目指す。

授業の到達目標

研究計画を立てて、研究を進めることができる。
問題解決能力、論理的思考力を養う。
表現力、プレゼンテーション能力を養う。

授業の計画

年度当初に受講生と協議する。受講生は具体的な研究計画をたてる。随時進捗状況を報告し、指導を受ける。

授業外の学習方法

研究計画に沿って、自主的に研究を進めていくことを予習、復習に含める。

成績評価方法

①研究成果物を提出する、②研究要旨を提出する、③口頭発表を行う(口頭試問を兼ねる)の 3 項目を単位認定の基本要件とする。そのうえで、副査の意見を参考としながら主査が最終の評価を判定する。

成績評価基準

研究計画を立てて、研究を進めることができるか。
問題解決能力、論理的思考力を養うことができているか。
表現力、プレゼンテーション能力を養うことができているか。

テキスト、参考図書

テキストは用いない。受講生のテーマに応じて、適宜参考図書を紹介する。

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2403	4 単位	4 年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

学生各自の 1 年～ 3 年次までにおける学修・研究の成果を踏まえて、 4 年次当初に各自が研究課題を選び、指導教員に自己の研究概要を述べ、「子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲ」などをとおして、指導を受けながら卒業研究を進める。

授業の到達目標

自らの関心、興味を研究課題へと昇華したうえで、課題に応じた論述を論理的にまとめることができる。

授業の計画

各学生ごとに計画を立てる。

授業外の学習方法

①資料に向き合う
②書き進める
③書き直す
特に指示されなくても、以上の作業を日頃より行うことが肝要となる。
また、行き詰ったときは、こまめに教員に相談することが必要である。

成績評価方法

①研究成果物を提出する、②研究要旨を提出する、③口頭発表を行う(口頭試問を兼ねる)の 3 項目を単位認定の基本要件とする。そのうえで、副査の意見を参考としながら主査が最終の評価を判定する。

成績評価基準

自らの関心、興味を研究課題へと昇華したうえで、課題に応じた論述を論理的にまとめることができるか。

テキスト、参考図書

なし

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	中野　研也
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2403	4 単位	4 年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

「子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲ」などをとおして、指導を受けながら卒業研究を進める。

授業の到達目標

学生各自の 1 年～ 3 年次までにおける学修・研究の成果を踏まえて、 4 年次当初に各自が研究課題を選び、指導教員に自己の研究概要を述べ、「子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲ」などをとおして、指導を受けながら卒業研究を進める。
これまで学んできたことの集大成として卒業研究に仕上げる。具体的には「子ども教育特別演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で学んできたことを自分のテーマに即して卒業論文にまとめる。論文作成の過程において、残された課題を明確にしながら研究のポイントを示し、それに沿って卒業研究を進めるように指導する。

授業の計画

各自の研究計画に沿って進める。

授業外の学習方法

必要に応じて研究にアドバイス、参考書等を紹介、卒業研究を深めまとめる。

成績評価方法

①　研究成果物を提出する
②　研究要旨を提出する。
③　口頭発表を行うまたは口頭試問を受けるの 3 項目を単位認定の基本要件としたうえで、主査と副査による合議により評価を判定する。

成績評価基準

研究成果物、研究要旨、口頭発表等の内容が、研究テーマに即して論理的に考察展開され適切であるか

テキスト、参考図書

特になし

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	西出　和彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2403	4 単位	4 年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

幼児教育、保育、小学校理科における自ら設定した課題について、観察実験に基づき根拠を示した上で結論を導く。その過程で科学の方法を身につけ、問題解決能力の向上を図る。

授業の到達目標

各自の研究テーマについて適切に考察し、分かりやすく発表し、活発にディスカッションすることができる。他人の研究に対しても適切なコメントを述べることができ、新たな課題を見出すことができる。

授業の計画

定期的にミーティングを実施し、研究の進捗状況や懸案事項の確認を行い、対応策を考える。

授業外の学習方法

「それってどういうこと?」を合い言葉にして、探究心の涵養に努める。

成績評価方法

平常点(100%)　普段の研究に対する取り組みを総合的に判断する。

成績評価基準

(1)設定した課題に対して明快に答えているか。
(2)仮説を適切に検証しているか。
(3)結果を適切に考察しているか。

テキスト、参考図書

必要に応じて提示する。

その他(受講上の注意)

学外での授業研究会や学会等への参加、支援活動等も含まれる。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	柿本　真代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2403	4 単位	4 年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探究的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

卒業論文の執筆と、それにむけた資料やデータの収集など。

授業の到達目標

課題を設定し、解決に必要なデータ収集・提示し、実証的に卒業論文をまとめることができる。

授業の計画

各自研究計画を立て、資料の収集や調査を行う。定期的な授業は行わない。質問や相談がある場合は事前にメール等で時間を決めた上で個別に面談を行う。

授業外の学習方法

子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲで報告を行い、討論を踏まえて論文を執筆する。

成績評価方法

①研究成果物を提出する、②研究要旨を提出する、③口頭発表を行う(口頭試問を兼ねる)の 3 項目を単位認定の基本要件とする。そのうえで、副査の意見を参考としながら主査が最終の評価を判定する。

成績評価基準

課題の解決に必要なデータを収集・提示し、実証的に卒業論文がまとめられているか。

テキスト、参考図書

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	青井　夕貴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−CF−2403	4 単位	4 年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力・探求的態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

学生各自の１～３年次までにおける学修・研究の成果を踏まえて、４年次当初に各自が研究課題を選び、指導教員に自己の研究概要を述べ、「子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲ」などをとおして、指導を受けながら卒業研究を進める。

授業の到達目標

目的に沿って、計画的に研究を進めることができる。
自分の研究について、批判的・論理的思考をもって検討、考察することができる。
自分の研究結果や考察を、他者にわかりやすく文章にまとめ、説明することができる。

授業の計画

個別に話し合い、各自の計画を立てる。定期的に進捗状況を報告し、助言を受ける。

授業外の学習方法

自主的に研究を進めていく。計画以外でも、必要な場合は、積極的に助言を求める。

成績評価方法

①研究成果物を提出する。 ②研究要旨を提出する。 ③口頭発表を行う(口頭試問を兼ねる)。の３項目を単位認定の基本要件とする。そのうえで、副査の意見を参考としながら主査が最終の評価を判定する。

成績評価基準

目的に沿って、計画的に研究を進めることができるか。
自分の研究について、批判的・論理的思考をもって検討、考察することができているか。
自分の研究結果や考察を、他者にわかりやすく文章にまとめ、説明することができるか。

テキスト、参考図書

テキストは使用しない。参考図書は、必要に応じて適宜紹介する。

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子育て支援論 (Child Care Support Families)			担当教員	青井　夕貴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−DH−2405	2 単位	4 年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

子育て支援の理解と実践力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(選択)

授業の内容

子育て家庭を取り巻く環境や社会状況とともに、子育てを支える仕組みも大きく変化している。本授業では、現代の子育て環境を理解した上で、子育て支援における制度・施策から、専門機関や地域の役割、支援の実際を具体的に学ぶ。その学びを基に、子育て支援に求められる専門性、子育て支援の意義と限界について考察する。

授業の到達目標

子育て支援の制度・施策について説明することができる。
子育て支援にかかわる専門機関の役割とあり方について説明することができる。
子育て支援にかかわる専門職に必要な知識・技術について説明することができる。

授業の計画

第 1 回：オリエンテーション～子育て支援とは
第 2 回：子育て環境の変遷と現状
第 3 回：子育て支援の必要性と役割
第 4 回：子育て支援における制度・施策の変遷と現状
第 5 回：専門機関における子育て支援の実際～保育所
第 6 回：専門機関における子育て支援の実際～幼稚園、認定こども園
第 7 回：専門機関における子育て支援の実際～地域子育て支援センター
第 8 回：専門機関における子育て支援の実際～保健所・保健センター
第 9 回：専門機関における子育て支援の実際～児童館
第10回：専門機関における子育て支援の実際～その他、児童福祉施設
第11回：地域における子育て支援の実際
第12回：海外における子育て支援の実際
第13回：子育て支援で求められる専門性
第14回：子育て支援の意義と限界
第15回：まとめ

授業外の学習方法

各回の授業を受けた後で配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。

成績評価方法

平常点(80%)、レポート(20%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度、毎回のコメント用紙の提出状況等を総合して判断する。)

成績評価基準

子育て支援の制度・施策について説明することができるか。
子育て支援にかかわる専門機関の役割とあり方について説明することができるか。
子育て支援にかかわる専門職に必要な知識・技術について説明することができるか。

テキスト、参考図書

テキストは使用しない。適宜、資料を配布する。

その他（受講上の注意）

「家庭支援論」の復習をしておく。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子育て支援演習 (Child Care Support Families(Practice))			担当教員	青井　夕貴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−DH−2453	2単位	4年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

子育て支援の理解と実践

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(選択)

授業の内容

「子育て支援論」で学んだことを基に、地域子育て支援センターでの実習を通して、子育て支援の目的・意義・限界や子育て支援に携わる保育者の専門性について考察し、理解を深める。

授業の到達目標

地域子育て支援センターの役割とあり方について説明することができる。
地域子育て支援センターの職員に必要な知識・技術について説明することができる。

授業の計画

第1回：オリエンテーション
第2回：地域子育て支援センターでの実習計画書の作成
第3回：地域子育て支援センターでの実習①
第4回：地域子育て支援センターでの実習②
第5回：地域子育て支援センターでの実習③
第6回：地域子育て支援センターでの実習④
第7回：地域子育て支援センターでの実習⑤
第8回：中間まとめ・発表
第9回：地域子育て支援センターでの実習⑥
第10回：地域子育て支援センターでの実習⑦
第11回：地域子育て支援センターでの実習⑧
第12回：地域子育て支援センターでの実習⑨
第13回：地域子育て支援センターでの実習⑩
第14回：実習のまとめ・発表
第15回：子育て支援の意義と限界

授業外の学習方法

実習前には、「子育て支援論」を基に地域子育て支援センターについて復習し、実習先の活動等についても情報収集をしておく。実習後は、毎回感じたこと、学んだことなどを記録にまとめ、中間・最終発表につなげる。

成績評価方法

発表(50%)、平常点(30%)、レポート(20%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度、毎回のコメント用紙の提出状況等を総合して判断する。)

成績評価基準

地域子育て支援センターの役割とあり方について説明することができるか。
地域子育て支援センターの職員に必要な知識・技術について説明することができるか。

テキスト、参考図書

テキストは使用しない。適宜、資料を配布する。

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

地域福祉論 (Theory of Community Welfare)			担当教員	永井　裕子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−DH−2406	2単位	4年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

子育て支援の理解と実践力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(選択)、児童厚生一級指導員(必修)

授業の内容

地域福祉の理論と方法をふまえ、具体的な事例を用いて地域づくりやそれに関連する援助の手法を学ぶ。

授業の到達目標

・今日の社会福祉の展開をふまえ、現在の地域福祉の位置づけを理解する。
・地域福祉の構造と機能を理解し、その担い手や推進方法を把握する。

授業の計画

第1回:オリエンテーション
第2回:社会福祉と生活課題
第3回:生活の拠点としての地域社会
第4回:社会福祉基礎構造改革と地域福祉
第5回:地域福祉の概念
第6回:地域福祉の機能と構造
第7回:地域組織化と社会資源開発
第8回:地域福祉の実際①
第9回:地域福祉の実際②
第10回:地域福祉の推進①
第11回:地域福祉の推進②
第12回:地域を基盤とするソーシャルワーク①
第13回:地域を基盤とするソーシャルワーク②
第14回:地域福祉計画
第15回:地域福祉の財源
第16回:定期試験

授業外の学習方法

適宜課題を用意するので、地域社会に関する理解や関心を深めてほしい。その上で授業に臨むこと。

成績評価方法

定期試験(60%)　小レポート(20%)　平常点(20%)

成績評価基準

・自分の言葉で①地域福祉、②地域を基盤とするソーシャルワークについて表現できるか
・地域で子育てを行う上で、必要な援助や資源、仕組みを理解したか

テキスト、参考図書

牧里毎治・杉岡直人・森本佳樹編『ビギナーズ地域福祉』　有斐閣アルマ　2013

その他（受講上の注意）
質問や発言など、積極的な授業への参加を求める。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

地域福祉演習 (Exercise of Community Welfare)			担当教員	永井　裕子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−DH−2454	2 単位	4 年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

子育て支援の理解と実践力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(選択)、児童厚生一級指導員(必修)

授業の内容

集団討議、ゼミ形式で進める。また必要に応じて実際の地域福祉実践を見学し、理解を深める。

授業の到達目標

・地域福祉実践の機能と構造を理解する
・地域を基盤とするソーシャルワークの展開過程を理解する
・ファシリテーションのスキルや、自分で考え、発案し、行動する力を身につける

授業の計画

第 1 回：オリエンテーション、地域を基盤とするソーシャルワーク①
第 2 回：地域を基盤とするソーシャルワーク②
第 3 回：地域を基盤とするソーシャルワーク③
第 4 回：丹南地区の社協の地域福祉実践①
第 5 回：丹南地区の社協の地域福祉実践②
第 6 回：地域での自立生活支援のあり方　事例検討①
第 7 回：地域での自立生活支援のあり方　事例検討②
第 8 回：地域での自立生活支援のあり方　事例検討③
第 9 回：地域での自立生活支援のあり方　事例検討④
第10回：丹南地区の地域福祉実践③
第11回：丹南地区の地域福祉実践④
第12回：ファシリテーション
第13回：地域福祉計画策定プロセス
第14回：地域福祉計画策定プロセス
第15回：地域問題の解決

授業外の学習方法

地域福祉論(前期)の講義内容の理解を深めておくこと。

成績評価方法

レポート(50%)　平常点(50%)
平常点は授業やフィールドワークの参加状況、受講態度等を総合して判断する。

成績評価基準

・主体的に課題に取り組み、積極的に発言したか
・グループでの相互学習が深められたか
・地域社会や地域福祉への自身の関心について、その量的・質的変化を言語化できたか

テキスト、参考図書
牧里毎治・杉岡直人・森本佳樹編『ビギナーズ地域福祉』 有斐閣アルマ 2013
その他（受講上の注意）
質問や発言など、積極的な授業への参加を求める。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子どもと食育 (Children and Nutritional Education)			担当教員	谷　洋子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−AB−2450	2単位	4年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科又は教職に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容及び方法の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭1種免許状(選択)、幼稚園教諭1種免許状(選択)、保育士資格(選択)

授業の内容

子どもの食生活の現状を知り、今、何が子どもの食育に必要なのかを理解させる。また、食育の実践をとおして学修する。さらに福井の食文化と食育についても学ぶ。

授業の到達目標

子どもの食生活の現状を理解し、食育の必要性を知る。また、調理の実験や実習をとおして自分自身の正しい味覚や地場産物の利用、朝ごはんの作り方、食事のマナーを体験し、子どもの食育を実践できる能力を身につける。

授業の計画

第1回:はじめに　今、なぜ、食育か?
第2回:食育の現状と課題
第3回:子どもの食事の意義
第4回:子どもの栄養と食生活
第5回:発育段階と食育
第6回:体験的食育のすすめ・味覚体験(実験)
第7回:生活習慣・食習慣と食育
第8回:子どもの食育の実践(1) 朝ごはんを食べよう(実習)
第9回:環境・給食・食事バランスガイドと食育
第10回:子どもの食育の実践(2) 楽しい食事をしよう(実習)
第11回:学校・家庭・地域が連携した食育の推進
第12回:子どもの食育の実践(3) 食農保育をしよう(実習)
第13回:日本の食文化と食育
第14回:福井の食文化と食育
第15回:まとめ　今後の課題

授業外の学習方法

日頃から、新聞や参考書などに目を配り、子どもの食育に関する情報を集めておくこと。また、地域で開催される食育フェアなどには出来るだけ参加すること。

成績評価方法

毎回のレポート(40点)と課題提出物(40点)と授業の取り組み態度(20点)で評価する。

成績評価基準

食生活の現状を理解し、食育の必要性を知ることができたか。また、食育を実践できる能力が身についたかを課題提出物、授業中の態度、レポートなどで評価する。

テキスト、参考図書

高内正子監修「子どもの食と栄養」保育出版社 その他必要に応じて資料を配付する。
その他（受講上の注意）
実験、実習の時はエプロン、三角巾を用意すること。調理実習３回分材料代（約１、300円）必要です。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

児童館論 (Theory of Children's Halls)			担当教員	依田　秀任、小林加奈子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−DG−2404	2 単位	4 年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

実践活動を通した幅広い知識・技能

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。
児童厚生一級指導員(必修)

授業の内容

児童館の目的・役割についての講義を中心とし、地域における子どもの健全育成、子育て支援、地域福祉活動等の機能と児童厚生員の役割について理解するものとします。また、児童館ガイドラインを踏まえ、児童館実習にも参考となるよう実践例を学び考察します。

授業の到達目標

児童館の機能を地域児童の今日的福祉課題とあわせて説明できる。

授業の計画

第 1 回 : 児童館の目的・機能
第 2 回 : 子どもの健全育成と遊び
第 3 回 : 子ども・子育ての課題とその対応
第 4 回 : 児童館活動の実際(1)乳幼児とその親への支援
第 5 回 : 児童館活動の実際(2)-①小学生への遊びを通した発達支援
第 6 回 : 児童館活動の実際(2)-②放課後の安全な居場所
第 7 回 : 児童館活動の実際(3)中高生世代の居場所づくり
第 8 回 : 児童館活動の実際(4)地域交流の場づくり
第 9 回 : プレイワークとソーシャルワーク
第10回 : 児童厚生員の役割・業務
第11回 : 児童の安全指導と施設の安全管理
第12回 : 配慮を必要とする子どもへの関わり
第13回 : 子どもに関わるボランティアの発掘・育成
第14回 : 地域連携とネットワーク
第15回 : まとめ

授業外の学習方法

配布する講義資料を通読して、わからない用語や不明な点があれば事前に調べるなどして授業に臨んでください。また、講義中にわからない用語や不明な点やがあれば、授業終了後に質問するとともに、自ら関連する文献などにより理解を深めるようにしてください。

成績評価方法

平常点(受講態度および取組姿勢)60%、レポート(授業中の課題含む)40%により総合的に評価します。
出席を重視し、欠席・遅刻・早退は減点します。

成績評価基準

児童館の機能と社会的意義について、文章または口頭にて簡潔に説明できるようになること。

テキスト、参考図書
『児童館論』　一般財団法人児童健全育成推進財団(平成27年 4 月発行予定)
その他(受講上の注意)
特にありません
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。